

## 基礎演習I 1

11963

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもためられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 2

11964

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 3

11965

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 4

11966

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 5

11967

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 6

11968

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 7

11969

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 8

11970

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 9

11971

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 10

11972

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 11

11973

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 12

11974

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 13

11975

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 14

11976

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 15

11977

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 16

11978

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 17

11979

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 18

11980

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 19

11990

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 20

11981

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 21

11982

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 22

11983

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 23

11984

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 24

11962

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 25

11985

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもためられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 26

11986

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 27

11987

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 28

11989

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 29

11988

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 30

11991

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習I 31

11992

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 1

12039

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 2

12040

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 3

12041

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 4

12042

担当者名 / Instructor 山下 芳樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 5

12043

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 6

12044

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 7

12045

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 8

12046

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 9

12047

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 10

12048

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 11

12049

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 12

12050

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 13

12051

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 14

12052

担当者名 / Instructor 小原 豊

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 15

12053

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 16

12054

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 17

12055

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 18

12056

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 19

12067

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 20

12057

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 21

12058

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 22

12059

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 23

12060

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 24

12061

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 25

12062

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 26

12063

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもたえられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 27

12064

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 29

12065

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 28

12066

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 30

12068

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 基礎演習II 31

12069

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

基礎演習は、1回生全員が指定されたクラスに分かれ、それぞれのクラスで学生たちが協同して学んでいく演習スタイルの科目です。「テーマの発見」「テーマの追究」の手法を学び、身につけていくこと、つまり、産業社会学部において、主体的に学んでいくための方法を理解していくことが主たる狙いです。意味あるテーマをいかに発見するか、文献調査やフィールド調査・アンケート調査などによって、いかにテーマに接近していくかについて、グループ討論やクラス発表にもとづく討論を実施しながら、実感的に理解を深めていきます。アクティブラーニングとしての積極的な参加がもとめられる科目です。

基礎演習の学習内容や進め方については、担当教員が責任をもってあたりますが、全体で共通な事項については「基礎演習ガイドライン」がつけられていますので、良く読んでおいて下さい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期には、各クラス4名程度のエンター(上回生のボランティア学生)が、後期のクラスには、院生がTA(ティーチング・アシスタント)として参加し、学習やクラスの運営に協力し、学生の支援に当たりますので、いろいろ相談して下さい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の進め方、運営方法については、各担当教員の指示に従ってください。	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	開講回数の2/3以上の出席が評価対象の要件となります。評価方法は、平常点(班学習、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは、担当教員が個別に指示します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

『産業社会学部で学ぶ - 産業社会学部ハンドブック』など

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習I 1A

15207

担当者名 / Instructor 角田 将士

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1B

15249

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1C

15263

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1D

15252

担当者名 / Instructor 杉本 通百則

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1E

15254

担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1F

15282

担当者名 / Instructor 中西 仁

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1G

15262

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 1H

15335

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2A

15271

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2B

15255

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2C

15264

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2D

15216

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2E

15276

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2F

15230

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2G

15267

担当者名 / Instructor 松田 亜希

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2H

15198

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 2I

15336

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3A

15235

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3B

15250

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3C

15277

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3D

15256

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3E

15265

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3F

15222

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3G

15307

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3H

15337

担当者名 / Instructor 森田 真樹

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 3I

15338

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4A

15182

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4B

15236

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4C

15291

担当者名 / Instructor 小川 栄二

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4D

15306

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4E

15268

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4F

15257

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 4G

15278

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5A

15258

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5B

15279

担当者名 / Instructor 大谷 いづみ

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5C

15272

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5D

15269

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5E

15259

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5F

15280

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5G

15242

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5H

15260

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5I

15287

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5J

15266

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5K

15261

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 5L

15339

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6A

15281

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6B

15243

担当者名 / Instructor 今井 義典

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6C

15290

担当者名 / Instructor 原尻 英樹

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6D

15274

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

日常点・その他	100 %	
---------	-------	--

-----  
日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6E

15309

担当者名 / Instructor 林 堅太郎

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	
-----		
日常点評価		
評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習I 6F

15310

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

1回生時の学部共通専門科目、学科共通専門科目での学習、および、2回生前期セメスターにおける学系共通専門科目での学習の到達を踏まえ、ゼミナール形式によって専門的研究の導入教育・学習を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
-----------	-----------------	-------------------------------

日常点・その他	100 %	
---------	-------	--

-----  
日常点評価

評価方法は、出席状況、平常点(班学習あるいは個人研究、発表、討論参加等)やレポート・小論文等によりますが、詳しくは担当教員が個別に指示します。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 1A

14082

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 1B

14076

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 1D

14136

担当者名 / Instructor 牧野 泰典

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 1E

14137

担当者名 / Instructor 石本 幸良

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 1F

14113

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 1G

14105

担当者名 / Instructor 澤井 勝

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 2A

14083

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 2B

14131

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 2C

14084

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 2D

14085

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 2E

14108

担当者名 / Instructor 島岡 哉

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 2F

14111

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 2G

14103

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

演習II 2H

14159

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 3A

14114

担当者名 / Instructor 門田 幸太郎

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 3B

14109

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 3C

14086

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 3D

14161

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 3E

14123

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 3F

14115

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 3G

14071

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4A

14072

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4B

14138

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4C

14139

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4D

14124

担当者名 / Instructor 峰島 厚、岡田 まり

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4E

14140

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4F

14144

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 4G

14162

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰, 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5A

14150

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5B

14087

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5C

14088

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5D

14116

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5E

14117

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5F

14097

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5G

14089

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 5H

14110

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 5I

14141

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 5J

14098

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 5K

14077

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 6A

14099

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 6B

14078

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 6C

14079

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 演習II 6D

14118

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

演習II 6E

14142

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

\* 試験に代わるレポートとして実施

\* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 演習II 6F

14132

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

2回生までの学習・研究あるいは演習 / 人間福祉演習 の成果を基礎に、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めることを目標とします。ここでは、教員の指導に基づき共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、その成果を発表したり、討議したり、レポートや論文にまとめる力量の形成を目指します。学生それぞれが属する学科・学系プログラムにおける学習の一定の到達点を示す成果が期待されています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 評価方法は、「出席状況」、「日常的な演習活動」と「演習レポート(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1A

14122

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1B

14112

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1C

14147

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1E

14130

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1F

14091

担当者名 / Instructor 斎藤 真緒

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 1G

14152

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2A

14100

担当者名 / Instructor 赤井 正二

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2B

14107

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2C

14125

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2D

14134

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2E

14090

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2F

14153

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 2G

14160

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3A

14126

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3B

14129

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3C

14145

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 3E

14095

担当者名 / Instructor 仲間 裕子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

卒業研究指導 3F

14120

担当者名 / Instructor 崎山 治男

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 卒業研究指導 3G

14148

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4A

14070

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4B

14094

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4C

14104

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4D

14102

担当者名 / Instructor 中村 正

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4E

14127

担当者名 / Instructor 岡田 まり、山本 耕平

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 4F

14069

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5A

14135

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5B

14073

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5C

14074

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5D

14101

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5E

14075

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5F

14080

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

卒業研究指導 5G

14092

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

卒業研究指導 5H

14093

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 卒業研究指導 5I

14081

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 卒業研究指導 5J

14121

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

卒業研究指導 5K

14143

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 卒業研究指導 5L

14106

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

卒業研究指導 5M

14096

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

卒業研究指導 5N

14128

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

**授業の概要 / Course Outline**

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 卒業研究指導 50

14119

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

卒業研究指導 5P

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 卒業研究指導 5Q

14146

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

3回生までの学習・研究あるいは演習活動の成果にもとづき、専門科目と関連させながらゼミナール形式によってさらに高度な専門的研究を進めることを目標とします。教員の指導により共同学習・研究や個人学習・研究をすすめ、4年間の成果として卒業論文、あるいはそれに代わる成果物(ビデオなど)の作成を行います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

- \* 試験に代わるレポートとして実施
- \* 日常点評価 「日常的な演習活動」と「卒業論文(またはこれに代わる成果物)」によります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2)グローバリゼーションとナショナリズム、3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差などについて、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- 1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念。
- 2)グローバリズムとナショナリズムに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(木田)	
2	現代の社会とその変容 - 企業社会と新自由主義。(木田)	
3	変容する社会と働く人 - 競争と階層化をめぐる。(木田)	
4	変容する社会と女性たち - 就業の継続と断裂をめぐる。(木田)	
5	変容する社会と若者・子どもたち - 知と人のかかわりをめぐる。(木田)	
6	グローバリゼーションとは何か。(高嶋)	
7	グローバリズムとナショナリズム。(高嶋)	
8	東アジアの経済統合と日本社会。(高嶋)	
9	地域の経済社会の活性化。(高嶋)	
10	地球環境問題と現代社会 (山口)	
11	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本。(山口)	
12	街づくりの課題・景観デザイン。(山口)	
13	環境配慮型マーケティングとエコライフ:消費生活から発生する環境負荷。(山口)	
14	全体まとめ。(山口)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
評価は、定期試験により判定する。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

テキストのとおり。テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「21世紀の日本を見つめる:家族から地球まで」 2004	立命館大学現代社会研究会 / 見洋書房 / /
テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。	

**参考書 / Reference Books**

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

随時紹介。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2)グローバリゼーションとナショナリズム、3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差などについて、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- 1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念。
- 2)グローバリズムとナショナリズムに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(木田)	
2	現代の社会とその変容 - 企業社会と新自由主義。(木田)	
3	変容する社会と働く人 - 競争と階層化をめぐって。(木田)	
4	変容する社会と女性たち - 就業の継続と断裂をめぐって。(木田)	
5	変容する社会と若者・子どもたち - 知と人のかかわりをめぐって。(木田)	
6	グローバリゼーションとは何か。(高嶋)	
7	グローバリズムとナショナリズム。(高嶋)	
8	東アジアの経済統合と日本社会。(高嶋)	
9	地域の経済社会の活性化。(高嶋)	
10	地球環境問題と現代社会 (山口)	
11	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本。(山口)	
12	街づくりの課題・景観デザイン。(山口)	
13	環境配慮型マーケティングとエコライフ:消費生活から発生する環境負荷。(山口)	
14	全体まとめ。(山口)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
評価は、定期試験により判定する。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

テキストのとおり、テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「21世紀の日本を見つめる:家族から地球まで」 2004	立命館大学現代社会研究会 / 見洋書房 / /
テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。	

**参考書 / Reference Books**

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

随時紹介。



担当者名 / Instructor 高嶋 正晴

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この科目は、身近な社会現象の分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、次の内容を取り上げる。1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減、2)グローバリゼーションとナショナリズム、3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差などについて、分析する。三つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- 1)地球環境破壊、持続可能性と消費生活、気候変動と温室効果ガス削減に関する基礎概念。
- 2)グローバリズムとナショナリズムに関する基礎概念・基礎理論の学習。
- 3)社会的格差、教育・労働の格差、ジェンダーと格差に関する基礎理論、基礎概念の学習。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション(木田)	
2	現代の社会とその変容 - 企業社会と新自由主義。(木田)	
3	変容する社会と働く人 - 競争と階層化をめぐる。(木田)	
4	変容する社会と女性たち - 就業の継続と断裂をめぐる。(木田)	
5	変容する社会と若者・子どもたち - 知と人のかかわりをめぐる。(木田)	
6	グローバリゼーションとは何か。(高嶋)	
7	グローバリズムとナショナリズム。(高嶋)	
8	東アジアの経済統合と日本社会。(高嶋)	
9	地域の経済社会の活性化。(高嶋)	
10	地球環境問題と現代社会 (山口)	
11	環境・エネルギー政策に学ぶ現代日本。(山口)	
12	街づくりの課題・景観デザイン。(山口)	
13	環境配慮型マーケティングとエコライフ:消費生活から発生する環境負荷。(山口)	
14	全体まとめ。(山口)	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
評価は、定期試験により判定する。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

テキストのとおり。テキストを必ず持参すること。各自がテキストを持参していることを前提に授業を行うので、テキストの本文そのものについては、授業中にプリントは配布しない。テキストには、基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBを紹介しているので、参照すること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「21世紀の日本を見つめる:家族から地球まで」 2004	立命館大学現代社会研究会 / 見洋書房 / /
テキストに基づいて授業を進める。各自、テキストを持参していることを前提に、講義を進めるので、必ず、持参すること。	

**参考書 / Reference Books**

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

随時紹介。



## 現代とスポーツ S

12254

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、世界的規模で急変している。グローバルな市場経済に翻弄される一方で、健康づくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活の文化として定着しつつある。入門科目として、スポーツ文化と社会に関する基礎的知識を整理し、現状の問題点を抽出しながら、課題の重要性を解明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの体験で培われてきた感性を対象化し、客観化することを通じて、スポーツ文化の社会性の理解に重点をおく。スポーツは社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係を理解しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を抽出し、それを打開していく方向性をさぐりながら、学びの道筋を発見することを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章:	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
2	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化
3	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界 ゲームの「心構え」論
4	第1章 「する」スポーツの思想	アマチュアリズム K・デームの思想 アマチュアリズムとナショナリズム 「東京オリンピック」
5	第2章 ビッグイベントビジネスの登場 越境するイベント	第1節 アマチュアリズムの崩壊 / 冷戦体制の中の五輪 / ロス・五輪と「コペロス」神話
6	第2章 ビッグイベントビジネスの登場 越境するイベント	第2節 プロスポーツとボーダレス化 / グローバリゼーション / スポーツ市場 / 国籍条項 / アメリカナイゼーション
7	第2章 ビッグイベントビジネスの登場 越境するイベント	第3節 イベントビジネスとメディア資本(文化帝国) / 放映権 / プロバビリティ / テレ・メディアの介入
8	第2章 ビッグイベントビジネスの登場 越境するイベント	第4節 スポーツ文化のナショナルイティ / 数量化と客観的判定 / 勝利至上主義とナショナリズム / 非合理の美
9	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節 増大するスポーツ要求 / 「スポーツ世論調査」の変遷 / スポーツの価値と多様性 / ユネスコ「スポーツ国際憲章」
10	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節 エリア・スクール・ビジネスの限界 / 「バブル」の後 / 「宴」の後
11	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / エリートとマスの分断 / 「報奨金制度」と市場主義
12	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
13	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / 「スポーツNPO」 / スポーツ事業と財務 / プロのキャリア形成
14	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節 新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」 / マーケティングとマネジメント: 小テスト
15	終章: 「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ / 「プロ野球ストライキ」から学ぶ / スポーツ文化の担い手

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
日常点・その他	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取りません。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週および予告なく2回行い、日常点として組み入れます。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語・概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

## 教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるレジюмеによって展開されます。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツを考える	多木浩二 / 中公新書 / 少し難しいけど、チャレンジされるように

参考文献・資料はレジюмеの章末に掲載します。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html>

#### その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目・専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・秋葉が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。

日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・秋葉が各クラスを順にまわる。

各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。

こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づく。より人間らしく生きる福祉社会をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいいくつかの文章を素材に学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この授業では、人間福祉学科教員の執筆による「人間らしく生きる福祉学」(ミネルヴァ書房)を毎回テキストとして使用する。入門書であり独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。

授業では19章全部をとりあげることができない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習すること。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「その他」参照	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
日常点・その他	50 %	

受講生数にもよるが、原則として1サイクル(5回)ごとの日常点評価と、定期試験成績を半々で評価する。  
日常点評価は、形態は多様であるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などをもとに1サイクルごとにする。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

加藤・峰島・山本編著「人間らしく生きる福祉学」ミネルヴァ書房2005年

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

授業は5回を1サイクルとして芝田・峰島・秋葉が各クラスを順にまわる。  
各サイクルでは、テキストの章をいくつかずつとりあげる。それぞれの章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、問題提起している。各章の授業では、その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。  
こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。

**授業の概要 / Course Outline**

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師(波田、筒井)がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの内部構造について、「メディアと社会」では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、主に学んでいく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
- ・メディアが社会の様々な働き(経済、政治、社会的ネットワーク等)に作用する仕方について理解する。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

導入科目につき、特になし。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か? :そもそもメディアとは何をさすのか? メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史:活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか、活字メディアを中心に、メディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史(続き):ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学習する。	
4	メディア・リテラシーとは何か? :メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション:メディアのテキストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス:オーディエンスとは何か? またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業:メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か? :漠然と語られることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済:具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に経済と政治の仕組みに注目し、メディアが経済と政治の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク:同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活:仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト:電子ネットワーク、とくにインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト(続き):インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか?	
14	広告とは何か? :そもそも広告とは何なのか? また、その社会的な働きはどこにあり、また何が問題になっているのか?	
15	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

教科書、教科書に載っている参考文献などを適宜読むことが望ましい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
日常点・その他	30 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

メディア社会の歩き方

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

伊藤武夫他 / 世界思想社 / 4790710572 /

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

## 現代とメディア SB

11353

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師(波田、筒井)がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの内部構造について、「メディアと社会」では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、主に学んでいく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・メディアについて理解するための基礎知識を身につける。
- ・メディアが社会の様々な働き(経済、政治、社会的ネットワーク等)に作用する仕方について理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か? :そもそもメディアとは何をさすのか? メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史:活版印刷術の発明は社会をどう変えたのか、活字メディアを中心に、メディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史(続き):ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学習する。	
4	メディア・リテラシーとは何か? :メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション:メディアのテキストはどう構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス:オーディエンスとは何か? またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業:メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報化とは何か? :漠然と語られることが多い「情報化」について、基礎から説明する。	
9	情報化と政治・経済:具体的な社会的領域に対してメディアがどのように作用するのかを説明する。特に経済と政治の仕組みに注目し、メディアが経済と政治の領域に与える影響を理解する。	
10	情報化と社会的ネットワーク:同じく、対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活:仕事のスタイル、教育の位置づけなどその他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト:電子ネットワーク、とくにインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト(続き):インターネットは社会をどのように変えていく可能性があるのか?	
14	広告とは何か? :そもそも広告とは何なのか? また、その社会的な働きはどこにあり、また何が問題になっているのか?	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
日常点・その他	30 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

メディア社会の歩き方

伊藤武夫他 / 世界思想社 / 4790710572 /

---

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序は、クラスによって異なる。

## 子どもと社会 S

12255

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

子どもはみずから世界を立ち上げようとするとき、さまざまな関係に出会う。子どもと社会という時の「社会」とは、そうした関係の総体をさす。関係は、定位家族との垂直方向の関係に始まり、同輩や集団との交わり(水平方向)へと展開する。その中で一般的な他者からなる社会を知り、自己像を獲得する。この意味で、外的関係構築への模索と内的世界の変容は分離したのではなく、世界像獲得へのひと続きの過程である。本講義では、こうした過程を子どもたちの具体的な問題や課題を読み解くかたちで展開してゆく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

この講義は、1教職をはじめとする子どもへの関わりや支援の仕事への序説として、2そのような仕事を志望する動機が何に由来するのかを確認する場として、3さらに、自分の好きなこと、したいことを模索する(80年代の言い方では自分探し)に行き暮れてひと休みしようとする学生を念頭においている。したがって、本講のねらいは、子どもの世界立ち上げの姿を知ると同時に、受講生が、みずからの世界を、子どもから現在にいたる遍歴に重ねて理解するところにある。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	開講にあたって いつ子どもは子どもでなくなるのか	社会的カテゴリーとしての大人と子ども
第2回目	現代の子どものすがた--事件から読み解く関係の質	関係性
第3回目	子ども世界のマイクロポリティクスと個人の歴史	生育史
第4回目	依存と親密な関係--存在の承認	承認関係
第5回	他者像の変遷--垂直関係からの離脱の問題	
第6回	交わりと対象関係	
第7回	子どもの世界の政治学--異質性の担保と同等な世界の展望	仲間 学級
第8回	公共性としての社会との出会い	公共空間 一般的他者
第9回	中間まとめとディスカッション	
第10回	学校的価値とその対抗文化	
第11回	消費文化世界における自分イメージ--消費し消費される自分	
第12回	社会への過剰適応と自分の奪還	過剰適応
第13回	一般的他者の発見と世界像の確定	
第14回	総括的まとめ	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	論述を通して知識が身についているかどうかを確認する。
日常点・その他	40 %	基本的な概念の理解を確認する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの自分くずしと自分づくり	竹内常一 / 東京大学出版会 / /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に切りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが「専門家ではない」地域の市民「既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲストスピーカーを1-2回招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わない。教員が別途、担当している「国際ボランティア論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・サードセクターとしてのNPO 政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
- ・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
- ・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
- ・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「国際ボランティア論」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義のガイダンス	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
	NPO・NGOの概論 阪神大震災時のボランティア活動を事例として	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
	NPO・NGOの概論 NGOでの職員の働き方を事例として	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特徴
	無給ボランティアから有給スタッフへ 阪神大震災時のボランティア活動を事例として	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
	政府とNPOの関係 「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
	政府とNPOの関係 アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
	地球環境問題とNGO 地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から	国益追求の限界、市民組織の役割
	市民の公共への参加を促す社会制度 1998年のNPO法成立の背景から	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
	NPOの制度化 NPOの介護保険制度への参入を事例として	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
	企業とNPOの比較 Linuxの成功から	情報化、IT化とNPO
	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
	NPOの資源開発 パブリックリソースセンターの取り組みから	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
	講義のまとめ	振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	「持ち込み不可」です。
レポート試験	30 %	「中間レポート」です。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
日常点・その他	20 %	

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。

- 他の受講生の受講権の侵害 授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など
- マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

NPO基礎講座(新版)(2005)

山岡義典 / ぎょうせい / /

---

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみてください。

日本NPOセンターHP <http://www.jnpoc.ne.jp/>

パブリックリソースセンターHP <http://www.public.or.jp/>

**その他 / Others**

受講することで、新しい視野が開かれると思います。

担当者名 / Instructor 森口 まどか

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

そもそもアートマネジメントとは、芸術をマネージ(運営・管理)するとはどのような事柄を意味するのだろうか。一般に、アートマネジメントによって芸術と社会を結び、双方がより良く生かされる方策を考え出すと捉えられている。しかしながら、その前提である社会にとってなぜ芸術は必要か、ということをもとに問はなくてはならないだろう。

近年、国立博物館・美術館・文化財研究所が独立行政法人化されたり、指定管理者制度の導入に伴い公共文化施設の管理者やその運営方法が審議されたりと、わが国における芸術文化施設の在り方が根本的に問い直されている。このような現状を踏まえると、アートマネジメントの必要性が増していることはいうまでもなく、先の問いについての考察が重要だと考える。

本授業では、芸術は社会になぜ必要かを問い、考察する。ミュージアム形成の歴史および、主に美術分野における国際展やパブリック・アートなどの事例を紹介しながらさまざまな問題点を検討し、次代の芸術特に美術と社会の関係について考えてゆきたい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・わが国における博物館・美術館の現状を確認し、その問題点をさまざまな視点から挙げるができる。
- ・社会と芸術の関係についての知見を幅広く論じることができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

美術、音楽、文学などの芸術全般にわたる基礎的な知識があることが望まれるが、たとえば、美術史概論が事前に必要な履修科目ではない。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	アートマネジメントとは: 今日におけるアートマネジメントの必要性を中心に	
第2～3回目	ミュージアムについて: その歴史、社会、思想的背景から	啓蒙主義思想、公共性、美術
第4～5回目	オフ・ミュージアムについて: 1960年代以降の美術を中心として	アートセンター、パブリック・アート、インスタレーション
第6～7回目	国際美術展その歴史と運営について	
第8～9回目	アーティスト・イン・レジデンスの考え方	コミュニティ、コミュニケーション
第10～11回目	NPO活動とアートについて	指定管理者制度
第12～13回目	「ワークショップ」という在り方	
第14回目	まとめ: アートの社会的価値について	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	授業内容を踏まえ、自身の視点を論理的に展開記述できるかをみる。
日常点・その他	50 %	授業の進行状況に応じて、授業内容に関する理解度を確認するための設問に授業中15分程度で記述してもらう。配点はしないが、優れたコメントへの加点はありうる。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

さまざまな機会に捉えて美術館、コンサートホールなどの芸術文化施設へ積極的に出かけること。そうした機会を増やすところから、芸術と社会の関係を考えてゆくようにすることが望ましい。

**教科書 / Textbooks**

特になし

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アートマネジメント』	伊東正伸、岡部あおみ、他著 / 武蔵野美術大学出版局 / / 2003年
『進化するアートマネジメント』	林容子 / レイライン / / 2004年
『美術愛好家 - ヨーロッパの美術館と観衆』	ピエール・ブルデュー他 山下雅之訳 / 木鐸社 / / 1994年
『二十一世紀博物館 - 博物資源立国へ地平を拓く』	西野嘉章 / 東京大学出版会 / / 2000年
『創造 - 現場から / 現場へ』	小林康夫・松浦寿輝編 / 東京大学出版会 / / 2000年、(『表象のディスクール6』)

その他適宜紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**



## アジアの福祉研究 S § アジアの福祉研究 I

13026

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者と子どもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会情勢を考える講座である。アジアの高齢者や子どもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらについて考察しながら、ディスカッションしたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかりと人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者や子ども、とくに障がいをかかえた子どもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ(視角)から構築されなければならないかについて検討すること、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

国際関係論、国際社会学、および国際福祉の視点や分析方法などをしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションー講義のすすめかた、目標などについて-	オリエンテーション
2	今なぜアジアの社会福祉なのか!?	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	子どもの福祉	子どもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福祉	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関・国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策 東アジア(中国 韓国)	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策 東南アジア(シンガポール タイ その他)	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	まとめとプレゼンテーション	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

できるだけ各自で、新聞の切り抜きや情報を集めてほしい、そうした情報をもとに、アジアの今日の情勢を社会福祉の視点から展望できるようにしながら、国内外でのボランティア活動にも関心をもってもらえるような講義にしたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	講義をつうじて関心をもったことがらについて、各自で調べたことや、体験したことがらなどをレポートにして提出することを希望する。
最終講義日試験	20 %	毎回の講義のポイントをまとめたもの(A4版1-2枚)を次回の講義時に提出すること
日常点・その他	60 %	6割以上の出席が原則

A+を希望する学生は事前に申し出ること。プレゼンテーションをしてもらいます。  
万一出席日数が足りない場合は事前に相談しにくること。特別課題を与えます。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生他 / 日本出版放送協会 / ISBN4 - 595 - 30606 - 7 / 2006年3月発売
2006年3月発売	

放送大学(ラジオ)にて、昨年「アジアの社会福祉」という講座がはじまっています。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉(第3章)高齢

者と福祉(第6章)担当しています。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。

日本文化に対する再認識を深めることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法	
第2回	文化・文明の衝突	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 日本語、中国語、英語の比較から	
第5回	婚姻法から見た儒教思想	
第6回	文学から見た文化 平家物語を中心に	
第7回	道教・神道・禅	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	住まい文化	
第10回	仏教文化	
第11回	本学の留学生との交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第14回	日・中・韓文化の特徴	
第15回	一回分の授業に相当する最終レポートを課す	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末に試験に代わる最終レポートを提出しなければならない。
日常点・その他	40 %	出席や日常的な取り組み

期末の最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編 / 時潮社 / /
『韓国人の心』	李御寧 / 学生社 / /
『日本人・中国人・韓国人』	金文学 / 白帝社 / /

現代の中国、韓国を知るにはたいへん役に立つ。教科書並みの参考書となる。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 小西 直毅

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

医療福祉とは保健医療分野における社会福祉のことである。病院等の保健医療機関において、社会福祉の立場から患者のかかえる経済的、心理的、社会的問題の解決、調整を援助し、社会復帰の促進を図る保健医療ソーシャルワーカーが実際にどのような福祉実践を担っているのかを学ぶ。講義担当者は普段ソーシャルワーカーとして近畿大学医学部附属病院で勤務している。臨床家としての経験を活かして、現実に直面している問題、典型的な事例等を学習の素材として提示できることが本講義の特徴である。

**到達目標 / Attainment Objectives**

将来、保健医療機関に携わる際に不可欠となる「医療福祉」の基本的知識を身につけること。  
保健医療ソーシャルワーカーとしてのものの見方、考え方を身に付けてもらうこと。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

社会福祉原論・社会福祉概論を習得し、ソーシャルワークについての知識を習得していることが望ましい。さらに特に価値、倫理の部分はよく学んで欲しい。知識のみならず、自己の障害者観、死生観を築き上げていくことに挑んで欲しい。また、文学や映画、演劇等の芸術にも多く触れ、生や死、病や障害が人生に投げかける意味を探って欲しい。さらに個人的な生活歴においての生活の実体験に対する感性を豊かにし、人の苦しみを自分に関係がないこととはせず、それに対して自分はどうのように感じるのかを立ち止まって見つめる体験を積み重ねて欲しい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	医療福祉とは(講義のオリエンテーション)	保健・医療・福祉, 医療福祉, 保健医療ソーシャルワーク
2	ビデオ学習(保健医療ソーシャルワーカーの業務を放映した番組の録画を見ていただきます。)	患者相談室
3	医療福祉制度	生活保障, 医療保障, 災害補償
4	医療福祉制度	身体障害, 介護保険
5	保健医療ソーシャルワークの価値	ソーシャルワークの価値・倫理・知識
6	保健医療をめぐる動向とソーシャルワーカーの視点	医療保険制度, クリティカルパス, DPC
7	病院にソーシャルワーカーがいる意味	生老病死, パターンリズム
8	ソーシャルワーカーと組織	ヒューマンサービス組織
9	ソーシャルワーカーが行う管理 / 業務マネジメントから業務開発へ	業務マネジメント, 業務開発
10	連携つくり	連携, 協議, ネットワーク, コンサルテーション, 協働, 管理
11	ソーシャルワークの実践アプローチ	心理社会的アプローチ, 機能主義アプローチ, 問題解決アプローチ, システム理論, 危機介入アプローチ, 課題中心アプローチ, 生態学的アプローチ, エンパワメントアプローチ
12	スーパービジョン	管理的機能, 教育的機能, 支持的機能
13	総体としてのソーシャルワーク援助	人と環境の相互作用
14	講義のまとめ / 質問やご意見への返答など	
15	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

テキストの章立てを基本に講義を行う。必要に応じ、講義中に資料、レジュメの配布を行なう。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	概念・歴史・理論・技術・社会制度等の基本的な知識の部分について定期試験を実施する。
レポート試験	20 %	授業の理解度を確認したり、自分の考えをまとめてもらう部分については適時レポートを時間内に作成してもらう。
日常点・その他	20 %	出席状況、授業態度を評価対象とする。

\* 具体的な知識、ソーシャルワーカーとしてのものの見方、考え方、については定期試験として実施する。自らの考えを述べてもらう必要がある課題についてはレポートを適時作成し提出を求める。その他、出席状況、講義時に作成してもらうレポート、受講態度も配慮して総合的評価を行う。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

将来、保健医療ソーシャルワーカーに従事したいと希望している学生向けにも、講義中アドバイスを行います。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
保健医療ソーシャルワーク原論 新訂版	(社)日本医療社会事業協会編 / 相川書房 / 978-4-7501-0340-2(4-7501-0340-3) /

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
保健医療ソーシャルワーク実践1～3	(社)日本社会福祉士会・(社)日本医療社会事業協会編 / 中央法規 / 4-8058-2422-0,4-8058-2423-9,4-8058-2424-7 /
医療ソーシャルワーク	杉本敏夫監修 / 久美株式会社 / 4-907757-24-7 /
転換期の医療福祉	牧洋子・和田謙一郎編 / せせらぎ出版 / 4-88416-140-8 /

講義内容への理解が不十分なところは参考文献にて補うことが望ましい。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

<http://www.jaswhs.or.jp/>

**その他 / Others**

## ウエルネス論 S

15330

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ウエルネスという言葉は、英語のwell-being(健康で幸福で繁栄している状態の意味)に由来し、1950年代はじめアメリカでハーバード・ダンによって提唱された総合的健康概念である。単に身体を健康を維持するだけでなく、自己の責任において、健康な心、健康な身体、健康な社会生活を維持管理するため、個々人が自分にあった適切なライフスタイルを確立することを目指している。ウエルネスの考え方は、ヘルスよりも、より積極的、創造的で高度な健康を獲得し、維持・発展させようとする実践的生活活動を総合したものである。

このようなウエルネスについて、基本的な考え方を探り、国際的な健康づくりの動向を把握する。特に、生活習慣に重点をおくウエルネスライフの仕方と課題を探っていきいたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

生活習慣に重点をおくウエルネスの意味、その課題をさぐっていく。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	講義概要、到達目標、評価法
第2回	ウエルネスの概念	ヘルス、WHO、ウエルネス
第3回	ウエルネス運動のめざすもの1	ひとづくり、まちづくり、ものづくり
第4回	ウエルネス運動のめざすもの2 小テスト実施	ネットワークづくり、ふれあいづくり
第5回	国レベルの健康づくり1	アクティブ80ヘルスプラン
第6回	国レベルの健康づくり2	健康日本21
第7回	前半のまとめ レポートの提出	グループワーク、プレゼンテーションと討議
第8回	ウエルネスライフスタイル1	栄養、咀嚼、飲酒、5S
第9回	ウエルネスライフスタイル2	休養、入浴、睡眠、快笑、快話
第10回	ウエルネスライフスタイル3	運動、歩行、呼吸、余暇、服装
第11回	国際的な健康づくりの動向1 小テスト実施	アメリカ合衆国の事例
第12回	国際的な健康づくりの動向2	ヨーロッパの事例
第13回	後半のまとめ	グループワーク、プレゼンテーションと討議
第14回	総まとめ レポートの提出	講義全体の復習とまとめ
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	キーワードの理解、内容把握、論理的な記述
日常点・その他	40 %	2回のレポート提出

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞記事やニュースの中で報じられる健康関連の事柄に注意を向けておきましょう。

## 教科書 / Textbooks

テキストの指定はしません。講義内容との関連で、参考となる文献を紹介していきます。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
健康支援学入門	日本健康支援学会 / 北大路書房 / 4-7628-2214-0 C3047 /
ウエルネス白書	財団法人 / 日本ウエルネス協会編 / /
「地球の時代」の健康を考える	三浦正行 / 文理閣 / 4-89259-245-5 C1047 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、時代とマスメディアとしての社会的機能に注目しながら、映像メディアの一つである映画をとりあげる。

映画は芸術的な側面やエンターテインメント性から語られがちであるが、本講義では、世界の映画の発展の歴史に沿いつつも、映画の表現様式とその表現が生成する社会的意味について学ぶことを重視する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・100年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観を把握できる。
- ・映画を中心とする映像表現の文法の基礎を理解できる。
- ・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション: 映画の歴史とは? 動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像の文法1: 「見る」ことの生理学、言語としての映画 鑑賞予定の作品例) 『サイコ』	image、デノテーションとコノテーション、コード
第3回目	映像の文法2: 映画の空間と時間の統辞法 例) 『戦艦ポチョムキン』	演出(ミザンセヌ)とモンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画: 実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作 例) 『アンダルシアの犬』	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義: 第1次世界大戦後のドイツと映画 例) 『カリガリ博士』『メトロポリス』	ウーファ
第6回目	プロパガンダと映画1: 第三帝国と映画利用 例) 『民族の祭典』	映画法、レニ・リーフェンシュタール
第7回目	プロパガンダと映画2: 第2次世界大戦とハリウッド 例) 『汝の敵を知れ』	combat film、教育映画
第8回目	プロパガンダと映画3: 日本における戦時の映画利用 例) 『戦ふ兵隊』	国策映画、文化映画
第9回目	イタリアのネオレアリスマ: イタリア・ファシズムと映画政策、その後 例) 『戦火のあなた』	レジスタンス、ロッセリーニ
第10回目	日本映画の1950年代: 世界に「発見」された日本映画 例) 『羅生門』『東京物語』	第二次黄金期、5社協定、小津・黒澤・溝口
第11回目	フランスのヌーヴェル・ヴァーグ: 1960年代前後の「カイエ・デュ・シネマ」を中心とした映画 例) 『勝手にしやが』	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第12回目	アメリカン・ニューシネマ: 1960年代末から70年代初頭にかけてのアメリカ社会と映画 例) 『俺たちに明日はない』『招かれざる客』	プロダクション・コード、レイティング制
第13回目	1980年代以降の中華電影: 中国・香港・台湾のそれぞれの映画 例) 『紅いコーリャン』『悲情城市』	文化大革命と第五世代、香港ニュー・ウェイヴ、戒厳令解除と台湾ニュー・ウェイヴ
第14回目	1990年代以降のアジア映画: 韓国・イラン・インド映画の動き 例) 『八月のクリスマス』『友だちのうちはどこ?』	韓国の文民政策と映画産業への関与、検閲下のイラン映画製作、大衆娯楽としての国産インド映画
第15回目	まとめ: 映画の越境性と土着性、エンターテインメント性と社会性	国民映画とナショナルアイデンティティ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見とておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	期末試験(持ち込み不可、論述形式の予定)
日常点・その他	30 %	授業中に数回の受講エッセイを課す

- ・受講者の人数等によって、以上のことに変更が生じることがあるが、その場合はなるべくすみやかに授業中に知らせる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討した後で登録することを勧める。
- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『映画の教科書』	ジェイムズ・モナコ / フィルムアート社 / 4845983486 / 映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
『映画映像史』	出口丈人 / 小学館 / 4093874859 / 映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
『ワールド・シネマ・ヒストリー』	アンドレア・グローネマイヤー / 昇洋書房 / 4771015244 / 『映画映像史』とともに参考にするのを推奨する。
『映画技法のリテラシー 1 2』	ルイス・ジアネッティ / フィルムアート社 / 4845903547, 4845903547 / 1 と 2 合わせて読むと、より参考になる。
『アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷』	増田幸子 / 大阪大学出版会 / 4872591771 / 第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。
その他のものについては、随時授業中に紹介する。	

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb) <http://www.imdb.com/>

#### その他 / Others

## 映像プロデュース論 S

15356

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

20世紀を「映像の世紀」とする観点から、世界に大きな影響を与えているメディアとしての「映画／映像」についての理解を深める。テレビメディアと映画との違いや、プロデュースすることについての基礎的な知識の習得、現場のプロデューサーによる実践的な講義も予定。

## 到達目標 / Attainment Objectives

映画／映像メディアの果たしてきた役割、および果たしている役割の理解。  
プロデューサーとは、どのような仕事であるのかの理解。  
映画／映像メディアの今後の可能性、重要性についての理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	今回の授業で扱う映像についての定義の確認	
第2回	映画の歴史	
第3回	映画の歴史	
第4回	放送歴史	
第5回	放送歴史	
第6回	映画とテレビドラマとの違い	
第7回	ドキュメンタリーとは	
第8回	プロデューサーの仕事	
第9回	プロデューサーの仕事 ゲストスピーカー	
第10回	権力と映画 日本	
第11回	権力と映画 米国など	
第12回	作品鑑賞 映画	
第13回	作品鑑賞 テレビドキュメンタリー	
第14回	まとめ	
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

あらゆるジャンルの映画、映像作品を、とにかくたくさん見ること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	試験問題は2問。最終授業日に試験問題の概要を説明する。答案の内容で理解度を確認する。
レポート試験	10 %	映画館、および学内の上映会で見た作品の感想レポートの提出。
日常点・その他	10 %	毎回の授業後に、コミュニケーションペーパーを配布し、質問や感想を書いてもらうので、その内容を、日常点とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画プロデューサーが面白い	キネマ旬報編 / 同社 / 98年
映画プロデューサー求む	掛尾良夫 / キネマ旬報社 / 03年
ハリウッド巨大メディアの世界戦略	滝山晋 / 日本経済新聞社 / 00年
	/ / / その他。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

- 1、遅刻は20分以上は認めない。20分以上遅刻した場合は、必ず後ろのドアから入室すること。その際、コミュニケーションペーパーは、提出を求めない。
- 2、私語厳禁(注意しても、やめない場合は退出を求める場合もある)
- 3、毎回、授業の冒頭に、主に京都シネマで上映予定の最新作品の予告編などを参考上映し、授業を進める。

## 映像文化論 S

12982

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

## 映像文化論のテーマ

誕生から百年強の歴史を持つ映画(=シネマ・アート)の本質とは一体何だろうか? 従って、それを研究の対象とする映画論の根本的テーマとは何だろうか?

映画が持っているエンターテインメント性とアート性とは原理的に二律背反的なものか?

映画を通時的に見ると、映画の共時態は別の共時態にドラスティックに変化していく。それは映画という文化現象が持つ「越境性」と「変換性」という属性と深く連関している。地球規模で眺めると、映画には大規模な構造的変化を引き起こす時期がある。この時期、映画の作家性が映画論の中心的テーマとなる。では、何故、こういう時期には、とりわけ映画の作家性という点を基軸に映画論が展開されるのか?

世界の映画史において、黄金期や変革期や復興期と呼ばれている時代には、実に多くの観客が映画館に足を運んだ。では、観客は何を求めて映画館に足を運んだのか?

映画は、誕生からわずか60年でそのピークを迎え、その後一気に凋落することを余儀なくされるわけだが、映画に未来があるとすればどんな未来がありうるか?

以上のようなテーマを中心に、映像文化のありようについて理解を深める。

## 到達目標 / Attainment Objectives

世界の映画史の把握

現在の世界の映画状況の把握

理論的把握(文化論的・記号論的把握)

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～第3回	映像芸術論の観点	
第4回	モンタージュ論の観点	
第5回	作家主義論の観点	
第6回	ショット論の観点	
第7回	アメリカ映画黄金期	
第8回	日本映画黄金期	
第9回	フランスヌーヴェル・ヴァーグ	
第10回～第11回	80年代から現在までの映画史	
第12回～第13回	まとめ 映画史の構造的・通時的把握	
第14回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
定期試験として実施。論述問題1問。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

講義時レジュメ配布。

## 参考書 / Reference Books

参考文献一覧(総論部分のみ紹介)

映画論講座1～4 山田和夫監修 合同出版 1977年

映画芸術への招待 杉山平一 講談社 1987年

映像のポエジア アンドレイ・タルコフスキー キネマ旬報社 1988年

映画理論集成 岩本憲児編 フィルムアート社 1987年

映画の教科書 ジェイムズ・モナコ フィルムアート社 1989年

モンタージュ探究 谷川義雄 風濤社 1985年

映画の言語 ロッド・ホイタカー 法政大学出版局 1983年

映画と現実 ロイ・アーメス 法政大学出版局 1985年

映画の記号論 Yu.M. ロトマン 平凡社 1987年  
映像学原論 植条則夫編 ミネルヴァ書房 1990年  
映画 エドガール・モラン 法政大学出版局 1983年  
映画における記号と意味 ピーター・ウォーレン フィルムアート社 1986年  
映画芸術の社会学 G.A.ヒュアコ 有斐閣 1987年  
季刊リュミエール6(グリフィス特集) 筑摩書房 1986年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 大塚 直子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

現代に生きる私たちの日常は、さまざまなメディアに取り囲まれている。本講義では、視覚メディアに焦点を当て、TVが出現した1960年代以降、著しい発展を遂げた映像メディアの歴史を追いつつ、それが果たす役割、それによってもたらされる効果等を、さまざまな批評理論を用いながら分析する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

視覚メディアを批評的に見る方法を学ぶことによって、メディアに踊らされることなく、逆に、メディアを多角的に分析する術を会得してほしい。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特になし。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	1960年代
第2回	TV創成期(1)	文化の変容
第3回	TV創成期(2)	大衆の生成
第4回	TVの機能	資本主義・大衆・消費者
第5回	「マス・メディア」とはなにか	TV・CM・映画・雑誌・新聞
第6回	メディアにおけるPC(1)	女性の表象・フェミニズム
第7回	メディアにおけるPC(2)	男性の表象・男性中心主義
第8回	メディアにおけるPC(3)	ジェンダーの転倒
第9回	メディアにおけるPC(4)	異文化の表象・植民地主義
第10回	ドキュメンタリー映像(1)	カメラ・編集・隠された意図
第11回	ドキュメンタリー映像(2)	PCという拘束
第12回	メディアアート(1)	メディアアートの遍歴・ビデオアート・フルクサス
第13回	メディアアート(2)	テクノロジーとアート・非日常的知覚
第14回	メディアアート(3)	テクノロジーと身体・ダムタイプ
第15回	総括	愚鈍なる大衆とならないために

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
日常点・その他	40 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

講義中に適宜指示します。

**教科書 / Textbooks**

使用しません。

**参考書 / Reference Books**

講義中に適宜指示します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

講義中に適宜指示します。

**その他 / Others**

## 演劇論 S § 演劇・演出論 I S

12917

担当者名 / Instructor 池内 靖子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに、60年代～70年代のアンガラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリムピクス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	宝塚歌劇Ⅰ	大衆演劇、中産階級の娯楽
4	宝塚歌劇	男役と娘役、ジェンダー / セクシュアリティの構築
5	宝塚歌劇	ファンは何を求めているか
6	60～70年代のアンガラ小劇場運動Ⅰ	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信
7	60～70年代のアンガラ小劇場運動	寺山修司の「天井桟敷」
8	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
9	アンガラと女性演劇人	ウーマン・リブ、セクシュアリティ / ジェンダーの脱構築
10	アート・アクティヴィズム / 言説と身体	ダム・タイプ、異性装 / 越境について
11	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュ、コリオグラフィー
12	パフォーマンス・アート / 言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテキストの舞台化
13	オルタナティブな演劇空間と身体表現	金満里の劇団「態変」
14	オルタナティブな演劇空間と身体表現	ニューヨークのコミュニティ・シアター
15	まとめ	近代演劇を超えて

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業外学習の指示 / Out of class assignment

個人やグループで、演劇やパフォーマンスを観に行き、劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	小レポートと試験に代わる最終レポートを課す。
日常点・その他	50 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。

日常点評価50%

ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・ディスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本の現代演劇	扇田昭彦 / 岩波書店 / 4-00-430372-9 /
踊る帝国主義 宝塚をめぐるセクシュアルポリ ティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン / 現代書館 / /

宝塚というユートピア

川崎賢子 / 岩波書店 / 978-4-00-430940-6 /

迷路と死海

寺山修司 / 白水社 / 978-4-560-03254-1 /

ディクテ

テレサ・ハッキョン・チャ / 青土社 / 4-7917-6043-3 /

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 演出論 S § 演劇・演出論II S

15188

担当者名 / Instructor 三浦 基

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は、演劇を専門に多角的に論じ、演劇的知性について考える演劇専門の講義です。

「演劇とは何か？」という問いを授業のテーマとします。

古典・近代演劇のビデオや資料を用いて、日本および世界の演劇の流れを把握します。

また具体的に、現場での演出家の仕事について触れながら、現代社会における芸術の関わりについて視野を広げ、研究・考察することを目的とします。

## 到達目標 / Attainment Objectives

専門的には、芸術に関連した職業、特にアートマネジメントに関する基礎知識・考え方を学ぶこと。

一般的には、各自が、積極的に演劇をはじめとする芸術に触れ、批評眼を養い、今後の人生を豊かに思考するきっかけとなることを目標とします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 演劇人の現在1	キーワード 日本における演劇活動についての実情
第2回	テーマ 演劇人の現在2	キーワード 世界における演劇活動についての実情
第3回	テーマ 演出家の仕事1	キーワード 戯曲との距離
第4回	テーマ 演出家の仕事2	キーワード 絵画と写真
第5回	テーマ 俳優の仕事1	キーワード 演技について:名人芸と呼ばれるもの
第6回	テーマ 俳優の仕事2	キーワード 演技について:パフォーマーという捉え方
第7回	テーマ スタッフの仕事1	キーワード コンセプトの捉え方
第8回	テーマ スタッフの仕事2	キーワード 美学という問題
第9回	テーマ 演劇とは何か?	キーワード 日本と世界の劇場文化:革命の時代
第10回	テーマ 演劇とは何か?	キーワード 表現することの必然と偶然
第11回	テーマ 演劇とは何か?	キーワード 他ジャンルとの接点
第12回	テーマ 演劇とは何か?	キーワード フィクションとノンフィクション
第13回	テーマ 演出とは何か?	キーワード 歴史という意識
第14回	テーマ 演出とは何か?	キーワード 現代という意識
第15回	テーマ 演出について	キーワード 思考すること

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

三浦基演出の劇団「地点」の上演が行われます。できる限り観劇して理解を深めてください。

地点によるチェーホフ四大戯曲連続上演

2007年8月4日・5日『かもめ』原作:アントン・チェーホフ  
滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

2007年11月中旬『桜の園』原作:アントン・チェーホフ  
京都・アトリエ劇研

詳細は、地点のホームページで更新されます。(http://www.chiten.org/)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	特になし
レポート試験	50 %	学期末に課題発表
最終講義日試験	0 %	特になし。
日常点・その他	50 %	出席率、授業態度(コメントシート回収など)を考慮します。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

古典・現代劇なんでもかまいませんが、劇場で舞台を観劇したことのない人、あるいは演劇にこれまで興味を持ったことのない人は、注意してください。授業は演劇の専門的な内容となります。  
ビデオや資料を多数使用します。毎回、授業で引用するアーティストの作品や名前をできるだけ貪欲にメモして、多くの芸術に触れるようにしてください。

**教科書 / Textbooks**

教科書特になし。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『かもめ・ワーニャ伯父さん』	著: チェーホフ 訳: 神西清 / 新潮文庫 / 4-10-206502-4 / 近代演劇とは何かという問いに触れるために、資料として引用する予定
『ベスト・オブ・ベケット2 勝負の終わり・クラブの最後のテープ』	著: サミュエル・ベケット 訳: 安藤信也・高橋康成 / 白水社 / 4-560-03497-4 / 現代演劇とは何かという問いに触れるために、資料として引用する予定

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

三浦基代表の劇団地点のホームページ <http://www.chiten.org/>

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 増田 幸子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義では、エンタテインメント産業の一つとして映画産業をとりあげ、ハリウッド映画を中心としたアメリカ映画と日本映画について学ぶ。主に、映画産業の発展の歴史を踏まえながら、経済的社会的側面から見た映画産業の状況と課題を整理していく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・映画の製作から上映までの流通のシステムを説明できる。
- ・アメリカや日本で行われている映画製作における資金調達とリスクヘッジを説明できる。
- ・エンタテインメントとしての映画産業の特徴とその問題点について述べるができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

映画産業に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回目)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス、アメリカ映画産業小史1:映画の誕生と特許をめぐる動き、ハリウッドの誕生	パテント、メジャー・スタジオ
第2回目	アメリカ映画産業小史2:1920年代後半から1930年代へ、第2次世界大戦とハリウッド	スター・システム、同意判決
第3回目	アメリカ映画産業小史3:戦後のハリウッドの不況とスタジオ・システムの崩壊、そして再興	プロダクション・コード、ブロックバスター映画、ネオ・ハリウッド
第4回目	アメリカの映画産業 :アメリカ映画産業の概観、映画市場の規模	スタジオ・システム、夢の工場、メディアコングロマリット、プレイヤー
第5回目	アメリカの映画産業 :映画製作の流れと契約	プロデューサー・システム、製作・配給・興行
第6回目	アメリカの映画産業 :企画 / 資金調達から利益の分配までの流れ	ウィンドウ、興行収入と配給収入、リスクヘッジ
第7回目	アメリカの映画産業 :映画館ビジネスとデジタルエコノミーの動き	マルチプレックス、デジウッド、シリウッド
第8回目	日本映画産業小史1:日本映画の誕生から第2次大戦後まで	日活、松竹、東宝、映画法、東映、大映、5社体制
第9回目	日本映画産業小史2:1950年代の黄金期から斜陽産業へ、そして再生	スタジオ・システム、プログラム・ピクチャー、角川映画
第10回目	日本の映画産業 :統計で見る日本映画、日本映画産業の概観	大手3社、配給収入、ブロックブッキング
第11回目	日本の映画産業 :企画 / 資金調達から利益の分配までの流れ	製作委員会、映画ファンド、邦画系と洋画系、メジャー系と独立系、シネコン
第12回目	日本の映画産業 :日本のアニメとマンガの海外進出	ジャパニメーション、ANIME、MANGA
第14回目	日本の映画産業 :日本映画コンテンツの海外進出	Jホラー、リメイク、コンテンツ
第15回目	日本の映画産業 :日本映画振興への動き	知的財産戦略、合作映画

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

- ・講義の中で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
- ・映画産業の現状についてはニュースでも取り上げられることがあるので、新聞などに日々意識して目を通しておくことが望ましい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義で学んだことについて、選択式と記述式の両方でテストする。
日常点・その他	20 %	授業中に数回の受講エッセイを課す。

・評価の際、日常点はマイナス点ではなくプラス点として加算するので、20%となっている。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

- ・映画が見られる講義ではないので、安易に登録しても単位取得が難しいだけである。登録の際、よく検討してほしい。
- ・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
- ・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

**教科書 / Textbooks**

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ハリウッド・ビジネス』	ミドリ・モール / 文春新書 / 4166602101 / ハリウッドのエンタテインメントロイヤーが筆者
『ハリウッドはなぜ強いか』	赤木昭夫 / ちくま新書 / 4480061363 / ハリウッドの映画ビジネスの概要を知るのに役立つ
『新版 エンタテインメントの罫』	福井健策編 / すばる舎 / 4883992845 / ハリウッドを中心とした映画産業の契約例などが参考になる
『踊るコンテンツ・ビジネスの未来』	畠山けんじ / 小学館 / 4093875340 / 日本のアニメを中心としたコンテンツビジネスの概観を理解するのに有効
『日本のポップパワー』	中村伊知哉・小野打恵 / 日本経済新聞社 / / 日本のコンテンツとしてのポピュラーカルチャーを概観できる
他は授業中に随時紹介する。	

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会 <http://www.mpa.org/>  
 (社)日本映画製作者連盟 <http://www.eiren.org/>  
 文化庁 <http://www.bunka.go.jp/>  
 経済産業省 <http://www.meti.go.jp/>

## その他 / Others

外国語文献研究 SA § ドイツ語文献研究I SA

13008

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**
**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

ドイツ語文法の基礎知識がある方が望ましい。

**教科書 / Textbooks**

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.(初級者向け)  
 J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.(中・上級者向け)  
 受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 外国語文献研究 SB § ドイツ語文献研究II SB

15323

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドイツ語文法の基礎知識がある方が望ましい。

## 教科書 / Textbooks

EU文書 Globalisierung als Chance fuer alle, 2003.(初級者向け)  
 Helmut Schmidt, Die Maechte der Zukunft, Muenchen 2004(中・上級者向け)  
 受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

テーマ:『ミシェル・フーコーの『自己への配慮』について(1)』

本講義では、フランス語のテキストを解説していきます。哲学者であり、かつ歴史家でもあるミシェル・フーコー(1926-1984)のテキストを使用して、「自己が自己に対していかに関わっていくか」というテーマ(『自己への配慮』)を社会的な観点から考えていきます。さらに、「私」とは何か、「社会」とは何か、そして「自由」とは何かというテーマについても考えていきます。

**到達目標 / Attainment Objectives**

1. 論理的な思考を身につける(例えば文と文との関係など)。
2. フランス語の構文、文法、熟語など、「生きた」文章のなかで理解する。
3. 「倫理-政治的」な観点から、「人間主体」について根本的に考えることができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

この科目は専門科目なので、フランス語初級文法程度の知識を持っている学生が対象です。そこでフランス語の入門編を取り扱っている科目などを履修していることが望ましい。もちろん、初級文法程度の知識を持っている学生であれば、それに該当する科目を履修していなくてもよい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	(1)講義の目的、講義の進め方。(2)テキストについての説明。(3)社会学の中心的主題について。	社会統合、個人の産出、社会形成。
第2回目以降	基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。	自己への配慮、汝自身を知れ、主体、スピリチュアリティ、変化。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

- ・毎回、予習(翻訳と内容理解)をすること。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	(1)翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。(2)出席。

・レポートを求める場合がある。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

- (1)フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
- (2)毎回、予習を必要とする。
- (3)辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

**教科書 / Textbooks**

Michel Foucault, Histoire de la sexualite 2 : L'usage des plaisirs, Gallimard, 1984と、Michel Foucault, L'HERMENEUTIQUE DU SUJET : Cours au College de France, Seuil/Gallimard, 2001を使用する予定であるが、変更する場合がある。

またこれ以外にも、新聞など複数のテキストを使用する予定。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

**参考書 / Reference Books**

- フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。
- (1)中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
  - (2)桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年 / 『知の教科書 フーコー』講談社選書メチエ、2001年。
  - (3)フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。
  - (4)ミシェル・フーコーほか(田村俣・雲和子訳)『自己のテクノロジー フーコー・セミナーの記録』岩波現代文庫、2004年。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 藤田 博文

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

テーマ:『ミシェル・フーコーの『自己への配慮』について(2)』

前期の講義(『外国語文献研究SC』あるいは『フランス語文献研究 SC』)の成果を踏まえて、さらに展開していく。

本講義では、フランス語のテキストを解説していきます。哲学者であり、かつ歴史家でもあるミシェル・フーコー(1926-1984)のテキストを使用し、'自己が自己に対していかに関わっていくか'というテーマ('自己への配慮')を社会学的な観点から考えていきます。さらに、'私'とは何か、'社会'とは何か、そして'自由'とは何かというテーマについても考えていきます。

**到達目標 / Attainment Objectives**

1. 論理的な思考を身につける(例えば文と文との関係など)。
2. フランス語の構文、文法、熟語など、'生きた'文章のなかで理解する。
3. '倫理-政治的'な観点から、'人間主体'について根本的に考えることができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

- (1)この科目は専門科目なので、フランス語初級文法程度の知識を持っている学生が対象です。そこでフランス語の入門編を取り扱っている科目などを履修していることが望ましい。もちろん、初級文法程度の知識を持っている学生であれば、それに該当する科目を履修していなくてもよい。
- (2)前期の講義(外国語文献研究SCあるいはフランス語文献研究 SC)を必ずしも履修している必要はないが、なるべく履修していることが望ましい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	(1)講義の目的、講義の進め方。(2)テキストについての説明。(3)社会学の中心的主題について。	社会統合、個人の産出、社会形成、自己への配慮。
第2回目以降	基本的に輪読形式で進めていく。適宜、重要な概念についての解説や議論を行う。	自己への配慮、汝自身を知れ、主体、スピリチュアリティ、変化。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

・毎回、予習(翻訳と内容理解)をすること。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	(1)翻訳の正確さとテキスト内容の理解を問う。(2)出席。 ・レポートを求める場合がある。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

- (1)フランス語初級文法の知識をもっている学生が望ましい。
- (2)毎回、予習を必要とする。
- (3)辞書を頻繁に使用するので仏和辞書を必携。

**教科書 / Textbooks**

Michel Foucault, Histoire de la sexualité 2 : L'usage des plaisirs, Gallimard, 1984と、Michel Foucault, L'HERMENEUTIQUE DU SUJET : Cours au College de France, Seuil/Gallimard, 2001を使用する予定であるが、変更する場合がある。

またこれ以外にも、新聞など複数のテキストを使用する予定。なお、テキストはコピーして講義で配布する。

**参考書 / Reference Books**

フーコーに関するテキストは数え切れないほど存在するが、入門書として以下に記すテキストを読んでおくことをすすめる。

- (1)中山元『フーコー入門』ちくま新書、1996年。
- (2)桜井哲夫『フーコー 知と権力』講談社、1996年 / 『知の教科書 フーコー』講談社選書メチエ、2001年。
- (3)フレデリック・グロ(露崎俊和訳)『ミシェル・フーコー』白水社(文庫クセジュ)、1998年。
- (4)ミシェル・フーコーほか(田村徹・雲和子訳)『自己のテクノロジー フーコー・セミナーの記録』岩波現代文庫、2004年。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 甘 琳樺

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

中国は現在目まぐるしい変化を遂げつつあります。そんな日進月歩の社会の表層を追いかけることを中国語学習の目的と考えているわけではありませんが、本テキストはたまたま中国の最新情報が紹介されています。当世学生気質から、日常生活に対する感覚まで内容は雑然と多方面にわたっており、これらを読むことで現代中国の実態の一端が窺えることでしょう。また、使われている文体も平易で日常的なものです。全体で10課ですから、2回で1課という進度で進めていきます。時間に余裕があるようなら、関連した資料やビデオ等も取り入れて、理解を深めることが出来たらと思っています。一緒に楽しく学んでいきましょう。

**到達目標 / Attainment Objectives**

中国語検定2級、3級レベルの実力を身につけることを目指します。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

中国語学習歴のある学生の参加を望んでいます。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

事前に予習をしてください。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『中国は今』	孟 広学・本間 史 / 白水社 / /

**参考書 / Reference Books**

中日辞書を持参すること。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 外国語文献研究 SF

15325

担当者名 / Instructor 平本 毅

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

我々は、様々な社会的状況の下でその状況に適した自己を演出しながら、日常生活を送っている。この講義ではERVING GOFFMANの『The Presentation of Self in Everyday Life』を輪読し、日常生活という我々の感覚に根ざした世界で行われている「演劇」の諸相と、その社会学的含意を学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・身近な日常生活で行われる些細な行為を、社会学的な事象として捉える感覚を身につける。
- ・社会学の基本文献の内容を理解する程度の英文講読力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ オリエンテーション	キーワード 講義内容の紹介、進め方の決定等
第2回	テーマ イントロダクション	キーワード 『The Presentation of Self in Everyday Life』の概要を説明。
第3回	テーマ 輪読	キーワード
第4回	テーマ 輪読	キーワード
第5回	テーマ 輪読	キーワード
第6回	テーマ 輪読	キーワード
第7回	テーマ 輪読	キーワード
第8回	テーマ 輪読	キーワード
第9回	テーマ 輪読	キーワード
第10回	テーマ 輪読	キーワード
第11回	テーマ 輪読	キーワード
第12回	テーマ 輪読	キーワード
第13回	テーマ 輪読	キーワード
第14回	テーマ 輪読	キーワード
第15回	テーマ まとめ	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	主に出席状況を評価。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は主に一行ずつの輪読形式で行うが、わからない場合はパスしてもかまわない。量をこなすことによって、皆で徐々に英文読解に慣れてゆくかたちをとる。

## 教科書 / Textbooks

『The Presentation of Self in Everyday Life』, ERVING GOFFMAN, Doubleday, 0385094027  
適宜使用部分をコピーして渡すため、購入の必要はない。

## 参考書 / Reference Books

英和辞書があるとよい。英英辞書もあればなおよし。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 吉田 幸治

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義では、社会学を学ぶ上での入門書的なテキストであるRandall CollinsのSociological Insight(『社会学的洞察力』)を講読し、近代社会における合理性の問題や、社会の秩序形成と宗教の関係といった社会の基本的なあり方を把握する上で重要となるトピックについて、考察を行う。そしてそれらの考察を通して、社会学を学ぶ際に必要な基礎的知識や発想について理解を深めることを目的としている。また本講義では、その第1章と第2章を受講者全員で輪読することにより、テキスト内で議論されている内容を正確に訳出できる技量の獲得をも目指す。なお、テキスト中で言及されているウェーバーやデュルケム等の社会学に関する重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行う。

**到達目標 / Attainment Objectives**

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学的基礎知識の理解。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数やテキスト講読の進捗等により、読み合わせの方法については変更もありうる。
第2回～14回	輪読	
第15回	輪読、講義総括。	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

事前に社会学史に関する簡単な概説書(入門書程度でよい)を講読しておくことが望ましい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式で行うことを予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sociological Insight	Randall Collins / Oxford University Press / /

上記テキストのうち、Chapter1.The Nonrational Foundations of Rationality、及びChapter2.The Sociology of Godを講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641088578 /
ウェーバー プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	安藤英治 編 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641087369 /
現代社会学講義	佐藤慶幸 著 / 有斐閣(有斐閣ブックス) / 4641086281 /
リフレクション - 社会学的な感受性へ -	野村一夫 著 / 文化書房博文社 / 4830106964 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 吉田 幸治

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義では、社会学を学ぶ上での入門書的なテキストであるPeter.L.BergerのInvitation to Sociology(『社会学への招待』)をとり上げ、その内容的な中心部分である第4章「社会の中の人間」、第5章「人間の中の社会」、第6章「ドラマとしての社会」を講読する。このテキストでは、社会の中で生活する個人がどのように社会に拘束されているのか(第4章)、あるいはさらに、個人の内面においてそのような拘束がいかに浸透しているのか(第5章)について、「社会統制」や「社会化」といった社会学的概念を用いて論述されている。またその上で、社会によるそうした拘束にも関わらず、人間が社会に対して持ちうる「自由」の可能性が論じられている(第6章)。本講義では、テキスト内で議論されているこれらの内容を正確に訳出できる技量の獲得を目指しながら、社会学を学ぶ上での基礎的な発想について理解を深めることを目的とする。なおテキスト中で言及されている、社会学上の重要な基礎概念については、講義中で適宜解説を行っていく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

テキスト本文において論じられている内容の正確な訳出と、社会学の基礎知識の理解。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	第1回授業時において、次回の翻訳担当者を決定。以下、毎回翻訳担当者を決め、受講者全員によるテキストの読み合わせを進めながら、適宜内容の解説や議論を行う。ただし受講者の人数やテキスト講読の進捗等により、読み合わせの方法については変更もありうる。
第2回～14回	輪読	
第15回	輪読、講義総括。	読み進めてきたテキストの内容について、総括を行う。

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

事前に社会学史に関する簡単な概説書(入門書程度でよい)を講読しておくことが望ましい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席状況、担当箇所の翻訳、講義期間中に実施する小レポートによって評価を行う。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

受講生によるテキストの翻訳を中心に講義を進めるが、その進め方については、第1回講義時に受講生と協議を行う。原則的には輪読形式で行うことを予定している。なお、受講にあたっての最低限のルールとして、自分の翻訳担当箇所だけでなく、他の担当者分の箇所も必ず読んでくることが求められる。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Invitation to Sociology	Peter.L.Berger / Doubleday / /

上記テキストのうち、Chapter4-Chapter6を講読する予定である。なお使用する部分は講義で配布するので、テキストを購入する必要はない。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人 他著 / 有斐閣(有斐閣新書) / 4641088578 /
リフレクション - 社会的な感受性へ -	野村一夫 著 / 文化書房博文社 / 4830106964 /
現代社会学講義	佐藤慶幸 著 / 有斐閣(有斐閣ブックス) / 4641086281 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 外国語文献研究 SI

13012

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ハリス(David Harris)の著作、Key Concepts in Leisure Studies(Sage, 2005)を用いて、近年のレジャー研究における主要テーマを検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

本講義のねらいは、二つある。まず、テキストを丁寧に翻訳することである。次に、翻訳した文意を読みとり、テクニカルターム(専門用語)の理解をふまえたうえでの現状分析を試みることにある。それゆえに、講義では講読以外に、映像教材を用いたり、ディスカッションを試みたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。強いていえば社会学史、社会学理論を扱った講義を受講している、受講したことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス(テキストの紹介・講義の進め方の確認)	
2～4	レジャー政策	Leisure Policy, Work-Leisure Relationships
5～7	レジャーと社会理論	Figuralism, Functionalism, McDonaldization
8～10	レジャーと権力論	Articulation, Cultural Capital, Disciplinary Apparatuses, Gramscianism,
11～13	非日常性とレジャー	Disneyfication, Escape, Gaze, Pleasures
14～15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	講義の理解と各自の問題意識の展開を評価の対象とする。
日常点・その他	70 %	15回の講義のうち、3分の2以上の出席(つまり10回以上)がないと評価の対象にならない。ただし、就職活動、課外活動(部活、サークル等)による欠席は事前に申請すれば考慮する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Key Concepts in Leisure Studies	David Harris / Sage / 0-7619-7058-4 /

テキストを購入する必要はない。講読する部分は、コピーを講義で配布する。

## 参考書 / Reference Books

講義ごとに紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.arasite.org/>

## その他 / Others

担当者名 / Instructor ETZRODT CHRISTIAN

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

The course gives an overview of social issues and social policy. Several topics ranging from family problems to environmental issues will be discussed. The leading British textbook Social Policy will be used in this course.

**到達目標 / Attainment Objectives**

This class is a reading class that will allow the students to improve their reading skills. The aim is to strengthen the student's ability to read a text in context and to understand the key points.

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Social Policy, Social Welfare, and the Welfare State (chap. 1)	social policy, social welfare, welfare state, individual welfare, risk society, redistribution
第2回	Social Need and Patterns of Inequality and Difference (chap. 5)	need, deprivation, poverty
第3回	Work and Welfare (chap. 6)	division of labour, full employment, labour intensification, lean production, male breadwinner model, feminization, gender pay gap
第4回	The Family and Welfare (chap. 7)	family policy, child benefit, childcare, maternity leave, lone-parent family
第5回	Public Expenditure and Decision-Making (chap. 10)	business cycle, market failure, Keynesian economics, fiscal crisis, New Right
第6回	The Role of the Voluntary and Non-governmental Sector (chap. 11)	charity, NGO, voluntary sector, community, social capital, social inclusion, partnership
第7回	Cash Transfers (chap. 12: 329-355, 357)	social security, stigma, poverty trap, unemployment trap, welfare to work, workfare
第8回	Education and Training (chap. 13)	basic education, dual systems, higher education, lifelong learners, national curriculum
第9回	Health and Health Policy (chap. 14)	mortality rates, biomedical model, social and environmental model, liberal approach
第10回	Social Care (chap. 15)	user, informal carers, community care, emotional labour, labelling
第11回	The Care and Protection of Children (chap. 16)	children's rights, family rights, care order, adoption triangle, breakdowns, same-race placements
第12回	Housing and Housing Policy (chap. 17)	unintentionally homeless, affordable housing, building society, rent control
第13回	Crime, Justice, and Punishment (chap. 18: 519-543)	punishment, rehabilitation, drug treatment
第14回	The Environment and Green Social Policy (chap. 19)	ecological modernization, environmental justice, quality of life, sustainability
第15回	The Impact of Social Policy (chap. 21)	take-up, social wage

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	Students have to prepare and present short (5 min.) summaries of the chapters and articles (in English or Japanese). Assessment of whether student grasps the key ideas of the text.
最終講義日試験	75 %	Attendance, participation in discussions (in English or Japanese). Assessment according to the student's ability to evaluate scientific arguments.
日常点・その他	0 %	Attendance of at least two-thirds of lectures is a precondition for valid assessment.

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Social Policy	John Baldock, Nick Manning, Sarah Vickerstaff (eds) / Oxford University Press / 0-

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 外国語文献研究 SK

15327

担当者名 / Instructor 藤井 友紀

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

Jean Baudrillardの"La société de consommation" (Gallimard,1996)を用いて、消費文化における「記号」や「価値」の有り様に関する理解を深める。

現代社会には様々なモノや宣伝広告が溢れ、我々の関心をひいている。我々はどのようにして、多くのモノの中から流行を生み、モノの「価値」や「意味」を決めるのだろうか。

## 到達目標 / Attainment Objectives

フランス語の文法および読解力を習得するとともに、消費文化に関する分析を通じて、現代社会と社会現象に対する分析的まなざしを身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的なフランス語文法を習得していることが望ましいが、意欲があれば未修者も履修可能である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ ガイダンス	キーワード 講義の進め方について
第2回	テーマ La liturgie formelle de l' objet	
第3回	テーマ Théorie de la consommation	
第4回	テーマ Théorie de la consommation	
第5回	テーマ Théorie de la consommation	
第6回	テーマ Théorie de la consommation	
第7回	テーマ Théorie de la consommation	
第8回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第9回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第10回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第11回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第12回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第13回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第14回	テーマ Mass media, sexe et loisirs	
第15回	テーマ Conclusion まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席および予習、講義への参加を目安に評価します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

翻訳作業は大変かと思いますが、完璧を目指す必要はありません。むしろ、テキストから現代社会や社会現象に対する社会学的なものの見方を学び、今後の生活に活かしてもらえればと思います。

また、スケジュールはガイダンスや進行具合によって変更する場合があります。

## 教科書 / Textbooks

"La société de consommation", Jean Baudrillard (Gallimard,1996)を使用する。  
適宜コピーを配布するので、特に購入の必要はありません。

## 参考書 / Reference Books

仏和辞典は必須です。

『物の体系』、ポードリヤール、法政大学出版、また、翻訳版『消費社会の神話と構造』に目を通しておくと、翻訳作業および内容理解の一助となると考えられます。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## カウンセリング論 S

12934

担当者名 / Instructor 高垣 忠一郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代という時代や社会は人間の心にどのような影響をもたらし、どのような問題を引き起こしているのか？「癒し」「心の時代」「心の教育」「心の商品化」「心の専門家」「心理主義」「臨床心理士」「心理治療」「カウンセリング」「心のケア」などの言葉が氾濫しているなかで、「心」に注目が集まっているように見える。なぜ今日の社会で「心」がこれほど問題になるのか？その背景にはなにがあるのか？「心の問題」をどのようにとらえればいいのか？カウンセリングは「心の問題」をどのようにとらえ、どのようにアプローチするのか？現代社会における、カウンセリングの意義、役割、その功罪は何なのかを考えると共に、主要なカウンセリングの理論や技法についても、具体的に紹介する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 心理臨床、カウンセリングが注目される社会的背景や歴史的背景を理解すること。
- カウンセリングとはどういうものであるのか、その基本を理解すること。
- カウンセリングのいくつかの理論や方法を具体的に理解すること。
- 以上を通じて現代人の心の問題とそれへの援助のあり方を考えられるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修しておくことが望まれる科目は特にないが、単にカウンセリングや心についての知識を得るのではなく、自分自身の頭と心とをくぐり抜けて、心の問題や今日の社会のあり方を真剣に考えてみる心構えを持っていて欲しい。授業が自分自身と向き合い、自分の心に問いかけるきっかけになれば結構なことだし、その心を通じて、自分の生きる時代や社会を深く考察するきっかけになればもっとよい。とりわけ、「平和」が脅かされている情勢のなかで、「平和」と「心」の問題に関心をもつ人の参加を歓迎する。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	カウンセリングとはどういうものか？	相談・コンサルテーション・心への援助
2	カウンセリングと物語	人生・自己物語・自分探し
3	カウンセリングの歴史	カウンセリングの3つの起源・日本での小史
4	今日の社会とカウンセリング(1)	心の時代・心の商品化・感情労働
5	今日の社会とカウンセリング(2)	生涯学習社会・自己実現・消費社会
6	不登校・ひきこもり・ニート問題とカウンセリング	高速道路・構造改革・規制緩和
7	カウンセリングの基本問題	カウンセリングの目的・症状・
8	カウンセリングの人間観と基本的態度	受容・共感的理解・自己一致
9	カウンセリングのプロセス	傾聴・応答・展開
10	来談者中心療法	ロジャース・自己概念・経験
11	認知療法	認知の歪み・うつ・感情
12	交流分析(1)	エゴグラム・チェックリスト
13	交流分析(2)	自我状態・トランザクション・ゲーム・ラケット
14	精神分析	フロイト・無意識・ヒステリー・夢分析
15	予備	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	心の問題と社会的背景についての理解やカウンセリングの基本概念についての理解を試す問題を出す。文章の構成や自分の考え、理解をきちんと論理的に述べているかどうかを重視する
日常点・その他	20 %	2回程度それまでの授業の理解度を確かめるためのレポートを課す

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「心の専門家」はいらない	小沢牧子 / 洋泉社 / /
管理される心	A.R.ホックシールド / 世界思想社 / /
共に待つ心たち	高垣忠一郎 / かもがわ出版 / /

生きることと自己肯定感

高垣忠一郎 / 新日本出版 / /

---

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 家族関係論 S § 家族社会学 S

12946

担当者名 / Instructor 川畑 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

担当者は長年、児童相談所業務に携わるなかで、子どもの相談ごとの背景に家族問題が大きく横たわっていることを見てきた。もちろん、その家族の背景には社会がある。そしてその社会もまた子どもたちや家族の現状に大きく影響を受けているので、子ども・家族・社会は相互にまさにひとつのシステムとして結びついているといえる。

授業では、相談活動や家族療法、世の中の様々なエピソードなどをとおしてみた家族の様々なありようと、変化の様子、そしてその背後にあると思われる社会状況などについて解説を試みる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・子どもたちの問題、家族問題、社会問題について、より具体的なレベルでの理解を深めること。
- ・原因 結果という直線的因果関係ではなく、すべてがつながっているとみる円環的思考になじむこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	児童相談と家族	児童福祉、児童相談所
2	ジェノグラム(家系図)	家族の歴史、家族の人間関係
3	システム論的家族療法	家族福祉、家族の構造
4	幼児と家族	発達相談、発達障害、夫婦関係
5	小学生と家族	母子関係、父子関係、兄弟関係
6	中学生と家族	症状、問題行動
7	中学生と家族	非行、不登校など
8	高校生と家族	進路、自立
9	児童福祉施設(里親宅)で暮らす子ども	社会的養護、生活の基盤
10	児童虐待と家族	法律や制度、現状
11	児童虐待と家族	対応や処遇
12	子育て論・子育て支援	子育て不安、子どもの権利
13	いじめと社会	現状認識、いじめのリアリティ
14	現代家族の課題	子ども・家族・学校・地域・社会
15	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	100 %	授業をとおして自分で考えることがどれだけできているかをみるための試験である。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

子ども・家族・社会に関する新聞記事などにも積極的に目を通してほしい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

必要に応じて授業のなかで紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 齋藤 真緒

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	プロローグ 家族社会学入門	家族の定義
第2回	家族社会学の歴史	ライフサイクル ライフコース ライフスタイル
第3回	家族社会学の歴史	パーソンズ 近代家族 社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族 親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス 「子ども」、主婦、「母性愛」
第6回	日本における「近代家族」の発展	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ 結婚をめぐる変化	離婚 再婚 ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ 子育ての「社会化」	パパ・クォータ
第13回	「近代家族」のゆらぎ 介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ 生殖技術	生殖技術 不妊
第15回	エピローグ - 私たちがつくるこれからの家族	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義に関連する参考文献を適宜提示する。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
日常点・その他	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、受講生に自らの問題として考えてもらうことを目指しているために、ミニレポートを通じた日常点評価を重視する。したがって恒常的な出席が難しい学生には適さない。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

受講に際しては、社会学の基礎知識を有していることが望ましい。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 活字メディア分析 S

12969

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本科目は活字メディアである新聞(一般紙)を対象として、記事をはじめ、論説、写真、広告など紙面において表現された様式から様々な読み取りを行い、その構成、意図、表現について多角的な読み解き方を学び、新聞の分析を通して実践的にメディアを理解するところにある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・活字メディアの基本的な問題点を理解し、報道表現に対する批判的な視点を持つことができる。
- ・グループ学習によるコミュニケーション力(責任感、調整力の醸成)を獲得し、メディア分析の方法を実践的に学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス / 授業の進め方・目的について	
第2回	メディア分析の目標と方法 研究のアプローチ	
第3回	日本の新聞社と新聞の現状	
第4回	新聞紙面の構成 / グループ分け	
第5回	新聞記事の読み取り / 討論	
第6回	論説(社説)の比較 / 討論	
第7回	新聞写真から読み取れるもの / 討論	
第8回	多様な新聞広告 / 討論	
第9回	実習(1) テーマを選ぶ・リサーチをする	
第10回	実習(2) データの収集と整理、分析	
第11回	実習(3) データの収集と整理、分析	
第12回	プレゼンテーションと討論	
第13回	プレゼンテーションと討論	
第14回	分析結果のまとめと討論 / レポート作成と提出	
第15回	まとめの議論	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

グループ学習活動としてのメディア分析と討論、個人によるメディア分析レポートの提出、クラス全体での発表と対話、という運営方式を基本に、適宜配布される資料を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(60点)、グループで分担して考察し、個人で作成した分析レポート(40点)。

単なる出席ではなく、グループ活動によるメディア分析を中心とするので、グループ活動への参加の度合を重視する。参加型授業となるので、出席および活動への参加の度合いを基準とし、分析レポートとあわせて評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。無断欠席および遅刻は減点となる。明確な理由や連絡も無く、3回連続して無断欠席した場合は不合格とする。グループ分けまでの授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。第1回にこの授業の進め方、評価の仕方について説明するので、受講(登録)意志のある人は必ず出席すること。

レポートはメール(オンライン)での提出となるので、ワード貼付などパソコンスキルを身につけておいてほしい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者はグループに分かれて互いに協力しながら調査・分析作業ができること(授業への能動的参加)を前提に受講登録すること。毎回の授業時間だけ出席しては済むという授業形態ではないので注意してほしい。受講者にとって互いに迷惑となる遅刻、無断欠席等は許されない。授業はグループ活動と並行して考察に必要な文献資料を使いながら行う講義を織り交ぜ、全体として参加型の授業を行う。受講者はグループに分かれて課題に基づき実際に新聞等をベースに文献などを活用し、調べた内容を整理考察していく。グループで分析した結果をクラス全体で発表し、それについて討論する。評価に関わるレポートの課題・評価基準等、詳細な執筆要領を初回の授業時に説明するので、必ず出席すること。なお、完成したメディア分析レポートはオンライン(メール)による提出となるので注意してほしい。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新聞を知る新聞で学ぶ	妹尾彰・福田徹 / 晩成書房 / 4893803271 / 新聞を活用した学習(NIE)についてその

方法と基礎知識をふまえ、新聞の取材・制作現場の実情や効果的な読み方、新聞の長所、短所、問題点など解説したもの。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

-----  
ニュース報道の言語論

玉木明 / 洋泉社 / 4896912036 / ニュース報道の無署名性言語、記事の作られ方について考察したもの。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

-----  
新聞の読み方

岸本重陳 / 岩波書店 / 4005002009 / 新聞のしくみ、感想文のまとめ方を簡単に紹介したもの。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 渡辺 悟

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

戦後史の現場に立ち会った新聞記者の取材活動や思いを追体験することでジャーナリズムの可能性と課題を探る実践新聞学。戦争、政治、国際、社会、学芸などのジャンルから「事件」をピックアップし、歴史に個人(記者)がいかに肉薄したか、し得なかったか再現を試みつつ、それぞれの事件の今日的意味も考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・スクープを狙うジャーナリズムの生理と論理、内的な仕組み(出稿者と編集者との緊張関係など)を理解することで、新聞が無謬ではあり得ないという事実も含めた立体的な情報リテラシーを体得する。
- ・歴史を、無機的な年表としてではなく、生きた人間の営みの有機的な集合体として理解し、併せて戦後史 = 時事問題の大まかな土地鑑を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	新聞概論	活字離れ、新聞離れの中の未来
2	封印された原爆報道	悔悟から執念へ
3	敗戦の日の報道	それでも書く
4	サンフランシスコ条約	クビを賭けた社論
5	下山事件	コミ(聞き込み)の勝利
6	日本兵の帰国	心の闇照らした名古屋弁
7	3億円事件	誤報の構造
8	赤ちゃんあっせん事件	?が生んだ大スクープ
9	富士・八幡合併	正しい仮説をどう立てるか
10	「女のしんぶん」	グチを変革の力に
11	考古学報道	情熱が歴史を塗り替えた
12	西山事件	倫理に隠れた国家のウソ
13	ポル・ポト大虐殺	悲劇を発掘出来なかった悔い
14	水俣病	なぜ記者はたじろいだか
15	ある記者のがん闘病記	記者の「業」ということ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	提示する特定のテーマについて、定められた字数で書いてもらう。結論の是非優劣ではなく、結論に至る考え方の筋道と説得力を基準に評価する。
日常点・その他	50 %	ともに考える場としたいので、出席状況を評価対象とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は過去の特定の事件の解説にとどまらない。常に現在との間を行き来しつつ進めるので、新聞、放送、映画、音楽、読書などを通じて、より幅広くより意識的に「時代」を呼吸するよう努めてもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
20世紀事件史 歴史の現場	毎日新聞社 / 毎日新聞社 / 4-620-31454-4 / テーマに該当する箇所を事前に読んでおく

## 参考書 / Reference Books

推薦図書については講義のつど紹介していきたい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。

よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。

この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 問題の概要(事実)をつかむこと
- 2 問題を処理する論理の概要をつかむこと

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	地球環境の概説	温暖化
第3回	地球環境問題と公害	公害論 地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化 自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策 電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料 資源寿命
第7回	原子力問題	原子力 放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電 電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電 電力支援政策
第10回	リサイクル問題1 概論	3R
第11回	リサイクル問題2 容器問題	PET リサイクル
第12回	リサイクル問題3 耐久消費財	リサイクル法 シュレッダー
第13回	交通体系論	LRT
第14回	全体まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

なし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100 % 講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

## 教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『エネルギーと私たちの社会』 J.S.ノルゴ、B.L.クリステンセン / 新評論 / ISBN4-7948-0559-4 /

『新・地球環境論』 和田武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7 /

随時追加で紹介します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

## その他 / Others

なし

## 環境技術論 SB

16869

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。

よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。

この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1 問題の概要(事実)をつかむこと
- 2 問題を処理する論理の概要をつかむこと

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	地球環境の概説	温暖化
第3回	地球環境問題と公害	公害論 地球環境問題
第4回	自然史の中の人間	進化 自然
第5回	資源とエネルギー1	エネルギー政策 電力発達史
第6回	資源とエネルギー2	化石燃料 資源寿命
第7回	原子力問題	原子力 放射能
第8回	再生可能エネルギー論1	風力発電 電力コスト
第9回	再生可能エネルギー2	太陽光発電 電力支援政策
第10回	リサイクル問題1 概論	3R
第11回	リサイクル問題2 容器問題	PET リサイクル
第12回	リサイクル問題3 耐久消費財	リサイクル法 シュレッダー
第13回	交通体系論	LRT
第14回	全体まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

なし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義者の論理をよく理解すること

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

なし

## 教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『エネルギーと私たちの社会』	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン / 新評論 / SBN4-7948-0559-4 /
『新・地球環境論』	和田武 / 創元社 / ISBN4-422-40017-7 /

随時追加で紹介します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中指示します。

## その他 / Others

なし

## 環境保全論 S § リサイクル論 S

15193

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

環境保全論/リサイクル論「持続可能な環境保全型社会の構築」20世紀後半以降、展開されてきた物とエネルギーの使い捨て型大量生産・消費を軸とする社会は、地球環境破壊や資源枯渇を引き起こす持続不可能な社会であることが判明してきた。本講では、「物」と「エネルギー」の生産体系の現状と問題点を国際的、国内的事例の分析に基づいて明らかにし、持続可能な環境保全型社会への転換を実現するための条件とプロセスについて論じる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

地球環境問題を引き起こしているこれまでの持続不可能な生産・消費システムについて理解し、それを持続可能なものに転換するための国内外の取り組みについての知識を獲得すること。それらを分析して、持続可能な生産・消費システムに転換するための方策について考察する力をもてるようにすること。さらに、生産・消費システムの転換が今後の持続可能な社会への発展につながることを認識し、今後の自らの生き方のなかに環境保全的要素を導入できるようにすること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

総合学術科目「現代環境論」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
0.5	自然の物質、エネルギー、生態系の循環平衡と人間活動	自然、物質、エネルギー、生態系、人間活動、循環平衡
0.5	大量生産消費システムがもたらす問題?資源枯渇、廃棄物問題と有害物質汚染、地球環境問題?	大量生産消費システム、資源枯渇、廃棄物問題、有害物質汚染、地球環境問題、地球温暖化
1	持続可能な環境保全型生産消費システムのあり方	持続可能な生産消費システム、持続不可能な生産消費システム、物的生産、エネルギー生産
1	日本の資源循環利用の現状と問題点(1)資源循環利用の方法	日本、資源循環利用、廃棄物、3R、
1	日本の資源循環利用の現状と問題点(2)廃棄物・リサイクルに関する制度	日本、資源循環利用、廃棄物、リサイクル制度、容器包装リサイクル、製品リサイクル、循環型社会
1	諸外国の資源循環利用対策(1)ドイツの容器包装リサイクル	資源循環利用、ドイツ、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、DSD社
1	諸外国の資源循環利用対策(2)EU諸国の容器包装リサイクル	資源循環利用、EU、容器包装リサイクル、拡大生産者責任、環境税、デポジット制度、
1	諸外国の資源循環利用対策(3)製品リサイクル	諸外国、資源循環利用、製品リサイクル、家電製品、自動車、拡大生産者責任、
1	日本と世界のエネルギー利用の現状と問題点	日本、世界、エネルギー、化石資源、原子力、
1	持続可能なエネルギーシナリオ	温暖化防止、CO2削減、再生可能エネルギー、省エネルギー、エネルギー効率
1	諸外国のエネルギー利用(1)デンマークとドイツのエネルギー対策	エネルギー、デンマーク、ドイツ、風力発電、太陽光発電、バイオマス
1	諸外国のエネルギー利用(2)発展途上国のエネルギー対策?インドと中国を中心に?	エネルギー、発展途上国、インド、中国、地域社会、未電化地域、電化、
1	再生可能エネルギー普及論?市民参加による再生可能エネルギー普及?	再生可能エネルギー普及論、住民、市民、エネルギー生産手段、所有、
1	日本の再生可能エネルギー普及	日本、再生可能エネルギー、自治体、市民参加、住民参加、市民共同発電所、地域主導
1	まとめ:持続可能な社会の構築	持続可能な社会、社会発展論、市民の生産関与、生産手段の所有、生産の民主的社会的化、社会発展プロセス、

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

自主的な学びを積極的に進めてほしい。環境保全に関して自主的に調査、実践、学習した成果を「自主レポート」として提出することを歓迎する(テーマや作成方法は自由。提出期限は最終講義)。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	100点満点の試験点数に0.8がけ
レポート試験	0 %	自主レポートの提出を歓迎する。提出した場合、その内容に応じて0?20点を加算する。
日常点・その他	20 %	授業時に講義の感想、意見、質問などを随時、小レポートとして提出を求め、それを採点する。

定期試験を実施 定期試験に日常点(小レポート)を加味して評価。評価の比重は、試験80%、日常点(小レポート)20%。小レポートは授業期間中、随時、数回提出を求める。なお、優れた「自主レポート」については、内容により成績評価に0?20点を加算する。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

高度な予備知識はとくに必要ないが、講義ははじめに出席、受講すること。ときどき、授業中に小レポート(感想、意見、質問など)の提出を求めるので、必ず提出すること(後日の提出は認めない)。

#### 教科書 / Textbooks

使用しない。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / / とくに第10章を参照
21世紀世界のリサイクル	ジェトロ・ワールドナウ / JETRO / / 循環型生産に必要なリサイクル
地球温暖化を防止するエネルギー戦略	林、和田ほか / 実教出版 / / 省エネと再生可能エネルギー利用
環境展望 (Vol.1?4)	日本科学者会議公害環境問題研究委員会 / 実教出版 / / 多様なエネルギー問題について学ぶ
地球白書 (各年度版)	C.フレイビンら / 家の光協会 / / 地球規模の環境課題を学ぶ

石弘之「必読・環境本100冊」は各分野の環境関連書籍を選択する上で参考になる。その他、和田武「環境問題を学ぶ人のために」世界思想社、循環型社会法制研究会「循環型社会形成推進基本法の解説」ぎょうせい、日本科学者会議「地球温暖化防止とエネルギーの課題」水曜社、佐藤由美「自然エネルギーが地域を変える」学芸出版、エネルギー推進市民フォーラム「よくわかる自然エネルギー」合同出版、気候ネットワーク「地球温暖化防止の市民戦略」中央法規、などを推薦する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省 ; <http://www.env.go.jp/>、厚生労働省 ; <http://www.mhlw.go.jp/>、日本容器リサイクル協会 ; <http://www.jcpra.or.jp/>、環境go ; <http://eco.goo.ne.jp/>、資源エネルギー庁 ; <http://www.enecho.meti.go.jp/>、NEDO (新エネルギー産業技術開発機構) ; <http://www.nedo.go.jp/>、気候ネットワーク ; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、自然エネルギー市民の会 ; <http://www.bnet.jp/pare/>、 など。

#### その他 / Others

できるだけ欠席しないこと。自主的、積極的に学んでほしい。質問は大いに歓迎するが、メールよりも、授業終了後に直接、質問するほうがやり取りができるので理解しやすいと思う。

担当者名 / Instructor 竹濱 朝美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

気候変動 (climate change, 温暖化) の影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。  
危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ベースについて学ぶ。温室効果ガス削減策について、交通部門、家庭部門、エネルギー部門の削減策などを学ぶ。講義を通じて、気候変動はすでに危機的水準にあること、温室効果ガス削減は差し迫ったものであることを学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

気候変動は、単なる学習対象ではなく、学生一人一人の生活に直接影響を及ぼすものである。気候変動は、自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルの環境負荷を振り返る。  
Climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUの気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。  
気候変動の現状、温室効果ガスの長期的影響に関する基礎的知識を得る。  
気候変動の影響、被害対策について、基礎的知識を獲得する。  
エネルギー部門、交通部門、家庭部門、に関する温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに 学習方法の案内	
2	気候変動に関するビデオ鑑賞: 海外における気候変動のDVD, 海外ニュース	
3	温室効果。温室効果ガスの長期的影響、気温上昇のタイムラグ, climate inertia, 重要なthresholds.	
4	温室効果ガス安定化シナリオ, 2度突破のリスク, 3度突破のリスク, 安定化濃度と必要な削減量, ピーキングの期限。	
5	質問とまとめ, 海外の気候変動ニュース	
6	日本における気候変動の影響。熱波、台風、集中豪雨、高潮の予測。熱波警報と熱波対策。イギリス、EU諸国の熱波警報システム(heat-health-watch)、海外の熱波マニュアル	
7	京都議定書とエネルギー構造。世界の温室効果ガス削減量、排出量の予測	
8	自然エネルギーへの転換。風力発電、太陽光発電に関するEUの取り組み、国内における取り組み。	
9	太陽光発電におけるEU、ドイツの取り組み、日本との比較	
10	質問とまとめ	
11	EUにおける温室効果ガス削減政策。交通部門、家庭部門の削減対策。イギリスの削減計画。ドイツの取り組み	
12	食生活による温暖化負荷。Food Miles, 国産物と輸入物のフード・マイルズ。輸送手段とCO2排出。オーストラリアの早魃と穀物生産	
13	EUの温室効果ガス削減策に関する海外ニュース。まとめ	
14	全体のまとめと質問。海外ニュースを見る	
15	最終講義日試験(講義内レポート)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

必要に応じて、海外のテレビニュースやDVD,イギリスの新聞記事を読む。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	授業中に、数回の小テストを行う。最終講義日に、最終講義日試験。評価は、小テストと最終講義日試験との合計。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

講義では、基本的に、気候変動に関する英文の文献を使用する。英文の文献を読むことを承知で受講すること。十分復習すること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『消費経済学体系』3・消費者問題』、 An Inconvenient Truth,	呉世煌・西村多嘉子編 / 慶応義塾大学出版会、 / ISBN 4-7664-1211-7 / 2005年所収、第9章、竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」。 Al Gore, / Bloomsbury, 2006 / /

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報 温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	/ / /
日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 2、実教出版、2002.	/ / /
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	/ / /
日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 4、実教出版、2004.	/ / /
日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、「環境展望」、Vol. 3、実教出版、2003.	/ / /
「気候変動研究とサイエンス・ジャーナリズムの役割: 英国マスメディアが伝えるClimate Change」、『日本の科学者』42巻4号、2007年	竹濱朝美 / / /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

国立環境研究所: <http://www.nies.go.jp/>  
IPCC: [www.ipcc.ch](http://www.ipcc.ch)

**その他 / Others**

企画研究(自主企画研究) SA

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

企画研究(自主企画研究) SB

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

企画研究(自主企画研究) SC

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

企画研究(自主企画研究) SD

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SE

14059

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SF

14060

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探る」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SG

14061

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SH

14062

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SI

14063

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SJ

14064

担当者名 / Instructor 前田 信彦、桂 良太郎、荒木 穂積、津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探る」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SK

14065

担当者名 / Instructor 文 楚雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。  
 キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。  
 3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。  
 TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400枚×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。  
 この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SL

14066

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SM

14067

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 企画研究(自主企画研究) SN

14068

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目は、学習者自らが「主体的な学びのプロセス」を獲得することを主たる目的としています。

キーワードは「問題を探す」「科学する」「探求する」「参加する」「自ら学ぶ」です。自ら学ぶことにより、必要な学習の仕方、問題の複雑性や変化に対応する的確な感覚、センス、洞察力を獲得していくことを目標としています。与えられた課題やテーマを受動的にこなすのではなく、学習者自身が主体的に学習を企画し、対象者と関わりながら学習を展開させていくことが特徴であり、最も重要なポイントです。

3つのタイプがあり、TYPE1は学習者自らがテーマを決め学習を進める「自主企画・学習型」、TYPE2は担当教員が挙げたテーマについて学習を進める「教員とのコラボレート型」、TYPE3はこの科目に協力いただいている企業・団体・諸機関が挙げたテーマについて学習を進める「企業・団体・機関とのコラボレート型」です。授業内容の詳細は募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

TYPE1は、自分で決めたテーマと計画にもとづき作成する成果物(「研究レポート」)の作成を目標とします(研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安とします)。学習にあたっては毎月1度、担当教員との間で進捗状況の報告とミーティングを行ってください。

TYPE2,3は、いずれも担当教員が定めた成果物の作成を目標とします(内容の詳細はクラス・担当教員ごとに異なります)。TYPE2,3は授業を実施し、成果物作成にむけたワーキングを行います。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
TYPE1	TYPE1は、受講申込にあたってテーマ別に担当教員との間で1年間の学習の進め方などについてミーティングを行います。学習開始後は毎月1度、進捗状況報告書の提出により学習の進み具合などについて報告を求めるとともに、進捗状況報告書にもとづき担当教員との間でミーティングを実施します。	
TYPE2,3	TYPE2,3は、受講申込をうけて選考を行います。受講許可者は授業に出席をしてください。授業は担当教員の学習計画にもとづき実施されますが、実施曜日時限の詳細は初回授業以降、クラスごと決められます。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

TYPE1は成果物(研究レポートまたはそれに代わるもの、研究レポートは8000字(400字×20枚)を目安にしてください)により成績評価を行います。TYPE2,3は授業出席と授業を通じた学習、およびクラスごとに担当教員が定めた成果物により成績評価を行います。この科目の成績評価はTYPE1,2,3いずれも「P」(合格)または「F」(不合格)で行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

この科目の申込手続き、クラスごとの内容などの詳細については、募集要項(掲示および事務室配布)を参照してください。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

企画研究(自主企画研究) SO

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

企画研究(自主企画研究) SP

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

企画研究(自主企画研究) SQ

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 基礎社会学 SA § 社会学概論I SA

12212

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」とことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に	
2	第1章 行為と集団 行為 関係 集団(組織) 全体 社会という概念の階層性について述べる	
3	同上	
4	第2章 家族と両性関係 制度としての「家」 近代家族 家族の多様化について考える	
5	同上	
6	第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える	
7	同上	
8	第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える	
9	同上	
10	第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える	
11	同上	
12	第6章 現代社会(論) 市民社会 大衆社会 脱工業(ポスト・モダン)社会の変遷を中心にする	
13	同上	
14	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	不合格は15%程度となる
日常点・その他	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。出席はとらない。

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

**その他 / Others**

基礎社会学は5教員が担当する。5人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジュメの類は原則として配布しない。

## 基礎社会学 SB § 社会学概論I SB

12213

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」とことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に	
2	第1章 行為と集団 行為 関係 集団(組織) 全体 社会という概念の階層性について述べる	
3	同上	
4	第2章 家族と両性関係 制度としての「家」 近代家族 家族の多様化について考える	
5	同上	
6	第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える	
7	同上	
8	第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える	
9	同上	
10	第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える	
11	同上	
12	第6章 現代社会(論) 市民社会 大衆社会 脱工業(ポスト・モダン)社会の変遷を中心にする	
13	同上	
14	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	不合格は15%程度となる
日常点・その他	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。出席はとらない。

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

**その他 / Others**

基礎社会学は5教員が担当する。5人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジュメの類は原則として配布しない。

## 基礎社会学 SC § 社会学概論I SC

12214

担当者名 / Instructor 飯田 哲也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」とことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に	
2	第1章 行為と集団 行為 関係 集団(組織) 全体社会という概念の階層性について述べる	
3	同上	
4	第2章 家族と両性関係 制度としての「家」 近代家族 家族の多様化について考える	
5	同上	
6	第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民主体の相互関係を中心に考える	
7	同上	
8	第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える	
9	同上	
10	第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える	
11	同上	
12	第6章 現代社会(論) 市民社会 大衆社会 脱工業(ポスト・モダン)社会の変遷を中心にする	
13	同上	
14	全体のまとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	不合格は15%程度となる
日常点・その他	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。出席はとらない。

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

**その他 / Others**

基礎社会学は5教員が担当する。5人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジユメの類は原則として配布しない。

## 基礎社会学 SD

12215

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」とことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に	
2	第1章 行為と集団 行為 関係 集団(組織) 全体 社会という概念の階層性について述べる	
3	同上	
4	第2章 家族と両性関係 制度としての「家」 近代家族 家族の多様化について考える	
5	同上	
6	第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民 主体の相互関係を中心に考える	
7	同上	
8	第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える	
9	同上	
10	第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える	
11	同上	
12	第6章 現代社会(論) 市民社会 大衆社会 脱工業(ポスト・モダン)社会の変遷を中心にする	
13	同上	
14	全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	不合格は15%程度となる
日常点・その他	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。出席はとらない。

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

**その他 / Others**

基礎社会学は5教員が担当する。5人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジュメの類は原則として配布しない

## 基礎社会学 SE

12216

担当者名 / Instructor 佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この学部にはさまざまな専門領域があるが、社会学はそれらの専門をより深いレベルで基礎付けている土台の一つであることはまちがいない。産業社会学部の学生は社会学の素養を身につけた上で専門科目やゼミを受講するのが望ましい。

社会学は一言で言うと「個人現象の後ろに隠れている社会的な要因を見つけ出す」とことだと言える。そのために必要な社会学に固有の考え方や問題の立て方を学ぶのがこの基礎社会学である。

領域としては大きくいうと、理論として「社会学理論」と「現代社会論」がある。また主要な領域として「家族」、「地域」、「労働」、「文化」がある。これらを学ぶことで社会学の全体像を講義していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念と発想法について学ぶ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

1回生後期の受講になる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序章 社会学を学ぶにあたって 社会と個人の相互規定関係を中心に	
2	第1章 行為と集団 行為 関係 集団(組織) 全体社会という概念の階層性について述べる	
3	同上	
4	第2章 家族と両性関係 制度としての「家」 近代家族 家族の多様化について考える	
5	同上	
6	第3章 地域と住民関係 条件としての地域と地域住民主体の相互関係を中心に考える	
7	同上	
8	第4章 仕事と職場関係 よい仕事とは何か、どこにあるのか、キャリアという概念を中心に考える	
9	同上	
10	第5章 現代と若者文化 消費・情報・記号社会における若者文化について考える	
11	同上	
12	第6章 現代社会(論) 市民社会 大衆社会 脱工業(ポスト・モダン)社会の変遷を中心にする	
13	同上	
14	全体のまとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	不合格は15%程度となる
日常点・その他	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。出席はとらない。

講義の7回目から8回目あたりで簡単なレポートを課す。レポート点は成績に反映される。また定期試験を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

飯田哲也編著「基礎社会学講義」学文社、2002

この本は飯田先生が中心になって基礎社会学を担当する教員が協力して編集したものであり、授業はこの本をベースに進めていく。

## 参考書 / Reference Books

参考書はその都度紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

**その他 / Others**

基礎社会学は5教員が担当する。5人は一つのクラスを第1回目講義から最終回の講義まで一貫して担当する。言い換えると途中で担当者が交代するリレー式ではない。3人は常々連絡を取りながら3クラスに対して同質の講義ができるように心がける。また担当者と受講生との双方向のコミュニケーションを取るよう工夫する。なお、教科書を使うので、レジユメの類は原則として配布しない。

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝授する。多くの具体的事例を通して、「空間・場(都市・まち)」の質が「ひと」の在り方(社会関係や文化等)を規定し「できごと(生活のドラマ)」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。

講義では、スライド映像等を活用しつつ事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

## 到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らさう「場 = 居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずで

す。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「居住環境デザイン論」ってなに? 「居住環境」ってなに?	本授業の視点の提供: 「ひと」と「場所 = 都市(まち・地域)」の関係論
第2回	だから都市はおもしろい その1	京都歴史散歩... 京都は千年の都、万古不易って本当?
第3回	だから都市はおもしろい その2	続・京都歴史散歩... 「都市」の魅力は多層性・多義性にある
第4回	だから都市はおもしろい その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市 = 「まちづくり」の視座
第5回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その1	都市計画とはなにか
第6回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その2	「理想の都市」は創りうるか = 近代都市計画の光と影(1)
第7回	「都市をつくる企て」としての近代都市計画 その3	「理想の都市」は創りうるか = 近代都市計画の光と影(2)
第8回	「都市」の構造を継承するところみ その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
第9回	「都市」の構造を継承するところみ その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
第10回	「都市」の構造を継承するところみ その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
第11回	「都市」(まち)に住み続けるために その1	京都の現状... 京都は住み続けられるまちか? (1)
第12回	「都市」(まち)に住み続けるために その2	京都の現状... 京都は住み続けられるまちか? (2)
第13回	「都市」(まち)に住み続けるために その3	新しい京都の動き
第14回	まとめ	
第15回	レポート試験	論題は後日提示(事務室の規定に順ずる)

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験にかわるレポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
日常点・その他	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

## 教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 安江 則子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

毎回、グローバル・イシューの具体的な課題を取り上げて、そうした課題に携わっている国際機構、国際NGOの活動をみていく。国際機構やNGOは実に多様である。個々の課題に即して、それぞれの組織の設立目的、基本理念、組織の概要、任務や活動の形態、資金調達などについて明らかにしていく。またグローバル・イシューに関する各国政府の対応の違いをみていくことで、今日の国際社会において問題の解決がなぜ困難なのかを学んでもらいたい。人間の安全保障、平和構築、紛争予防といったキーワードを具体的事例を通して解説する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

国際機関や国際NGOの活動を通して、21世紀の国際社会が直面している諸課題について理解を深めてもらう。国連など、国際機関のホームページの利用法を知ってもらう。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	総論: グローバル・ガバナンスと国際公共利益	
3	総論: グローバル・ガバナンスの諸アクター	
4	国際社会の組織化と国連	
5	国連の財政問題	
6	国連安保理の課題	
7	国際PKOの課題	
8	小テスト	
9	開発への課題: UNDPと人間開発指数	
10	UNHABITATと人道支援	
11	紛争後の平和構築とUNHCR	
12	国際刑事裁判所と紛争予防	
13	時事問題	
14	総括	
15	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
日常点・その他	30 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

テキストは特に使用しない。

**参考書 / Reference Books**

適宜指示する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 島岡 哉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代社会はグローバル化社会であると当たり前のように言われている。では、グローバルとはそもそも何か。本講義ではまず、「グローバル」そのものの意味を理論的、歴史的に再考する。次に、メディアや日常生活世界の多様な事例研究を通して、グローバル化が進展する現代社会を分析する枠組みと概念を習得することを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

学問的目標: 常識的思考を相対化し、国際社会の視野から現代社会の諸現象を理論的に分析できる力をつける。ただし、いたずらに概念を振り回してものごとをとらえるのではなく、日常生活世界に軸足を置いた分析・考察ができる力を身につけることを目指す。

実践的目標: グローバル化社会で生きていくために持っておかなければならない市民的教養を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「グローバル」とは何か?	よみがえる「帝国」/さまよえる「帝国」
2	「グローバル」=「ユニバーサル」?	西洋中心主義批判の理論的展開、「中心」と「周縁」の解体
3	環境問題における「グローバル」とは?	グローバル/ローカル/グローカル/身体
4	ハイブリッド・モダニティ	「第1世界」、「第3世界」、「モダニティ」、「ハイブリディティ」
5	「ディアスポラ」の共同体	グローバリゼーション、移民社会、アイデンティティ、エスニシティ
6	「サバルタン」とは何か?	歴史、記憶、権力、語り、言説編成
7	英語帝国主義と格差社会	ネット帝国の現在、メディア教育、再生産
8	メディア・イベントとメディア・スペクタクル	オリンピック、ワールドカップ、ポスト・コロニアル、ネーション
9	国民文化、伝統文化とオリエンタリズム	ステレオタイプ、近代国民国家、他者性、カリカチュア
10	「文化的自画像」を描くこと	自己表象、他者表象、流用、対抗言説
11	情報戦争	プロパガンダからアルジャジーラTVの戦略まで
12	11 09 01 「あの日に捧げる11の祈り」	9・11テロ、映画、理解不可能性、表現の可能性
13	ハリウッドの覇権	アメリカナイゼーション、世界戦略、他者表象とステレオタイプ、自己規制、表現の自由
14	ツーリズムの現在	ヘリテージ・ツーリズム、マス・ツーリズム、博物館、コモレション、記憶、歴史、メディア戦略
15	「文化」の窮状 / 「カルチュラル・スタディーズ」の挑戦	ジェームズ・クリフォード、バーミンガム学派、カルチュラル・アイデンティティ、日常性、権力性

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

本講義は、事例と理論とを往還する形で行う。そのため、参考文献は入門書から専門書まで、すべて講義時に提示する。また、最低限、現在の世界地図と世界現勢の常識を把握しておかないと、どこの地域や人たちの話をしているのが全くわからなくなる。受講にあたっては、最低限の世界情勢の把握を求める。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で取り上げた概念を用いて日常的事例を分析する力がついているかをはかる。
日常点・その他	30 %	理解度を図るため、講義中にリアクション・ペーパーを書いてもらう日がある。

周囲に迷惑をかける私語・携帯電話について。目に余る受講者は、その時点で学籍番号を控え、即出席停止、不可とする措置を取る。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## ケアマネジメント論 S

15160

担当者名 / Instructor 三浦 ふたば

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

アメリカにおいて精神障害者を対象に始まったケアマネジメントは、要介護高齢者や障害者等に対する在宅支援の仕組みとして応用され、日本でも社会福祉基礎構造改革の政策動向のもとで着目され、2000年施行の介護保険法施行を契機に普及しつつある。本講では、まずケアマネジメントの概念を理解し、高齢者・障害者を中心に実践事例を通してケアマネジメントの具体的な展開方法と特徴を学ぶ。続いて、地域包括支援センターにおける介護予防ケアマネジメントや障害者ケアマネジメントの概要など、現代的な課題も含めて、日本の介護保険法下におけるケアマネジメントの現実と課題について論じる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

ケアマネジメントの概念について理解出来る  
 要介護高齢者・障害者の生活支援にケアマネジメントがどのように展開出来るのか理解出来る  
 介護保険法の下でケアマネジメントがどのように展開されているのか理解出来る  
 日本におけるケアマネジメントの特徴と課題について理解出来る

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

老人福祉論、障害者福祉論、社会福祉援助技術論を受講していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	講義の概要について、ケアマネジメントとは	
第2回目	ケアマネジメントの概要	ケアマネジメントの目的
第3回目	ケアマネジメントの概要	ケアマネジメントの構造
第4回目	ケアマネジメントの概要	ケアマネジメントの過程
第5回目	ケアマネジメントの概要	生活ニーズと資源
第6回目	ケアマネジメントの概要	地域ネットワーク
第7回目	介護保険制度とケアマネジメント ターと介護予防ケアマネジメント	地域包括支援センター
第8回目	介護保険制度とケアマネジメント 所と高齢者ケアマネジメント	居宅介護支援事業所
第9回目	在宅支援とケアマネジメント	事例を通して実践的な展開方法を学ぶ
第10回目	在宅支援とケアマネジメント	事例を通して実践的な展開方法を学ぶ
第11回目	在宅支援とケアマネジメント	事例を通して実践的な展開方法を学ぶ
第12回目	障害者ケアマネジメント	
第13回目	社会福祉施設におけるケアマネジメント	
第14回目	海外のケアマネジメント	
第15回目	ケアマネジメントの課題、まとめのレポート	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義の中で随時指示する

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	日本における介護保険法下でのケアマネジメントの課題に関するテーマ
日常点・その他	30 %	出席、質疑などを含めた講義への関心を考慮

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストや参考書の他、実践事例集などがたくさん出版されているので参考にしてほしい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケアマネジメント論	『新版・社会福祉学習双書編集委員会』編 / 全国社会福祉協議会出版部 / 4-7935-0788-3 /

## 参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
利用者のためのケアマネジメント	大野 勇夫 / あけび書房 / 4-87154-024-3 /
ケアマネジメント講座 ケアマネジメント概論	白澤 政和、橋本 泰子、竹内 孝仁、編 / 中央法規出版 / 4-8058-1913-8 /
ケアマネジメント講座 ケアマネジメントの実際と展開	同上 / 同上 / 4-8058-1914-6 /
ケアマネジメント講座 海外と日本のケアマネジメント	同上 / 同上 / 4-8058-1915-4 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

日本ケアマネジメント学会、日本ケアマネジャー協会のホームページ等を参考にできる

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

まず現実の経済を認識するための基礎タームである、GDP成長率、国際収支、財政(歳入・歳出)などを説明する。次いで、労使間の分配問題を知るために必要な労働分配率や損益分岐点などを説明する。この後は、日本経済の現状分析を行い、その際、日本の経済政策の特徴と問題点を述べる。そしてできれば、日本とは対極にある、スウェーデンの経済政策を紹介する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

経済理論の基礎タームを説明しながら、日本と北欧との経済システムの違いを明らかにしたい。そして、どのようにすれば、ワーク・ライフ・バランスを図りながら、豊かで安全な生活を実現するか、そのための経済政策はいかにあるべきかを一緒に考えたい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4 / 11	GDP成長率とは何か	GDP 国民所得 経済統計
4 / 18	損益分岐点からみた景気回復	損益分岐点 内需 外需
4 / 25	労働分配率からみた景気回復	労働分配率 利潤 賃金
5 / 2	労働分配率からみた景気回復 2	アメリカ 失業 不安定就労
5 / 9	ケインズの有効需要論	有効需要 非自発的失業
5 / 16	貯蓄率低下をどうみると	貯蓄 投資 流動性選好説
5 / 23	国際収支とは何か	為替 円高 円安
5 / 30	金融市場のカジノ化	金融自由化 先物取引 金融政策
6 / 6	財政の役割	歳入 歳出 財政政策
6 / 13	社会保障の役割	社会保険 社会扶助
6 / 20	北欧型社会 1	社会福祉 国際競争力 人口
6 / 27	北欧型社会 2	エンプロイアビリティ 積極的労働市場政策
7 / 4	合成の誤謬	合成の誤謬 1990年代以降の不況の深化
7 / 11	ワーク・ライフ・バランス論	ワーク・ライフ・バランス 豊かさとは何か
7 / 18	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
日常点・その他	20 %	小テスト。持ち込み可。あらかじめ予告して行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純 / 桜井書店 / ISBN4-921190-16-X /
日本経済を問う	伊東光晴 / 岩波書店 / ISBN4-00-024243-1 /
悪魔のサイクル	内橋克人 / 文藝春秋 / ISBN4-16-368480-8 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現在の都市像(都心にしろニュータウンにしろ)あるいは建築や芸術はいかにして生まれてきたのか、その姿が過去の(例えば中世の)都市や建築と著しく異なるのはなぜか...本講義では、都市や建築の形(建築様式や都市計画)の変容を、各時代の社会のあり方(政治の仕組みや担い手、経済構造、技術、芸術、思想、生活水準等々)の変化との関連のなかで読み解いていく。

最大の関心は、私たちの今と直結する近代の都市・建築芸術の誕生と近代国家・市民社会との関係であるが、それを理解するためには、それらを産み出したヨーロッパ都市における社会と芸術の関係を、歴史の文脈のなかでとらえておく必要がある。というわけで、本講義では、古代～中世から近代にかけてのヨーロッパ都市社会の発展とそれに伴う建築芸術の変容の流れを概観したうえで、「近代都市」「近代建築」が誕生する様子を学ぶ。

毎回スライドを多用して、都市・建築等を紹介する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・近代市民・近代国家を理解するうえでの「教養」としてのヨーロッパ都市史・文明史・建築史を学ぶ
- ・現代の地平から、「都市」「市民」概念を育んだヨーロッパ都市の変遷をたどることで、「現代」を考える
- ・ヨーロッパ旅行を10倍面白くする

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	都市・建築様式・技術
第2回	ヨーロッパ文明の基盤	ローマ・キリスト教・ビザンチン
第3回	都市の変遷と時代精神 その1	ヨーロッパ文明の危機とロマネスク
第4回	都市の変遷と時代精神 その2	都市の時代とゴシック(1)
第5回	都市の変遷と時代精神	都市の時代とゴシック(2)
第6回	人間中心の時代のはじまり その1	ルネサンス = 近代へと続く道
第7回	人間中心の時代のはじまり その2	マニエリスム
第8回	宗教改革と反宗教改革	バロック(1)
第9回	都市の凋落と国家の台頭	バロック・ロココ
第10回	近代国家の誕生	鉄とガラスの時代・中世主義・アーツ&クラフト
第11回	世紀末芸術と大衆芸術	アールヌーボー・アールデコ
第12回	都市の思想としてのソシアリズム(社会主義)	都市計画の曙・社会福祉とハウジング
第13回	輝く都市を目指して	様々な建築芸術運動とモダニズム・住宅は住むための機械である
第14回	輝く都市の光と影・新しいこころみ	我々はどこから来たのか・我々はなにか・我々はどこに行くのか
第15回	試験にかわるレポート	論題は後日提示(事務室の規定に準じる)

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

自分で予習・復習を行って西洋史について多少の知識は得ておくこと

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験にかわるレポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
日常点・その他	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

教科書は使わず、適宜レジュメを配布する

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代都市計画の起源	ベネヴォロ著・横山正訳 / 鹿島出版会(絶版) / /
他にも講義中、適宜紹介する	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 園府寺 司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

西洋美術史入門 西洋圏の美術・建築を中心に、その見方を習得するとともに、美術史学の基礎的な概念を学習する

## 到達目標 / Attainment Objectives

美術作品を視分け、評価する能力を身につけるとともに、視覚メディアや視覚文化全般に対する批判的な視点を養うこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ フェルメール 贋作者ハン・ファン・メーヘレン 美術作品の真贋鑑定	キーワード 真贋
第2回	テーマ ルネサンスとバロック 様式史としての美術史	キーワード 美術様式 ヴェルフリン
第3回	テーマ マニエリスム様式 時代様式の復権	キーワード マニエリスム
第4回	テーマ 絵画の修復 ミケランジェロ(システィナ礼拝堂 天井画)	キーワード 修復
第5回	テーマ ひまわりの図像学 イコノロジー(図像解釈学)	キーワード イコノロジー パノフスキー
第6回	テーマ ジョルジュ・ドラトゥール 忘れられた画家の 発見	キーワード バロック
第7回	テーマ ゴシック建築 荘厳な内部空間を演出する建築 構造	キーワード ステンドグラス
第8回	テーマ ファン・ゴッホのジャポニスム ユートビズムとし ての日本趣味	キーワード 日本趣味
第9回	テーマ 対比遠近法 ある手法の世界的伝播と生成、 変貌	キーワード 浮世絵、秋田蘭画 印象派
第10回	テーマ ファン・ゴッホ(鴉の群れ飛ぶ麦畑) 絶筆神話 と伝記映画	キーワード 伝記映画
第11回	テーマ ビート・モンドリアンの抽象絵画「幾何学的に 論証された倫理学」	キーワード 抽象絵画
第12回	テーマ 美術史とユダヤ 国家なき民族が芸術に託した 生命	キーワード ユダヤ
第13回	テーマ ヒトラーの退廃芸術政策 モダンアートとユダヤ 人を抹殺しようとした男	キーワード ナチス
第14回	テーマ 森村泰昌「美術史の娘」「女優家の仕事」	キーワード 現代美術
第15回	テーマ 予備日または試験	キーワード

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	美術館等への見学レポートのようなもの。現時点では詳細未定。
最終講義日試験	80 %	スライド使用による試験。美術の見方を習得しているかどうかを試す。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に出席し、画像を見て、「見方」を習得することが特に重要。

## 教科書 / Textbooks

なし

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本科目は、社会学方法論のなかでも特に、官庁統計やマクロデータの分析を中心に展開される。ツールとしてSPSS(統計解析ソフトウェア)を用いて多変量解析する。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くこと" - から、各受講生がいくつかの変数をもとに特定の社会指標を編成し、それを実習形式で統計解析する。

昨年度は、『アエラ』の記事(2006.9.28)からヒントを得て、「都道府県ランキング」の作成に取り組んだ。今年度は同じ解析手法で、「都市ランキング」の作成に取り組むことにする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

「社会指標」に関する論文・資料を理解したうえで、「都市ランキング」の作成に必要な社会指標に基づき、個別的に分析作業に取り組む。おのおのが作成した「都市ランキング」を最終授業3コマを使ってプレゼンテーションする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくこと。なぜなら、本科目ではSPSSの知識があるとの前提で実習が行われ、SPSSの理解と操作に関わる指導は行わない。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	多変量解析に用いる社会学方法論の用語、概念	
2	社会指標の考え方、事例紹介	
3	昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」の事例紹介(その1)	【ここまでで、受講生メーリングリストの完成】
4	昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」の事例紹介(その2)	
5	(1)人口50万以上の都市、(2)人口20万以上～49万以下の都市をリストアップ	各受講生の上記(1)か(2)の割り当て、および社会指標の選択
6	「都市ランキング」作成の分析作業(1)	データ作成のオンライン報告
7	「都市ランキング」作成の分析作業(2)	データ作成のオンライン報告
8	「都市ランキング」作成の分析作業(3)	データ作成のオンライン報告
9	「都市ランキング」作成の分析作業(4)	データ作成のオンライン報告
10	「都市ランキング」作成の分析作業(5)	プレゼンテーションの順位決め
11	「都市ランキング」作成の分析作業(6)	
12	「都市ランキング」作成の分析作業(7)	
13	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	
14	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	
15	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	都市ランキングの報告書作成、最終プレゼンテーション
日常点・その他	40 %	16指標のデータ入力および点検

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

授業だけの時間で、各自の節目、節目の分析作業を終えられない場合、授業日の昼休みにオープン利用できるようにするので、利用してほしい。

**教科書 / Textbooks**

「社会指標」などに関する必要な資料をプリント配布の予定、テキストは使用しない。SPSSのマニュアルは、各自見つけておくこと。

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」 受講生から許可を得られたのに限定 を開示予定。

**その他 / Others**

**授業の概要 / Course Outline**

本科目は、社会学方法論のなかでも特に、官庁統計やマクロデータの分析を中心に展開される。ツールとしてSPSS(統計解析ソフトウェア)を用いて多変量解析する。社会学方法論の視点 - つまり、"一本の木ではなく、全体の森のかたちを描くこと" - から、各受講生がいくつかの変数をもとに特定の社会指標を編成し、それを実習形式で統計解析する。

昨年度は、『アエラ』の記事(2006.9.28)からヒントを得て、「都道府県ランキング」の作成に取り組んだ。今年度は同じ解析手法で、「都市ランキング」の作成に取り組むことにする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

「社会指標」に関する論文・資料を理解したうえで、「都市ランキング」の作成に必要な社会指標に基づき、個別的に分析作業に取り組む。おのおのが作成した「都市ランキング」を最終授業3コマを使ってプレゼンテーションする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

1回生時に、「情報処理」(SPSS)を履修しておくこと。なぜなら、本科目ではSPSSの知識があるとの前提で実習が行われ、SPSSの理解と操作に関わる指導は行わない。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	多変量解析に用いる社会学方法論の用語、概念	
2	社会指標の考え方、事例紹介	
3	昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」の事例紹介(その1)	【ここまでで、受講生メーリングリストの完成】
4	昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」の事例紹介(その2)	
5	(1)人口50万以上の都市、(2)人口20万以上～49万以下の都市をリストアップ	各受講生の上記(1)か(2)の割り当て、および社会指標の選択
6	「都市ランキング」作成の分析作業(1)	データ作成のオンライン報告
7	「都市ランキング」作成の分析作業(2)	データ作成のオンライン報告
8	「都市ランキング」作成の分析作業(3)	データ作成のオンライン報告
9	「都市ランキング」作成の分析作業(4)	データ作成のオンライン報告
10	「都市ランキング」作成の分析作業(5)	プレゼンテーションの順位決め
11	「都市ランキング」作成の分析作業(6)	
12	「都市ランキング」作成の分析作業(7)	
13	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	
14	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	
15	各受講生による「都市ランキング」プレゼンテーション	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	「都市ランキング」の作成、およびプレゼンテーション
日常点・その他	40 %	分析作業、およびデータ作成のオンライン報告

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

必要な資料をプリント配布の予定、テキストは使用しない。

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

昨年度の受講生が作成した「都道府県ランキング」 受講生から許可を得られたのに限定 を開示予定。

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 久津内 一雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

言語コミュニケーション論テーマ

- (1)近代言語学 (= ソシユール言語学) がよりどころにしたものとはいったい何か? なぜ、このことが現代言語学だけに止まらず、現代思想の潮流に途方もない影響を与えることになったのか?
- (2)ことばはなぜ変化するのか? また、これと関わって国家語イデオロギーと言語規範とは、機能的にどういうことを意味するのか?
- (3)「母語」を同じくする「言語共同体」が「心理共同体」や「精神共同体」や「運命共同体」と呼ばれるのはなぜか?
- (4)なぜ、「純粋言語」というモデルは、歴史の事実を離れて頭の中のみ存在する架空の虚構でしかないのか?
- (5)言語とはいったい何か? 言語は本当にコミュニケーションの道具か?

以上のテーマを言語「ラング」の「恣意性」の観点 (= 「言語相対主義」の観点) から考えていく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

言語を巡る諸問題の整理・把握  
 近代言語学の祖ソシユールからチョムスキーから社会言語学に至る言語学史の整理・把握  
 言語学の文化論的・記号論的展開の整理・把握

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～第4回	近代言語学理論 ソシユール言語学	
第5回	近代言語学理論 ソシユール言語学からチョムスキー論 理言語学と社会言語学への系譜	
第6回～第8回	言語と社会・国家 言語相対論 / ビジン語とクレオール語 / 国家語イデオロギーと言語規範	
第9回～第11回	言語と文化・思想 クロード・レヴィ=ストロース / ロラン・バルト / ジャック・ラカン / ヴィットゲンシュタイン	
第12回～第13回	まとめ講義	
第14回	定期試験	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
定期試験として実施。論述問題1問。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

入門参考書ベスト3

橋爪大三郎著、『はじめての構造主義』(講談社現代新書898), 講談社, 1988年. ISBN4-06-148898-8  
 とまかくわかり易い。入門参考書としてはハイ・クオリティーである。著者の立場は、システム論的社会学。

田中克彦著、『言語学とは何か』(岩波新書303), 岩波書店, 1993年. ISBN4-00-430303-6

ソシユールの思想自体についてはもっとよい本があるが、20世紀的な言語 構造 の考え方の潮流を知るにはこれが一番だと思う。著者の立場は社会言語学なので、ソシユールの言語思想が、妙に神秘化されていないところがお勧めで、普遍文法、歴史言語学、変形生成文法などへの言及もある。

立川健二、山田広昭共著、『現代言語論 ソシユール・フロイト・ヴィットゲンシュタイン』(ワードマップ・シリーズ)新曜社, 1990年. ISBN4-7885-0372-7

この本の主題は、言語論 / 言語哲学である。構造主義と密接な関係にある、記号論 / 記号学の潮流を理解するにはよい本である。「哲学の言語論的展開」といわれる、ヴィットゲンシュタイン～言語行為論への潮流は、直接構造主義には関わってこないけれど、記号論 / 記号学を媒介にして観ると、同じ関心への別アプローチ、とも見える。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 瀧本 和成

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

&lt;近代作家は、結婚をどう描いたか&gt;

結婚は、いつの世、いつの時代に於いても人生で最も重要な出来事の1つである。それゆえにまた、最大の難しい問題を抱え込んでいるのも事実である。

本講義は、「近代作家は、結婚をどのように描いたか」をテーマに、恋愛と結婚を描いた様々な作品を取り上げ、その表現にも注目して、分析していきたい。結婚が単に個人的な男女観の心の問題というだけでなく、時代・社会や制度、あるいは共同体意識の変遷などを視野に入れて捉えていくことを目標とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「授業の概要」中に記している。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	近代社会に於ける 恋愛 と 結婚	
第2回目	近代社会に於ける 恋愛 と 結婚	
第3回目	政治の季節と結婚	
第4回目	坪内逍遙「細君」 高学歴夫婦の行方	
第5回目	坪内逍遙「細君」 その描写・表現をめぐって	
第6回目	樋口一葉「十三夜」 玉の輿の不幸	
第7回目	樋口一葉「十三夜」 その描写・表現をめぐって	
第8回目	純愛の季節とその後	
第9回目	泉鏡花「外科室」 映画鑑賞	
第10回目	泉鏡花「外科室」 その描写・表現をめぐって	
第11回目	徳富蘆花「不如帰」 結核に冒された新妻	
第12回目	徳富蘆花「不如帰」 その描写・表現をめぐって	
第13回目	現代(在)の結婚	
第14回目	村上春樹「ねじまき鳥クロニクル」 男と女の距離	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で取り上げる作品を読むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	試験(テキスト・ノート類持込可)によって評価。
日常点・その他	20 %	出席等平常点によって評価。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治の結婚小説』	上田博編 / おうふう / 4-273-03347-X / 2004・9刊

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編 / 晃洋書房 / 4-7710-1060-9 C3091 / 1998・11刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成編 / 晃洋書房 / 4-7710-1303-9 C3091 / 2001・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 現代家族論 S

12910

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解することができる。  
家族問題について考える際の社会的視点を獲得することが出来る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状－統計でみる家族の変容－	少子化・晩婚化・高齢化
3	現代家族の形成－1	近代・近代家族・国民国家
4	現代家族の形成－2	母性・性別分業・無償労働・親密圏
5	日本における近代家族の形成－1	日本国憲法24条
6	日本における近代家族の形成－2	労働者家族・生活様式・企業
7	現代家族の諸相－1	女性・ライフコース・ライフスタイル
8	現代家族の諸相－2	男性・雇用システム・ワークライフバランス
9	現代家族の諸相－3	若者・フリーター・格差社会
10	現代家族の諸相－4	子育て不安・専業主婦
11	現代家族の諸相－5	高齢者・ケア
12	家族政策の動向－1	日本型福祉社会・市場化
13	家族政策の動向－2	男女共同参画社会と家族
14	おわりに	家族のつくりかた

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義中に指示する参考文献、ウェブページ、資料などを積極的に活用し、学習を深めて欲しい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。
数回の小レポートを課す。出席状況とレポート内容を評価。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

取り上げる課題の追加や削除、時事的問題の挿入などのため、講義の速度・内容を若干変更する場合がある。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

参考文献は講義の進行に即して適宜指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義に有用なサイトを適宜紹介する。

## その他 / Others

私語・飲食等は厳に謹んで欲しい。

## 現代学校教育論 S

15332

担当者名 / Instructor 陰山 英男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

今日、日本の教育は混迷を極めている。そして、多くの人々はそれを心配し、さまざまな取組みがなされている。しかし、それにもかかわらず、その解決の方向が見つけられていないといえない。その理由はなぜか、そして確実な解決の方法はあるのか。これを考えたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

今日の教育の混迷の原因を理解し、これを解決していく具体的方向について見通しを持つ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 今の教育の混迷とはいったい何か。	キーワード いじめ、必修教科の未履修
第2回	テーマ 現行の指導要領の特色とその問題点	キーワード 個性尊重 新しい学力観
第3回	テーマ 「分数ができない大学生」を読む	キーワード 分数ができない大学生 学力低下問題 PISA調査
第4回	テーマ ゆとり教育の本質とその問題点	キーワード 校内暴力 つめこみ教育
第5回	テーマ 子どもを伸ばす食事とは何か レポート	キーワード 知能指数
第6回	テーマ 睡眠と教育との関係	キーワード 競争原理 鬱病
第7回	テーマ 山口小学校という学校	キーワード
第8回	テーマ 土堂小学校の実践と学校作り	キーワード
第9回	テーマ 音読指導と漢字指導その具体的指導方法	キーワード
第10回	テーマ 計算指導と算数指導、その具体的指導方法	キーワード 百ます計算
第11回	テーマ 社会や理科の指導のポイント	キーワード もの作り フィールドワーク
第12回	テーマ これからの教育とICT	キーワード 電子黒板 タブレットパソコン
第13回	テーマ 学校制度と学校作り	キーワード コミュニティ・スクール、パウチャ・制度
第14回	テーマ 総括討論「教育が今必要としているもの」	キーワード
第15回	テーマ テスト	キーワード

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	講義のポイントをしっかりと理解しているかどうか。
レポート試験	30 %	講義や日常のニュースなどから、現代の教育について何を感じ、考えているか。
最終講義日試験	50 %	講義の中で解説した、現代の学校の困難の実態と解決の方向性を理解しているかどうか。
日常点・その他	10 %	授業に対する構えや、教育に対する熱意の感じられる態度になっているかどうか。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業者は、教育再生会議委員や中央教育審議会委員などを務めている。その動向は、まさしく次の学校教育にかかわる。授業者について理解し、その上で審議の動向とともに、教育を考えてもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
学力の新しいルール	陰山英男 / 文藝春秋 / 4163674802 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
本当の学力をつける本	陰山英男 / 文藝春秋 / 4163583203 / 授業者の出世作。ゆとり教育の混迷を予期し、現実の解決の処方箋を作るべく奮闘した実践記録
学力をつける食事	廣瀬正義 / 文藝春秋 / 4167660539 / 授業者が、生活と学力を関連づけるために探して見つけた資料がこの本の中にある。
自分の脳を自分で育てる	川島隆太 / くもん出版 / 4774304484 / 今につながる脳のトレーニングを初めて提起した歴史的な本

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 櫻井 純理

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

近年、日本企業の多くが正規(典型)社員の長期雇用の見直しや成果主義の導入などを進める一方、非正規(非典型)社員の比率を増大させている。ホワイトカラー・エグゼンプションの導入やフリーター問題、少子化問題など、日本の経済・社会にとって重要な諸課題はこうした企業における雇用慣行の変化と切り離しては語れない。この授業では、日本企業における雇用慣行の変化に焦点を当てて、それが労働者と日本社会全体にどのような影響を及ぼしているのかについて検討する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

上述したテーマについて正確に理解し、自分自身の意見を持てるようにすること。また、今後社会に出ていく上で、自分自身の働き方についても指針をもてるようにすること。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特にないが、雇用問題に関心を持っていることを望む。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	様々な賃金制度と評価制度	
2	年功制と成果主義	
3	長期雇用慣行と「リストラ」問題	
4	企業内キャリア形成の類型	
5	キャリア・アンカーと雇用の多様化	
6	雇用の非正規化 派遣労働、請負労働、個人事業主	
7	雇用の非正規化 「パートタイム」の問題、間接差別、均等待遇	
8	若年労働問題 アルバイトと労働基準	
9	若年労働問題 フリーター、NEET	
10	長時間労働の問題と過労死、過労自殺	
11	ホワイトカラー・エグゼンプション	
12	経済の規制緩和と雇用の変化	
13	コーポレート・ガバナンスと雇用の変化	
14	講義内容のまとめ	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

必要に応じて適宜指示する。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容に関連した試験を実施する。
日常点・その他	20 %	授業時間中に意見・感想を記入してもらう。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

きまったテキストは使用しない。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
労働ダンピング	中野麻美 / 岩波書店 / / 近年の雇用の「多様化」の問題点を具体的に論じた書。
これ以上、働けますか？	森岡孝二ほか / 岩波書店 / / 岩波ブックレットNo.690、労働時間規制の撤廃問題を扱っている。
使い捨てられる若者たち	スチュアート・タノック / 岩波書店 / / アメリカのファストフード労働のルポ。読み物として面白い。
はたらく若者たち 1979～81	後藤正治 / 岩波書店 / / 世の中の様々な仕事に携わる人々の労働観が伝わるルポ。社会に出る前にぜひ読んでほしい一冊。

雇用の未来	ピーター・キャペリ / 日本経済新聞社 / / 1980年代以降のアメリカ企業の雇用に生じた変化を経営学者が分析したもの。日本の変化と重ね合わせて読むことで、さらに興味深い。
能力主義と企業社会	熊沢誠 / 岩波書店 / / 労働社会学の第一人者による日本型雇用の変化に関する分析の書。
ワーキング・プア	デイヴィッド・K・シプラ - / 岩波書店 / / アメリカにおける低賃金労働者の実態に関するルポ。
何がサラリーマンを駆りたてるのか	櫻井純理 / 学文社 / / キャリア形成の分析の授業で使用する。

その他の参考書、参考論文については授業中に適宜紹介するが、雑誌として「ビジネス・レーパー・トレンド」を参考にしてほしい。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

授業中に適宜紹介する。

**その他 / Others**

## 現代経済論 S § 現代経済論 I S

12968

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」と連結しておりその前半部分にあたる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに - 問題の所在	
2.	日本経済の概況	
3.	「高度成長」と企業社会の成立	
4.	企業社会と市民社会	
5.	市民社会の概念規定	
6.	大企業体制の2類型	
7.	貿易関係と資本の対外的展開	
8.	同上(2)	
9.	不良債権問題の経過と問題点	
10.	同上(2)	
11.	六大企業集団と法人資本主義	
12.	同上(2)	
13.	日本的経営について	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

松葉正文「現代日本経済論：市民社会と企業社会の間」晃洋書房。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 小野 秀生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化、情報化、サービス化の真直中にある。その土台となり、基軸七っているのが、諸般の産業活動である。本講義は、このように変化する現代社会の産業活動を、総合的かつ包括的に分析するために必要となる理論と方法を学習し、これをもとに現代産業の構造とその発展方向を解明する。とくに現代日本の産業活動の具体的内実注目し、ここに主眼をおいた分析を進める。

履修している学生に対して事前に説明があった上で、変更される場合があります。

## 授業外学習の指示 / Out of class assignment

関心のある業種、産業別情報を新聞切り抜きで収集すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

原則として、変更されることはありません。

## 種別

Kind 割合

Percentage 評価基準

Evaluation criteria

定期試験

Examination 100 % 基本的に試験結果により評価するが、受講状態の中で必要な方法を考えたい

レポート

Report 0 %

日常点

Continuous Assessment 0 %

その他

etc. 0 %

## 備考 / Note

受講生への学習に関するアドバイス / Educational advice for enrolled students

教科書 / Textbooks

書名

Title 著者

Author 出版社

Publisher ISBNコード

ISBN Code コメント

Comment

備考 / Note  
特に指定しない  
参考書 / Reference books  
書名  
Title 著者  
Author 出版社  
Publisher ISBNコード  
ISBN Code コメント  
Comment

備考 / Note  
講義中に都度紹介する  
参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course  
www.meti.go.jp/policy/trade-policy/ (「通商白書2005」)  
教員との連絡方法 / Contact  
http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct  
その他 / Others  
現代産業論 S  
現代産業論 I S 前期 前期 金5(9) 2 小野 秀生

### 到達目標 / Attainment Objectives

到達目標 / Focus and Goal  
将来自分が就きたい職業や職種、産業の課題を発見し、課題解決の内容や方法を調査研究でき、話し合ったり発表できる要素を身につけてもらいたい。  
原則として、変更されることはありません。

### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to  
都度、資料配布して講義をするので、欠席のないよう受講を求めたい。また、今日的な課題も扱うので、新聞の切抜きなど産業をめぐる独自の情報の収集を薦めたい。

### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
授業第1回	現代産業論の課題と構成	
第2回	資本主義の発展と生産概念の展開	社会的分業、経済主体、資本主義の生産活動、工場制
第3回	技術・資料と労働、労働編成と労働過程	産業革命、産業資本、機械と人間
第4回	資本 = 企業の蓄積と競争関係	資本蓄積、企業形態、独占と競争
第5回	社会的分業と産業構造	産業構造、産業組織、経済循環
第6回	産業関連とビッグビジネス	産業構造の高度化、独占・寡占とビッグビジネス
第7回	技術革新とプロダクト・サイクル	イノベーション、テクノロジー移転とギャップ
第8回	産業活動とポリシー・ミックス	比較生産費、マクロ経済・産業政策
第9回	日本の産業発展と蓄積モデル	産業発展の軌跡、加工貿易方式
第10回	現代産業の情報化とサービス化	情報化、サービス化、自由化、金属化
第11回	産業発展と資源・環境問題	成長の限界、持続可能な開発、共生・環境型産業
第12回	現代産業の国際的展開とWTO体制	地域開発、GATTからWTO、多国籍企業化
第13回	日本産業の国際化と東アジア経済	多国籍企業、アジアNIES、ASEAN、東アジア共同体
第14回	21世紀の産業展開・・・その理論と政策課題	産業「空洞化」、新産業創造、グローバリズムと反グローバリズム
第15回	定期試験	

### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

### 教科書 / Textbooks

### 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 伊藤 武夫

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

テーマ:現代日本の世界的な位置。現代はグローバル化の時代といわれる。多面的な異文化交流が繰り返される一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。

この講義では、そのような現代世界がどのように形成され、今日が人類史上のどのような位置にあるかを、近現代の歴史を振り返りつつ考えていきたいと思う。そのうえで、世界史の視点から、今日の日本の産業・労働環境、教育・福祉などをめぐる問題と今後の課題を検討したい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と日本の経済社会との重層的な構造的な関係を理解すること。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特に希望はない。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	資本主義世界システムの形成と展開	国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	第1次世界大戦前夜	後発資本主義国の発展 バックス・ブリタニカ 19世紀末の文化
第3回	第1次世界大戦の勃発と戦争の長期化	総力戦体制 日本の対応
第4回	終戦と新しい世界秩序	ヴェルサイユ体制とワシントン会議
第5回	1920年代のヨーロッパとアジア	フランスの外交努力 中東とインド 日本の大陸政策
第6回	世界恐慌の諸相	アメリカの恐慌 ファシズムの台頭 スターリン体制
第7回	ファシズムの台頭	ナチス・ドイツ、イタリア、スペイン
第8回	第2次世界大戦とその帰結	日本の総力戦
第9回	東西冷戦と戦後復興	国際連合 マーシャル・プラン 1955年体制
第10回	福祉国家の形成と展開	「五悪」との戦い 国民教育の向上 大衆社会
第11回	ラテンアメリカとアメリカ合衆国	移民社会 開発と国際協力
第12回	アジアの復活、そして日本	アジア諸地域の脱植民地主義、工業化
第13回	グローバル化と環境・福祉	世界市民 福祉・人権をめぐる国際機構
第14回	教育・文化をめぐる先進国と途上国	少子化 グローバル・メディア
第15回	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文章の完成問題(穴埋め問題)と記述問題の併用、回答は100点満点で採点。
レポート試験	20 %	4回ほどコミュニケーション・ペーパーを介した応答を実施

受講生数を見て、さらに具体的な評価方法を決めたい

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

この講義は、現代社会に生起している諸問題を考える視点や射程を私なりに紹介するものであり、その際、歴史学の方法で進めているにすぎない。講義で話題にしたことについて、それに関連する書籍・文献を独自に読み進め、理解を深める学習を切に希望する。

**教科書 / Textbooks**

毎回、レジュメにて、講義に関連する文献を紹介する。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イングランド社会史	エイザ・ブリッグズ / 筑摩書房 / 4-480-85758-3 / 通読することを薦める
概説 現代世界の歴史	ウィリアム・ウッドラフ / ミネルヴァ書房 / / 一度、通読されることを薦める
昭和史 全2巻	中村隆英 / 東洋経済新報社 / / 日本の戦後史の概説書

このほか、講義のなかで、適宜紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

最近では、歴史に関する用語やキーワードを、サーチ・エンジンに入力すれば、関連する用語解説が簡単に検索できるので、まずはどのような用語

でも良いから検索してみることである。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じていることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといえます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれませんが、しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか、またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会(他人)との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1)近代(市民)社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
- 2)現代(市民)社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
- 3)現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学  
社会倫理  
社会ガバナンス論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	近代市民社会の成立 - フランス革命	アンシャンレジーム、ブルジョア、革命
2回目	市民社会の原理 - フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
3回目	古典に見る社会像1 - ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
4回目	古典に見る社会像2 - スミスの描いた社会像	商業社会、利己心、同感の原理、正義
5回目	古典に見る社会像3 - マルクス	個人と私人、貨幣物神
6回目	小括・まとめ	
7回目	現代の市民社会論 - 復権する市民社会論	東欧革命、市場と民主主義、市民組織
8回目	ハーバマスと市民社会1 - ハーバマスの課題	システム世界、生活世界、植民地化
9回目	ハーバマスと市民社会2 - 市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義
9回目	パットナムと市民社会1 - ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
10回目	パットナムと市民社会2 - 社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
11回目	ハーストと市民社会1 - 社会の統治・ガバナンス	国家の市民社会化、社会ガバナンス、メタガバナンス
12回目	ハーストと市民社会2 - ラディカル民主主義	社会への参加、市民社会の公共化、グローバル化と市民社会
13回目	小括・まとめ	
14回目	ギデنزと市民社会 - 「第三の道」	アクティブ市民社会、社会包含
15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
日常点・その他	20 %	3~4回の出席をとり、それを点数に換算する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義中に適時参考文献を知らせるので、読んでおくことが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使わない。講義はレジュメが中心となる。  
なお、以下の参考文献を読むことが望ましい。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定 / 有斐閣 / /

『市民の政治学』 篠原一 / 岩波新書 / /

-----  
『相対化の時代』 坂本義和 / 岩波新書 / /

『公共性』 斎藤純一 / 岩波書店 / /

-----  
『孤独なボーリング』 バットナム(鹿内訳) / 柏書房 / /

-----  
『第三の道』 ギデンス(佐和訳) 日本経済新聞社。

なお、適時、講義中に参考文献を知らせることとする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

20世紀の科学 = 技術や医学の飛躍的進歩によって、人類は宇宙旅行を現実のものとしクローンを作り出すまでになった。だが同時に20世紀は"紛争と革命の世紀"でもあり、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など未解決の問題が山積しており、その意味で、人類は自然と社会を統治しえていない。政治学の観点から見ると、20世紀は「国民国家」の時代であるが、その国家が世紀末に至って"ゆらぎ"始めている。本講義では、分裂と統合との間を揺れ動く現代国家および世界政治の諸相と諸問題を把握するとともに、現代世界の構造と動態についての政治学的分析に必要な基礎概念や視点・方法を探る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・グローバル化の進み中で、国家や人々が解決を迫られている現代的諸問題を広く理解する。
- ・それらの解決のための方策を考える。
- ・現代世界を捉えるための理論的枠組みについて理解を深め、自らの社会的視座を形成するとこをめざす。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代政治論はグローバルな視点から現代世界の諸問題を考察しますので、各国政治を、より具体的に見ていくには、「比較政治論」もあわせて履修することを推奨します。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史認識と政治学の視点	現代という時代 20世紀から21世紀へ 科学技術・医学発展の世紀、戦争と革命の世紀 20世紀
第2回	政治学の方法と課題 とは何か	グローバル・プロブレマティーク 政治学、グローバル・プロブレマティーク
第3回	現代政治の諸相 国家、民族、紛争	「国民国家」の拡大と"ゆらぎ" 「相対化の時代」か 「国民国家」、「相対化の時代」
第4回	国家とは何か	国家
第5回	国家形成と国民形成	国家と国民
第6回	民族とは何か	民族
第7回	現代民族問題の概観(1) 人種、言語、宗教との関わりで	人種、言語、宗教
第8回	現代民族問題の概観(2) いくつかの事例を中心に	民族問題の現状
第9回	「国民国家」と民族問題の将来	国家と民族問題の展望
第10回	分析枠組	「世界システム論」の方法 世界システム論
第11回	「世界システム論」の意義と問題点	世界システム論
第12回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第13回	「国際社会学」の意義と問題点	国際社会学
第14回	グローバル・ガバナンスとグローバルデモクラシー	グローバル・ガバナンス、グローバルデモクラシー
第15回	まとめと展望: グローバルデモクラシーの可能性	「グローバリゼーション」の時代

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞やニュースに普段から接するように心がけることと、分からない言葉や問題があったときに、それを調べる癖を身につけること。そうした探求心や好奇心から、勉強することへの興味が湧いてきます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義で話した内容についての理解度・学習到達度を測る
レポート試験	20 %	講義内容あるいは特別講義に関するもの
日常点・その他	10 %	出席点を加味する * 定期試験として実施 成績評価 = 単位認定は、Semester終了時の論述試験を中心としますが、毎回出席を取ります。100点満点のうち、10点として総合点に参入します

テキストはとくに指定しないが、授業に際して参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

現代の世界的状況を理解するための参考書として、D. ヘルド編(中谷義和監訳)『グローバル化とはなにか』法律文化社、2002年10月刊を挙げておきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で紹介します。

その他 / Others

「私語」は、自らの学習権の放棄であると同時に、他者のそれへの侵害でもあるので、厳禁する。

## 現代メディア史 S

15329

担当者名 / Instructor 宮武 実知子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

インターネットやケータイが普及し、現代のメディア環境はわずか数年前と比べても大きく変化した。急激な変化は、しばしば人々に不安をもたらす。メディアを悪玉にした悲観論が唱えられるのは、そのせいである。しかし、現在ごく当たり前に流通しているメディアはすべて、それが出現したとき、驚くべきニューメディアであり、人間や社会を根底から変えてしまうと思われた。

この講義では、19世紀後半から現代までの歴史を、各種メディアに焦点を当てながら辿る。それらメディアの登場・発達・特色を理解しつつ、現代の我々の生活や価値観にどのような影響をもたらしたのかを考察したい。また、このようなメディアが研究の場でどのように捉えられてきたのか、基礎的な理論も紹介する。

現代のメディアについて、歴史的・文化的な背景とともに理解することで、現代社会や産業のあり方への深い洞察へと導ければと考えている。なお、授業期間内に1度、ゲストスピーカーを招くことも計画している。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・各種メディアの歴史や特色を理解し、説明できる。
- ・現代のメディアと社会について、論理的に考察して文章を綴れる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期の「現代とメディア」(この授業を受講していることを前提として授業を進める)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに メディアと社会の現在、そしてメディア史を学ぶ意味	
第2回	用語説明とメディア史概説	情報・メディア・マスコミ
第3回	メディアの影響力とは何か?	啓蒙・操作・消費・参加
第4回	メディア都市の成立	都市・公共圏・交通・象徴
第5回	出版資本主義と近代精神	書物・印刷技術・個人の誕生・教養
第6回	大衆新聞の成立	新聞・報道・民主主義・センセーショナルリズム
第7回	ゲストスピーカーの講演(予定)	
第8回	視覚人間の「国民化」	写真・無声映画・視覚・国民統合
第9回	宣伝のシステム化と動員のメディア	総力戦・宣伝・プロパガンダ
第10回	ラジオとファシスト的公共性	ラジオ・「場所感覚の喪失」・扇動的メディア
第11回	トーキー映画と総力戦体制	映画・大衆文化・総動員メディア
第12回	テレビによるシステム統合	テレビ・娯楽・「一億総白痴化」
第13回	情報の未来史	インターネット・「地球村」神話・web2.0
第14回	おわりに メディアと社会の現在、そしてメディア史を学ぶ意味	
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業の前に予習として、必ず教科書の各章を読んでくること。

参考文献等を授業時間内に適宜紹介するので、各自で活用することが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	80 %	授業内容の理解度を確認し、洞察力を試す筆記式の問題を出題する。知識の確認だけでなく、論理的文章力も評価の対象とする。
日常点・その他	20 %	授業期間中に数回、小レポートを課す。内容の理解と関心、および授業への参加姿勢を確かめるためである。原則として配点はしないが、著しく優れた者への加点をすることはある。なお、受講態度の悪さ、とりわけ私語は減点の対象となりうる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中の私語は断じて許さない。退室を命じる場合があるので、速やかに従うこと。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代メディア史	佐藤卓己 / 岩波書店 / ISBN4-00-026015-4 / 毎回の授業までに該当の章をあらかじめ

め読んできて、授業には必ず教科書を持参すること。

---

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title

メディア社会の歩き方 その歴史と仕組み

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

柳澤伸司 / 世界思想社 / ISBN4-7907-1057-2 / 前期の「現代とメディア」の教科書であるため、本書を読んでいるものと想定する。

その他、参考書・参考資料は、授業中に適宜指示する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### その他 / Others

担当者名 / Instructor 棚山 研

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、まず人間と社会にとつての余暇・自由時間の意義について説明し、次に近年の日本の余暇の全体的状況を概観・分析し、さらにグリーンツーリズムや「まちづくり」活動などの「新しい余暇活動」について解説していく。そして、そのような余暇活動がいかなる社会的背景を持った人々によって支えられているのか、また、そこから照らし出される現代社会の諸相について、あるいは余暇活動における人々の主体的実践がどのような社会的可能性を持っているのか、について解説する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

労働(あるいはカネ)だけではなく、余暇・自由時間もまた現代の人間と社会にとって、必要不可欠かつ固有の意義を持っていることを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「産業社会学」、「労働社会学」、「余暇・スポーツ史」、「スポーツ文化史」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義ガイダンス	
第2回	余暇論の概略・コンセプト 余暇の人間の意義について	肉体的疲労 精神的疲労 レクリエーション
第3回	古代・中世的余暇と近・現代的余暇 余暇を論じることの文化的・未来社会論的意義	スコレー、オティム、ハイカルチャー 消費文化 フォーディズム
第4回	現代日本の余暇活動(1) 労働時間問題を国際比較を中心に	年総労働時間 週休2日制 有給休暇
第5回	現代日本の余暇活動(2) 余暇活動の実態と余暇に関する意識	「カネか時間か」
第6回	現代日本の余暇活動(3) レジャー産業の動向から見る	「薄利多売」
第7回	日本における余暇政策の展開(1)	「36協定」「前川リポート」
第8回	日本における余暇政策の展開(2)	リゾート・ブーム グリーン・ツーリズム バカンス
第9回	現代日本の余暇活動(4) 「新しい余暇活動」のトレンド、「レジャー白書」より	「いやし」「自分への投資」「まじわり」「社会性余暇」「スロー」IT化 地域
第10回	「新しい余暇活動」について(1) グリーンツーリズムをめぐって	「いやし」「まじわり」「スロー」 農村 都会 農業 地域振興 産地交流
第11回	「新しい余暇活動」について(2) 「まちづくり」など「社会性余暇」を中心に	「社会性余暇」 ボランティア 公共事業 地域資源
第12回	「新しい余暇活動」について(3) - 「新しい余暇活動」と市民社会	「縁」 楽しみ 公共性 市民社会 市民権
第13回	「余暇社会」の可能性について考える - 情報化あるいは「格差社会」化との関わりで	想像力 ワークシェアリング 「格差社会」 社会的排除
第14回	まとめ	
第15回	定期試験に替える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

何よりも日本の余暇問題は労働時間問題である。授業では簡単に触れるに留めるが、他の授業などを通じて、労働時間についての基本的知識(国際比較など)を持っておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	「これが正解」というものを求める授業ではないので、試験もレポートに準じたものとして、余暇・自由時間についての考え方を問うものになる。
日常点・その他	0 %	「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける予定。発表した人には、原則として単位認定する予定。下記「その他」参照。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主として、データを掲載した資料・レジュメと、板書を使用した講義となる。特にデータの解説の要点は板書するが、詳細は口頭になるので注意すること。例年、受講生が多いので、やり取りはコミュニケーションペーパーを使う予定。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『余暇生活論』	一番ヶ瀬康子ほか / 有斐閣 / /
『自由時間』	内田弘 / 有斐閣 / /
『大真面目に休む国ドイツ』	福田直子 / 平凡社(新書) / /
『レジャー白書』2001、2003年版	社会経済生産性本部編 / / /
『働きすぎの時代』	森岡孝二 / 岩波書店(新書) / /
その他、適宜指示する。	

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介する。

#### その他 / Others

その他、学生参加の授業形態を予定している。授業中、希望者を募り「余暇に関する適当なテーマ」で個人発表の時間を設ける。発表した人には、原則として単位認定する予定。第1回目の授業で希望者を募り、報告日程を決める(日程は講義日日程後半に設定する)。詳しくは授業中に説明する。

担当者名 / Instructor 後藤 玲子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義では、公共政策の必要性とあり方について考察する。ここでいう公共政策には、ひとびとの間の資源のながれをもとにして、人が(それがたった一人の個人であっても)直面するさまざまな困難や困窮に対応する仕組みが広く含まれる。社会思想・哲学・経済学・法学・文学など異なる領域を自由にいききしながら、公共政策のベースにある考え方や心もちを探っていきたい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

普段、決まり文句にしがちな言葉(福祉や権利、正義など)について、自分の直面するさまざまな現実と照らし合わせながら、定義しなおす習慣をつけること。その際に、先人たちの思想や理論から豊かに学ぶこと。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	
2	社会科学の視角と死角	
3	市場の論理と倫理	
4	アメリカの社会福祉と日本の公的扶助	
5	小まとめ・討議	
6	貧困と不正義	
7	正義論(アリストテレス, ジョン・ロールズ)と現代	
8	ルソーの人間不平等起源論	
9	ルソーの社会契約論	
10	現代民主主義の諸相	
11	小まとめ・討議	
12	個人の自由と公共政策	
13	個人・コミュニティ・社会	
14	個人の権利と多文化集団	
15	<実質的自由>の実質的保障に向けて: 公共政策の展望	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

基礎知識はまったくないです。他の科目を受講する中で、ふと気にかかったものの、あえなく消えてしまいがちな疑問を、できるだけ授業にもちこんでください。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	自由討議の際に小レポートを3回ほど課す

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
正義の経済哲学: ロールズとセン	後藤玲子 / 東洋経済出版社 / /

ルソーやアリストテレスなどの原典については文庫本で入手しやすいです。授業中にプリント配布もします。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 広告論 S § 情報産業論 I S

12956

担当者名 / Instructor 小泉 秀昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」

本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営、社会・文化的機能、
3	広告産業とは特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析、ポジショニング、ターゲティング
6	広告戦略立案プロセス(ケーススタディ)	ツーカーのキャンペーン
7	表現戦略(1)TVCMの制作プロセスと表現の吟味ACC賞受賞作品の解説	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	表現戦略(2)タレント広告の役割とその功罪	情報源効果、意味移転効果
9	表現戦略(3)ケーススタディ	松下電器・きれいなおねえさんキャンペーン
10	メディア戦略(1)	メディアプランニング、GRP、CPM
11	メディア戦略(2)ケーススタディ	ブランドコンタクトポイント、アサヒビールケース
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、アディタスケース
13	セールスプロモーション	消費者プレゼントキャンペーン、イベント、
14	ネット広告・講義の総括	検索連動型広告、バイラル広告
15	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

配布のレジュメでの復習。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
日常点・その他	40 %	不定期に授業内で課題を課す

課題は7~8回は行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合もある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。

## 教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代広告論	岸志津江、田中洋、嶋村和恵 / 有斐閣 / 4-641-12082-X /
新しい広告	嶋村和恵監修 / 電通 / 4-88553-183-7 /
特になし	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京 : [http://www.admt.jp/parent\\_J.html](http://www.admt.jp/parent_J.html)  
全日本シーエム放送連盟 : <http://www.acc-cm.or.jp/>  
公共広告機構 : <http://www.ad-c.or.jp/>

その他 / Others

特になし

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

戦後、わが国は、公的扶助政策を中心に社会福祉制度が構築され、以降、社会福祉の分野が、公的扶助から分離・離脱するという課程を経て今日に至っている。近年の格差社会のなかで、新たな貧困問題が深刻な社会問題として注目を集め、現代的意義が問われているが、社会福祉全体の基礎構造改革・地方分権化で、公的扶助制度について「見直し」が進み、「法理念と現実のギャップが大きい制度」となっている。憲法25条[生存権、国の社会的使命]に規定する権利性の実現が果たしているかどうか、とりわけ「国民にとって最後の切りどころ」である生活保護制度のあり方などについて国際的、歴史的な見地から役割・機能、実施体制などを中心に講述する。また、社会福祉士の試験問題に対応するよう適時留意する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

貧困の概念について理解  
生活保護制度の仕組みと実施体制についての理解  
生活保護制度の動向を通しての歴史的役割の理解  
低所得対策についての理解  
生活保護における相談援助活動の問題点についての理解

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

社会福祉原論  
社会保障論

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション・現代の貧困問題についての問題提起	貧困問題としての格差社会の進行
第2回	貧困と公的扶助	貧困の概念と社会保障制度体系における公的扶助の位地と役割・機能
第3回	公的扶助の歴史的展開	イギリスにおける公的扶助の歴史的展開
第4回	公的扶助の歴史的展開	わが国における公的扶助の歴史的展開
第5回	生活保護制度の仕組み	制度の基本原則・原則
第6回	生活保護制度の仕組み	保護基準と種類
第7回	生活保護制度の仕組み	生活保護施設など
第8回	生活保護制度の実施体制と地方分権	福祉事務所の実施体制と社会福祉主事
第9回	生活保護制度と権利擁護	被保護者の権利と義務・訴訟問題
第10回	生活保護の動向分析	動向から社会の動きを分析
第11回	生活保護制度の相談援助活動	福祉事務所におけるソーシャルワークの実際(事例など)
第12回	生活保護制度の相談援助活動	福祉事務所におけるソーシャルワークの実際(スーパービジョンなど組織的な取組)
第13回	低所得対策の概要	各種手当制度・生活福祉資金貸付制度・ホームレス対策など
第14回	諸外国における公的扶助制度	イギリス・アメリカ・ドイツ・フランス・その他
第15回	公的扶助論のまとめ	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	小問題と論述問題
レポート試験	30 %	社会問題把握の視点から、授業中に課題の課題提起
日常点・その他	10 %	授業終了時のコミュニケーションペーパー記載内容から習得状況を確認

出席はとりません。(配慮願いの提出不要)

私語は厳しく指摘します。場合により退出を命じます。(学籍番号確認)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
臨床に必要な公的扶助	責任編集 伊藤秀一 / 弘文堂 / 4-335-61035-1 / 実践的な内容で纏められており最

新の「報告書」などが掲載されている。社会福祉士試験テキストとしても最適。

---

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
いのちくらし 生活保護Q&A	竹下義樹 / 高菅出版 / 4-901793-11-X / 具体的事例・判例
これが生活保護だ	尾藤廣喜・松崎喜良・吉永純 / 高菅出版 / 4-901793-10-1 / 実践的な取組事例
平成19年度版 保護のてびき	生活保護制度研究会 / 第一法規 / 4-474-02233-5 / コンパクトに生活保護制度が纏められている

---

図書や新聞記事などから日常的な貧困問題、社会問題を把握するようにしてほしい。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

厚生労働省ホームページ 社会保障審議会 福祉部会生活保護制度在り方に関する専門委員会

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 東 自由里

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

自分の受けてきた教育を相対化しながら分析するとともに、特定の文化的、社会的背景から生まれた教育思想の実践例を検証する。「学校教育」をめぐる問題群を社会、文化的コンテキストの中で学際的な視野でとらえなおす。大きくわけて三つのテーマをとりあげる: 1)教育・学校の位置づけ 2)コミュニティと教育施策(例:シュタイナーの芸術教育) 3)市場原理と公教育(例:アメリカのチャータースクール) 4)21世紀に向けての教育

## 到達目標 / Attainment Objectives

教育を通してどのような未来の社会を構想することができるのか。自分の視点を確立する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

レポートではなく、「アカデミックペーパー」(テーゼ、論点を絞ったペーパー)を要求しています。予め書き方を知っている人を対象にした授業です。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1) 学校の位置づけ ユネスコ憲章	この科目の授業の流れの説明、ペーパーのルールなど
2	「脱学校社会」 イヴァン・イリイチ	反生産性の法則、制度化への批判、価値観の商品化、
3	被抑圧者の教育学 パウロ・フレイレ	「沈黙の文化」、エンパワーメント、批判的意識、リテラシー *ペーパーのルール詳しい説明(重要)
4	NGO と教育援助 (ブラジル)	情報格差、貧富の格差 Non-Formal 教育
5	NGO と教育援助 (インド)	ストリート チルドレン
6	2) コミュニティと教育施策 リキウム	シュタイナー教育:カ 自由への教育 対 自由な教育
7	シュタイナー教育: 芸術教育	芸術的創造こそ教育
8	病院と福祉	シュタイナー教育: 自己教育、自己治癒
9	融機関	シュタイナーの思想と金 教育現場への政治的・経済的・社会的干渉の排除
10	3) 市場原理 と教育施策 東京品川区	「学校が変わる」 生徒、保護者の選択権、格差社会
11	カリフォルニア州のカリキュラム「生きる力」とジョン・デューイ	経験主義教育、子ども中心主義教育、プラグマティズム・ルネサンス
12	「市民が創る学校」米国チャータースクール	アカウンタビリティ、機会均等
13	4) 「競争しなくても世界一」フィンランド	共生社会
14	フィンランドの国家政策: 21世紀の教育に向けて	教員免許、生涯教育
15	大久保小学校 (新宿)	グローバル社会の中の公立学校、多文化、地域力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	授業中に提出するリアクションシート: A, B, C評価 (授業外では受け付けない)
アカデミックペーパーのテーマ、様式は予め、担当教員が設定していますので指示に従って書いて下さい(WebCTにも掲載)。課題のペーパーは締め切り日(授業日)、授業開始から20分以内のみ受け付けます。事情がある人は、事前に担当教員へ直接提出することが可能ですが、締め切り時間以降は、受け付けません。		
ペーパーの評価基準は、授業でも詳しく説明いたします。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

リアクションシートは出席点でなく、毎回、評価がつきます。この科目の単位取得には、リアクションシート最低9回は提出し、アカデミックペーパー二つB評価以上でなければならない。提出後、担当教員からのフィードバックを各人に送りますので、その方法についても授業及びWebCTで確

認すること。ペーパーの書き方、内容については授業(およびWebCTにも掲載)説明いたしますので、ルール(構成、枚数、ポイント数、余白、テーマ、など)に従って提出してください。その他のペーパーは評価対象になりません。平常点評価のため、最初から最後まで必ず参加できる学生を求めます。メールでのペーパーの提出は受け付けません。映像(ビデオ、パワーポイント)を多く使用しますのでレジュメなどの配布物に頼らず、自分でノートをとって下さい。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
義務教育を問い直す	藤田英典 / ちくま新書 / 4-480-06243-2 / パート3 必読
シュタイナー教育を考える	子安美智子 / 朝日文庫 / 4022604530 / パート2 必読
「競争しなくても世界一：フィンランド」	福田誠治 / 国民教育文化総合研究所 / 4-901927-26-4 / パート3 必読
「被抑圧者の教育学」	パウロ・フレイレ / / / パート1 必読
「脱学校の社会」	イヴァン・イリイチ / / / パート1 必読

大学生協でテキストを購入する前に、第一回の授業に必ず出席すること。担当教員による説明を聞いてから、自分はこのテーマのペーパーを書くかを決め、その後、関連する上記の書籍を購入してください。

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### その他 / Others

ペーパーの提出はいかなる事情でもメールでの受付はしません。

## 国際ジャーナリズム論 S

15355

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

- ・海外の報道機関・メディア産業の現状を理解する。
- ・日本の報道と海外の報道を比較し、優れている点や課題を考察する。
- ・表現の自由、ジャーナリズムの原則が国際化、インターネットの発達でどう変質したか理解する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし / カルチャーギャップ	異文化コミュニケーション・翻訳
第2回	ジャーナリズムとは何か	ニュース・表現の自由・民主主義・権力と監視
第3回	日本で外国のニュースはどのように伝えられているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第4回	権力とメディア	選挙・政治報道・メディアコントロール
第5回	戦争とメディア	ブール取材・「埋め込み」ジャーナリスト
第6回	表現の自由のない国で / 忘れ去られたニュース	報道の自由・取材の自由・ニュースバリューとサブスタンス
第7回	メディア・ビジネスとニュース	資本集中・FCC・多様性と民主主義
第8回	メディアの倫理と理想をいかに守るか	権力の監視・取材倫理
第9回	(ゲスト・スピーカーに講演と質疑)	
第10回	公共放送を考える	NHK・BBC・公共性・災害報道
第11回	日本は世界からどう見られているか その1	皇室報道・「コイズミ現象」
第12回	日本は世界からどうみられているか その2	「ジャパン・クール」、ジャパニメーション
第13回	ニュースの新しい形とプライバシーの問題	ブログ・サイバー社会・ウェブ2.0
第14回	インターネットと創造的な社会(まとめの議論)	著作権・アーキテクチャ・プライバシー
第15回	期末試験にかわる記述問題	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	テーマは追って指示します。
最終講義日試験	40 %	事実関係を正確に把握した上で、議論を展開できるかを見ます。
日常点・その他	30 %	テーマ別発表とクラス内のディスカッション。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・たくさんの文献(英語含む)を読んで、たくさん語り、書いてもらいます。
- ・新聞・テレビ・雑誌のニュースや情報に触れておいてください(それを前提に授業を進めます)。

## 教科書 / Textbooks

- ・クラス内で指示します。

## 参考書 / Reference Books

- ・クラス内で指示します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 深澤 敦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバル化が今後ますます進行すると思われていますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
- ・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
- ・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	)社会政策の基礎理論 (1)社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	(2)社会政策の同議論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	(3)社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	(4)社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	)国際社会政策の登場 (1)国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第6回	(2)国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第7回	(3)国際社会政策成立への途	ダニエル・ルグラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第8回	(4)国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第9回	(5)第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサイユ条約
第10回	)ILOの機能と日本 (1)ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第11回	(2)ILOと日本(その一)	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第12回	(3)ILOと日本(その二)	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第13回	IV)現代の国際社会政策 (1)EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第14回	(2)ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション
第15回	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容の評価

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

**教科書 / Textbooks**

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子著 / 東信堂 / / 2003年
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ワイトワース著・武者小路公秀(代表)監訳 / 藤原書店 / / 2000年
社会政策 国際化、高齢化、雇用の弾力化	石畑良太郎・牧野富夫編著 / ミネルヴァ書房 / / 1999年
ILOとジェンダー	戸塚悦朗著 / 日本評論社 / / 2006年

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

<http://www.ilo.org>  
<http://www.socialeurope.com>

**その他 / Others**

## 授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がますます進んでいます。世界の各国は其中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いままてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
- 2) グローバル化を進める多国籍企業について理解する
- 3) 人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
- 4) 開発途上国における貧困問題を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	グローバル化とはなにか - いつはじまり、その定義は	インターナショナル化、グローバル化、グローバリズム
2回目	経済のグローバル化 - その実態は?	貿易、対外投資、労働力の流動化
3回目	グローバル化をめぐる議論 - 3つの考え方	グローバル化論、グローバル懐疑論、変容論
4回目	多国籍企業 - グローバル化をすすめるもの	多国籍企業の定義、企業内貿易、国連グローバルコンパクト
5回目	グローバル化とリージョナル化 - EU統合	EU (東アジア共同体、NAFTA)
6回目	グローバル化のメインストリーム - それはアメリカ化か?	新自由主義、ワシントンコンセンサス
7回目	グローバル化と市民権(1) - EUにみる市民権問題	マーシャル、デニズンシップ、国籍、市民権
8回目	グローバル化と市民権(2) - 多文化共生と市民権	文化多様性政策、同化政策
9回目	グローバル化と市民権(3) 日本にみる市民権問題	参政権、公務就任権
10回目	小総まとめ	
11回目	グローバル化と開発途上国 - 貧困と格差	輸入代替、構造調整、経済開発
12回目	グローバル化と開発 - 社会・人間開発へ	UNDP、ミレニアウム目標
13回目	アマティア・センと人間開発	潜在能力、貧困
14回目	グローバル化と市民 - どのようなグローバル化なのか	世界社会フォーラム、国際NGO、アタック
15回目	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で示された参考文献などについては、読んでおくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
日常点・その他	20 %	3~4回、出席を取り、それを点数化する

出席表を出す際には、QRコードを使用するので常に持参すること

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞の国際欄を読むといい。

## 教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。特にテキストは指定しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳 / 法律文化社 / /
『人間開発報告』各年度版	UNDP / 国際協力出版会 / /
『ラテンアメリカは警告する』	内橋・佐野編 / 新評論 / /

『グローバル経済という怪物』

D. コーテン(西川訳) / 主プリンガー東京 / /

『ヨーロッパの市民権』

宮島喬 / 岩波新書 / /

講義中に適時上記以外にも知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

各国の子育ての状況を比較することとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。  
 公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。  
 講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそのような方法をとることによって、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

**到達目標 / Attainment Objectives**

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特にありません。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	
第2回目	日本の子育て	家族、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	両親休暇制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	保育園、短時間勤務、家庭内分業
第6回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの(1)	働き方、労働市場政策
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの(2)	性別役割分業、教育
第8?9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11?12回目	福祉国家の三類型	
第13?14回目	日本の家族政策の変遷	日本型福祉社会、育児支援政策
第15回	まとめ	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
日常点・その他	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。  
 日常点を加味することもあります。日常点はあくまでも補足資料として使います。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。  
 また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン / 桜井書店 / 4-921190-00-3 /
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン / ミネルヴァ書房 / 4-623-03323-6 /
講義中に適宜、紹介します。	

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

講義中に適宜、紹介します。

その他 / Others

## 国際福祉政策論 S § 国際福祉政策論 I

15312

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

・ニュージーランドの福祉政策

かつて南半球の福祉国家といわれたニュージーランドが、1980年代以降あらゆる場面において規制緩和を推し進め市場主義国家に変貌したが、どのような背景で福祉国家を解体したのか。また福祉政策が、市場主義国家になったことでどのように変化したのかを、1970年代から現在まで概観しその変遷を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会保障や福祉政策の研究対象は、ややもすると北欧やイギリスに偏りがちであるが、あえて「かつての福祉国家ニュージーランド」を選んだ。それは、ニュージーランドの規制緩和が、日本の橋本内閣以来の規制緩和の「模範」とされたからである。ニュージーランドの規制緩和、福祉政策を学ぶことで、日本の将来予測を試みたいと思う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、福祉政策論。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ニュージーランドの概要	位置、人口規模
第2回目	ニュージーランドの概要	政治、経済
第3回目	福祉国家から市場主義国家への変貌の背景	イギリスとの特恵的関係、Think Big Project、多額の債務
第4回目	労働党政権(1984年～1990年)による規制緩和・経済改革	ロジャー・ミック、GST(物品サービス税=わが国の消費税に相当)、郵政3事業の企業化
第5回目	国民党政権(1990年～1999年)による規制緩和・社会保障改革	雇用契約法、老齢年金、ACCの民営化
第6回目	労働党等連立政権(1999年以降)による改革の流れ	ACCの再国営化、雇用関係法、Kiwi Bank(国民銀行の設立)
第7回目	ニュージーランドの社会保障の仕組み	Ministry of Social Development、Ministry of Health
第8回目	ニュージーランドの社会保障の仕組み	保健セクターの仕組み、ACCの仕組み
第9回目	規制緩和が国民生活に与えた影響	貧富の格差拡大、ホームレス、選挙への関心の低下
第10回目	教育の市場かともたらした経済負担と若者の心への影響	Tomorrow School政策、教育の市場化、理事会の権限
第11回目	教育の市場かともたらした経済負担と若者の心への影響	学生ローン、Brain Drain(頭脳流出)、若者の荒廃
第12回目	郵政の企業化	サービスの低下
第13回目	福祉国家崩壊を招いた雇用契約法	雇用契約法、雇用関係法
第14回目	ニュージーランドの福祉国家への揺り戻しと、わが国への教訓	ニュージーランド航空への財政支援、国民銀行の設立

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

ニュージーランドに関する文献は少ないので、インターネット等で資料を検索し、情報を収集しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験は50点とする。
日常点・その他	50 %	欠席1回毎に、50点から3点をマイナスする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日本や北欧との比較を念頭に置き、福祉国家のあり方を探ってみること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

『新しい社会保障の設計』第9章を中心に講義を進める。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ニュージーランド政府 : [www.govt.nz](http://www.govt.nz)

その他 / Others

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

健康と医療に関するグローバルな動向と高所得国と中・低所得国それぞれの健康課題についての議論を検討する。  
国際保健医療という医師など医療従事者だけの分野かと思われるかもしれないが、実際にはプロジェクトの運営などに関わって多様な背景・専門性をもった人材が関わっている。その意味で、貧困、疾病、福祉などに関わる国際的諸問題に関心ある受講生に役立つ授業とする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

1. グローバルな健康問題の状況について、記述することができる。
2. グローバルな健康政策の展開について、記述することができる。
3. 医療制度についての理論を理解し、高所得国ないし低・中所得国での課題と動向を議論することができる。
4. 医療改革の動向について、高所得国ないし低・中所得国での課題と動向を議論することができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

国際福祉論, 国際社会論, 国際社会政策論, 国際ボランティア論, 地域保健論, 現代人とヘルスケア, などが, 内容をより立体的に理解する上で有用であろう。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	グローバルにみる健康と医療(授業の概要, 進め方, 情報源の紹介)	国際保健, グローバル健康政策, 国際協力, 医療システム, 医療改革, 世界保健機関(WHO), 世界銀行, 国連エイズ総会, ミレニアム目標
2 - 3	グローバルにみる健康状態 歴史的推移と現状	死亡率, 人口学的転換, 疫学的転換, 健康転換, パンデミック, 保健統計, 健康格差, 健康の公平
4 - 5	保健医療制度論 歴史的発展と分析枠組み	保健医療制度, 医療供給制度, 医療財政制度, 経路依存性, プライマリ・ケア, 病院, 市場と政府
6 - 7	保健医療制度の国際比較	国際比較の意義と限界, 制度の差, NHS, 社会保険, 公平と効率, 医療の質, 医療支出, 医療人員
8	中間総括	医療制度を考えるときのポイントは何か?
9 - 11	保健医療改革の動向 高所得国(イギリス, スウェーデン, 米国など)	保健医療改革, 改革の記述的比較, 疑似市場, 民営化, 無保険, 普遍的医療制度, 民間保険, マネージド・ケア, 利用者負担, 政策形成, 分権化
12 - 13	保健医療改革の動向 中・低所得国(シンガポール, 韓国, タイなど)	普遍的健康保険, 医療貯蓄口座, 民営化, 力量形成, 地域社会による財政, マイクロ・インシュアランス, 分権化, 医療貯蓄口座,
14	総括討議	今後の医療政策の方向として何をめざすべきか, そしてどのような手段で?

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

1. 本授業は国際インスティテュート学生を対象として設計されており、国際的な医療の動向に関心のある学習意欲の高い学生を歓迎する。
2. 重要文献を授業中に指示するので、自分で読んで理解を深めること。
3. 学習の理解を深めるのに、課題を着実にこなしていくこと。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	到達目標に照らして評価する。持ち込み不可。
日常点・その他	40 %	2回のミニレポート(1000字程度)と期末レポート(2000字程度)を課す。詳細は、授業中で述べる。

評価は定期試験を中心に行うが、授業中に提示する課題を確実にこなしていくことが獲得目標に到達するためには必要である。  
評価は、回生等とはまったく無関係に厳密に行うことを徹底しているので、留意されたい。出席はとらないが、確実に出席をして授業内容を確実に把握し、課題をこなしていないと(1冊ですむ日本語のテキストはなく、パワーポイントだけではポイントが分からないことが予想されるので)、C評価を得ることも難しい可能性が高い。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

授業はパワーポイントを使いながら行う。資料はウェブCTで配布するほか、教室でも可能な限り配布する(欠席して資料を入手できなかった場合は、ウェブCTをまずみる)。なお、著作権の関係で教室でしか配布できない資料もあるので注意されたい。また、原則として欠席した場合の資料は後日配布しないので、各自他の受講生に依頼するなどして入手すること。  
授業は基本的に教員のプレゼンと問題提起、受講生の討議ないしワーク、さらには事前に与えた課題をもとにグループ・ワークを行う。積極的な参加を望む。  
全体として広く浅くではなく、応用のきく基本的な事項を確実に理解することを主眼として授業を運営する。

**教科書 / Textbooks**

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
医療財源論：ヨーロッパの選択	エリアス・モシアロス [ほか] 編著 / 光生館 / /
An introduction to health : policy, planning and financing	Brian Abel-Smith / London : Longman / 058223865X /
国際保健医療学	日本国際保健医療学会編 / 杏林書院 / /
国際保健医療のお仕事：あなたもチャレンジしてみませんか	中村安秀編著 / 南山堂 / /
Comparative health policy	Robert H. Blank and Viola Burau / Basingstoke : Palgrave Macmillan / /

詳しい参照文献は別途指示します。最近の比較分析は、Health Affairs (<http://www.healthaffairs.org/>)にしばしば掲載されますが、残念ながらまだ立命館では利用できませんので、内容の紹介を可能な範囲でしていきます。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

教員のウェブを参照。

<http://plaza.umin.ac.jp/~ihpo/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

国際的には、WHO,UNAIDS,UNDP,EU,世界銀行,OECDなどの国際機関,各種の研究機関,NGOなど多数あります。

国内では、外務省,JICA,関係学会など,これも多数あります。

これらの詳細については、授業で紹介します。

**その他 / Others**

## 国際ボランティア論 S

12977

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に組み立てる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデートな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
- ・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
- ・国際協力NGOが現在、どのような立場に置かれているかの基本的問題や概念を理解する
- ・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「NPO・NGO論」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme 講義のガイダンス	キーワード / Key Word
	NGOの台頭とその社会的背景	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介 NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
	NGOの新たな戦略      マイクロクレジット	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
	NGOの新たな戦略      フェアトレード	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
	NGOを取り巻く環境      政府とのパートナーシップをめ ぐって	創造的緊張、協働、下請け化の危機
	NGOを取り巻く環境      国連とのパートナーシップをめ ぐって	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
	NGOを取り巻く環境      グローバリゼーションによる社 会構造の変化	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
	まとめ	振り返り

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	「持ち込み不可」です。
レポート試験	30 %	中間レポートを課します。与えられたテーマについて、レポートを提出し、教員はそれを評価します。
日常点・その他	20 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するので、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるため、留意してください。他の受講生の受講権の侵害、授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO      市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編(1998) / 明石書店 / /

への取り組み

---

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 子どもと教育の歴史 S

15331

担当者名 / Instructor 四方 利明

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

今日「教育問題」は、マスコミに報道されない日がないほどに、社会の大きな関心事となっている。また、そうした「教育問題」への対処として、「教育改革」が矢継ぎ早に提起され続けている。だが、はたして「教育問題」として語られているものは、本当にそのように「問題」であり、「教育改革」を必要とする「問題」なのであるか。本講義では、歴史的なアプローチによって、世間に流布されている「教育問題」「教育改革」という「常識」的な教育言説を相対化し、学校や教育を考える際に多様で確かな見方ができるようになることを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

歴史的な視点でもって、学校や教育について考えることができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	ことばと学校教育(1)	戦後教育改革
3	ことばと学校教育(2)	近代、国民国家、国語
4	学校建築史(1)	一斉教授、一望監視装置
5	学校建築史(2)	国民皆学、擬洋風校舎
6	学校建築史(3)	北側片廊下校舎
7	学校建築史(4)	オープンスペーススクール、複合施設
8	学校のモノの歴史と現在(1)	制服
9	学校のモノの歴史と現在(2)	教科書
10	学校のモノの歴史と現在(3)	給食
11	学校のモノの歴史と現在(4)	内申書
12	学校のモノの歴史と現在(5)	保健室
13	学校のモノの歴史と現在(6)	図書室
14	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

教育史の通史については、尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書等によって各自で年表を作成して学習し、大まかな流れをおさえておく、本講義の理解に役立つはずである。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験 100% 到達目標にのっとって、まとまったレポートが作成されているかどうか。

受講人数によっては、グループ研究発表を取り入れることを予定しており、取り入れる場合、授業中にグループ研究発表を行ったか否かによって、レポートの枚数や課題が大幅に変わるので、注意されたい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講人数によっては、グループ研究発表を取り入れることを予定しているので、受講生の主体的かつ積極的な参加を求める。

## 教科書 / Textbooks

なし。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新訂 教育の歴史	佐藤秀夫 / 放送大学教育振興会 / /
学校のモノ語り	教育解放研究会 / 東方出版 / /
学校ことはじめ事典	佐藤秀夫 / 小学館 / /
学校教育うらおもて事典	佐藤秀夫 / 小学館 / /
戦後公教育の成立	小山静子・菅井鳳展・山口和宏 / 世織書房 / /
日本の教育改革	尾崎ムゲン / 中央公論社 / /
教育の文化史	佐藤秀夫 / 阿吽社 / / 全4巻

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 子どもとメディア S

15354

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビや新聞・ラジオ・映画といった従来のメディアのほか、インターネットなどの新たな電子メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
- ・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 (授業の進め方)	
第2回目	子どものメディア環境(1) 子ども時代の変化	
第3回目	子どものメディア環境(2) 子どものメディア利用実態	
第4回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	
第5回目	メディアと暴力	
第6回目	メディアとジェンダー(1) 女の子らしさ	
第7回目	メディアとジェンダー(2) 男の子らしさ	
第8回目	消費者としての子ども(1) テレビ番組	
第9回目	消費者としての子ども(2) 広告	
第10回目	子どもの権利とメディア	
第11回目	デジタル時代の子ども: インターネットと子どものメディア発信	
第12回目	子どもにメディアを教える(1) メディア・リテラシーとは何か	
第13回目	子どもにメディアを教える(2) メディア・リテラシーの基本概念	
第14回目	子どもにメディアを教える(3) メディア・リテラシー教育の実践	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	選択式と記述式を併用。ノート持込不可。
日常点・その他	40 %	メディア分析のグループ活動、アンケート、小レポート

- ・日常点はただ授業に出席するだけでなく、メディア分析などのグループ活動への参加・貢献度合いが重視される。また、不定期に授業内でアンケートや小レポートなどの課題提出を求める。
- ・定期試験を受けるだけでは単位を取れないので、注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・講義だけでなく、子ども向けのメディアを分析するグループ活動を行うなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
- ・初回到授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
- ・遅刻は他の受講者の迷惑になるだけでなく、メディア分析などのグループ活動にも支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい。

## 教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメを配る。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達 - テレビ、テレビゲー	坂元章編 / 学文社 / 4762012629 /

ム、インターネット、そしてロボットの心理的影響

若者たちに何が起きているのか 中西新太郎 / 花伝社 / 4763404261 /

メディア・リテラシーへの招待 国立教育政策研究所編 / 東洋館出版社 / 4491019487 /

メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業 小学 児童言語研究会編 / 一光社 / 4752810514 /  
校編

その他、適宜授業中に紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

FCTメディア・リテラシー研究所 <http://www.mlpj.org/index.shtml>

The International Clearing House on Children, Youth, & Media <http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php>

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 重本 直利

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「コミュニケーション政策」という言葉は、1974年のユネスコ発行の小冊子(『コミュニケーション政策』)でのタイトルによって定着したとされ、マスコミあるいはマスメディアに関する諸政策を意味しています。この内容は、1980年代以降の急速な情報化、そして市場経済化(いわゆる「民営化」)の中で、「情報政策」という言葉で表わされるようになってきています。コミュニケーションは、人と人との間で情報が受容され理解される過程であり、時代の変化の中で、その過程の変化の内容を適確に捉え、それをいかに具体的にマネジメントしていくかを明らかにしていく必要があります。簡単に言えば、その具体的な過程とは「人と人の関係性の質」になります。21世紀における新たなに求められている関係性の質を明らかにし、それをどのようにマネジメントするかがこの授業の目的です。また、コミュニケーションの諸政策の対象の中で、特に重要なのは経済および企業分野です。この分野でのコミュニケーションの質がどのように変化しつつあるのかを明らかにしていきます。何故なら、日本社会は明らかに「企業中心社会」であり、コミュニケーション政策のもっとも核心的な対象は経済および企業分野での人間関係の質であると言え、この分野でのコミュニケーションの質の変化とその把握が最も大事であると言えます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 到達目標

「人と人との間で情報が受容され理解される過程」および「人と人の関係性」の今日的質を明らかにし、その過程と関係性を具体的にマネジメントできる基礎的能力の獲得を目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	コミュニケーション(人と人の関係性)の多元性	コミュニケーション概念、関係性の質
第2回	関係性の社会的多元性	マネジメント概念、経営概念
第3回	関係性の社会的多元性	資本主義的關係性
第4回	関係性の社会的多元性	協同、開かれた関係性
第5回	企業における社会的関係性	コンプライアンス政策
第6回	企業における社会的関係性	コーポレート・ガバナンス
第7回	企業における社会的関係性	職場内の人間関係性
第8回	「情報政策」とIT	IT(インフォメーション・テクノロジー)
第9回	「情報政策」とIT	情報共有、情報管理
第10回	多国籍企業の社会的関係性	ナイキ、多国籍企業、経営行動
第11回	多国籍企業の社会的関係性	国際連合、GC(グローバル・コンパクト)、企業行動規範
第12回	社会ビジネスにおける関係性	社会的企業、市民事業
第13回	NPO経営における新たな関係性	市民事業、ミッション
第14回	公共経営における関係性	公共性、法人と自然人、NPM
第15回	講義のまとめと最終講義日試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

特になし。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	知識修得度、理解度、論理性、独自性によって評価します。
レポート試験	20 %	主に 知識修得度、理解度によって評価します。2回実施します。
最終講義日試験	10 %	主に 理解度、論理性によって評価します。
日常点・その他	20 %	適宜配布します「質問・意見用紙」に記載してもらった質問・意見の内容で、主に講義の理解度と独自性を評価します。5回程度実施します。

積極的に講義に参加し、自らの疑問、意見等を、適宜配布します「質問・意見用紙」に記載してもらいます。  
この中から選んだ内容に対し、次の講義時間に応えていきます。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 書名 / Title

関係性と経営

## 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会経営学研究会編 / 晃洋書房 / 4 - 7710 - 1657 - 7 / 定価2800円(税別)

参考書 / Reference Books

特になし。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

## コミュニケーション理論Ⅰ § コミュニケーション論Ⅰ

12887

担当者名 / Instructor 池田 知加

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学(第2～5回目)と記号論(第6～9回目)からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向について社会学的に考察(第10～13回目)します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解を深める。
- ・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について社会学的に考察する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション	プロパガンダ
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション	テレビ 効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味	記号論 ソシユール シニフィアン シニフィエ
第7回	コミュニケーションの記号と意味	バルト デノテーション コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会
第9回	身体の記号論	文化産業 パノプティコン
第10回	メディアとコミュニケーション	CMC No sense of place
第11回	コミュニケーションと場所	場所の力 グローバル化
第12回	コミュニケーションと現代文化	異文化コミュニケーション
第13回	現代社会におけるコミュニケーションの動向	ポスト慣習社会 規範
第14回	講義のまとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	客観テスト60% 論述40%

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

基礎的な専門用語などについては、各自で社会学事典などを参考にして学習すること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『テキストとコンテキスト』	J.ハーバーマス / 晃洋書房 / 4771017511 /

教科書は使用しません。レジュメを使用します。参考書については適宜提示します。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『影響力の武器 なぜ、人は動かされるのか』	ロバート・B・チャルディーニ / 誠信書房 / 4414302692 /
『プロパガンダ 広告・政治宣伝のからくりを見抜く』	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン / 誠信書房 / 4414302854 /
『記号の知/メディアの知 日常生活批判のためのレッスン』	石田英敬 / 東京大学出版会 / 4130100947 /
『場所感の喪失 上 電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ / 新曜社 / 4788508699 /

『人生相談「ニッポン人の悩み」幸せはどこにある?』 池田知加 / 光文社新書 / 4334032968 /

---

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろうか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

前半 地域メディアを概観し、地域コミュニティとメディアの関係性を確認する。

後半 日本の放送史における地域メディアの存在を分析し、地域コミュニティとメディアの関係性を確認する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を理解できる。
3. メディアの存在を自明とせず、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目 (情報メディア学系用)

基礎社会学

メディア社会論

パブリックアクセス論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日 (第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日常生活とメディアの関係を問い直す	なぜ、地域メディアが存在するのか？
2	地域メディア概観	地域メディアとは、どのようなメディアか？
3	地域メディア研究と調査	地域メディアを巡る研究視点
4	地域メディアと災害1	災害とメディアの関係
5	地域メディアと災害2	災害時のマス・メディアと地域メディアの役割分担
6	地域メディアと地域コミュニケーション	伝達から媒介へ
7	地域メディアとNPO	非営利活動と地域メディアの関係
8	地域メディアとローカルアイデンティティ	地域意識とメディアの関係
9	日本の放送における地域メディア1	共同聴取という欲求 (戦前篇)
10	日本の放送における地域メディア2	共同聴取という欲求 (戦後篇)
11	日本の放送における地域メディア3	有線放送という地域放送メディア
12	日本の放送における地域メディア4	有線放送電話というハイブリッド地域メディア
13	日本の放送における地域メディア5	コミュニティFMという地域メディア
14	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	客観問題と論述問題を併用
レポート試験	20 %	中間レポートとして実施。未提出の場合は原則として成績評価対象にならない
日常点・その他	10 %	適宜コミュニケーションペーパーの提出を求める

授業開始後30分経過した時点で、レジュメ、資料等の配布を中止する。以降は、一切再配布を行わないので、遅刻をしないように注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****書名 / Title**

地域メディアを学ぶ人のために

「声」の有線メディア史

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

田村紀雄篇 / 世界思想社 / /

坂田謙司 / 世界思想社 / /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 参加のデザイン論 S § 市民参加論 S

15240

担当者名 / Instructor 乾 亨

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

世間では「参加」が大流行。もはや「参加」を思索・啓蒙する時代ではない。参加の意味と必要性(あるいは必然性)を踏まえながら、実践のなかで「参加」の状況をデザインする態度と力が求められている。本講義では、環境創造(まちづくり)活動における住民参加・住民主体の事例を紹介しつつ、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割などについて考えていく。あわせて、「参加型まちづくり」を展開するための手法についても学習する。時間及び講義規模が許せば、ワークショップによる参加型学習も行いたい。理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「参加」の「制度」論ではない。

## 到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創り出す(デザインする・マネジメントする)態度と技を学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずですが。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
第2回	「参加」の事例を見て考えよう...パート1	コーポラティブハウジング(住み手参加の住まいづくり) ユーコートの事例を見る
第3回	「参加」の事例を見て考えよう...パート2	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
第4回	ユーコートを通して「参加」を考える その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える
第5回	ユーコートを通して「参加」を考える その2	
第6回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その1	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
第7回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その2	
第8回	真野まちづくりを通して「参加」を考える その3	アクティブ参加とパッシブ参加(コミュニティのなかに居場所がある状況)
第9回	市民活動型まちづくりにおける「参加」	「私」からほとばしり出る「公」
第10回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その1	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
第11回	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり その2	
第12回	参加の手法を学ぶ その1	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例を学ぶ
第13回	参加の手法を学ぶ その2	ワークショップの進め方や考え方を学ぶ
第14回	まとめ	参加の哲学
第15回	レポート試験	論題は後日提示(事務室の規定に準ずる)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には提出された「試験にかわるレポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。
日常点・その他	20 %	適宜(数回/半期)、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第1週・第2週・第3週は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと。

## 教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



## 産業技術論 S § 産業技術論 I S

15224

担当者名 / Instructor 山口 歩

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに関与しているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スベックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

環境技術論を同時に履修していくことが望ましい(履修順序は問わない)

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもあります。そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション 技術発展と社会発展	技術発展 社会発展
第2回	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船 動力と制御
第3回	大型化の利得について	スケールメリット 表面効果と体積効果
第4回	産業革命論1 道具と機械	道具と機械 産業革命
第5回	産業革命論2 大量生産社会	大量生産
第6回	工作機械論	工作機械 汎用と専用
第7回	フォーディズム 流れ作業	コンベア流れ生産 大量生産
第8回	フォーディズム2 テーラーシステム	テーラーシステム
第9回	ポストフォーディズム	リーン生産方式
第10回	日本の生産様式	FMS JIT
第11回	ロボット論	ロボット Rキューブ
第12回	半導体工業論	半導体 IC
第13回	エレクトロニクス製品の現状 楽器の問題	PCM デジタル
第14回	全体まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義者の論理を正確に理解すること
なし		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものではありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

## 教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『技術と労働』	大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9 c0336 /
『アメリカンシステムから大』	D.A.ハウシェル / 名古屋大学出版会 / ISBN4-8158-0350-1 /

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます。



担当者名 / Instructor 木田 融男

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル(労働や生活をめぐる生き方)に焦点をしばり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、大きく企業社会から新自由主義社会への変容を軸としつつ、雇用(不況)、女性、若もの/子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

現代社会およびそこに生き/働く日本人の生活スタイルを、理論的/実態的にとらえることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目(現代と社会)、基礎社会学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1週 講義のオリエンテーション	産業社会学部	社会学
2週 本講義の産業社会学について	産業社会	産業社会学
3週 現代社会と生活スタイル1 現代社会論と日本社会の位置	企業社会	新自由主義社会
4週 現代社会と生活スタイル2 社会学理論と生活スタイル	生活空間 / 生活史	生活スタイル
5週 現代社会と生活スタイル3 社会学理論と生活スタイル2	本来的志向	手段的志向
6週 日本社会と生活スタイル1 日本人論、日本的集団主義論をめぐって	日本的集団主義	罪と恥
7週 日本社会と生活スタイル2 今までの生活スタイル: 私生活志向と企業社会志向	私生活志向	企業社会志向
8週 日本社会と生活スタイル3 両方志向(狭い私生活志向と企業社会志向)をめぐって	両方志向	
9週 日本社会と生活スタイル4 企業社会の病理とその変容	生活優先社会	会社人間
10週 日本社会と日本人の諸層1 働く人々の環境変容	年功制 / 成果主義賃求	階層化

11週 日本社会と日本人の諸層 2 女性の社会的進出	M字カーブ	母性神話
12週 日本社会と日本人の諸層3 若もの / 子どもの意識変容 付 フリーター / ニート現象	知と人間関係	ゆとり教育
13週 日本社会の変容と生活スタイル1 現代社会のこれから	第3の道	日本型新福祉社会
14週 日本社会の変容と生活スタイル 2 日本社会のこれからと新しい生活スタイル	新しい共同性(公共性)	自分たちの社会
15週 まとめ		

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

コメントを時には持って帰ってもらい、学んだ箇所の整理と認識、およびそれへの自らのコメントを考えてもらう。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	講義へのコメントをし、全体の成績によって評価に加味する場合がある

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント(コミュニケーション・ペーパー)を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

**教科書 / Textbooks**

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
浪江巖・木田融男・守屋貴司編『変容する企業と社会—現代日本の再編—』八千代出版	///
渡辺治『企業社会・日本はどこへ行くのか』教育史料出版会	///
佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の人間と社会』法律文化社	///
木田融男・佐々木嬉代三編『変貌する社会と文化』法律文化社	///

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

**その他 / Others**

## 産業デザイン論 S

12922

担当者名 / Instructor 要 真理子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

産業デザインを考察するうえで商業的な映像表現としてもっともポピュラーな映画を取り上げます。そして、この映画というメディアをフォーマリズムという視点から読み解いていきます。フォーマリズムは、一般的には、視覚造形作品に限定されたものの見方であるとされていますが、これを映画にも適用できることをみていながら、広く芸術一般を「ヴィジョン」と「デザイン」の観点から考察します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

フォーマリズムというものの見方を取得し、このフォーマリズムの観点から現代の視覚芸術に向けられる「ヴィジョン」とそこで実現されている「デザイン」を考察できるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

美術や映画に関する講義と合わせて履修すると理解がもっとも深まるでしょう。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス(デザインと映画の関係)	産業革命、芸術・デザイン、写真・シネマトグラフ
第2回	モダンデザインの展開	アカデミズムの傾向、ウィリアム・モリスとアーツ&クラフツ運動、ロジャー・フライとオメガ工房
第3回	様式論とフォーマリズム	芸術作品の内容と形式、造形的な統一性(デザイン)とヴィジョン、切り取られる空間と時間、映画作品の構成要素(フォトグラム、ショット、シーン、シーケンス)
第4回	映画理論(リアリズムとフォーマリズム)	映画の美術と音響、リアリズムという考え方とフォーマリズムという考え方、映画における二つの理論(長回しとモンタージュ)
第5回	映画の物語(物語と語り口)	物語を排除した映画作品、物語構造といくつかの仕掛け、語り口(制限された語り口と全知の語り口)、作品鑑賞
第6回	作者とは何か	一般的な作者論の紹介、映画における作家主義批評の役割
第7回	作家主義の批評	テーマの統一性、スタイルの統一性、作家主義批評の実践(ヒッチコック)
第8回	作品鑑賞	現実と虚構の関係、芸術における作者と創造性の関係
第9回	映画ジャンルの成立	芸術とジャンル(文学、音楽、絵画)、映画産業とジャンル、記述的アプローチと機能的アプローチ
第10回	メロドラマの記述と機能	メロドラマの歴史、メロドラマの記述と機能、三つのメロドラマのサブジャンル分析
第11回	ジャンル批評の問題点	第二次世界大戦後のアメリカと映画、フィルムノワール、SF映画、現代芸術におけるジャンルの交わり
第12回	批評の歴史	デイドロのサロン評、印象批評とフォーマリズム批評、美術ジャーナリズムの現在
第13回	批評の役割	メディアとしての作品、作り手と受け手のかかわり
第14回	評論の分析	4つの機能、4つの構成要素、評価
第15回	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業内で紹介する作品を実際に展覧会や映画館に足を運んだり、あるいはカタログやDVDなどで確認するなど、進んで作品鑑賞を行ってほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	各回で取り上げた基本問題や語句について理解できているかどうかを評価する。
日常点・その他	30 %	小テストや授業態度を参考にする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スライドとテキストを併用する。スライドで説明した作品については、そのデータをノートに書き留めておくこと。当然のことだが、私語・携帯メール等は慎んでほしい。場合によっては退室を求められることもある。

## 教科書 / Textbooks

**書名 / Title**

『フィルム・スタディーズ入門』

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

ウォーレン・バックランド / 晃洋書房 / / テキストとして常時使用

**参考書 / Reference Books**

**書名 / Title**

『ロジャー・フライの批評理論』

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

要真理子 / 東信堂 / 4887135890 / ヴィジョンとデザインについてより深く学びたい学生向け

-----  
その他の参考文献については、授業内で適宜紹介していく。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

**その他 / Others**

20分を超えての遅刻、途中退室は原則として不可とする。

## 自我論 S § 社会行動論II S

15173

担当者名 / Instructor 景井 充

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義では、社会学における日本社会論や「世間学」などを取り上げる予定である。そして考察におけるキーワードは“無力”である。我々の経験している独特な“無力”とはいかなるものか、それは日本社会のいかなる質的特性のゆえに、またいかなる構造的性質の中で、日々生み出されているのか、“無力”を抱える我々はなおいかなる方策を用いて生き延びようとしているのか、“無力”はいかなる帰結をもたらしているのか、“無力”からはいかにして脱出することができるのか、などについてさまざまに考えてみたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学の内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会としたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが、具体的にいかなるものかを知ることが獲得目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進行についてのイントロダクション、「予備コミュニケーション・ペーパー」(以下CPと記す)	
2	「予備コミュニケーション・ペーパー」へのレスポンス	
3	現代日本社会における“無力”とその構造の解体(1)	「文化」 “無力”と文化解体
4	現代日本社会における“無力”とその構造の解体(2)、CP	「文化」 “無力”と文化解体
5	CP へのレスポンス	
6	現代日本社会における“無力”とその構造とは何か	「世間」 “無力”と世間
7	現代日本社会における“無力”とその構造とは何か、CP	「世間」 “無力”と世間
8	CP へのレスポンス	
9	日本社会の負の構造 日本的権威主義的特質“タテ社会”(1)	“無力”と権威主義
10	日本社会の負の構造 日本的権威主義的特質“タテ社会”(2)、CP	“無力”と権威主義
11	CP へのレスポンス	
12	日本社会の負の構造 日本的権威主義社会における人間関係の様式“甘え”(1)	“無力”と相互依存
13	日本社会の負の構造 日本的権威主義社会における人間関係の様式“甘え”(2)、CP	“無力”と相互依存
14	CP へのレスポンス	
15	総括 “無力”の質と構造、脱出の方途は？	脱“無力”

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	講義の内容を踏まえた上での、論理的な内容構成力と説得力を問う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしからう。

## 教科書 / Textbooks

教科書として特定の著作を使うことはない。講義で使うテキストは、講義の展開に応じつつこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。紹介する諸著作の中から、各自にとって意義ありと思われるものを読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 質的調査論 S § 質的調査論 S

15303

担当者名 / Instructor 齋藤 真緒

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する(グループ調査および個人調査)ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの上を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等(情報処理、計量社会学)を受講しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	プロローグ - 質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学	生の「固有性」 相互作用 役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学	実証主義 グラウンデッド・セオリー 対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学	カテゴリー化 ドミナント・ストーリー オルタナティブ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ	
第11回	ケーススタディ	
第12回	インタビュー調査報告会	
第13回	インタビュー調査報告会	
第14回	エピローグ - 質的調査のススメ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
日常点・その他	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学 - 質的調査のセンス	好井裕明 / 光文社新書 / 9784334033439 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本授業では、児童期および青年期における発達の特徴について講述するとともに、そうした発達の特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには、認知発達の側面と対人関係的・感情的側面の両面から、発達の特徴について考察するとともに、統合的な観点としての人格発達についても触れたい。児童期における発達にかかわっては、特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てたい。また、青年期における発達にかかわっては、独立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに、特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて、発達障害に触れるとともに、児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

児童期・青年期の生活や発達の特徴に関心を深めるとともに、それらを捉える視点を獲得すること。  
 児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。  
 児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに、発達を捉えるための理論について知ること。  
 これら3点を基礎に、発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

乳幼児心理学 S  
 認知発達論 S

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	児童期・青年期の発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ	生涯発達, 発達段階, 歴史の中の児童・青年
第2回	幼児期から児童期への移行	リテラシー, 幼児教育, 学校教育
第3回	児童期前期の発達の特徴	学校適応, 具体的操作期
第4回	児童期後期の発達の特徴	集団生活, ギャング・エイジ
第5回	思春期とは何か	性的成熟, アドレッセント・スパート, ジェンダー, 形式的操作期
第6回	青年期の発達の特徴	自己理解, アイデンティティ
第7回	児童・青年における認知の発達	思考の発達, ピアジェ, 9~10歳の発達の節, 社会認識
第8回	家族の中の児童・青年	家族関係, 親の機能, 依存と自立
第9回	学校の中の児童・青年	授業, 学力, 学校知, 進路選択
第10回	就職と労働	職業選択, キャリア・発達, 日本社会の産業構造
第11回	青年期と非行	薬物乱用, 性非行, 精神疾患, 人権
第12回	不登校と引きこもり	不登校, 引きこもり, 精神疾患, 社会的不適応
第13回	現代の児童・青年の生活と人格発達	依存, 自立, 個性, 生活時間, 生活空間, 文化
第14回	児童・青年を理解する方法	行動観察, 質問紙, 面接, 状況の理解, 関係の中での理解, 権利主体
定期試験	筆記試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	試験問題で提示した資料を読み取り、分析し、考察する力を問う。
日常点・その他	10 %	講義中や講義後の質問、意見表明など、積極的アピールを評価。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会(編) / 青木書店 / 978-4250990090 / 問題意識を広げるために
教育の段階	M.ドベス / 岩波書店 / 4-00-000383-6 / 発達の流れを大まかに捉えるために

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**



担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特になし。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題(子育て支援・保育)	
8	分野別の課題(健全育成)	
9	分野別の課題(自立支援)	
10	分野別の課題(児童虐待)	
11	分野別の課題(非行)	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	20 %	講義中に2回以上指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
日常点・その他	20 %	コミュニケーションカードを求める。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

社会福祉発達史から、具体的な援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子ども家庭福祉論	高橋重宏・オ村純編著 / 建帛社 / 4-7679-3304-8 / 必ず必要である。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野 / 信山社 / /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html>  
(厚労省子ども子育て支援)



## 司法福祉論 S

15164

担当者名 / Instructor 野田 正人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになってきている。本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

## 到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解すると同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム	
4	司法に関わる福祉課題(夫婦)	
5	司法に関わる福祉課題(親子)	
6	司法に関わる福祉課題(虐待)	
7	司法に関わる福祉課題(地域福祉権利擁護事業と成年後見)	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後とまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的象徴(事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど)に関心を向けてください。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
日常点・その他	40 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる司法福祉	村尾・廣井 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04000-3 /
少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。	

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省 / / /

司法統計年報

最高裁 / / /

家庭裁判月報

最高裁家庭局 / / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## ジャーナリズム論 S

12970

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、主として日本におけるジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、時事的・実的な問題を取り上げながら多面的に考察する。主に、日本のジャーナリズム活動の歴史を踏まえながら、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現代的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について / 総論・ジャーナリズムとは何か	マス・コミュニケーション、ジャーナリズム
第2回	言論表現の自由～歴史的視点(1)批判すること	黒岩淡香、宮武外骨
第3回	言論表現の自由～歴史的視点(2)言論の力と権力	白虹事件
第4回	言論表現の自由～歴史的視点(3)言いたいことと言わねばならないこと	菊竹六鼓、桐生悠々
第5回	報道することの難しさ	皇室報道
第6回	報道システムの構造的問題～権力を監視する意味	記者クラブ制度の功罪
第7回	報道システムの構造的問題～国家秘密と知る権利(1)告発	知る権利、沖縄返還密約事件
第8回	記者の倫理と企業の論理～国家秘密と知る権利(2)メディアの敗北	スクープ、記者の倫理、情報公開
第9回	戦争・平和とジャーナリズム～(1)戦争報道から何を学ぶか	宣伝、情報操作
第10回	戦争・平和とジャーナリズム～(2)メディアは何を伝えるか	映像のリアリティ
第11回	戦争・平和とジャーナリズム～(3)ジャーナリズムの可能性	
第12回	取材と報道のバランス～取材のプロセス	実名・匿名問題
第13回	メディアが作り出す報道被害～報道と人権の狭間で	犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き	ジャーナリストという職能
第15回	まとめの議論	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触すること。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介するが、関連する文献を読み、問題意識を深めること。なお、ジャーナリズム論は現代史と深く関わっているので、近現代史の知識を増やすよう努力すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終的に授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにオンライン(メール)提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
日常点・その他	40 %	授業中に出す課題レポート(数回)のオンライン提出。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価。

レポートはメール(オンライン)での提出となるので、ワード貼付などパソコンスキルを身につけておいてほしい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、覚えなければならない知識を獲得するというよりも、問題意識を啓発することに主眼を置くので、そこから生じるさまざまな問題意識に対して自分なりに深めることが重要である。問題意識を啓発するためのビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していく。なお、時事的な問題を扱うこともあるので本シラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示のみに代替されることがある。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。また、配布物等は授業時教室以外では配布しない。

**教科書 / Textbooks**

使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

**参考書 / Reference Books****書名 / Title**

キーワードで読み解く現代のジャーナリズム

**出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

JCJジャーナリズム研究会編 / 大月書店 / 4272330454 / 日本のジャーナリズムについて俯瞰し、ジャーナリズムをめぐる状況を総体的に把握することができる。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

-----  
必要に応じて紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 清 真人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代の日本の青年は社会にその積極的形成者として能動的にアンガージュマン(参与)することにきわめて強い懐疑と無力感をもっている。これは諸外国と比べても異常ともいえる無力感である。この事態をどう考えるかという問題を、「社会」意識と「私」意識とを適切に媒介する社会関与の「中間団体」的場の衰弱という点に的を絞り、西欧社会思想の伝統とも突き合わせながら考える。

この問題視点は、さらに「社会文化運動」の視点によって補完され強化される。今日のコミュニケーション関係の問題性を「私」意識の極度の孤立化形態の問題とつなげ、それに文化運動的に対抗する視点として「小さいけれど、別な空間のコミュニケーション的創出」という文化運動的課題を提起する。

なお話をたんに理論的議論の枠内にとどめず、現実に関心されているさまざまな実践を具体的に紹介しながら、問題を考えることにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「社会」概念をめぐる社会科学的思考の伝統のアウトラインを基礎知識として身につけると同時に、それを今日の自分自身に適應して、今日の「社会」創造の生きた営みへの視点を獲得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カフカの不安の構造と現代日本社会の社会意識	キーワード カフカの不安 不可視化される全体社会権力と孤立化された個人
第2回	「いじめ」のトラウマが社会意識のあり方へ及ぼす問題	キーワード 「いじめ」、「仲間」関係性の疎外形態と暴力
第3回	ルソーの問題提起とシェラーの「差異価値」批判の論理	ルソーの「自己疎外論」のアクチュアリティと競争主義的心理構造
第4回	テーマ 和辻哲郎の受けたショックと発見と思索 「社会」をめぐる日本的伝統意識の問題性	キーワード 和辻哲郎 「風土」「家」社会と「内と外」の論理 西欧的個人と市民的公共性
第5回	テーマ 阿部謹也の「世間」論からの問題提起	キーワード 阿部謹也 「世間」概念 「中間団体」論
第6回	テーマ ルース・ベネディクトの「菊と刀」の日本人論と「世間」の問題	キーワード ルース・ベネディクト 「菊と刀」 世間と恥の意識
第7回	チャップリン「モダンタイムズ」「独裁者」からの問題提起	キーワード チャップリン モダンタイムズ
第8回	「小さいけれど、別な空間」のコミュニケーション的創出という問題提起	キーワード 社会文化運動、転回点としての68年、「新しい社会運動」、アイデンティティ問題と複数主義
第9回	テーマ 「社会文化運動」の視点1 エーリッヒ・フロムの「社会心理学」の視点	キーワード 社会の内面化としての自我、「市場的構え」の問題性、新しいアイデンティティ意識
第10回	テーマ 「社会文化運動」の視点2 街とコミュニティ・カフェ	キーワード 「場」とコミュニケーション、ハーバーマス、公共圏とコミュニケーション、媒体としての芸術・文学・演劇
第11回	テーマ 「社会文化運動」の視点3 街と情報(南野佳代子さんの試み)	キーワード 「街を耕すこととしてのコミュニティ・ペーパー」
第12回	テーマ「社会文化運動」の視点4 街と在日外国人	キーワード 多文化共生とグローバリゼーション、生野の歴史、在日の歴史、複数主義的アイデンティティ
第13回	テーマ まとめ1	キーワード
第14回	テーマ まとめ2	キーワード
第15回	テーマ 試験(レポート)	キーワード

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

自分の住む町や郷里での草の根の市民からの新しい街づくりの試みを発見し、その実際を知り、考察すること

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
レポート試験	30 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業を他の授業と自分の頭のなかで関連付け、「社会」に関する自分の基礎知識と関心とを(断片的に散在している状態)から(有機的に繋がった総合的となっていく状態)へと高めること

## 教科書 / Textbooks

**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『経験の危機を生きる 小さいけれど、別な空間の創出』 清 真人 / 青木書店 / /

教科書は、(1)授業中に適宜配るプリントと(2)『経験の危機を生きる 小さいけれど、別な空間の創出』、清真人、青木書店、(9月末出版予定)との二本立てからなる。

後者は、今日の「社会」の危機を、人間的な生を支え導く意識の形成の土台となる基礎的な「経験」の危機という視点から照らし出そうとしたものであり、またその点で「社会文化運動」の視点の基礎となる考え方を示したのもでもあり、本授業での問題考察をより内面的な視点から支え補完するものである。この点で、授業中に関連箇所が適宜指示され、「社会」と「意識」とをたえまなく関連付ける本授業の進行を「意識」の側から支える役割を果たす。

**参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 社会階層論 S § 労働問題I S

15194

担当者名 / Instructor 中川 輝彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層(社会階層)」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて(日本)社会を論じることができるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層(格差)を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3回目	階層および階層論の現状(概説)	階層、階級、社会移動
4～8回目	教育と社会階層	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9～10回目	ジェンダーと階層	ジェンダー、感情労働
11～12回目	家族と階層	地位の世帯共同性、近代家族、個人化
13～15回目	福祉国家と階層	福祉国家、社会保障、総力戦体制、グローバリゼーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	試験では概念・論理が理解できているか否かを評価します。この場合「理解できている」ことの必要条件は、概念・論理を平易な言葉で(例えば予備知識のない高校生にもわかるような言葉で)解説できることです。したがって「ジャーゴン」を説明なしに並べているような答えは評価しません(「努力点」もありません)。

試験は「持ち込み不可」です。ご注意ください。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

## 教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

## 参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会学講読 S § 社会学講読I S

12988

担当者名 / Instructor 佐々木 嬉代三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会学の基礎的な知識を修得することを目的とするが、購読という科目の性格を考えて、参加する学生個々人にテキストの分担報告を行ってもらうことになるであろう。ただし、参加する学生数に応じて、授業運営の方法を具体的に考えたい。購読テキストは参加学生が2回生以上ということとを考慮して、平易だが内容豊かなものを選んだつもりである。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎的な知識を修得すること、あるいは、社会学的な思考の仕方を身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員の自己紹介(専門分野の紹介)、授業の進め方に関する相談	社会学、社会問題、社会病理
第2回	社会学的パースペクティブについて	「社会と個人」問題、「脱」常識
第3回	合理性の非合理的基礎	社会類型の変化、機械的連帯と有機的連帯、社会秩序
第4回	合理性の非合理的基礎-2	フリーライダー問題、連帯の感情
第5回	神の社会学	宗教、象徴、儀礼
第6回	神の社会学-2	人格崇拜、相互作用儀礼
第7回	権力の逆説	カリスマ、官僚制
第8回	権力の逆説-2	自明性の支配、不確実性の力
第9回	犯罪の常態性	正常と異常、社会秩序と犯罪
第10回	犯罪の常態性	ラベリング、意味付与、犯罪の創出
第11回	愛と所有	家族の運命、運命としての家族
第12回	愛と所有	現代家族の病理
第13回	現代社会の捉え方	消費社会、格差社会
第14回	現代の問題と病理	自殺、犯罪
第15回	レポート試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	70 %	レポート試験とする。
日常点・その他	30 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脱常識の社会学	ランドル・コリンズ著、井上俊・磯部卓三訳 / 岩波書店 / 4-00-001275-4 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心ももって理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想(史)や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないでプリントや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景; 16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想; 近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 1 ホッブス、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想; 近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論; 2 アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味; 資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻(19世紀問題)とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1; コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(1)	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2; 資本主義の矛盾とマルクス(2)	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1; ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケーム(1)	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2; デュルケーム(2)	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(1)	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(2)	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果; 19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3; M.ヴェーバー(3)	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学; シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立; パーソنز社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション的合理性

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

講義は、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧める。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと、自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。
-----		
試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。

新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書

同『社会学の歩み パート2』有斐閣新書

那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書

浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣

また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと、自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

**教科書 / Textbooks**

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

**参考書 / Reference Books**

参考書は、「講義ノート」に詳しく載っています。その他、普段使用した方がいい参考書は、上のアドバイスの欄にかいておきました。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

特に指定しません。

**その他 / Others**

特になし

## 社会学理論 S § 社会学理論I S

15199

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会生活を理解するのに有効な社会学理論の基本的な考え方を学んでもらうことを主眼にしている。そのために、主にデュルケームやヴェーバー、シカゴ学派、構造機能主義などの理論を紹介し、さらにそれらとの関連で現代の合理的選択理論やシンボリック相互作用論、ネットワーク理論なども可能な限り取り上げる。社会的連帯・儀礼・権力・官僚組織・都市問題・エスニシティなどを事例にして、できるだけ具体的に説明したい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 基本的な社会学概念に習熟すること。
2. 社会的な考え方を、具体的な社会現象に応用できるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

日常性の社会学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	デュルケーム理論	社会連帯・分業
2	『自殺論』を考える	アノミー・個人主義
3	宗教生活について	儀礼・集合的沸騰
4	ヴェーバーの理論	合理性・官僚制
5	『客観性』論文を考える	理念型の意義
6	社会の中の権力問題	権力作用のタイプと支配の社会学
7	宗教社会学	宗教倫理・経済
8	シカゴ学派の社会学	社会過程論・社会的世界
9	産業化・都市病理	移民・犯罪
10	コミュニティの世界	社会的資本の意義
11	社会葛藤	ストライキ・エスニシティ
12	機能主義・システム論	パーソンズの理論
13	マートン理論の意義	機能分析・準拠集団
14	現代の社会学理論	合理的選択理論・意味解釈を主とする理論
15	総括	要点の整理と質疑

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業で適宜紹介する文献をできるだけ読むこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な概念や考え方についての理解度を評価

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まじめな態度で受講して欲しい。質問紙を何回か配布するので、積極的に疑問をぶつけてもらいたい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新 睦人ほか / 有斐閣 / 4-641-08857-8 /

テキストは授業では活用する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シカゴ学派の社会学	中野正大・宝月誠 / 世界思想社 / 4-7907-1029-7 /
新しい社会学のあゆみ	新睦人編 / 有斐閣 / 4-641-12302-0 /
脱常識の社会学	コリンズ / 岩波書店 / 4-00-001275-4 /

そのほか適宜、授業中に紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



## 社会ガバナンス論 S § 行財政論 S

15221

担当者名 / Instructor 太田 美帆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ガバナンス (governance) という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構 (government) が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ガバナンスの必要性を理解していること。
- ・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入: ガバナンスとは何か?	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	なぜ行政改革が必要なのか?	官僚制、地方自治改革
第3?4回目	行政活動をシステムという視点から考える	ネットワーク、資源の交換
第5回目	政策ネットワーク	コーディネート
第6回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第7?8回目	政策決定過程の変容	多元主義
第9回目	小テスト	
第10?11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12?13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ: 福祉国家から福祉社会へ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
日常点・その他	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。

日常点を加味することもあります。日常点はあくまでも補足資料です。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。

また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

## 教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

福祉国家のガバナンス 武智秀之 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03772-X /

福祉社会: 社会政策とその考え方 武川正吾 / 有斐閣 / 4-641-12119-2 /

講義中に適宜、指示します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、指示します。



担当者名 / Instructor 篠田 武司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。企業の業績は好調で、好景気もつづいているというのに不思議な話です。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっている人も知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念(言葉)、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得(GDP、金融のメカニズムなど)
- 2) 戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
- 3) 現代経済社会に関する諸理論の確認

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済学  
経済学理論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	経済空間の構造 - 資本と市場	資本の3形態、商品市場、金融市場、労働市場
2回目	企業と産業 - 株式会社	株式会社の構造、産業分類
3回目	貨幣と金融 - お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
4回目	国民経済計算の基礎 - 成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
5回目	ケインズの経済学(1) - 市場と政府	自由放任主義、エリート主義、
6回目	ケインズの経済学(2) - 完全雇用	完全雇用、有効需要、財政・金融政策
7回目	戦後日本の蓄積構造 - 経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、大衆社会、都市化
8回目	グローバル化と知識基盤型社会 - 新たな時代	経済のグローバル化、産業社会、情報化・知識化社会
9回目	新自由主義の経済学(1) - 市場原理主義と小さな政府	レーガニズム、規制緩和、民営化
10回目	新自由主義の経済学(2) - 自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11回目	雇用の現状 - 雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
12回目	所得格差の拡大 - 排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
13回目	教育と経済	知識社会、教育格差
14回目	「第三の道」の経済学 - 包含の経済学	ギデンズ、社会的包含
15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で、そのつど文献を指定するので、読んでおくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義の理解度を考査する
日常点・その他	20 %	3~4回の出席をとり、それを点数に換算する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

講義は、レジュメに沿って行われる。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民のための社会経済学	篠田等編 / 八千代書房 / /
ケインズ	伊藤光晴 / 岩波新書 / /

漂流する資本主義 佐和隆光 / ダイヤモンド社 / /

-----  
もうひとつの日本は可能だ 内橋克人 / 光文社 / /

-----  
人間回復の経済学 神野直彦 / 岩波新書 / /

なお、上記の参考書以外にも、適時参考文献を講義中に知らせていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ: 明治の文明開化と都市社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主に京都を事例としつつ、適宜その他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ インTRODクシヨン	キーワード 近代化と都市(化)
第2回	テーマ 幕末期の京都 1850年代～67年	キーワード 京都の政治都市化、災害と戦火のなかの京都
第3回	テーマ 明治初年の京都(1) 1868年～70年代半ば	キーワード 天皇東幸(車駕東幸)、遷都と奠都、
第4回	テーマ 明治初年の京都(2) 1860年代末～1888年頃	キーワード 京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
第5回	テーマ 明治初年の京都(3) 1860年代末～1888年頃	キーワード 京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勸業場と舎密局
第6回	テーマ 明治中期の京都(1) 1880年代を中心に	キーワード 琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
第7回	テーマ 明治中期の京都(2) 1890年代前半	キーワード 市制特例下の京都市、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勸業博覧会、
第8回	テーマ 明治中期の京都(3) 1890年代後半	キーワード 日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
第9回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(1)	キーワード 内地雑居と観光、都市と衛生
第10回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(2)	キーワード 日露戦争と地域社会
第11回	テーマ 明治後期・大正初期の京都(3)	キーワード 三大事業の構想と実施、都市経営
第12回	テーマ 明治期京都の都市問題	キーワード 工業化、貧困、差別、衛生
第13回	テーマ 明治期京都の娯楽と大衆文化	キーワード 新京極、演劇と映画、百貨店、性文化
第14回	テーマ 大正期の日本の都市と京都	キーワード 工業化の進展、都市計画法、関東大震災
第15回	テーマ まとめ	キーワード

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能のように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、それに対して準備しておくことが望ましい。
日常点・その他	30 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

## 教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
京都府の百年	井ヶ田良治・原田久美子編 / 山川出版社、 / 4634272601 / 1993年7月、鈴木も執筆
近代京都の改造 都市経営の起源1850～1918	伊藤之雄編著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-04517-X / 2006年4月刊、鈴木も論文も収録年

---

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

京都市歴史資料館情報提供システム「フィールド・ミュージアム京都」  
<http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html>

**その他 / Others**

## 授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題はますます複雑かつ陰影を伴う分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的・文化的・生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「人間の安全保障」や「安全社会」などの課題を、自由論・平等論・友愛論という社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げてみたい。社会科学の想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題をとおして、現代社会像を捉える「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい論文能力を身につけるための努力を期待する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会(科)学の基礎理論。社会(科)学の歴史。社会理論系の科目。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス 講義計画	
2	メディアのなかの社会像 「8・15の社会思想」	
3	ステレオタイプ論 リップマン『世論』(岩波文庫)	
4	エスノセントリズム(自民族中心主義) サムナー『フォークウェイズ』(青木書店)	
5	権威主義的パーソナリティ アドルノ『権威主義的パーソナリティ』(青木書店)	
6～8	ナショナリズムの形成と展開	
9	中間まとめ 小論文 質疑・討論	
10～11	「人間の安全保障」と「ルソー問題」	
12～13	「カルネアデイスの板」と「シティズンシップ(市民権)」問題	
14	現代社会思想の課題	
15	まとめ 質疑応答 期末レポート注意事項	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ(たとえばステレオタイプの実例など)についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する
日常点・その他	30 %	小論文、コミュニケーション・カードを評価する

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。学生時代の知識は忘れても、一度身につけたスキル＝技能は、水泳や自転車同様、忘れないものです。これは脳科学では「エピソード記憶」や「意味記憶」とは異なる「手続き記憶」として知的財産となるものです。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部よき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど書く能力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
永遠のファシズム	U. エコ / 岩波書店 / / 記号学の権威による社会論
ポピュリズムに蝕まれたフランス	国末憲人 / 草思社 / / ポピュリズム理解にとって有益
いまどきの「常識」	香山リカ / 岩波新書 / / 優れた評論集
市民の政治学	篠原一 / 同上 / / ポピュリズムの優れた解説
問題としての2007年	松田博 / 明石書店 / / 『現代の理論』第10号、2007年1月

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

ステレオタイプその他本講義でとりあげるテーマは海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

**その他 / Others**

教室での携帯電話やメール使用、他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「喜・哀・楽 仮面の上に描くたび 己の顔をうしなう仮面」(現代学生百人一首)。

## 社会心理学 S § 社会心理学I S

15158

担当者名 / Instructor 上村 晃弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会心理学は、人間の行動を広義の社会との関わりから説明しようとする学問である。  
 心理学の世間一般でのイメージと「心と行動の科学」という実像の差はかなり大きい。社会心理学も単なる体験からの知識ではなく、実験や調査で得られた知見からなる実証科学である。  
 本講義では、科学としての社会心理学における重要な概念、理論について述べていく。マス・メディアでよく採り上げられるような世俗的、ハウツー的な内容は期待しないで戴きたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会心理学における概念や理論についての理解を深め、心理学的な観点から自己や他者を見ることができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会心理学とはどのような学問か	パラダイム 方法 実験 調査
第2回	欲求と動機づけ(1)	欲求 欲求階層説 達成動機
第3回	欲求と動機づけ(2)	期待理論 衡平理論
第4回	自己(1)	自己 自己提示
第5回	自己(2)	自己概念 自己評価
第6回	社会的認知(1)	印象形成 帰属過程
第7回	社会的認知(2)	ステレオタイプ
第8回	態度と態度変容	態度 態度変容
第9回	対人関係と対人行動(1)	対人魅力 対人交渉
第10回	対人関係と対人行動(2)	攻撃 援助
第11回	集団(1)	集団 同調 逸脱
第12回	集団(2)	リーダーシップ 集団的意志決定
第13回	集合行動	集団行動 群集心理
第14回	社会化	社会化 道徳性
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	社会心理学における基本的な用語や理論を理解できているかを評価する。
持ち込み許可物件はありません。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は特に専門科目であるので、学術的な社会心理学を学ぶという意識を持ち、理論的な内容にもしっかりと臨んで下さい。実利だけを望む人にはお勧めしません。  
 講義内容のほとんどが試験範囲ですので、まじめにきちんと受講しないと単位取得は難しいと思います。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会心理学 - 心理・行動・社会	青池慎一・榊博文(編著) / 慶應義塾大学出版会 / 4-7664-1064-5 C3011 / 毎回使用するので必ず購入すること。
資料を配布することもあるが、配布は当該時限のみとする。	

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会心理学キーワード	山岸俊男 / 有斐閣 / 978-4641058729 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 社会調査情報処理 SA § 情報処理 SX § 社会調査情報処理 SA

15184

担当者名 / Instructor 鈴木 未来

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業では、社会調査における分析法のひとつである多変量解析を統計解析ソフトSPSSの操作を通じておこなうことで、大量のデータを処理する技術の習得を目的とする。その上で、量的調査で収集される個票を集計するにとどまらず、得られたデータの相関や散らばりなど、個々のデータの有する社会的な意味を探索する力の習得もめざす。

## 到達目標 / Attainment Objectives

SPSSの操作を通じた、多変量解析によるデータ分析法の習得

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論 社会統計学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: 社会調査と統計解析	
第2回	[基礎編] SPSSの入力方法	
第3回	度数分布表の作成	
第4回	グラフと図の作成・基礎統計量を求める	記述統計
第5回	[応用編] 探索的分析とは	
第6回	2群の平均値の差を検定する	t検定
第7回	質的な変数の関連を調べる1	クロス集計表
第8回	質的な変数の関連を調べる2	2乗検定
第9回	全体的な「差」を検討する	分散分析
第10回	量的な変数の関連を調べる	散布図 相関係数
第11回	[応用編]の総復習	
第12回	[発展編] 多変量解析(1)	重回帰分析
第13回	多変量解析(2)	判別分析
第14回	多変量解析(3)	因子分析
第15回	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	毎回提出の課題の評価および出席頻度を点数化する

使用しない。授業時のプリントを配布する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

すべての内容が連続しているので、操作法習得のためには連続した出席が求められる。欠席しなければならない場合は、参考書等の文献で該当箇所を補修した上で次回の授業に望むこと。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。授業時のプリントを配布する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『SPSSでやさしく学ぶ統計解析[第2版]』2002	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / ISBN: 4-489-00637-3 /
『SPSSでやさしく学ぶ多変量解析[第2版]』2002	室淳子・石村貞夫 / 東京図書 / ISBN: 4-489-00638-1 /
『改訂版 社会調査の基礎』2003	岩永雅也(放送大学教材) / 日本放送出版協会 / ISBN: 4-595-12687-5 /
『あなたもできる データの処理と解析』1997	岩淵千明編 / 福村出版 / ISBN: 4-571-20058-7 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

受講の際はフロッピーディスクやフラッシュメモリーなど記憶媒体を必ず持参のこと。

担当者名 / Instructor 寺尾 洋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この科目では統計解析ソフトSPSSを学ぶことにより、社会調査等で得たデータを自分で解析する力を身につけることを目指す。大量のデータを処理する技術だけでなく、得られたデータの相関や散らばり、因果関係など社会的な意味を探求する力を身につけることをも目的とする。具体的には情報処理の基本概念を理解し、主要な計量モデルを概観する。その後、社会調査データを用いた解析と取り組む。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・SPSSを使って基本的な統計解析ができる
- ・解析結果を使ってレポートを作成できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

IDとパスワードはあらかじめ各自で確認しておくこと。  
 自分用のフロッピーディスクまたはUSBメモリを持参すること。  
 なお、最低限必要なスキルとして、以下の3点を求める。

1. タッチタイピングができること
2. ファイル管理ができること(ファイルのコピー、削除、移動、ファイル名の変更)
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション:社会調査と統計解析、統計ソフトSPSSの基礎	
2	記述統計量、計量モデルの概観	
3	量的変数の関連:相関係数	
4	質的変数の関連:クロス表分析、カイ二乗検定	
5	質的変数の関連:エラボレーション第3変数とは、コントロール、エラボレーションの考えかた	
6	2群の差の検定:t検定	
7	多変量解析:分散分析	
8	多変量解析:因果分析(1)回帰分析	
9	多変量解析:因果分析(2)重回帰分析、パス解析	
10	多変量解析:因子分析(1)因子分析とは、因子数、回転	
11	多変量解析:因子分析(2)因子スコア	
12	社会調査データを用いた分析(1)分析課題の設定とデータ分析、調査分析レポートの作成	
13	社会調査データを用いた分析(2)調査データの解析とレポートの作成	
14	社会調査データを用いた分析(3)解析結果のプレゼンテーション方法	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	社会調査データを自分なりに解析し、分析したレポートを求める
日常点・その他	70 %	毎回の講義で課題出題する。また、質疑応答に積極的に参加したか等の講義参加傾向を加味する。

毎回実習を行い、課題提出を求めるので、遅刻・欠席は可能な限り避けること。それによる学習の遅れは自分で取り戻すことを原則とする。また、課題をこなすためには自習が必要になるので自主的な学習姿勢を持つことが必要である。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
SPSSでやさしく学ぶ統計解析	室淳子、石村貞夫 / 東京図書 / 4489006373 / テキストに沿って講義を進めるので必ず購入すること

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

統計でウソをつく法 数式を使わない統計学入門  
ダレル・ハフ / 講談社ブルーバックス / 4061177206 /

講義中にも随時紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義用のWebサイト

<http://www.ritsumeai.ac.jp/~ytt06067/>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 中川 輝彦

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していただきます。

**到達目標 / Attainment Objectives**

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	社会学と社会調査: 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2回	社会調査の種類と特徴: 調査票法・観察法・自由面接法	調査票法、観察法、自由面接法
3回	社会調査の手順: 社会調査の一般の手順・調査の倫理・問題意識と仮説構築	倫理、仮説
4～5回	社会調査と理論: 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念
6回	標本調査の考え方: サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
7～8回	標本調査の考え方: サンプリングの方法(2) 無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9回	標本調査と標本誤差: 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10回	調査票の作成: 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11回	コーディング: データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12回	調査票の集計: データの記述: データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13回	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14回	データの分析(2) 結果の公表 2変数の関連の分析・相関係数・疑似相関 調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関
15回	報告書の作成	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があつとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずで

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	試験は、特に理解を問うものを予定します。特に、問題に対して平易な言葉で答えることができるかどうか、を問います。したがって「ジャーゴン」を説明なしに並べている答えは評価しません(「努力点」もありません)。なお試験は「持ち込み不可」です。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することをお勧めします。

**教科書 / Textbooks**

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

**参考書 / Reference Books**

授業中配布のプリントに記載します。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**



## 社会動機論 S

12893

担当者名 / Instructor 藤島 寛

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では(1)人間の動機、(2)自己意識における社会、(3)臨床社会心理学の3つのトピックを取り上げ、動機付けにおける社会的文化的側面を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会や文化の与える動機づけへの影響について現代的課題を理解し、その問題点について心理学における動機づけの視点から論理的に考察できるようになることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学の基礎的知識について学習できる科目を履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	人間の動機(1) 一次的な動機づけにおける人間の側面	感性、欲望
2	人間の動機(2) 社会的動機	マレーの社会的動機リスト、達成動機、親和動機
3	人間の動機(4)向社会的行動(a)	援助行動
4	人間の動機(5)向社会的行動(b)	ボランティア行動
5	間的動機(6)向社会的行動(c)	社会的ジレンマ、信頼と協調
6	自己意識における社会(1)自己意識の測定	公的自己意識と私的自己意識
7	自己意識における社会(2)公的自己意識から自己の意味を考える	不安とヒステリー
8	自己意識における社会(3)自己を支えるもの(a)	自尊心、アイデンティティ
9	自己意識における社会(3)自己を支えるもの(b)	愛
10	臨床社会心理学(1)健康心理学	メンタル・ヘルス
11	臨床社会心理学(2)ストレス・コーピング	コーピング、サポート
12	臨床社会心理学(3)うつと認知(a)	帰属、バックの認知療法
13	臨床社会心理学(4)うつと認知(b)	自己注目理論
14	臨床社会心理学(5)パーソナリティとコーピングの関係	完全主義、気晴らし、現実へのとらわれ
15	臨床社会心理学(6)物語療法	物語られるもの、聴取、人生の意味

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

参考文献を読み、各トピックのテーマに対する現代的問題への関心を深めること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	各トピックにおける基礎的概念の理解に基づく現代的問題点への気づきとその問題点に対する深い考察を評価
日常点・その他	20 %	日常的レポートにおける、各トピックのテーマに基づく現代的問題点への気づきと関心を評価

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義に出席し、“静かに”、“深く”考察すること

## 教科書 / Textbooks

教科書は用いないが、講義内容の理解に必要な資料を配布する

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会心理学への招待	高木修(編) / 有斐閣 / 人間の動機における向社会的行動の参考書
自分のことから読む臨床心理学入門	丹野義彦・坂本真土 / 東京大学出版会 / 臨床社会心理学の参考書
講義内容に応じて、適宜参考文献を紹介する	

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Webではなく骨のある論考を読むことを切に願う

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 香川 文庸

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この講義では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的な基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

**到達目標 / Attainment Objectives**

基本的な統計手法を身につけ、実際のデータを用いた簡単な統計解析・分析が自力で行えるようになること。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme 授業計画説明	キーワード / Key Word 統計的データ分析の考え方
	標本と母集団	標本抽出法
	標本データの記述(1)	度数分布とヒストグラム
	標本データの記述(2)	代表値と散布度
	確率の概念	確率と確率変数
	主な分布(1)	離散型確率変数、一様分布、二項分布
	主な分布(2)	連続型確率変数、一様分布、正規分布
	正規分布の性質	標準正規分布と信頼区間
	標本分布	母数と統計量、標本分布、大数の法則と中心極限定理
	母数の推定(1)	標本平均の分布、点推定、区間推定、母平均の区間推定
	母数の推定(2)	母分散、母標準偏差の推定
	母数の推定(3)	母比率の推定
	統計的仮説検定(1)	仮説検定の考え方
	統計的仮説検定(2)	平均と分散の検定
	推定と検定の応用	母比率の推定、平均の差の検定
	2変量間の関係(1)	相関係数
	2変量間の関係(2)	回帰分析

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

実際の統計処理はパソコンを用いて行うことが非常に多い。授業で学んだ手法をパソコン上で復習することが望ましい。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
日常点・その他	30 %	出席状況、他

授業の後半では、実際に練習問題を解いてもらい、理解度を高めます。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

遅刻・欠席をすると以降の講義が理解困難になるので、各人注意すること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての統計学	鳥居泰彦 / 日本経済新聞社 / 4-532-13074-3 /

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学 D.ロウソリー著	加納悟訳 / 新世社 / 4-88384-035-2 /
統計学入門	森棟公夫 / 新世社 / 4-88384-017-4 /
すぐわかる統計解析	石村貞夫 / 東京図書 / 4-489-00407-9 /
現代統計学を学ぶ人のために	吉田忠編 / 世界思想社 / 4-7907-0577-3 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

授業には電卓( の計算のできるもの)を持参のこと。

## 社会発展論 S § 産業発達史 I S

15317

担当者名 / Instructor 伊藤 正純

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

市民社会と資本主義とは何か。20世紀の社会主義とは何だったのか。なぜ崩壊したのか、資本主義の発展と修正。人工国家アメリカの特異性。社会民主主義とは何か。福祉国家と福祉社会。スウェーデンの実験。日本の豊かさと言困。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会発展論は、社会的経済的進歩について考察するものである。だが、何をもって社会的経済的進歩とみるか、また何が社会的経済的進歩を牽引しているとみるかで、見方は様々である。本講義では、この難問を避け、資本主義、社会主義、社会民主主義、新自由主義とは何かを、理論的に、また現実(歴史的現実を含む)的に示し、社会発展とは何かを一緒に考えたい。アメリカ合衆国、スウェーデン、日本を主に取り上げる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9 / 26	社会発展とは何か	近代市民社会 共感 市場経済 政府の誕生
10 / 3	資本主義と宗教 1	マルクスの唯物史観 ウェーバーの資本主義の精神
10 / 10	社会主義の誕生	ロシア革命 国有化 個人崇拜
10 / 17	大衆消費社会の出現	アメリカ 自動車
10 / 24	福祉国家への道	スウェーデン社会民主労働党の実験
10 / 31	戦後の高度成長	フォードイズム 資本主義の黄金期
11 / 7	ポスト・フォードイズム 高度成長から低成長へ	構造的危機 労使関係の変化 共同決定法
11 / 14	帝国主義の復活 アメリカ	金融の自由化 アジア通貨危機 戦争
11 / 21	アメリカにみる貧富の格差	人為的に作られた富と貧困
11 / 28	日本にみる貧富の格差 1	OECD報告書 相対的貧困率
12 / 5	日本にみる貧富の格差 2	OECD報告書 子どもの貧困率
12 / 19	スウェーデンにみる豊かさ	高齢者医療改革、年金改革
1 / 9	環境大国スウェーデン	持続可能な社会
1 / 16	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	記述式論文試験。持ち込み不可。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
復権する市民社会論	八木紀一郎他編 / 日本評論社 / 4-535-55142-1 /
危機 - 資本主義	ボワイエ、山田鋭夫編 / 藤原書店 / 4-938661-69-1 /
希望の構想	神野直彦・井手英策編 / 岩波書店 / 4-00-022553-7 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
- ・近代の「善」なる理念が、病理現象を生み出すパラドックスを理解する。
- ・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
- ・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「社会学概論」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	近代社会の功罪
第二回	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
第三回	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
第四回	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
第五回	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
第六回	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
第七回	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
第八回	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
第九回	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりとは紐帯理論	地域、NPO
第十回	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
第十一回	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
第十二回	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
第十三回	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
第十四回	病理の過剰 / 病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化、心理主義化
第十五回	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・毎回指示する、参考課題図書を出るだけ読むこと。
- ・各パート毎に、自らの考えを纏めること。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること(但し、うのみにしないこと)。

**教科書 / Textbooks**

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

**参考書 / Reference Books**

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 社会福祉援助技術現場実習 SA § 社会福祉援助技術現場実習 SG

20198

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SB

20199

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SC

20200

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SD

20201

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SE

20202

担当者名 / Instructor 前田 信彦

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SF

20193

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SG

20194

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SH

20195

担当者名 / Instructor 秋葉 武

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術現場実習 SI

20196

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「社会福祉援助技術実習指導」で配属された施設・機関で実習を行う。夏期を中心に行うが、実習先の都合により後期セメスターに実習を行うこともある。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	個別に指示する	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的にに行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

実習ノートや実習先の評価をベースに評価を行う。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習 SJ

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SA § 社会福祉援助技術実習指導II SA

12509

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SB § 社会福祉援助技術実習指導II SB

12510

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SC § 社会福祉援助技術実習指導II SC

12511

担当者名 / Instructor 竹村 忠憲

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SD § 社会福祉援助技術実習指導II SD

12512

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SE § 社会福祉援助技術実習指導II SE

12513

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SF § 社会福祉援助技術実習指導II SF

12514

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SG § 社会福祉援助技術実習指導II SG

12515

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導II SH § 社会福祉援助技術実習指導II SH

12516

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SI § 社会福祉援助技術実習指導Ⅱ SI

12517

担当者名 / Instructor 松井 信也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習に向けた事前学習を行う。実習先の現状や課題、機能、体制などの状況をより詳しく理解し、実習に対するイメージを明確にする。実習先となる社会福祉の現場理解を重視した授業内容とし、詳細については演習初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習先に関する十分な事前学習
- ・実習分野に関する問題状況の十分な理解
- ・実習分野に係る制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。また、「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

- ・この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。4週間の福祉施設・機関・団体における実習の事前学習であるため、毎回必ず出席すること。また、実習先の事前学習や訪問学習についても必要に応じて提起するので毎週の演習以外にも時間を工面すること。出席状況等に問題がある場合は、現場実習を履修できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導 SJ § 社会福祉援助技術実習指導 SJ

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SA

12532

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SB § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SB

12533

担当者名 / Instructor 井上 公子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SC

12534

担当者名 / Instructor 竹村 忠憲

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SD

12535

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SE

12536

担当者名 / Instructor 池添 素

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SF

12537

担当者名 / Instructor 山田 尋志

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SG

12538

担当者名 / Instructor 西村 清忠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SH

12539

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SI § 社会福祉援助技術実習指導Ⅲ SI

12540

担当者名 / Instructor 松井 信也

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業は「人間福祉演習」と連動しており、実習の事後学習を基本とする。実習体験をフィードバックし、実習計画や実習課題がいかに達成されたか、これらの課題は何かについて、個別あるいはグループ学習の中で報告・確認していく場とする。また各自の実習を振り返り、社会福祉現場の現状や課題、機能、体制などの状況をより深く理解するとともに、これからの社会福祉及び社会福祉従事者について考察する。詳細については授業初日に説明する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・実習に関する総括
- ・社会福祉実践に対する十分な理解と認識
- ・実習先に関する十分な理解と認識
- ・福祉問題に関する十分な理解
- ・福祉制度・政策の十分な理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導」の履修は必須となる。なお、あわせて「社会福祉援助技術論」「同」の履修が望まれる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	演習初日に指示する	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

社会福祉施設や機関の見学やボランティア活動などを積極的に行い、自主的に問題意識を深めることが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

この授業はあらかじめクラス指定があるため科目登録の際は注意すること。実習の事後学習として、この科目の履修が非常に重要であるため、毎回必ず出席すること。出席状況等に問題がある場合は、受験資格を取得できない場合があるので注意すること。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編 / 有斐閣 / 4-641-05541-6 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導 SJ § 社会福祉援助技術実習指導 SJ

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

担当者名 / Instructor 出口 剛司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

批判理論における「理性による自然支配」テーゼを文化社会的な視点から多面的に検討していく。われわれは、日常生活のなかであまりにも自明なものとして「食べる」「におう」「見る」「読む」「聞く」「感じる」などの身体的行動を繰り返している。また同時にこのような身体的経験を、個人の感覚・感情・好みに左右される最も私的なものと考えている。それに対して社会学は、日常生活にあふれる、一見主観的で個人的な感性的経験を社会や歴史のなかで抑圧的あるいは拘束的に形成されてきたものとして捉える。本講義では、このような「個人」の身体的経験とそれを「社会」にまとめあげるメディアの効果を考察することによって、近代社会のしくみやその変容過程について明らかにしていく。またそれらの考察をふまえて、ポスト近代社会にふさわしい倫理のあり方について、受講生とともに考えてみたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

近代社会の文化的特徴を理解し、われわれ自身の「文化」を批判的に相対化する能力を身に着ける。  
文化社会学及びそれに隣接する社会文化研究の基本概念、基本学説を理解する。  
批判理論における近代文化批判の課題と意義を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	視覚的近代の成立(身体感覚の社会学のために)	視覚 理性中心主義 まなざしの地獄 フーコーの権力論
第2回	嗅覚の社会史 (嗅覚とアロマ)	嗅覚の復権
第3回	嗅覚の社会史 (公衆衛生と視覚・嗅覚の交差)	公衆衛生 アナール学派の社会史
第4回	食の歴史社会学 (食・このおぞましくも魅惑的なもの)	身体感覚と欲望
第5回	食の歴史社会学 (テーブルマナーとガストロノミー)	礼儀作法 文明化の過程 ノルベルト・エリアスの社会学
第6回	食の歴史社会学 (見えないコルセット=体重計)	ダイエットの成立 食と近代社会の病理
第7回	食の歴史社会学 (見えない体重計と魂のコルセット)	食と近代社会の病理
第8回	ファッションの文化社会学 (ファッションと記号を求めるまなざし)	記号論 資本主義と記号消費
第9回	ファッションの文化社会学 (ドレスとスーツの誕生)	セクシュアリティ ジェンダー
第10回	文字と声の知識社会学 (声の文化と文字の文化)	オンクとマクルーハン
第11回	文字と声の知識社会学 (書物の出現と文字の想像力)	書物の歴史 シャルチエと読書の社会史
第12回	読書の社会史 (宗教改革とナショナリズム)	ナショナリズムの成立 アンダーソンと想像の共同体
第13回	読書の社会史 (スキャンダルのまなざしと聖性剥奪)	読書とフランス革命
第14回	批判理論と文化批判への視座	近代社会の文化的批判 批判理論とモデルネ
第15回	批判理論と文化批判への視座	多文化主義と倫理の方へ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義中適宜指示する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義内容の理解度及びその文化批判への応用能力を問う。
日常点・その他	0 %	場合によっては一部出席を加点することがある(原則として定期試験)。

講義終了時に出席に代わる簡単なコミュニケーションペーパーを作成してもらう。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

適宜指示する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エリック・フロム: 希望なき時代の希望	出口剛司 / 新曜社 / 4-7885-0824-9 / 多文化主義と倫理のあり方について
テキストとコンテクスト	J.ハーバーマス / 晃洋書房 / 4-7710-1751-4 / 批判的社会理論の展開について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現在、私たちの生活にとって「社会保障制度」は、必要不可欠な生活の条件となっているが、その生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障の理念・本質・機能について学びたいと思う。また、21世紀における福祉国家再生のための「社会保障のあり方」を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

現在「社会保障」は、マスコミに取り上げられない日がないほどポピュラーになっている。しかし、学問として捉えると、難しいと敬遠されているのが現状である。そこでこの講義では、少しでも社会保障の体系や理念を学んで、社会保障を身近なものと感じ興味を持って頂こうと思う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、福祉政策論、福祉計画論。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	社会保障の理念の変遷とその意義	所得保障、対人社会サービス、社会保障法(アメリカ)、ニュージーランドの社会保障
第2回目	社会保障の理念の変遷とその意義	ILO、ベヴァリッジ・レポート、憲法第25条、社会保障制度審議会、セイフティー・ネット、総合社会保険構想
第3回目	社会保障のあゆみとダイナミクス・・・イギリスにおける社会保障の歴史	救貧法、本源的蓄積、プース、ラウンダリー
第4回目	社会保障のあゆみとダイナミクス・・・ドイツにおける社会保障の歴史	飴と鞭の政策、ビスマルク
第5回目	社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の対象・財源	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働力の価値、社会保険方式、消費税
第6回目	社会保障の基本原則と限界・・・社会保障の資本主義的限界	社会的排除、第三の道、貧困
第7回目	公的年金制度の成立とその後の歴史	国民年金、厚生年金、共済年金、積立金資金運用
第8回目	年金制度改革の新提案	女性と年金、基本年金構想
第9回目	医療制度への市場原理導入の危険性	日本の医療の質と水準
第10回目	医療制度への市場原理導入の危険性	健康保険法等の一部改正の中身
第11回目	消費税の本質	消費税導入の根拠
第12回目	消費税の福祉目的税化	運動論からの批判
第13回目	社会保障の一元化と将来像・・・「国民保険」構想の中身	国民保険、事業主負担、減免措置、ペナルティー
第14回目	社会保障の一元化と将来像・・・「社会保障税」「新しい社会保障」の提案	最低賃金、目的税、社会保障税

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

教科書は、必ず購入し事前に読んでおくように。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験は50点とする。
日常点・その他	50 %	欠席1回毎に、50点から3点をマイナスする。

出席を重視するが、

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回、コミュニケーション・ペーパーを配布・回収し、次週の講義冒頭10分程度で質問等に答える。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会保障のダイナミックと展望	芝田英昭 / 法律文化社 / ISBN4-589-02891-3 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省:<http://www.mhlw.go.jp>

その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

私たちの人間社会には、多くの倫理的な問題が埋め込まれている。マクロなレベルでは近代社会の基本骨格を構成する自由、平等、友愛、所有といった社会的な倫理基準がある。これらの基準は、近代社会そのものの矛盾や現代社会のあらたな展開のなかでさまざまな問い直しを受けている。また、ミクロな日常的な行為のなかにもさまざまな日常倫理にかかわる問題があり、意図と結果の相違や自由と公正をめぐる問題が待ちかまえている。本講義では、出来るだけ社会学的な行為論や近代以降の社会の構造的な理解と重ね合わせながら、身近な事例をテーマに関連させて私たちの生活と社会における基本的な倫理問題を一緒に考える形の講義にしていきたい。受講者には、受け身ではなく講義に積極的に参加する姿勢を求めたい。授業では、基本的に毎回コミュニケーションペーパーを提出してもらい、これを授業内容に反映させる。また、これを出席票としても利用する予定である。受講に際して、特に倫理学についての予備知識は必要ないが、倫理的問題について真剣に考える姿勢と意欲が求められる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会生活における倫理的な問題の発生に謙虚に立ち向かう姿勢を養うこと。他者の同等の権利や生活の尊重、世界の共有の責任という基本的な倫理基準を深く受け止め、応用できる力を養うこと。倫理問題を、個人的視野からだけでなく、広く社会的、社会科学的な目で見つめ社会的な背景のなかで考える視野を養うこと。事実認識と価値判断の区別と総合の視点をもって、問題を自ら責任意識をもって考察できる力を養うこと。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に、特定の科目の履修を前提とはしないが、社会学、社会科学、倫理学、哲学などに関心をもっていること、ねばり強い論理的思考に耐える心構えと思考力を持つよう心がけること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会倫理とはなにか、どのように倫理問題と社会科学(社会学)が関わっているのかを考える。社会的行為と倫理問題発生との構造について解説する。本講義で何をどのように問題にするのかを概説する。	行為、意図せざる結果、事実と価値判断、世界の共有、責任、社会学と倫理学
第2回	うその社会倫理学(その1);問題提起;うそは無くすことができるか?	うそとは?
第3回	うその社会倫理学(その2);うその定義、許されるうそと悪いうそ?うそはなぜ悪いか?	善悪の基準、うそを定義することの前提、事実認識、価値判断、両者の区別
第4回	うその社会倫理学(その3);行為論的哲学的再考察;倫理学の前提としての認識論的問題と存在論的問題	価値自由、實在論的認識論、認識についての主観的基準の問題点、価値判断と責任
第5回	社会倫理学的思考の基本;倫理的判断力の構成要素;中間まとめ	価値自由、責任倫理、世界の共有、他者の存在の意味
第6回	パターンリズムと行為のパラドクス	パターンリズム、「善意」の問題性
第7回	歴史と倫理(その1);問題提起、行為と因果関係と責任	行為の因果性、結果と責任
第8回	歴史と行為(その2);歴史認識の構造と歴史における倫理	歴史認識における事実認識と価値判断、解釈学的知識の役割、歴史評価の自由と責任倫理
第9回	歴史と倫理(その3);行為連関の複雑性、予期せざる結果、許しと約束	許しと約束
第10回	自由という基本価値をめぐる問題;自由主義とは何か、自由主義思想史にみる自由とその条件	自由、市民権、社会権
第11回	自由主義とその問題性1;二つの自由(パーリン)に潜む問題性	積極的自由、消極的自由、他者との共生
第12回	自由主義とその問題性2;所有、自由と平等(リバタリアニズムの問題性)	自由、所有、権利、平等、連帯
第13回	正義論とその意味(正義とはなにか、現代正義論から)、自由と平等の基準を求めて	正義
第14回	正義論とその限界	論証的基礎づけの限界
第15回	公共圏、世界の共有、開かれた社会と民主主義	公共圏、討議民主主義、社会的連帯、世界の共有

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

参考文献は、講義時に紹介するが、本を読むことと同時に、自分の頭で考えることが本講義の最も重要なねらいとなるので、普段に自分で責任をもって「考える」こと。既存の正解を知ろうとか、覚えようとする態度は捨ててもらわなければならない。倫理問題を考え、態度をとるのはあなた自身だから。倫理問題は、なにかを覚える問題ではなく、自分の問題として引き受け、自分の責任で考えるべき問題だからである。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	試験は行わない。
レポート試験	60 %	最終レポートを課す。課題は、講義の内容に関連したもののから提示する。
日常点・その他	40 %	コミュニケーションペーパーを使った応答を行う。これは、ある種の日常的レポートである。これで参加の積極性や出席状況をはかり、評価の参考とする。出席は、上記の日常点に入る。コミュニケーションペーパーは出席カードをかねるものとする。

コミュニケーションペーパーを重視する。コミュニケーションペーパーは出席カードをかねる。評価は、レポートを基本にコミュニケーションペーパーの提出度合いを加味する。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

意見表明にあたっては、リアルな感覚と想像力を持ち、責任感をもって自分の頭で考えること。問題を、人ごとのように考える姿勢は止めること。all or nothing 的思考を克服すること。自分の主張や判断については、その結果を引き受ける責任意識をもつこと。考える学生を目指して欲しい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。授業では、レジメを使用する。しかし、以下の文献は、本講義を理解する上で、大いに参考になるので、推奨したい。

M.ヴェーバー『社会科学と社会政策にかかわる認識の「客観性」』岩波文庫

M.ヴェーバー、マイヤー『歴史は科学か』みすず書房

カール・R・ポパー『果てしなき探求』上・下 岩波現代文庫

カール・R・ポパー『科学の目的と実在論』岩波書店

高橋哲也『歴史 / 修正主義』岩波書店

亀山純生『うその倫理学』大月書店

黒田亘『行為と規範』勁草書房

I.バーリン『自由論』みすず書房

吉崎祥司『リベラリズム』青木書店

井上達夫『共生の作法』創文社

ロールズ『公正としての正義』木鐸社

ハンナ・アーレント『人間の条件』ちくま文庫

J・ハーバーマス『公共性の構造転換』未来社

#### 参考書 / Reference Books

参考書は、上記の備考欄に記したので、参考にして下さい。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

#### その他 / Others

なし

担当者名 / Instructor 坂井田 美代子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

私たちはコミュニケーションを通して、人間関係を築き・広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをすることで、様々な刺激を受け、考えたり、判断したりし人として成長してゆく。音声によるコミュニケーションが中心の社会においては、聴覚障害者はコミュニケーションの入り口で情報の伝達、情報の共有から阻害されてしまう。故に聴覚障害者にとってコミュニケーションの課題はすべての生活場面での根元的な課題として表出している。情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般に関わる。このことの解決なしには聴覚障害者の完全参加は実現しない。また、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁を作られやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けてしまう。よって本講義では、コミュニケーションの役割、聴覚障害・手話・聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題等を中心に講義を展開する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- : コミュニケーションの役割、聴覚障害者のコミュニケーションの現状、コミュニケーション手段について理解する。
- : 耳の役割、聴覚障害、言葉の発達について理解する。
- : 聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について、その歴史、現状や課題について理解する。
- : バリアフリー調査を行い、社会の実態や課題を知る。
- : 当事者の経験を聞き、具体的に聴覚障害者が抱える課題や望みを知る。
- : 聴覚障害関連福祉制度の概要を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1～2回目	講義の概要	コミュニケーションの役割、ビデオから
第3回～4回目	聴覚障害について	聞こえの仕組み、障害部位、障害の特徴、聴力レベル、ことばの発達と聴覚障害
第5回目	聴覚障害者とコミュニケーション手段	聴覚障害者のコミュニケーション手段、特徴、実態、コミュニケーション手段の決定要因
第6回目	聴覚障害者とコミュニケーション	ゲスト講師(当事者の体験から学ぶ)
第7回目	手話について	手話の歴史と発展、聴覚障害者のくらしと手話、音声言語と手話、手話を取り巻く世界・日本の環境
第8回目	情報から阻害された聴覚障害者の実態「原爆は聞こえなかった。」のビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーション、行政等の公的な情報、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響
第9回～10回目	バリアフリーについて	「調査課題レポートの作成」生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」を調査し課題や展望について考える。
第11回目	聴覚障害者のコミュニケーション保障の歴史	日本における手話通訳保障の歴史、手話通訳制度、手話通訳者の役割、
第12回目	聴覚障害者を取り巻く社会環境の変遷、現状、課題、展望	ろう運動の歴史と福祉制度
第13回目	聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態－労働－	
第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態－教育－	日本の聴覚障害児教育の歴史、課題、展望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション環境整備の課題と展望	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- : テキストなど文献のリーディングの指示
- : 調査課題
- : レポート課題

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で扱ったテーマを基に受講者の関心に基づいてサブテーマを設定し、それについての考察が記述されているかをみる。
日常点・その他	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関するコメント コミュニケーションレポート を求める。バリアフリー調査とレポートの提出を求める(11月下旬)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は聴覚障害者のコミュニケーション環境を中心に展開する。ビデオ教材・ゲスト講師による当事者の体験、自分の生活圏における聴覚障害者の

バリアフリー調査をとおりて、コミュニケーションの意味、役割等、具体的な課題として実感的に学ぶ姿勢を大切のする事を望む。

#### 教科書 / Textbooks

聴覚障害に関する書物はすくなく、聴覚に關係する団体等がおこなう調査資料も一般書店には出されていない。本講義では授業計画に沿って、毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。又、その都度参考図書を示す。

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jfd.or.jp> ろうあ運動の歴史、障害者権利条約、など当事者団体の考え方、ろう運動の状況課題などの参考。  
他、キーワードに関する理解を深めるために講義時に紹介する。

#### その他 / Others

## 障害者とスポーツ S

10900

担当者名 / Instructor 水谷 裕

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」

障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害者スポーツ」等のビデオ画像を通して、障害のある人の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良いパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育てて欲しいと考えています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- \* 障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
- \* 障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
- \* 障害のある人々のスポーツをとらえて社会のあり方を考えられる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ビデオ	障害のある人とスポーツに関する知識
第2回	講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ビデオ	人数・傾向、戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ビデオ	原因・症状等
第4回	講義「障害を考える」、ビデオ	意味・とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、ビデオ	葛藤・受容・心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ビデオ	言葉づかい・態度・考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ビデオ	スポーツ観・残存能力・訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ?」、ビデオ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ビデオ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ビデオ	施設・団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ビデオ	背景にある<みんなのスポーツ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ビデオ	身体的・精神的等
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ビデオ	阻害要因・視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ビデオ	人間的平等・発達保障等、指導者・環境・現状把握等
第15回	最終講義試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

テレビや新聞などの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアについては、社会の理解度を認識する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	90 %	特に言葉の言回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。
日常点・その他	10 %	最低3分の1以上の出席が望ましい。

\* 論述1問とします。  
\* 最終講義試験を重視します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について

- \* 授業は前の席にて受講すること。
- \* 講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
- \* 話の中にある意図を理解すること。

研究について

- \* 障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見る。

## 教科書 / Textbooks

- \* 特に決まったテキストは使用しません。

\* 適時、コピー等を配付します。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「障害者スポーツ」	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編集 / 医学書院 / / 障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
「障害者とスポーツ」	芝田徳造 / 文理閣 / / 本学名誉教授の著書です。
「身体障害者のスポーツ指導の手引き」	(財)日本障害者スポーツ協会編集 / 株式会社ぎょうせい / / 身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- \* 日本障害者スポーツ協会WWWページ
- \* 京都障害者スポーツ振興会WWWページ
- \* 京都市障害者スポーツセンターWWWページ
- \* 京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
- \* その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

#### その他 / Others

- \* 障害のある人のスポーツに興味を持ち、スポーツ活動を通して障害のある人の社会参加活動の理解ある良きパートナーを目指す学生なら誰でも歓迎します。
- \* 脳性マヒ等による四肢機能障害で、車いすを常用し、京都市障害者スポーツセンターに勤務しています。
- \* 授業後、気軽に話しかけて来てほしいと思っています。

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

障害者福祉は今大きくかわろうとしている。とくに日本においては「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」ノーマライゼーションに逆行する動きが顕著となっている。この授業では、こうした転換内容を、歴史的にかつ現代的課題としてとりあげる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

措置制度から支援費制度に、さらに障害者自立支援法に、その後においては障害者福祉の介護保険との統合もすすめられようとしている。その制度展開の基本的方向を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業ではコミュニケーションペーパーによる質疑応答を重視する。聞くだけでなく、ともに考え意見交換できるようにしてほしい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1) 導入講義(1)	すすめかた	障害観の課題
2) 導入講義(2)	障害観、発達観の変革	権利保障運動に学ぶ
3) 障害概念の検討(1)	国際的動向	社会モデル、三層構造
4) 障害概念の検討(2)	日本の制度対象である障害	手帳制度、支援費
5) 障害概念の検討(3)	自立支援法の障害	利用手続き、障害認定
6) 障害者福祉の歴史(1)	市民制社会以前の障害者問題	自給自足社会、奴隷制、身分制と障害者
7) 障害者福祉の歴史(2)	産業革命時代の障害者問題	劣等処遇、分類処遇、隔離収容
8) 障害観の中間レポート	障害観に関するレポート	当事者、現場に聞く・触れる・見る
9) 障害者福祉の歴史(3)	現代社会の障害者問題(1)	能力主義と障害
10) 障害者福祉の歴史(4)	現代社会の障害者問題(2)	ノーマライゼーション、インクルージョン
11) 障害者自立支援法(1)	政策的背景	福祉国家からの転換
12) 障害者自立支援法(2)	支援費制度からの転換	財源問題と介護保険統合問題
13) 障害者自立支援法(3)	制度の内容	施設・事業体系
14) 障害者自立支援法(4)	今後の課題	規制緩和

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

中間レポートは作成のための課題を提起し、1回分とする。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基礎知識、論述
レポート試験	20 %	障害観など
レポートは中間に実施(何回目になるかは変更あり)		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

対話を重視したいので、それによって進行具合は変わる。

## 教科書 / Textbooks

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
障害者自立支援法の基本と運用	峰島・白沢・多田 / 全国障害者問題研究会出版部 / /
障害者福祉制度改革になが問題か	峰島・白沢・多田 / 全国障害者問題研究会出版部 / /
-----	
授業の必要な個所で使用。	

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
転換期の障害者福祉	峰島厚 / 全国障害者問題研究会出版部 / /
支援費制度活用のすべて	峰島・白沢・多田 / 全国障害者問題研究会出版部 / /
-----	

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 (climate change、温暖化) が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。
- ・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。
- ・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。
- ・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。
- ・消費者部門から発生する環境負荷について、基礎的知識を獲得する。
- ・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

ただし、環境論S(都市・農村計画論IS,環境問題論)とは、回生配当が異なるため、内容の難易度が異なる。この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース。IPCC第四次報告書の意味、温度上昇の予測	
2	気候変動に関する海外のDVD。An Inconvenient Truth。	
3	気候変動に関するDVD。Global Dimming	
4	温室効果ガスの長期的影響。温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia、海洋における熱エネルギー。重要なthresholds。「危険な気候変動」。2、3 上昇の意味。	
5	温度2 上昇、3 上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。	
6	京都議定書と各国の温室効果ガス排出量。世界の温室効果ガス排出量の推移予測。質問とまとめ。海外の気候変動ニュース	
7	気候変動による被害と熱波対策。イギリスの熱波警報システム(Heat-Health-Watch)、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか？	
8	日本における気候変動の影響。台風、集中豪雨の予測、高潮。	
9	質問とまとめ。重要な用語の確認、これまでの復習	
10	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入。風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの状況。	
11	交通部門における温室効果ガス削減策。EUにおける交通部門対策。飛行機旅行に対する課税。自動車の燃費性能に対する規制。	
12	家庭部門における温室効果ガス削減策。住宅における断熱性能の改善。家電製品に関する省エネ製品の導入。海外の取り組み。	
13	農産物生産への影響。日本の食糧自給率とフードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。	
14	まとめ。質問	
15	最終講義試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	授業中の小レポート。および、最終講義試験の結果で判断する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。

気候変動 (climate change, または温暖化) は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science (気候変動科学) の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位修得上、不可欠である。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、慶応義塾大学出版会、2005年。ISBN 4-7664-1211-7。	/// 第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報 温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	///
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Fourth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	///
An Inconvenient Truth,	Al Gore, / Bloomsbury, 2006, / /
『環境展望』、Vol. 2、	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編 / 実教出版、2002. / /

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編、『環境展望』、Vol. 3、実教出版、2003。	///

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

環境省、温暖化ホームページ (<http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka>)  
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) (<http://www.ipcc.ch>)

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達によって、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革が生じている。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造も変わりつつある。また、電子商取引が引き起こすさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・電子商取引の仕組み、構成、現状について理解できる
- ・電子商取引を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
- ・電子商取引がもたらす社会的影響について理解できる
- ・電子商取引に関わる法的問題、消費者保護の課題について理解できる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション 情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、IT革命、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引( EC、Electronic Commerce)とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間(BtoC)のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネス・モデル
第4回	企業・消費者間(BtoC)のEC(2)	中抜き、インフォメディアリ、メリット・デメリット
第5回	企業間(BtoB)のEC	VAN、EDI、サプライチェーンマネジメント、e-マーケットプレイス
第6回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、情報財、収穫逓増
第7回	ECの技術的基盤(1) 情報処理システムと通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、広域系ネットワーク、構内系ネットワーク
第8回	ECの技術的基盤(2) インターネット	パケット通信、プロトコル、TCP/IP、インターネット利用の実態
第9回	ECの技術的基盤(3) セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第10回	電子決済システム	ICカード型、ネットワーク型、プリペイド型
第11回	ユビキタスネットワーク(1)	ユビキタス、u-Japan政策、RFID
第12回	ユビキタスネットワーク(2)	トレーサビリティ、トラッキング、プライバシー保護
第13回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、オンラインマーク制度、プライバシーマーク
第14回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報漏洩、個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- ・理解を深めるために、参考文献(あるいは同分野の書籍)を講義の前後に読んでおくこと。
- ・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	75 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
日常点・その他	25 %	講義で紹介した事例を実際に自分で調査・確認してもらう。第4回、第12回の講義のあとで課題を提示する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
- ・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

## 教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エレクトロニック・コマース入門	井上英也 / 日本経済新聞社 / 4532107571 / 電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦 / 日本経済新聞社 / 4532109426 / 第6回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充 / 技術評論社 / 4774113204 / 第1回～第5回の講義内容の理解が深まる
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会 / 日本経済新聞社 / 4532311179 / 第11回・12回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法 第3版	高橋和之, 松井茂記 / 有斐閣 / 4641129460 / 第13、14回の講義内容の理解が深まる

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

次世代電子商取引推進協議会 <http://www.ecom.or.jp/>  
日本通信販売協会 <http://www.jadma.org/>  
総務省 <http://www.soumu.go.jp/>

**その他 / Others**

## 情報法 G § 情報法 Q

20368

担当者名 / Instructor 大石 泰彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

情報法(情報流通の自由と規制にかかわる法制度)のうち、マス・メディア法制を中心とする「情報公法」について講義する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

マス・メディアがひきおこすさまざまな事件・問題について、単に印象批評や感情論ではなく理論的・学問的に考えることができるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「憲法(特に人権論)」、「ジャーナリズム論」と内容的に関連しており、これからの履修・聴講しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	
第2回	取材・報道の自由・総論(その1)	
第3回	取材・報道の自由・総論(その2)	
第4回	取材・報道の自由と国家秘密(その1)	
第5回	取材・報道の自由と国家秘密(その2)	
第6回	取材・報道の自由を裏打ちするもの(その1)	
第7回	取材・報道の自由を裏打ちするもの(その2)	
第8回	名誉毀損(その1)	
第9回	名誉毀損(その2)	
第10回	プライバシー侵害(その1)	
第11回	プライバシー侵害(その2)	
第12回	放送制度(その1)	
第13回	放送制度(その2)	
第14回	情報公開・個人情報保護とマス・メディア	
第15回	テスト	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義期間開始前に、教科書を一読しておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
日常点・その他	40 %	

最終講義時間に筆記試験を実施し、評価の基礎資料とする(約60%)。受験者数にもよるが、集中講義であることを考慮して、小レポートや受講態度にも相当の比重をおく方式で評価する。(約40%)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1.新聞(一般紙)を継続的に(毎日)まんべんなく読み、テレビ・ニュースを継続的に見るなど、「社会人」になるための地道な努力を怠らないこと。
- 2.「メディアの倫理」を考える授業にふさわしい「学生の倫理」を身につけること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアの法と倫理	大石 泰彦 / 嵯峨野書院, 2004年 / 4-7823-0395-5 /

主として、予習(「授業外学習の指示」参照)・復習(「評価方法」参照)・小レポート(同)に用いる。

## 参考書 / Reference Books

教科書16ページA欄に掲げる諸文献参照。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

## その他 / Others

## 身体現象学 S

12932

担当者名 / Instructor 佐藤 勇一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「身体」というテーマは、現在、実に様々な視角から論じられているテーマです。本講義は、このテーマに対して「哲学」からの接近を試みます。哲学においては、身体は様々な枠組みで語られてきましたが、これが主題的に論じられるには、20世紀の現象学者、メルロ＝ポンティを待たねばなりません。そして、哲学に限らず身体に関する様々な視角へ影響を与えた者として、フーコーの存在は大きいでしょう。そこで本講義では、1) 哲学の歴史において身体がどのように扱われてきたのか、2)メルロ＝ポンティが身体についてどのように論じたのか、3)フーコーが身体の問題の多様性をどのように論じたのか検討することにした。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 受講する学生は、次のことができるようになるでしょう。また、そうなるように、真剣に受講することを望みます。
- ・哲学史における基本概念を幅広く理解し、身体がどのように論じられてきたか説明できる。
  - ・メルロ＝ポンティの思想において身体が中心テーマの一つであったことを、彼が論じた文脈において説明できる。
  - ・異常性や生政治等に関するフーコーの見解を概説できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。この講義は、哲学に関する予備知識がなくとも十分理解可能です。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入講義	
第2 - 4回	1) 哲学史における身体 古代ギリシャ哲学	アルケー、イデア、エロス、共通感覚、形相、国家、質料、ソーマ・セーマ理論、魂の区分、ピュシス、物活論、
第5 - 6回	1) 哲学史における身体 - ヘレニズム期の哲学、および、キリスト教	アタクシア、アパテイア、栄光の身体、肉、自然、受肉、神秘体、ストア、罪、等。
第7 - 9回	1) 哲学史における身体 - 近世の哲学(特に17世紀)	王の二つの身体、感覚、科学革命、機械論、共通感覚、光学、コギト、自然的判断、情念、心身合一、心身二元論、等
第10-11回	2)メルロ＝ポンティにおける身体 現象学とゲシュタルト心理学	感覚、経験論、幻影肢、現象野、恒常性仮説、主知主義、代償行為、身体図式、二重感覚、反射、フィー現象、等
第12-13回	2)メルロ＝ポンティにおける身体 現象学と古典的理論	遠近法、共通感覚、キリスト教、現象的身体、自然的判断、シュナイダー症例、真理、生活世界、制度化、手がかり、等
第14-15回	3)フーコーにおける身体	エビステーメー、狂気、権力、身体の監獄である精神、真理、性、生政治、

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業中に指示した文献を学習するとよいでしょう。特に、哲学史に関する部分では、多くの参考文献がありますから、自習しておくことが理解が深まるはずですが。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	65 %	語句説明、および概念同士の連関に関する記述問題を出します。
日常点・その他	35 %	毎回授業終了後に簡単な質問ペーパーを書いてもらいます。授業の内容に関する小レポートを2回実施します。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書を用いない講義形式の授業ですから、毎回の講義内容を真剣に聞くことが大切です。

## 教科書 / Textbooks

用いません。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヨーロッパ思想入門	岩田靖男 / 岩波ジュニア新書 / 4-00-500441-5 C0210 / ジュニア向けの入門書ですが、哲学について全く知らない者はこれで大きな歴史の流れをつかむとよいでしょう。
西洋哲学史 理性の運命と可能性	/ 昭和田 / 哲学の歴史に関する知識を補うことができます。
講義・身体現象学 身体という自己	ヴァルデンフェルス / 知泉書院 / 現象学的な身体論研究について知ることができます。

知覚の現象学

メルロ = ポンティ / みずず書房 / /メルロ = ポンティの身体論に関しては主にこの著作から扱います。

Histoire du corps

/ Seuil / / 身体をめぐる様々な問題を知ることができます。

その他、授業中に指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、地理、歴史、社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。この講義では、1. 身体表現の概念と諸相 2. 日本と世界各国におけるしぐさの相違、3. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と社会文化とのかかわりを考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は地理、歴史、社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目  
文化人類学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	身体表現の概念	身体表現の諸相(非言語コミュニケーション)
2回	しぐさの国際比較	欧米のしぐさの比較
3回	しぐさの国際比較	世界各国のしぐさ
4回	様式化された身体表現(舞踊) 小テスト実施	無文字社会(特にアフリカ)の舞踊
5回	日本の伝統的な舞踊	古典舞踊と民俗舞踊
6回	日本の伝統的な舞踊	変化しつづける民俗舞踊
7回	中間のまとめ	グループワーク、プレゼンテーション、レポート提出
8回	アジアの舞踊	韓国の伝統的な舞踊
9回	アジアの舞踊	インドの伝統的な舞踊
10回	欧米の舞踊	フォークダンス、バレエ、モダンダンス
11回	欧米の舞踊 小テスト実施	ポストモダンダンス、ジャズ
12回	クロスオーバーする現代の舞踊	パフォーマンス、具体
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	オルタナティブ・スペースと舞踊
14回	総まとめ	レポート提出

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	テキストおよび授業の理解度を評価する。
日常点・その他	40 %	2回のレポート提出・どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会 / 大修館書店 / 4-469-26197-1 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァーガス / 新潮社 / 4-10-600334-1 /
しぐさの世界	野村雅一 / 日本放送出版協会 / 4-14-001429-6 /
異界へのメッセンジャー	姫野 翠 / 出帆新社 / 4-86103-016-1 /
おどりの美学	郡司正勝 / 演劇出版社 / 4-900256-40-4 /
渡来の祭り 渡来の芸能	前田憲二 / 岩波書店 / 4-00-024123-0 /
舞踊と社会	遠藤保子 / 文理閣 / 4-89259-375-3 /
手の日本人 足の西欧人	大築立志 / 徳間書店 / 4-19-554087-9 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 滝野 功

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

心理学があつかう広大な分野や活動領域における様々な現象、出来事、事例などに接して、それらに対する多様な見方を知り、この多様性を味わいながら、この領域に向かう窓を開ける。また、自らの集団との関わり方、物事やコミュニケーションに対するアプローチや関わり方をさまざまな形で試みる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 一これまでの学び方を徹底的全面的に見直しながら、自分にあった学び方を見つけ、学ぶ喜びの再発見をする。
- 一(こころ)についてさまざまな学び方を模索し(こころ)と(からだ)、モノそして環境との関わりを考える。これらは同時に、可能な限り1)心理(学)的なセンスを育て、2)自分の内に宿る可能性を探り、3)(物事)や(事柄)そして(関わり)について吟味・検討する力を養う糸口を見つけることでもある。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。むしろ心理学に対して、どのような既存観念がどのような経路で入っているか、そして、それが学びのためのどのような障壁になっているか、これらを調べることをお勧めしたい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	こころとは何か? 心理学とはなにか? 学び方について、評価について	キーワード:その有用性と剥奪性・阻害性
2	プログラム学習と発見学習(以下3回以降に記載することは扱いたいと考えているテーマあるいは行いたいことの列挙) 選択試験(予定)	自由と不自由、主体性 ソ振り返り・吟味検討 クラテスの教授法 試験 評価 差別化 分類化
	学びと心理的センス:どのような感じ方、関わり方、考え方が心を豊かに伸ばして行くか??	学習意欲 学習性無気力 知的好奇心
	個性と性格:自分のパーソナリティはどのように気づくことができるか?それを育てることは何を意味するか? どのようにしたらできるか?	性格 パーソナリティ 自己評価 他者評価
	食べる・飲む・吸うこと:その生理と心理と病理について各自自分の日々の生活の観察から考えてみよう。	摂食障害 嗜癖
	自立と依存:「大人」になるということはどういうことか?自分は何だけ大人になっているか?そもそも大人とは?	成長 成熟 進歩 退行 逸脱
	自我とアイデンティティとコミットメント:自我の働きにはどういふことがあるか? それらはどのように発達するか? アイデンティティとそれからの解放?	自我心理学 心理的誕生 自我防衛機序
	集団のなかで生きることについて どのようにしたらその中で自分をつぶされずに集団を活かせるか?	いじめ スケープゴート
	愛と憎しみと依存性:親密さと愛情と性愛とはどのように関連しているか? それらはどのように変化し、発達したそれに失敗するか?	精神分析 両義性
	嘘と騙し 日本人はなぜ簡単に騙されるか? 嘘はこころにとってどのような意味があるか? 悪いことだけなのか? 成長に不可欠であるのはなぜか?	
	宗教と神秘主義とマインドコンとロール:日本人にとって宗教とは何か? 宗教を求める気持ちと軽蔑する気持ちはどこから来るのか?	
	失うことと死ぬこと:人は喪失にどのような対応をするのか? 喪失体験が人を成長させるため条件は何か?	喪失体験 喪の営み
14	グループ発表会	
15	全体の振り返り、吟味検討・フィードバック・反省と感想	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	0 %	実施も方法・形式も未定
レポート試験	0 %	一部分には確実にあり、評価の対象になる

最終講義日試験 0% これは原則としてなし

-----  
 日常点・その他 0% 例えば、このシラバスを熟読しているかどうか等が評価には関わってくる  
 -----

上に挙げたものは現在対象者がわからない時点での滝野のおよその考えにすぎず、実際の履修者・参加者が決まったところで別なやり方を呈示することになる。基本的には、授業に対する係わり方(質疑応答・グループ討議など)と毎回の自主的な振返りや「反想記録」さらに個人や小集団での研究と発表などによって評価したいと考えてはいる。しかし、望むところは、評価方法について学生と話し合うことである。「評価」そのものについて考えることが、実は心理学の重要な課題にもなるからである。できれば、学生の「評価準備委員会」なるものをつくり、なんらかの評価作業に参加させたいとも考えている。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義または授業でやること起き上がってくることは、多くの人にはこれまで受けてきた「授業」とは、大きく違ったものになり、違った展開になるかもしれない。この時、自分のなかに生じる驚きや当惑、感動や違和感こそを心理学を学ぶ上の第一素材として大切に扱ってほしい。それらがどこから来るのかをじっくり考えてほしい。そしてそれらを吟味検討できる力こそを、仲間と共に育ててほしいと願っている。

#### 教科書 / Textbooks

「授業」と「自分」の内と外とで語られたり生じたりすることこそが、解読すべきものが織り込まれている原典(text)である。しかし、もちろん同じに解読するためには参考文献ばかりか、適宜、新聞や雑誌の記事、そしてできれば映画やドキュメンタリー・フィルム等を紹介する予定。

#### 参考書 / Reference Books

展開にしたがって関連のあるさまざまなものを次々に紹介する予定。書物ばかりでなく、新聞・雑誌の記事や映画を含めた映像資料、また講演会シンポジウムなどの催しなども紹介したい。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

展開のなかで関連のサイトを紹介したい。受講者からも参考になるサイトを見つけたら、伝えてほしい。非常に参考になるサイトを紹介した受講生は、貢献度を評価したい。

#### その他 / Others

[重要]

必ず第1回目から出席のこと。この授業 実は「授業」とは別な名前を募集中 では、自分が関与した限りにおいて学ぶところがあるもので、できるだけ楽をして単位取得のみを望む学生には向いていない。

就職活動や部活などで、しばしば遅刻や欠席などがあり得る学生は基本的に履修できないし、履修しても合格するとは限らない。該当の学生は必ず、あらかじめ滝野に直接相談すること。

## 心理検査法 S

13000

担当者名 / Instructor 目黒 朋

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ、心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
- ・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
- ・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差 回帰分析 相関係数 ルート機能のついた電卓
第6回	心理検査の実際 - 知能検査法	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際 - 知能検査法	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際 - 発達検査法	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際 - 発達検査法	発達診断
第10回	心理検査の実際 - 発達検査法	発達相談
第11回	心理検査の実際 - 性格検査法	作業検査法
第12回	心理検査の実際 - 性格検査法	質問紙法
第13回	心理検査の実際 - 性格検査法	投影法
第14回	まとめ-心理検査の活用と心理検査者の倫理	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
日常点・その他	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受取しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根(ルート)機能のついた電卓を用意すること。いわゆる「心理ゲーム」のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門-正確な診断と評価のために-	渡部 洋 / 福村出版 / 講義内で使用するため必携

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査の実際	水田善次郎 編 / ナカニシヤ出版 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 心理臨床論 S § 心理臨床 S

15223

担当者名 / Instructor 辰巳 朋子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

心理学は、社会に有益で実践的な学問として認知され、心理臨床実践はそのフィールドを広げつつあります。担当者は産業領域・教育領域で働いていますので、事例や経験を伝えながら、心理的な援助とはどのような援助なのかについて、できるだけ具体的に、現場から考えていくことをめざします。

授業の方法は、講義のほか、小グループでの討議やいくつかの実習を行います。また、期間半ばまでに心理臨床・臨床心理学に関わる本を1冊読み、レポートを提出することを求めます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 臨床心理学の現状を知る。
2. 心理臨床実践の分野と援助・介入技法について、概観する。
3. 心理的な援助の基本姿勢・基本の技術を体験する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	聴いてもらうと何が起こるか <話す聴く観察する実習>	言葉にする・気持ち・心の4つの窓
第2回	カウンセリングと身の上相談、コンサルティング <グループ討議>	心理的援助・専門性・資格
第3回	心理専門職の実践領域その1 見取り図と産業領域	4つのケア・自殺対策基本法・EAP
第4回	心理専門職の実践領域その2 若者支援・就労支援とスクールカウンセリング	選ぶ・キャリア教育
第5回	心理専門職の実践領域その3 医療・福祉・司法・子育て支援など	
第6回	介入の技法紹介～気がかりに尋ねる(フォーカシング)	体験過程
第7回	援助者の養成と支える仕組み	事例検討・スーパービジョン
第8回	「苦手な場面」からインシデントプロセス法による事例検討 <実習>	
第9回	援助の終結～人が変わるとき	気づく・関係性
第10回	見たてについて	心理アセスメント
第11回	災害・事件・事故への対応について	ストレスマネジメント・緊急支援
第12回	臨床心理士の専門性について	
第13回	皆のレポートから	
第14回	援助者として倫理について	カウンセラーの倫理要綱
第15回	定期試験	

その時々的事件や受講者の様子によって変更することがあります。

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

臨床心理学に関わる図書を1冊読了し、その中で興味を持ったことについてのレポートを10回目までに提出する。13回目は、取り上げられた本のリストを配布したり、読後感の交換や質疑応答を行う。(1回目に説明します)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	知識が正確で、説得力のある説明がなされているか。
レポート試験	20 %	期限までの提出。引用と自分の意見を分けて述べられているか。
日常点・その他	20 %	毎回、コミュニケーションペーパーで感想を求める。どのように受け止めたかとか、自らの心の動きについて、伝わるように言語化されているか。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

**授業の概要 / Course Outline**

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それが“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から成り立つのか、変化は何故起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツは一つのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつものなのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げている現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇論」「レジャー・スポーツ社会学」「レジャー・スポーツ史」「比較スポーツ論」を履修しておくことが望ましい。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序) スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る
第2週	(序) スポーツ・ルールの意味	(2)ルールの意味空間と技の構成: Wrestring/角力/相撲
第3週	( ) 2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第4週	( ) 明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第5週	( ) 明示的ルール	同上
第6週	( ) 明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割: 不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第7週	( ) 明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第8週	( ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)ルールを支える条理規範—守能説とフィレリー説を手がかりに—
第9週	( ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されていない」プレイの逆進性
第10週	( ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領 (3)スポーツマンシップとフェアプレイ: 「競うことの正義」
第11週	( ) ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本のスポーツ精神と武士道的倫理(5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第12週	( ) 現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第13週	( ) 現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル: 生命の自己決定権と普遍的人間性
第14週	( ) スポーツの競争と交流	(1)競争の序列と結果主義 (2)「競い合い」かたの美学
第15週	( ) スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

スポーツ知識は「常識」のようであるが、その「常識」を疑うことから始めること。「ルール」を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

**教科書 / Textbooks**

書名 / Title 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

///

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
スポーツの自由と現代 下巻	草深直臣他編著 / 青木書店 / /
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄 / 有斐閣 / /
スポーツのモラルを考える	近藤良享 / 大修館 / /
スポーツのモラル	J.フィレーリー / 不味堂 / /

参考文献・資料については、レジメに明記する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

- 1) レジメは、資料を含めて章・節ごとに教室でのみ配布する。
- 2) 解らないことはその場で質問すること。解った気にならないこと。

## スポーツ行動論 S

12994

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会理論は「スポーツ」を把握する試みを通じて、理論そのものの魅力や豊かさを深めてきた。そこで、本講義の目的は、社会理論がスポーツのように扱い、それを通じて社会理論がどのように発展してきたのかという相関関係に注目し、そこから社会理論のアクチュアリティを検討することにある。そのさい、本講義では、スポーツ研究において様々な成果をあげてきたエリアス学派に注目し、この学派が依拠するノルベルト・エリアスの社会理論とスポーツをめぐる諸問題を検討したい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

エリアス学派のスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。強いていえば社会学史、社会学理論を扱った講義を受講している、受講したことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	
2～3	エリアスの社会理論	フィギュレーション、文明化過程、脱形式化
4～5	文明化過程におけるスポーツの発生	感情抑制、国家形成、身体、ハビトゥス
6～7	スポーツにおける暴力の問題	サッカー・フーリガニズム、階級、アイデンティティ
8～9	スポーツにおける感情の問題	感情抑制、興奮の探求、社会的結合
10～11	スポーツにおけるジェンダーの問題	ジェンダー、階級、アイデンティティ
12～13	反エリアス学派のスポーツ研究	ブリティッシュ・カルチュラル・スタディーズ、ヘゲモニー論、構造化理論
14	まとめ	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義内容の理解 各自の問題設定の仕方
日常点・その他	10 %	進度に合わせた簡単なレポートや感想文の提出。'抜き打ち'の出欠確認でもある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストを使用せず、講義毎にレジュメを配布する。なお、講義において視聴覚教材を用いることもある。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Sport and Leisure in Social Thought	Grant Jarvie and Joseph Maguire / Routledge / 0-415-07704-4 /
Sport and Modern Social Theorists	Richard Giulianotti(ed) / Palgrave / 0-333-80079-6 /
スポーツ・レジャー社会学: オールタナティブの現在	デービッド・ジェリー他編 / 道和書院 / 4-8105-4008-1 /
スポーツの近代史社会学	リチャード・グルノー / 不昧堂 / 4-8293-0360-3 /
社会学思想小史	アラン・スウィンジウッド / 文理閣 / 4-89259-128-9 /
問題としてのスポーツ	エリック・ダニング / 法政大学出版局 / 4-588-02222-9 /
スポーツと文明化	ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング / 法政大学出版局 / 4-588-00492-1 /

講義ごとに改めて紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## スポーツ産業論 S § スポーツ産業論 I S

12941

担当者名 / Instructor 海老島 均

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

市場主義者のイデオロギーであるグローバリゼーションという世界観に席捲されているスポーツの世界では、ビッグマネーの力で上方統合され、ローカルな組織の経済的統制力が骨抜きにされている。そこで敢えて「地域社会」というキーワードでスポーツ産業論を論じることは意義があるとの判断から本講義を構成した。

## 到達目標 / Attainment Objectives

スポーツが持つ「地域」を活性化させる可能性、市場社会において消費されるスポーツなど、「産業」をキーワードにスポーツを取り巻く現代社会の様相を理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	イントロダクション - スポーツ産業論の視点	消費財としてのスポーツ、スポーツ科学とスポーツ産業
	グローバリゼーションとスポーツ産業	グローバリゼーション、統括団体、スポーツ関連企業、マスメディア
	グローバリゼーションとスポーツ産業	グローバリゼーション、伝統文化、多国籍企業、スウェットショップ
	国内のプロスポーツとスポーツ産業	プロ野球、Jリーグ、スポーツの公共性、プロスポーツ経営、セカンドキャリア
	スポーツファンの文化とメディア	消費者、スポーツの公共性、市場、マスメディア
	国内のスポーツ振興と地域社会に関する諸問題	スポーツ振興基本計画、総合型地域スポーツクラブ、地域振興
	総合型地域スポーツクラブとスポーツNPO	総合型地域スポーツクラブ、スポーツNPO、PFI、指定管理者制度
	諸外国におけるスポーツ振興と地域社会 (イギリス)	地域のアイデンティティ、ウィンブルドン選手権、プレミアリーグ、ラグビー
	諸外国におけるスポーツ進行と地域社会 (ドイツ)	地域クラブ、ブンデスリーグ、企業とスポーツ振興
	諸外国におけるスポーツ振興と地域社会 (アイルランド)	アイリッシュ・スポーツ・カウンシル、GAA、ローカル対グローバル
	スポーツとギャンブル	スポーツのギャンブル性、公営ギャンブルとスポーツ振興
	スポーツ産業と近代スポーツの臨界点(ドーピング、環境破壊問題等)	ドーピング、スポーツ科学、環境問題、近代スポーツの臨界点
	まとめとスポーツ産業の将来像	スポーツの公共性、スポーツ文化
	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	講義内容に関する理解度およびそれぞれのテーマに関しての洞察力
日常点・その他	50 %	講義へのコミットメントの度合い
日常点と試験から総合的に評価する		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代企業スポーツ論	佐伯年詩雄 / 不昧堂出版 / /
ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツ社会	黒須・水上 / 大修館書店 / /
スポーツイベントの展開と地域社会形成	佐伯聰夫 / 不昧堂 / /

佐伯年詩雄著『現代企業スポーツ論』不昧堂出版(2004)

黒須・水上編著『ジグソーパズルで考える総合型地域スポーツ社会』大修館書店(2002)

佐伯聰夫編著『スポーツイベントの展開と地域社会形成』不昧堂(2000)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業で紹介する

その他 / Others

国内外のスポーツが抱える問題について、広く問題意識を強く持っていて欲しい。

担当者名 / Instructor 山下 高行

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。本講義では、この問いに答えるためこれまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的研究や理論の紹介を通し、何が、どのように見えてくるのかを示すこととしたい。

またこの講義では、その応用問題にあたるが、今日のスポーツを、スポーツ社会学はどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかを説明することとしたい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。
- ・そのことを通して、現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることを、最終的な目的とします。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

- ・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論の科目をあらかじめ、または並行して受講することで理解が深まると思います。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデューとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル・スタディーズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化とスポーツの社会的基盤の変化	第二臨調・行革、ブラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

定期試験(筆記) 100% 1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーによる講義、授業時に課すレポートは加点として取り扱う場合もある。その旨授業時に指示する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3年生以上の受講が望ましい。2年生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。

**教科書 / Textbooks**

特に使わない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編 / 道和書院 / / 理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編 / 世界思想社 / 4-7907-0723-7 / 現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03509-3 / 近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編 / 世界思想社 / 4-7907-1052-1 / 新しいスポーツの主体を考察する
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ / 不昧堂 / 4-8293-0267-4 / カルチュラスタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング / 法政大学出版 / 4-588-00492-1 / エリアス学派のスポーツ論

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.jsss.jp/> (日本スポーツ社会学会HP)

## その他 / Others

## スポーツ文化論 S § スポーツ文化論I S

12899

担当者名 / Instructor 草深 直臣

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツの概念を歴史的にたどりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構(Institution)の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を抽出し、人間-スポーツ-社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアプローチする方法を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」を事前に履修しておくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章:1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語 体験の対象化
第2週	序章:2節 グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ スポーツのローカリズム
第3週	章 スポーツ概念の変遷	(1)スポーツの語源 (2)英語圏
第4週	(3)ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	(4)スポーツ概念の特徴:行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	章 スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ"ホモ・ルーデンス"、(3)カイヨワ"2極4領域"説
第6週	章 スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判 (2)スポーツの多層的把握
第7週	章 スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標:a)組織 b)技術 c)シンボル d)教育
第8週	章 スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ :a)プレイヤーノットコントロール(Edward) b)管轄機構の支配力 c) 機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	章 スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	章 スポーツ機構説の展開	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説 (3)構造-機能主義の問題点
第12週	章 スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義 (2)客観的実在としてのスポーツ
第13週	章 スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示
第14週	章 スポーツの構造的把握にむけて	(4)スポーツ構造における機構の主導性 (5)ガッツマンの[近代化の指標]の再検討
第15週	章 スポーツの構造的把握にむけて	(6)競技と交流:結果と過程 (7)応援と観賞

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ・ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化・変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

## 教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

## 参考書 / Reference Books

**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

スポーツの自由と現代、上下

伊藤高弘・草深直臣他編 / 青木書店 / /

スポーツの概念

体育原理分科会編 / 不昧堂 / /

スポーツ文化を学ぶために

スポーツ社会学会編 / 世界思想社 / /

スポーツと文化帝国

A.ガッツマン / 平凡社 / /

その他、参考文献は各章毎にレジユメに明記する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

- 1) 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
- 2) レジユメは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。レジユメ配布は予告する。

## スポーツメディア論 S § スポーツ・メディア論I S

15286

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか、スポーツ番組がどのように構成されているのか、視聴者や読者がどのような状況に置かれているのかといった問題を、スポーツ文化それ自体の特性(メディア性)をふまえて考察していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

スポーツの意味や価値が自明のものではなく、様々な力関係もとで、一定の仕掛けを経て創り出されていること、「メディアスポーツ」が政治・経済や権力と深く結びついたものであることを主要なテーマとして追求する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツとメディアに関する研究 領域と課題	
2	テレビにおける映像変形の原理	
3	スポーツ番組のプロデュース その一例	
4	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」	
5	「メディアスポーツ」の構造 その生産・流通・消費の過程	
6	中間まとめ	
7	「プレビュー番組」の構造と役割	
8	メディアがつくる物語 その提示と修正について	
9	「メディアイベント論」とスポーツ	
10	高校野球の発展と新聞の社会面の役割	
11	武道の普及とメディアの役割	
12	「文化装置」としての国民体育大会	
13	メディアによる分節・接合	
14	まとめ:作り手の意図と読み手の多様性	
15	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	現象や構造の理解および問題の把握
日常点・その他	20 %	備考欄参照

毎回授業に出席して話を聞くことは学習する上で重要であり、同時に期末試験で評価を受ける上で受講者に求められることである。そういった意味で(こちらで受講者の日常の学習をチェックということも含めて)、授業内の簡単なレポートや小テストを何度か行いたい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

書籍だけで学習することが難しい科目なので、当たり前の話だが、授業に毎回出席して、分からないところがあれば質問をして欲しい。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

適宜授業の中で紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

受講を検討する際に、本講義が、実学的なメディア制作現場のハウ・トゥーものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また、他学部受講を考えている学生は、本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり、単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではないし、単位取得も難しい。

## 生活構造論 S

15275

担当者名 / Instructor 市井 吉興

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、人間の生活を理解するための視角と方法を扱う。私たちの生活がどのように変わってきたのかを歴史的に確認するとともに、現代日本における生活をめぐる諸問題についても、生活構造論をはじめとするさまざまな生活論を通じて理解を深められるようにする。なかでも、本講義は「生活構造と生活時間」に注目し、余暇・レジャー政策、自由時間政策の分析を試みたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

人間の生活とそれをめぐる諸条件との関連を把握し、自らの生活や、現代社会における生活問題についてよりいっそう理解できるような視角と方法を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義のイントロダクション。講義概要と評価方法などについて	
第2～第3回	生活構造論についての基礎的確認	
第4～第7回	日本社会の変化と生活	
第8～第12回	生活構造と生活時間	
第13回	今日の生活問題を考えるために	
第14回	全体的なまとめと質疑応答	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

本講義では配布するレジュメと資料を用いて講義を行う。また、講義内容を深めるためにも映像資料を積極的に活用したい。なお、本講義では現代社会における生活問題にも触れるため、ニュースや新聞などを通じて、さまざまな問題に対し関心を持つように心がけてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	中間レポート(20%)と期末レポート(80%)の2回にて評価を行なう。中間レポートでは、各回の講義の中から各自で任意の1つを取り上げ、講義内容をもとにしたレポートの提出を求める。期末レポートにおいては、講義の理解度と、各自が講義から何を学んだのかを評価基準とする。
日常点・その他	0 %	講義中にコミュニケーションペーパーの提出を求める場合があるが、出席点評価としては一切加味しない。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「授業外学習の指示」を参照。

## 教科書 / Textbooks

本講義は、特定の教科書を用いない。講義ごとにレジュメや資料を配付する。

## 参考書 / Reference Books

倉内史郎編著,1975,『労働・余暇と教育:生活構造の変化は何を求めているか(現代教育講座:8)』第一法規出版。

経済企画庁国民生活局,1975,『生活時間と生活構造』大蔵省印刷局。

経済企画庁国民生活政策課編,1977,『これからの生活と自由時間:その現状と対策の方向』大蔵省印刷局。

余暇開発センター編,1999,『時間とは幸せとは:自由時間政策ビジョン』通商産業調査会出版部。

市井吉興,2006,『戦後日本の社会統合と『レジャー』:レジャー政策から自由時間政策への転換とその意図』『立命館産業社会論集』42(3),67-86。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義内にて適宜紹介する。

## その他 / Others

授業スケジュールに関しては、進捗状況や受講生の理解度などを加味して変更する可能性がある。

## 生活福祉論 S § 都市生活特論 S

15192

担当者名 / Instructor 西田 心平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

政治・経済のグローバル化、人口の減少、格差の拡大といった変動にもなっており、これまで社会福祉の対象であった「住民」像がそれほど均質のものではなくてきている。この講義では、私たちの身近な地域社会を構成している生活主体 (= 「住民」) とは誰か? という問いかけを軸としながら、その主体の多様性から見えてくる現代福祉の問題点と可能性について検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・生活主体の多様性と福祉との関係について理解できる
- ・それがマクロな変動とどのように関わっているのか考察できる。
- ・具体的な生活主体をとりあげ、それをめぐる福祉の問題点を論じることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な知識が求められる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義のガイダンスと導入	生活福祉の視点
第2 - 4回	家族問題と福祉	生活変動 家族機能 ジェンダー
第5 - 7回	高齢者世帯と福祉	生活格差、単身者化、家族と介護
第8回	中間まとめ	
第9 - 11回	外国人労働者と福祉	エスニシティ 定住化と参加 多文化主義
第12 - 14回	ホームレスと福祉	低所得者 社会的セーフネット 若者問題
第15回	全体まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

とくにありません。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義内容の理解度や受講生の見解について論述問題等を通じて評価する。
日常点・その他	20 %	講義の進度に合わせて、何度か理解度を確認するための簡単なレポートを課す。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

詳細な板書はしません。ポイントを自分なりにノートすることで理解は深まります。もちろん毎回出席されることが前提です。

## 教科書 / Textbooks

特定のテキストは使用せず、テーマ毎にレジュメを配布する予定です。なお、講義においてVTR等の視聴覚教材を用いることがあります。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学』	加藤直樹ほか編著 / ミネルヴァ書房 / /
『日本都市の生活変動』	中川清 / 勁草書房 / /
『リスク社会を生きる』	橋本俊昭編 / 岩波書店 / /
『生活問題と地域福祉』	三塚武男 / ミネルヴァ書房 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 中村 治

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

環境破壊の原因を思想に求めるのではなく、暮らしの変化に求める。そして戦後に暮らしの大きな変化が起こるまで、どのように暮らしが営まれていたのか、それがどのような過程を経て変化し、その結果、どのような問題が起こってきたのか。昔の暮らしぶりを写した写真を見ることにより、身近な暮らしの変化から、現代社会がかかえる諸問題を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

自分の身近なところで起こっている変化を見つめ、その変化の原因について考え、その変化と自分とのかかわりについて考える力を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	環境破壊の原因はキリスト教にあるのではないかというリン・ホワイトによる問題提起	リン・ホワイト、聖書、創世記
第2回	アウグスティヌス、トマス・アクィナス、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルトらの説を見ることによって、リン・ホワイトの説を検証する	アウグスティヌス、トマス・アクィナス、ニコル・オレーム、フランシス・ベーコン、デカルト
第3回	ヨーロッパ中世の産業革命を見ることにより、自然に対する人間の支配力が増大していった様子を見る	農業革命、馬、水力利用、毛織物業
第4回	暮らしの変化が始まる前の京都近郊農家の一年	米、麦、野菜、豆、自給自足
第5回	食	地産地消
第6回	農作業の機械化	購入費用、保管場所
第7回	暮らしの機械化	電化
第8回	運搬方法の変化	汽車、電車、バス、トラック、車
第9回	燃料の問題	山林荒廃、地球温暖化
第10回	廃水処理の問題	電動ポンプ、水道、すいも、下水処理、水質悪化
第11回	子どもの暮らしの変化	地域共同体、地域の日
第12回	冠婚葬祭の変化	地域共同体、葬列
第13回	小学校卒業写真に見る暮らしと風俗の変化	洋服、学生服、髪型、戦争
第14回	地域と障害者	精神病者家族的看護、岩倉、大雲寺
第15回	学生による発表	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

古い写真を家族、親戚、知人から借りて、コピーし、その写真が暮らしの変化においてどのような意味を持っているのか聞いて、発表すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	10 %	小テスト。
レポート試験	50 %	身近な問題を取り上げること。独自の資料を集めること。聞き取りをしていること。
日常点・その他	40 %	身近な問題にどれだけ関心を持っているか。写真についての聞き取りの成果の発表。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分の身近なところで起こっている変化に注意し、その変化の原因について考え、その変化を自分との関係において考える力を養うこと。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『あゝのころ京都の暮らし』2004年	中村治 / 世界思想社 / ISBN4-7907-1095-5 /

## 参考書 / Reference Books

- 『京都洛北の原風景』、中村治、世界思想社、2000年、ISBN4-7907-0816-0。
- 『癒しの里・洛北岩倉』、中村治・青山純、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2000年。
- 『京都府レッドデータブック』下巻(地形・地質・自然生態系編)、京都府企画環境部企画課、2002年。
- 『洛北岩倉研究』第1号～第7号、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、1997年～2003年。
- 『卒業写真で見る暮らしと風俗の変化』、中村治、岩倉の歴史と文化を学ぶ会、2003年。
- 『古写真で語る京都 映像資料の可能性』、京都映像資料研究会編、淡交社、2004年、ISBN4-473-03149-7。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 精神分析論 S § 精神分析論I S

15205

担当者名 / Instructor 村本 詔司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神分析は今日でも最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、思想、精神運動、社会文化現象でもある。本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析(深層心理学、力動心理学と称される)の思想的・社会文化的背景、基本概念、その多様な学派の展開などを概説し、あわせて、映画・文学・音楽などの文化における精神分析の影響やその扱われ方に注目する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- (1) 教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化についてのリテラシーを広め、深めること。
- (2) 基本的用語に英語で馴染む。
- (3) 心理臨床関係の仕事を目指するものにとってのある程度の準備。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	原始的な心理療法(前近代社会における癒し): 宗教と心理学への分化以前	シャーマニズム、悪魔払い、憑依、癒し、
第2回	近代社会における心の扱われ方	自然科学、合理主義、経験主義、観念論、唯物論、科学哲学
第3回	ユダヤ的なもの	ユダヤ人、ユダヤ教、カバラ、ハシディズム
第4回	映画・音楽・文学における心理学(1)	オルフェオ
第5回	フロイトの生涯と精神分析(1)技法	フロイト、精神分析、精神分析家、催眠、夢
第6回	フロイトの生涯と精神分析(2)人格理論と発達理論a	リビドー、エディプス・コンプレックス、
第7回	フロイトの生涯と精神分析(3)文化の解釈、文化への影響、文化からの評価	欲望の断念、空想、昇華、心理学人間
第8回	映画・音楽・文学における心理学(2)	オエディプス
第9回	関係性・社会性の心理学(1)(アドラー、対象関係論、新フロイト派)	アルフレート・アドラー、個人心理学、劣等感
第10回	関係性・社会性の心理学(2)(対象関係論、新フロイト派)	対象関係論、新フロイト派
第11回	宗教性(スピリチュアリティ)の心理学(ユング)	コンプレックス、集合的無意識、元型
第12回	映画・音楽・文学における心理学(3)	映画「ゴットファーザー」、「アナライズ・ミー」
第13回	哲学と精神分析: ロゴセラピー、現存在分析	ヴィクトール・フランクル、現象学、実存主義、解釈学、マルティン・ハイデッガー
第14回	まとめ	
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

オンライン百科事典Wikipedia(日本語版、できれば英語版も)の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	課題への姿勢と取り組み
最終講義日試験	60 %	授業内容の理解
日常点・その他	20 %	出席、コミュニケーションカードの提出。授業内容への積極的な姿勢と取り組み。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ(<http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/>)のトップページからメールで行うことができる。

## 教科書 / Textbooks

特になし。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子 / 三学出版 / /

フロイト著作集

/ 人文書院 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia(日本語版、英語版)の関連項目

その他 / Others

## 精神保健福祉援助演習 S

14151

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性(価値・倫理、知識、技術)を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

揺れながら共に学び、共に育つ。  
 討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。  
 生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。  
 専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。  
 他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	援助演習の約束 自己開示
第2回	精神障害者の生活と支援	KJ法 当事者理解
第3回	精神障害者の生活と支援	リフレーミング ストレngthス
第4回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル	話す人としての役割 聞く人としての役割
第5回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル	バイステック7原則 循環的關係
第6回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル	非言語的コミュニケーション ロールプレイ
第7回	課題の発見・分析と支援計画 - 統合失調症 -	マッピング技法 ICF 資源
第8回	課題の発見・分析と支援計画 - アディクション -	マッピング技法 家族支援
第9回	課題の発見・分析と支援計画 - 思春期・青年期 -	マッピング技法 家族システム 多機関連携
第10回	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応 受療支援 退院促進
第11回	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護 家族調整 住居設定
第12回	社会復帰施設におけるソーシャルワーク事例	柔らかな危機対応 自立支援 結婚 ステイグマ
第13回	自己覚知	自身の長所・短所 ゲーム 他己紹介
第14回	自己覚知	強さに視点をあてた自己理解
第15回	前期のまとめ	
第16回	グループワーク	SST 日常生活場面 デイクア
第17回	グループワーク	心理教育 統合失調症圏 思春期・青年期圏 アディクション圏
第18回～第23回	スーパービジョン	限界と課題 自己の可能性
第24回～第29回	各領域でのソーシャルワーク	実習報告
第30回	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	演習への参加回数と参加意欲で判断する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)として育っていく為に、常に当事者の暮らしに関心を持って欲しい。  
 この演習は、精神障害者の生活支援スキルを学ぶことを目的としており、各自の悩みを解決する場ではない。

## 教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

授業のなかで指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 精神保健福祉援助技術総論 I S

20167

担当者名 / Instructor 石神 文子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、効果的な実践を生み出す専門的援助技術について理解させる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者の社会生活を支援するための「生活支援」について、個別・集団・地域のすべてにわたって、精神保健福祉士に課せられた役割を理解し、技術を会得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉原論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者に対する社会福祉サービス	社会福祉援助の対象としての精神障害者
2	精神障害者への社会福祉サービスと援助活動(1)	制度
3	精神障害者への社会福祉サービスと援助活動(2)	政策
4	精神障害者への社会福祉サービスと援助活動(3)	方法
5	精神障害者への社会福祉援助活動(1)	目的
6	精神障害者への社会福祉援助活動(2)	価値
7	精神障害者への社会福祉援助活動(3)	倫理
8	精神障害者への社会福祉援助活動(4)	原則
9	精神障害者への社会福祉援助活動(5)	方法
10	精神障害者への社会福祉援助活動(6)	過程
11	精神障害者への社会福祉援助活動(7)	共通課題
12	精神障害者への専門的援助技術	内容と機能の概要
13	精神障害者への専門的援助技術の内容と機能(1)	ケースワーク
14	精神障害者への専門的援助技術の内容と機能(2)	グループワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- (1) 精神障害者の地域での生活に触れるため、作業所などの社会復帰施設でのボランティア活動を薦める。ただし精神障害者に限らず、障害児や要援護 老人への施設なども有意義である。
- (2) 後期に以下の参考書aを読み、レポートを作成する。
- (3) 当事者講師を招待する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	講義内容の理解の程度とそれを発展させる能力
レポート試験	30 %	参考書一冊を読破する
最終講義日試験	10 %	授業態度の積極性の程度
日常点・その他	10 %	社会的な関心の向け方など

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉は実践が理論化されるものであって、現場に触れることが最も理解や実践への熱意を呼び覚ますものである。そして多くの場合障害者の人権は侵害されており、支援者は人権擁護の認識を深めることが何より求められる。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『精神保健福祉援助技術総論』第5巻	精神保健福祉士養成セミナー(改定第3版) / へるす出版 / /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『精神障害福祉の実践～当事者主体の視点から』	石神文子・遠塚谷富美子・真野元四郎編著 / ミネルヴァ書房 / / 精神障害者に対する援助の歴史や人権問題を理論的に整理し、加えてコミュニティケア・就労支援・住居問題・街づくり・ケアマネジメントなど、実践に基づく活動が記録されている。

『生活支援』	谷中輝雄著 / やどかり出版 / / 精神障害者の生活支援とは何かをはじめて解き明かした貴重な冊子である。
『戦後精神保健行政と精神病者の生活 - 精神保健福祉序論』	岡村正幸著 / 法律文化社 / / 精神障害者の生活を、精神病院や保健所(行政)がどのように守ろうとしてきたかを歴史的に考察しながら、脱施設化を阻む我が国の特質が精神障害者の生活困難をもたらしている実態を、多くの資料を基に鋭く追及している。
『わたしの生涯』	ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳 / 角川文庫 / / 重度障害者であるヘレンが、家庭教師として彼女の教育に携わったサリバン先生と共に過ごした年月を語っている。障害を持ちながらも自立し、障害者救済運動を世界的に展開したヘレンの人生を支援したサリバン先生は、ソーシャルワークをその原点から実践したのである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 精神保健福祉援助技術総論II S

15315

担当者名 / Instructor 石神 文子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助活動における専門的援助技術の体系と、効果的な実践を生み出す専門的援助技術について理解させる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者の社会生活を支援するための「生活支援」について、個別・集団・地域のすべてにわたって、精神保健福祉士に課せられた役割を理解し、技術を会得すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉原論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者への専門的援助技術の内容と機能(3)	地域援助技術 - a
2	精神障害者への専門的援助技術の内容と機能(3)	地域援助技術 - b
3	精神障害者への専門的援助技術の内容と機能(4)	リサーチとプランニング
4	関連専門技術(1)	チームワーク
5	関連専門技術(2)	心理面接
6	関連専門技術(3)	家族療法
7	精神保健福祉士の専門的援助技術(1)	チームアプローチ
8	精神保健福祉士の専門的援助技術(2)	精神障害者の尊厳の回復
9	精神保健福祉士の専門的援助技術(3)	自己決定の尊重
10	精神保健福祉士の専門的援助技術(4)	生活支援 - a
11	精神障害者社会復帰施設(1)	種類
12	精神障害者社会復帰施設(2)	機能
13	精神障害者の就労支援(1)	生活支援と就労
14	精神障害者の就労支援(2)	地域におけるネットワーク

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- (1)精神障害者の地域での生活に触れるため、作業所などの社会復帰施設でのボランティア活動を薦める。ただし精神障害者に限らず、障害児や要援護 老人への施設なども有意義である。
- (2)後期に以下の参考書aを読み、レポートを作成する。
- (3)当事者講師を招待する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	講義内容の理解の程度とそれを発展させる能力
レポート試験	30 %	参考書一冊を読破する
日常点・その他	20 %	授業態度の積極性の程度、社会的な関心の向け方など

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉は実践が理論化されるものであって、現場に触れることが最も理解や実践への熱意を呼び覚ますものである。そして多くの場合障害者の人権は侵害されており、支援者は人権擁護の認識を深めることが何より求められる。

## 教科書 / Textbooks

教科書については、別途指示する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『精神障害福祉の実践～当事者主体の視点から』	石神文子・遠塚谷富美子・真野元四郎編著 / ミネルヴァ書房 / 精神障害者に対する援助の歴史や人権問題を理論的に整理し、加えてコミュニティア・就労支援・住居問題・街づくり・ケアマネジメントなど、実践に基づく活動が記録されている。
『生活支援』	谷中輝雄著 / やどかり出版 / 精神障害者の生活支援とは何かをはじめて解き明かした貴重な冊子である。

『戦後精神保健行政と精神病者の生活～精神保健福祉序論』

岡村正幸著 / 法律文化社 / / 精神障害者の生活を、精神病院や保健所(行政)がどのように守ろうとしてきたかを歴史的に考察しながら、脱施設化を阻む我が国の特質が精神障害者の生活困難をもたらしている実態を、多くの資料を基に鋭く追及している。

『わたしの生涯』

ヘレン・ケラー著 岩橋武夫訳 / 角川文庫 / / 重度障害者であるヘレンが、家庭教師として彼女の教育に携わったサリバン先生と共に過ごした年月を語っている。障害を持ちながらも自立し、障害者救済運動を世界的に展開したヘレンの人生を支援したサリバン先生は、ソーシャルワークをその原点から実践したのである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 精神保健福祉援助実習 S

14154

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 4

## 授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりの中で、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である。

## 到達目標 / Attainment Objectives

精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。  
医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得する。  
支援者として自らが求められている課題を明確にできる。  
最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。  
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	実習の意義 目的 一年間の課題
第2回	事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生 現場が求めない実習生 実習に期待すること KJ法
第3回	事前学習 - 実習計画立案にあたって -	実習先の情報収集 実習報告からの学び
第4回	事前学習 - 精神障害者と家族に関する文献学習 -	精神科医療 精神保健福祉 家族間力動 偏見
第5回	事前学習 - 精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法 自立支援法
第6回	実習計画の立て方	目的、意義、目標、課題、評価方法
第7回	実習計画の発表	目的 意義 目標 課題
第8回	実習計画の再発表	目的 意義 目標 課題
第9回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践	パートナーシップ バウンダリー
第10回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践	抵抗 逆抵抗 共感 自己覚知
第11回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践	マイクロカウンセリング技法
第12回	精神科ソーシャルワーカー(精神保健福祉士)の視点と実践	バーンアウト要因
第13回	実践と記録	客観的描写 自己評価 気づき(課題発見)
第14回	実習生の心得	倫理、課題、スーパービジョン
第15回	実習直前ガイダンス	手続き、必要書類、様々な状況への対処
第16～17回	実習の振り返り	当事者 支援者 自己 地域
第18～23回	実習報告	実習概要 学び 成長 今後の課題
第24～26回	実習報告会	報告の準備、報告
第27～29回	共通課題についてのグループ演習	視点 対処法 倫理 自己覚知など
第30回	まとめ	今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

実習前に、実習施設を訪問し、オリエンテーションを受けるとともに、実習計画について相談する。  
前期には、実習に関連する事前学習を行い、その内容の発表準備とレポート作成が必要。また、実習計画書の作成は必須。後期には、実習についてのクラス発表の準備、実習報告会の準備、実習報告書の作成を行う。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献学習とは、各自が文献を検索し、自己学習結果を報告することを意図する。  
実習計画は、グループで発表し指摘を受けた項目を考慮し再発表する機会を与える。  
実習には、受講生が主体的に取り組むことがなによりも求められる。

教科書 / Textbooks

指定しない

参考書 / Reference Books

授業進行と共に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 生命倫理(人間学) S

15231

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本授業では、現代の倫理学者ピーター・シンガーの『実践の倫理』をテキストとして、安楽死、飢餓救済、難民の受け入れ、環境など、幅広く生命に関わる倫理的問題を取り上げる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. 問題に取り組む上で必要な知識を習得すること。テキストを正確に理解する読解力を養うこと。
2. 倫理的な諸問題を批判的に考える態度を身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業スケジュールの説明	
2	倫理学の基本的な理論	功利主義、カント主義、行為者中心的道徳など
3	動物に平等を(1)	動物を道徳的共同体のメンバーとして含めるべきか
4	動物に平等を(2)	
5	安楽死(1)	消極的安楽死 / 積極的安楽死、自発的安楽死 / 非自発的安楽死 / 反自発的安楽死
6	安楽死(2)	
7	富める者と貧しい者(1)	豊かな国の人々には貧しい国の人々に援助する義務があるか
8	富める者と貧しい者(2)	
9	内部の者と外部の者(1)	豊かな国は他国からの難民を受け入れるべきか
10	内部の者と外部の者(2)	
11	環境(1)	環境そのものに価値はあるのか、現在の人々は未来世代の人々のために環境を保全すべきか
12	環境(2)	
13	目的と手段	目的を実現するために正当化される手段とはどのようなものか
14	なぜ道徳的であるべきか	私益の追求と道徳

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えを論理的に述べること。
日常点・その他	20 %	コミュニケーションペーパーの提出を出席点と見なす。 中間レポートを課す場合がある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内容に関連する参考文献やウェブサイトがある場合はレジュメに記載するので、自分の関心があるテーマについては授業外でも積極的に調べることが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
実践の倫理	ピーター・シンガー / 昭和堂 / 4-8122-9929-2 / 購入の必要はない。備考を参照。 テキストは毎回プリントして配布するので、購入する必要はない。ただし、本授業では本書の後半しか扱えないので、全体を通読したいという人には購入を勧める。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生と死の倫理	ピーター・シンガー / 昭和堂 / 4-8122-9715-5 / 『実践の倫理』と内容は重複するが、より具体的。

グローバリゼーションの倫理学

ピーター・シンガー / 昭和堂 / 4-8122-0521-2 / 環境、経済、途上国への援助などが  
テーマ

現実をみつめる道徳哲学

ジェイムズ・レイチェルズ / 晃洋書房 / 4-7710-1439-6 / 倫理学の入門書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

プリンストン大学のピーター・シンガーウェブサイト(英語) <http://www.princeton.edu/~psinger/>  
Wikipediaのシンガーの項目(英語) [http://en.wikipedia.org/wiki/Peter\\_Singer](http://en.wikipedia.org/wiki/Peter_Singer)

その他 / Others

## 専門特殊講義 SA

12886

担当者名 / Instructor 神保 哲生

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ビデオジャーナリズムという映像ジャーナリズムの新しい形を通じて、デジタル化、インターネット時代の新しいメディアのあり方を学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

ビデオジャーナリズムとは何か、デジタル技術とインターネットの登場でメディアはどのような変革を迫られているのか、日本のメディアが抱える構造問題とは何かを学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。ただし、できるだけ新聞を読み、テレビのニュースを見る習慣をつけておいてください。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ビデオジャーナリズムって何？	
第2回	テレビのどこが問題なの？	あるある、やらせ、ワイドショー
第3回	メディアの構造問題1	記者クラブ
第4回	メディアの構造問題2	再販制度、クロスオーナーシップ
第5回	テレビはどうやって作られているのか	
第6回	インターネットでメディアはどう変わるのか	ホリエモンの問題提起、検索エンジン
第7回	ビデオジャーナリズムの特性	
第8回	ビデオジャーナリズムの理論1	
第9回	ビデオジャーナリズムの理論2	
第10回	なぜ今ビデオジャーナリズムなのか	
第11回	ニュースとは	
第12回	中立性とは、公共性とは	
第13回	報道被害	集団加熱報道、メディアスクラム、匿名報道
第14回	ネット時代の死角	グーグル、ヤフー、検索エンジン
第15回	ジャーナリストという仕事	ジャーナリスト、メディア、報道

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	講義の中で、実際に記事を書いてもらうテストが何回かあります。
最終講義日試験	50 %	論文形式のテストになります。
日常点・その他	30 %	授業中に書いたレポートの提出状況で出欠を判断します。また、授業中の積極的な議論への参加も評価の対象とします。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現役のビデオジャーナリストが教える授業なので、積極的に参加すればするほど、多くを吸収できます。そのためにも、まず教科書は読んでおいてください。

メディアとニュースに関心のある人にお勧めの授業です。特に将来メディアに進もうと考えている人にとっては、価値のある知識を得ることができるでしょう。もちろんメディア志望に限定はしていません。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ビデオジャーナリズム カメラを持って世界に飛び出そう	神保哲生 / 明石書店 / 4750323586 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの原則	コバッチ、ローゼンステール / 日本経済評論社 / 4818814474 /
ネット社会の未来像	神保哲生ほか / 春秋社 / 439333244X /
漂流するメディア政治	神保哲生ほか / 春秋社 / 4393332202 /
ビデオジャーナリストの挑戦	神保哲生 / ほんの木 / 4938568608 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

[www.jimbo.tv](http://www.jimbo.tv)

[www.videonews.com](http://www.videonews.com)

[www.vjdojo.net](http://www.vjdojo.net)

その他 / Others

## 専門特殊講義 SB § 専門特殊講義I SB

13021

担当者名 / Instructor 神谷 雅子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生機、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1、京都でなぜ日本映画が発展していったのかの基本的な理解。
- 2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
- 3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三 尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督 坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国 満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に～世界に認められた日本映「羅生門」「雨月物語」
第10回	映画産業の構造	製作、配給
第11回	映画産業の構造	興行
第12回	日本の映画振興政策	コンテンツビジネスとして
第13回	韓国、フランスの映画振興政策	韓国映画の力強さ、戦後すぐ始まったフランスの映画振興
第14回	全体のまとめ	
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する。
レポート試験	10 %	映画館で見た日本映画の感想レポートの提出
日常点・その他	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	/ 京都新聞社 / / 1980年
シネマがやってきた～日本映画事始め	都築政昭 / 小学館 / / 1995年
京都映画図絵	鴫明浩 + 映画探偵団 / フィルムアート社 / / 1994年
別冊太陽 日本映画と京都	/ 平凡社 / / 1997年
女人賛歌 甲斐庄楠音の生涯	栗田勇 / 新潮社 / / 1987年
国家総動員体制と映画	/ 新曜社 / /

日本映画100年	/ 新日本出版 / /
満映	/ 朝日選書 / /
イエロー・フェイス～ハリウッド映画にみるアジア人の肖像	/ 朝日新聞社 / / 1993年
戦争広告代理店～情報操作とボスニア紛争	/ 講談社 / / 2003年

上記など。また随時授業でも紹介する。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 <http://movie.goo.ne.jp/> all cinema online <http://www.allcinema.net> キネマ旬報データベース <http://walkerplus.com/movie/kinejun/> ミニパラ(全国のミニシアターのportalサイト) <http://www.minipara.com/>など。

#### その他 / Others

- 1、遅刻は20分以上は認めない。20分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
- 2、私語は厳禁(携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある)
- 3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
- 4、参考上映は、授業の進行と合わせて何回か行う。毎回、京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最初に上映する。

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ…。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアが選び取ったメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権(匿名・実名問題など)	個人情報
第3回	事件報道と人権(被害者報道、加熱取材など)	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権(歴史的的重大事件など)	教訓
第5回	司法取材の現場から(死刑再審など)	冤罪
第6回	調査報道とは(リクルート事件など)	特ダネ
第7回	虚報と誤報(サンゴ事件)	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿(沖縄密約など)	スクープ
第9回	社説について(憲法改正論議など)	提言
第10回	教育現場から(日の丸・君が代)	良心
第11回	社風・社論(信頼される報道とは)	綱領
第12回	生活ニュースとは(街だね)	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは(市民ネットと投書)	ブログ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
日常点・その他	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記(判決の中身を伝える記事)を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

## 教科書 / Textbooks

/

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.pressnet.or.jp/> 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。  
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SG § 専門特殊講義III SG

11672

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ: 21世紀の世界とジャーナリズム

イラク戦争とその後の戦後復興をめぐって、米英とドイツ、フランス、ロシアが対立、その間を縫うように多発するテロ事件など世界は混迷を深めています。アジアに目を転じて中国の経済発展に伴う階層の分裂、北朝鮮の核問題、各国で猛威を振るう鳥インフルエンザなど多難な問題が山積みしています。日本でも自衛隊イラク復興支援部隊をめぐって国民の意見は分裂、マスコミの対応にも違いが大きくなりはじめています。この世界の現在と未来をどう読み解くのか、読売テレビと読売新聞のリーダーと第一線の記者らが講義します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月18日	高田孝治 読売テレビ放送代表取締役社長	「テレビの現在と未来」
4月25日	中村 仁 読売新聞大阪本社取締役副社長	「情報化社会におけるジャーナリズムの責任」
5月2日	岩田公雄 読売テレビ放送報道局解説委員長	「テレビジャーナリズムの現場から」
5月9日	辛坊治郎 読売テレビ放送報道局解説副委員長	「言論の自由のために知っておくべきこと」
5月16日	朝倉敏夫 読売新聞東京本社常務取締役論説委員長	「新聞と社論」
5月23日	植松 実 読売新聞大阪本社社会部長	「事件報道のいま - 社会部の現場から」
5月30日	位寄雅雄 読売テレビ放送執行役員編成局長	番組編成、放送倫理に関連するテーマ
6月6日	国松 徹 読売新聞大阪本社経済部長	「変わる経済報道」
6月13日	本田邦章 読売テレビ放送執行役員東京制作局長	東京キー局に伍して情報発信することに関するテーマ
6月20日	秦野るり子 読売新聞大阪本社英字国際課編集長	「国際報道の現場から」
6月27日	西垣慎一郎 読売テレビ放送コンテンツ開発事業局長	「デジタル時代のコンテンツ」
7月4日	塩野 晴 読売新聞大阪本社論説委員長	「裁判員制度について」
7月11日	吉野俊太郎 読売テレビ放送取締役報道局長	テレビ報道の現状と課題に関するテーマ
7月18日	河内鏡太郎 読売新聞大阪本社常務取締役編集局長	「報道といのち」

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらったアンケート用紙への回答のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースに興味を持って見ている人が対象。

## 専門特殊講義 SH § 専門特殊講義III SH

11677

担当者名 / Instructor 斎藤 喬

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ: 読賣マスコミ講座2 ~ジャーナリズムの現場~

現場の取材活動のなかで、何が行われているか、また取材における問題関心はどういったところに向けられているかなど、現場で活躍している専門記者の方々が、各分野にそくした現状等を講義します。

講義スケジュールについては、変更される場合があります。

## 到達目標 / Attainment Objectives

激動の社会の中でメディアが何を考え、どう行動しているかを十分に把握して欲しい

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9月26日	春川正明 読賣テレビ放送報道部長	「テレビ報道の現状と課題」
10月3日	田中里佳 読賣新聞大阪本社編成部主任	「ネット時代の新聞作り」
10月10日	堀川雅子 読賣テレビ放送記者	「犯罪被害者報道」
10月17日	吉村信吾 読賣新聞大阪本社社会部次長	「事件報道の現状」
10月24日	相島良樹 読賣テレビ放送プロデューサー	「情報番組 ~ 制作現場の実態 ~」
10月31日	本多 宏 読賣新聞大阪本社科学部長	「科学報道の現場」
11月7日	千原 徹 読賣テレビ放送カメラマン	「報道TVカメラマンが見たこと」
11月14日	田中 聡 読賣新聞大阪本社文化部主任	「伝統芸と国際化」
11月21日	高岡達之 読賣テレビ放送解説委員	「テレビ報道の現場」
11月28日	西村公恵 読賣新聞社大阪本社生活情報部記者	「海外のファッションショー」
12月5日	道浦俊彦 読賣テレビ放送アナウンサー	「平成言葉事情」
12月12日	松尾徳彦 読賣新聞大阪本社社会部次長	「調査報道の意義」
12月19日	藪田正弘 読賣テレビ放送報道局局長	「災害報道 ~ テレビがライフラインであるために ~」
1月16日	永井芳和 読賣新聞大阪本社編集委員	「ジャーナリズムと文化」

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

毎授業終了時提出してもらおうアンケート用紙への回答とともに、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。  
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や新聞記事、ビデオなどを使って行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

マスコミ(テレビ・新聞)に関心がある学生、マスコミ界を目指している人で、日々のニュースを興味を持って見ている人が対象。

## 専門特殊講義 SI

12128

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

京都市の各局部課長によるリレー講義〔コーディネーター:奥川櫻豊彦(産業社会学部教授)〕

本科目は、京都市と大学によるコラボレート事業として、京都市に代表される地方自治体行政の最前線を学生に紹介しつつ、受講生が自治体行政について客観的な視野を深め、そして行政担当者と討論できる機会を提供するのが本科目のねらいである。

少子高齢化の急速な進展や環境問題の深刻化、右肩上がりの高度成長社会の終焉、それに伴う国および地方自治体の財政危機など、激動する不安定時代にどのように対処し、新しい地域主権の時代を切り拓く都市戦略について、現場で陣頭指揮をとる各局部課長によるリレー講義に加え、受講生によるフィールドワークの報告会と政策提案のペーパー課題に取り組む。

## 到達目標 / Attainment Objectives

10回のリレー講義、2回の座談会形式による行政スペシャリストとの対話、そして受講生による2回の京都市関連施設のフィールドワークを通して、京都市の自治体行政全体を把握し、今後の自治体行政に関する具体的な政策立案を提案できるようになるのが獲得目標である。【講師名とテーマは未知数の部分があるので、第1回の授業で最終案が配布される】

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	財団法人大学コンソーシアム京都の実現に果たした京都市の役割～どこまでが行政の役割か？	科目ガイダンス、「受講生データ」の記入
2	# 1「京都市都市経営戦略」	「受講生データ」「受講生メーリングリスト」の作成
3	# 2「市民参加を進めるために」	(上記# 1、# 2、# 3から気になる「質問書1」の提出)
4	# 3「京都市の市政改革」	「受講生メーリングリスト」の確認
5	# 4「京都市の財政」	(上記# 3、# 4から気になる「質問書2」の提出)
6	フィールドワーク実施案の説明	(大学、学部枠を超えた取り組み)
7	行政スペシャリストとの対話	
8	# 5「文化芸術の創生取り組み」	
9	# 6「男女共同参画の推進」	
10	# 7「商業の現状と課題」	
11	# 8「市街地景観の保全」	「政策案の提案」作成の説明
12	# 9「交通局における経営健全化の取り組み」	
13	# 10「地域ぐるみの教育、生涯教育」	
14	フィールド報告	「政策立案の課題」提出締め切り
15	フィールド報告	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	「政策案の提案」*
日常点・その他	50 %	「フィールド報告書」**

\*「政策案の提案」(A4版、1行40字、1ページ25行、5～10枚)ワープロ作成

\*\*「フィールド報告書」書式自由(ただし、訪問したことを示す写真、ビデオ、イラストなどを添付)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本科目はいくつかの大学からの受講生に加え、社会人の聴講生も含まれている利点を活用するために、2回のフィールドワークは個別ではなく、二人ないしそれ以上のチームで実施することにする。報告書は個人単位で作成されるが、最終授業2コマを使つての報告会は、グループ単位で行われることが原則。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用しないが、各講師から関連資料が配布される。

## 参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

教室の後ろ8列は着席禁止。前から詰めて座ること。場合によっては、座席指定をすることもある。

## 専門特殊講義 SJ

13023

担当者名 / Instructor 今井 義典

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

グローバル時代、「情報」と「メディア」は一段と重要性を増すと同時に、多様化と量的拡大が加速的に進行している。新しい情報環境の下でメディアの「信頼性」が問われる一方、市民は「正しい」情報の選択に戸惑い、社会の分断化も懸念されている。講義では、放送メディアの課題と、そこに生きるジャーナリストが直面する挑戦を、具体的に分析する。あわせて「グローバル社会」での情報選択と活用の手法を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

放送メディアの実際と課題、発展を続けるメディア環境を理解することによって、メディアをグローバル時代に生きる有効な手段として活用する技法を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	自己紹介・講義の進め方・総論	メディア・ジャーナリスト
第2回	放送の生い立ちと発達	無線・ラジオ・テレビ
第3回	情報とは何か、誰のものか？	情報
第4回	情報からニュースへ	収集・選別・編集
第5回	テレビ報道のプロセス	人間・システム・技術
第6回	放送ジャーナリストの実際	個人・チームワーク
第7回	国際ジャーナリストの実際	一騎当千・好奇心・愛
第8回	情報を操作するもの、捻じ曲げるもの(1)	戦争報道・イラク戦争
第9回	情報を操作するもの、捻じ曲げるもの(2)	劇場化
第10回	実験・放送ジャーナリスト	取材からトークまで
第11回	問われるメディアの公共性	放送法・公共放送
第12回	世界に開かれた窓、放送の国際化	国際放送
第13回	メディアの「融合」とは？	IPTV・双方向性
第14回	IT革命のグローバルな意味と課題	ガバナンス、デジタル・ディバイド
第15回	グローバル時代とメディア	多文化社会・共生

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
日常点・その他	60 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常的に放送・新聞などのニュースメディアに接し、世界と日本の動きをフォローしてください。  
授業にはニュース番組のビデオを活用します。

## 教科書 / Textbooks

特にありません。

## 参考書 / Reference Books

参考図書、文献、論文などは必要に応じて授業中に提示します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業開始の時点でいくつか提示します。

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SK

15352

担当者名 / Instructor 反畑 誠一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

放送と通信の融合など、デジタル時代における多様化が日進月歩で進み、その急激な進化に伴うメカニズムへの波及と本質への影響を正確に把握、理解し、適宜に活用する必要性が不可欠になった。本講義では、産業社会学の見地から、活字メディア、ラジオ・テレビ等の放送メディア、ブロードバンド(高速・大容量)のインターネット、モバイル(携帯)メディア、配信メディアに至るまで、歴史と現況とビジネスモデルを表象的ではあるがカテゴリー別に学び、1億総発信者時代のメディア運営・研究の基礎を着実に構築し、生きる力を育てる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

国際的視野を持った創造性豊かな実践型の人材育成を目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

マスコミ論、音楽文化・産業論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ「メディアと環境」=インターネットの歴史、機能、特性	キーワード「SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)」
第2回	テーマ「メディアと環境」=活字(新聞・雑誌)メディアの歴史、使命、機能特性	キーワード「表現の自由」「フリーペーパー」
第3回	テーマ「メディアと環境」=放送(テレビ・ラジオ)メディアの歴史、使命、機能特性	キーワード「IPマルチキャスト放送」「アーカイブス」
第4回	テーマ「メディアと環境」=モバイル(携帯)メディアの歴史、機能特性、活用法	キーワード「情報弱者」「ケータイ・ビジネス」
第5回	テーマ「メディアと環境」=パッケージ・メディア(DVD)の機能、特性	キーワード「人格権・著作権」「肖像権」
第6回	テーマ「メディアと環境」=ノンパッケージ・メディア(音楽配信)のインフラ、機能	キーワード「著作権ビジネス」「私的録音・録画補償金」
第7回	テーマ「メディアと環境」=次世代デジタル機器とビジネスモデル	キーワード「PtoP」「違法ファイル交換」
第8回	テーマ「メディアと環境」=情報とモラル	キーワード「情報リテラシー」「ユビキタス社会」
第9回	テーマ「メディアと環境」=音楽ホール、ライブハウス	キーワード「ライブ・エンタテインメント」「空間活用」
第10回	テーマ「メディアと環境」=東南アジアのメディア事情	キーワード「電波行政」「ケーブルテレビ」
第11回	テーマ「メディアと環境」=東南アジアのメディア事情	キーワード「著作権相互管理契約」
第12回	テーマ「メディアの活用」=広告・広報・PR	キーワード「広告会社」「媒体選択」
第13回	テーマ「メディアの活用」=プロモーション	キーワード「予算管理」「PV」
第14回	テーマ「メディア」=メディアの活用「情報マネジメント	キーワード「情報の発信・受信」「チェック機能」
第15回	テーマ「総括」=創作者の自己チェックポイント	キーワード「好奇心」

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
日常点・その他	30 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

環境が刻々と変化するので、新聞等活字メディアからの情報収集を怠りないように。  
テーマが多岐にわたるので、継続的な聴講、学習を期待します。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権法の解説」	千野直邦、尾中普子共著 / 一橋出版 / /

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

(社)日本音楽著作権協会、(社)日本レコード協会、(社)音楽出版社協会、(社)著作権情報センター、

(社)日本民間放送連盟、(社)日本新聞協会等のホームページを随時参考にするよう薦めます。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 黒田 学

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義では、アジア太平洋地域の発展途上諸国における障害者問題について、ベトナムの障害者問題を通じて障害者の権利、福祉と教育を考え、検討する。発展途上国の障害者問題は、歴史的経緯や社会的文化的背景が異なっても、福祉と教育の施策が遅れ、様々な課題を抱えている。第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)の意義と障害者施策の動向を踏まえ、国連・障害者権利条約採択(2006年12月)のもと、ベトナムを中心に障害者福祉・教育の課題を検討することとする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

障害者問題を国内だけでなく、国際的な権利保障の課題として理解し、思考する力を養う。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

発達保障論、障害者福祉論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
§ 1	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その1	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 2	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その2	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 3	発展途上国の人権保障と社会問題(戦争と貧困、福祉課題)その3	ユニセフ、UNDP、人間の安全保障、人間開発
§ 4	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その1	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 5	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その2	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 6	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その3	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 7	第二次アジア太平洋障害者の十年(2003-2012年)と障害者施策の動向 その4	UNESCAP、障害概念、ノーマライゼーション、BMF、中国、タイ、マレーシア
§ 8	ベトナム社会と障害者 その1	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 9	ベトナム社会と障害者 その2	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 10	ベトナム社会と障害者 その3	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 11	ベトナム社会と障害者 その4	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 12	ベトナム社会と障害者 その5	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 13	ベトナム社会と障害者 その6	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 14	ベトナム社会と障害者 その7	ベトナムの略史、ドイモイ、障害者の生活実態、枯れ葉剤、専門家養成
§ 15	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	文献および講義を踏まえた考察、および論理的かつ明確な自己の見解の記述。
日常点・その他	40 %	VTR視聴等に関する自己の見解が論理的かつ明確かどうか。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ベトナムの障害者と発達保障	黒田 学 / 文理閣 / 4892595101 /

**参考書 / Reference Books**

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
『世界の社会福祉年鑑』各年版	仲村優一他 / 旬報社 / /
胎動するベトナムの教育と福祉	黒田学・向井啓二・津止正敏・藤本文朗編 / 文理閣 / 4892594350 /
人間の安全保障	アマルティア・セン / 集英社新書 / 408720328X /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

アジア太平洋障害開発センター・APCD (<http://www.apcdproject.org/>)  
障害保健福祉研究情報システム (<http://www.dinf.ne.jp/index.html>)

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞は本当にIT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディア・ネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな激変をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化…。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で今後の姿を探っていく。テーマによってはゲスト講師を招く。

## 到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2008年の新聞界展望	淘汰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
日常点・その他	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 専門特殊講義 SO

15351

担当者名 / Instructor 是枝 裕和

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テレビ、映画を問わず、フィクション、ドキュメンタリーを問わず、具体的に映像作品を観ながら、その創作過程でどのような演出が行われているのかを考察していく。

## 【事務室からの注意事項】

- 1) 本講義は、予備登録の上、受講者を決定します。予備登録の方法は掲示にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。(配当回生: 3回生以上)
- 2) 講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。本講義の受講を希望する者は、次時限(後期金曜日5限)もあけておくこと。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

最低でも年間100本くらいは映画(映像作品)を観てくれるとありがたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 浪田 陽子, 赤井 正二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「NHK講座」では、NHKの番組制作取材や技術の最前線で活躍している方々やOBを講師に迎え、日頃それぞれの現場で何を考え追い求めているのか、理念と現実等について語ってまいります。こうしたメディアの最前線を多角的に紹介し、多様なメディアから噴出するさまざまな情報を主体的に読み解き、参加する能力を養うことを目的としています。

本講座は「双方向授業」「国際報道の視点」「映像制作技術を駆使した番組づくり」を三つの柱に据え、展開します。また、本講座はNHK京都局の企画にもとづいて、「キャンパスプラザ京都」において行われます。

授業時間帯は、午後1時30分から午後3時(4月28日と6月2日は午後1時から午後3時30分で実施、5月5日は休講)です。

## 到達目標 / Attainment Objectives

講師の話聞くことでテレビメディアの現状を理解し、双方向授業への参加によって積極的な学習能力を身につけられる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	2007年度NHK講座の授業期間は、4月14日から7月14日までの毎週土曜日(ただし、5月5日(土)は休講)です。授業時間は午後1時30分から午後3時(ただし、4月28日および6月2日は午後1時から午後3時30分)です。	
第1回	今井義典 / NHK解説主幹 【テーマ】グローバル時代のメディアとジャーナリスト	
第2回	中谷日出 / NHK解説委員 【テーマ】プレゼンテーション術～自己アピール法～	
第3,4回	柏瀬 武 / 京都放送局長 【テーマ】テレビの表現～地上デジタル時代へ～	中元秀俊 / 京都局制作デスク 【双方向授業1】番組制作の基本・提案課題設定
第5回	山本 浩 / アナウンス室エグゼクティブアナウンサー 【テーマ】スポーツ実況の現場から見たアスリートたち	
第6回	石沢直樹 / 大阪局芸能番組デスク 【テーマ】エンターテインメント番組の舞台裏	
第7回	藤田浩之 / 京都局ニュースデスク 【テーマ】記者の緊急取材最前線(南極越冬取材体験も交え)	
第8,9回	大森龍一郎 / 京都局制作副部長、平山ディレクター 【双方向授業2】提案の秘訣・提案課題プレゼンテーション	
第10回	森 信幸 / 京都局技術部 【テーマ】カメラマンの思考～対象に何を感じ、どう向き合うか～	
第11回	佐藤 彰 / 音響デザイン部チーフディレクター(福井純子氏から変更 20070518) 【テーマ】音と映像のはざままで～感性を磨く～	
第12回	若泉久朗 / ドラマ番組部チーフプロデューサー 【テーマ】風林火山と川中島	
第13回	山本隆之 / 経済・社会情報番組部デスク 【テーマ】一流のプロたちの<仕事術>にせまる	
第14回	吉田照幸 / エンターテインメント番組部ディレクター 【テーマ】サラリーマンNEOはこうして誕生した	
第15回	橋本元一 / NHK会長 【テーマ】公共放送の存在意義とNHKの進路	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	日常点評価(講義時に提出するレポート等により評価を行う。)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

地上デジタル放送への切り替えに象徴されるように、コンテンツ(知的創作物の中身)産業界のデジタル化は日進月歩で変容している。さらにブロードバンド(高速大容量)の普及、国際化の進展で音楽産業界は創業以来の構造的変革が起きている。特にインターネットの普及に伴う放送と通信の融合による消費者を取り巻く視聴環境の変化は、音楽文化創造の根幹に関わる課題を生んでいる。知的所有権(著作者、著作物)の保護・啓発を目標に、文化・芸術振興の新たなビジョンづくりを目指す。本講座を履修にあたり、音楽文化・産業界の第一人者を講師にお迎えし、各分野における「創造と権利の関係」を講義していただく、貴重な内容で構成されている。前・後期に二分してあるが、通年で受講することで、各論と全体像を習得できるよう配慮した。

なお本講義は、キャンパスプラザ京都で行われる。(受講時間11:00~12:30)

**[授業の特色]**

女性講師陣の起用 関西力の活用 対話(双方向)形式の活用 国際市場、特にアジア市場の研究 アーティスト、クリエイターの参加

**到達目標 / Attainment Objectives**

国際的視野で音楽文化・産業の実態を学ぶ。  
過去を知り、知識を蓄積する。  
現状を的確に認識する。  
明日を積極的に展望する。  
叡智と感性と創造力を培う。  
自己の研究課題を見つける。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/14(1回)	反畑誠一先生(立命館大客員教授)	オリエンテーション
4/21(2回)	斉藤正明先生	テーマ「音楽産業と国際市場」(仮)
4/28(3回)	もず唱平先生	テーマ「地方から発信する音楽文化創造プラン」(仮)
5/12(4回)	辻居幸一先生	テーマ「創造文化と著作権」(仮)
5/19(5回)	石坂敬一先生	テーマ「ザ・ビートルズ~EUの音楽文化~」(仮)
5/26(6回)	湯川れい子先生	テーマ「音楽力~音楽でもっと幸せに、元気になろう!」
6/2(7回)	中間総括「受講者による模擬シンポジウム」	中間レポート提出日
6/9(8回)	朝妻一郎先生	テーマ「音楽と権利ビジネス~事例「千の風になって」~」(仮)
6/16(9回)	中西健夫先生	テーマ「ライブ・エンタテインメント市場の現状と課題」(仮)
6/23(10回)	天沼澄夫先生	テーマ「朗読と音楽文化」(仮)
6/30(11回)	稲垣博司先生	テーマ「レコード産業の最新事情と近未来図」(仮)
7/7(12回)	丸山茂雄先生	テーマ「web音楽市場進化論」(仮)
7/14(13回)	反畑誠一先生(立命館大客員教授)	前期総括・レポート提出

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study**  
**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**
**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	(出席点・レポートなどで総合的に評価します)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>

**その他 / Others**

今や総表現者時代。各自が著作権と想定して学ぶ「知財幸福論」である

担当者名 / Instructor 反畑 誠一、宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

地上デジタル放送への切り替えに象徴されるように、コンテンツ(知的創作物の中身)産業界のデジタル化は日進月歩で変容している。さらにブロードバンド(高速大容量)の普及、国際化の進展で音楽産業界は創業以来の構造的変革が起きている。特にインターネットの普及に伴う放送と通信の融合による消費者を取り巻く視聴環境の変化は、音楽文化創造の根幹に関わる課題を生んでいる。知的所有権(著作者、著作物)の保護・啓発を目標に、文化・芸術振興の新たなビジョンづくりを目指す。本講座を履修にあたり、音楽文化・産業界の第一人者を講師にお迎えし、各分野における「創造と権利の関係」を講義していただく、貴重な内容で構成されている。前・後期に二分してあるが、通年で受講することで、各論と全体像を習得できるよう配慮した。

なお本講義は、キャンパスプラザ京都で行われる。(受講時間11:00~12:30)

[授業の特色]

女性講師陣の起用 関西力の活用 対話(双方向)形式の活用 国際市場、特にアジア市場の研究 アーティスト、クリエイターの参加

## 到達目標 / Attainment Objectives

国際的視野で音楽文化・産業の実態を学ぶ。  
過去を知り、知識を蓄積する。  
現状を的確に認識する。  
明日を積極的に展望する。  
叡智と感性と創造力を培う。  
自己の研究課題を見つける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	2007年度は以下のように実施。	
9/29(1回)	反畑誠一(立命館大客員教授)	開講オリエンテーリング
10/6(2回)	亀田誠治先生	音楽プロデューサー(椎名林檎、スピッツなどのアーティストを手がける) テーマ「ヒットの理由」
10/13(3回)	飯田久彦先生	エイベックス・エンタテインメント(株)取締役・制作プロデューサー テーマ「ヒット曲創出術 A&R・アーティスト・作家の関係」
10/20(4回)	三枝照夫先生	ビクター・エンタテインメント(株)取締役会長 テーマ「ヒット曲創出術 宣伝・プロモーション」
10/27(5回)	今野敏博先生	(株)レーベルゲート代表取締役 テーマ「激変する音楽配信ビジネスの現況と近未来図」
11/3(6回)	渡辺俊幸先生	作・編曲家 テーマ「ポップスと交響楽の比較論」
11/10(7回)	白井勝也先生 テーマ「作家というキラーコンテンツ」	(株)小学館専務取締役
11/17(8回)	錦織 淳先生	弁護士 テーマ「音楽家とスポーツ選手における権利ビジネスの比較」
11/24(9回)	反畑誠一立命館客員教授	中間総括・レポート提出
12/1(10回)	亀山千広先生	(株)フジテレビジョン執行役員常務、映画事業局長 テーマ「知的プロデュース論」
12/8(11回)	西田 浩先生	読売新聞東京本社文化部(「ロック・フェスティバル」著者) テーマ「ロック・フェスティバル」
12/15(12回)	山本 たかお先生	テレビ朝日制作局「ミュージックステーション」チーフ・プロデューサー テーマ「テレビとポピュラー音楽文化」
12/22(13回)	山本 裕治先生	(株)第一興商 音楽ソフト事業本部長兼社長室長 テーマ「カラオケ文化論」
1/12(14回)	サイトウ・アキヒロ先生	立命館大学映像学部教授 テーマ「すべてがゲーム機化していく」
1/19(15回)		後期総括・レポート提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	(出席点・レポートなどで総合的に評価します)

---

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

JASRACホームページ: <http://www.jasrac.or.jp/>

その他 / Others

今や総表現者時代。各自が著作権と想定して学ぶ「知財幸福論」である

## ターミナル・ケア論 S

20191

担当者名 / Instructor 藤腹 明子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

私たちは一生の間に必ず人の死を看取り、そしていつの日か、自身も誰かに看取られることになります。より良い看取りを実践し、また自分らしい最期を迎える上で最も大切なことは、一人ひとりが生死観を育んでいくことだと考えます。本講義では、生死観を育むことの意義がわかるとともに、よりよい看取り(ターミナルケア)を実践する上で必要であると思われる基本的知識・技術・態度を身につけることを目指します。また、看取られるための心得と作法についても考えます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 看取り(ターミナルケア)、看取られる上で、なぜ生死観が大切なのかがわかる。
- 看取り(ターミナルケア)を実践する上で必要な基本的知識・技術・態度を身につける。
- 看取り(ターミナルケア)、看取られるための自らの心得と作法について考え、文言化することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入およびターミナルケアに関する概念規定	ターミナルケア、ホスピスケア、緩和ケア、ピハラーケア、看取り
第2回	現代人と死	死亡の動向、死因の概要、死ぬ時、死に方、死に場所
第3回	ターミナルケアと生死観	生死観、死生観、いのち観、生死観と宗教、デス・エデュケーション
第4回	死に向かう人と家族のニーズ(ビデオ鑑賞)	身体的側面のニーズ、精神的側面のニーズ、社会的側面のニーズ、霊的側面のニーズ
第5回	死に向かう人と家族のニーズへの配慮	基本的欲求に伴うニーズ、身体的側面のニーズ、内的側面のニーズ、社会的側面のニーズ、生活面のニーズ
第6回	ガン患者さんからのメッセージ(ゲストの講義)	
第7回	病名・病状・予後の説明(病名告知)	病名告知、がん告知、インフォームド・コンセント、病名告知の現状と問題、知る権利、知らないで済む権利、QOL
第8回	望ましい臨終・死、望ましくない臨終・死	よき死、エンディングノート、リビングウィル
第9回	ターミナルケアにおけるスピリチュアルケア	スピリチュアリティ、スピリチュアルニード、スピリチュアルペイン、スピリチュアルケア、霊性
第10回	ターミナルケアと生命倫理	生命倫理、安楽死、尊厳死、セデーション
第11回	看取り、看取られるための心得と作法	
第12回	看取り(ターミナルケア)の基本姿勢	感性、知性、理性、悟性、セーバー、ウパスターナ、共語
第13回	危篤・臨終・死後処置時の心得と作法	危篤、臨終、命終、死後の処置、死に化粧
第14回	人が死んでから墓に入るまで	死後の手続き、葬儀の段取りと経費、グリーンワーク

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義内容に関連して、適宜ミニレポートを課します。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱ったいくつかのテーマから選び、それについての考え方を問うもの。自身の言葉で、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
日常点・その他	50 %	出席状況、ミニレポートの提出状況・内容等で評価する。原則として、3分の2以上の出席を有効評価の基礎条件とする。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

毎回、講義内容に関連するプリントを配布する予定です。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
看取りの心得と作法17カ条	藤腹明子 / 青海社 / 4-902249-10-3 /

死を迎える日のための心得と作法17カ条

藤腹明子 / 青海社 / 4-902249-21-9 /

定本ホスピス・緩和ケア

柏木哲夫 / 青海社 / 4-902249-19-7 / ホスピス、緩和ケアの目的・歴史・制度等についてまとめた本である。

臨終行儀-日本のターミナルケアの原点

神居文彰・田宮仁・長谷川匡俊・藤腹明子 / 北辰堂 / 4-89287-091-9 / より日本的なターミナルケアの在りようについて考える上で参考になる本である。

上記の『看取りの心得と作法17カ条』は、常時、授業で使う予定です。可能な方は購入してください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 上柴 とおる

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

長年にわたる放送(ラジオ中心) & 音楽業界での現場体験を生かして(今も現役真最中!), 皆さんが日常の身近なところから大衆芸能~文化に興味・関心を広げて行けるような、そして自身で問題点や研究課題を見出して行けるような、そんなきっかけ(ヒント)となる授業ができればと考えております。いわゆる 大学の授業 らしからぬ(?)異色な内容の講座ともいえるでしょうが、私自身の経験に基づく独自の観点から物事を捉えます(ここでしか聞けない話も多い!)。時には映像や音声(音楽やラジオ番組の秘蔵レア音源!)も使用する予定です。将来、マスコミ関連の仕事を目指す皆さんにとっても何らかの参考になるはずですよ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- \* ラジオ(民間放送は1951年にスタート) & 音楽との関わりを軸に戦後から現代に至る大衆芸能・文化のおおまかな流れをつかめるようにしましょう。
- \* 戦後、大衆の娯楽としてラジオがいかに発展して来たか、またどのような文化を生み出して来たかを認識し、さらにはラジオを取り巻く厳しい現状をも捉えながら今後の大衆との関わり方を私と一緒に考えましょう。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロ~ラジオ & 音楽をとりまく現状(昨年度の課題レポートの結果・内容もふまえて)	自己紹介、講座概要
2	ラジオ・ネーム の表現効力~大衆側からの自己表現	メール、fax、はがき、リクエスト、メッセージ
3	タイトルの訴求力~外国楽曲のヒット度数は邦題の付け方に左右される!?	ダニエル・パウター、ジョシュ・グローバン、「君の瞳に恋してる」。。。
4	戦後日本のポピュラー音楽発展史	SP盤、シングル盤、LP盤、CD、DAT、MD、i・pod
5	ゴールデン・ラジオ・デイズ ~ 民放ラジオの歴史と大衆文化との相関関係	AM放送、新聞のラジオ欄、ヒット・バラード、映画音楽
6	ゴールデン・ラジオ・デイズ ~ 団塊の世代 が先駆けとなってリードした1970年代の深夜放送ブームと 若者文化 の時代。	ヤング・リクエスト、ヤング・タウン、オールナイト・ニッポン。。。
7	ゴールデン・ラジオ・デイズ ~ FM放送の発展と産業界	ステレオ、カセット、エア・チェック、ウォークマン、FM雑誌
8	なぜFM802は関西地区で No.1ステーション に成り得たのか? ~ その成功過程に見る表現特性	ファンキー、ステッカー、グッズ、J-POP
9	大衆の支持を得られなかった1970年代の日本のロック & ポップス~今日の J-POP 隆盛に至る過程を検証	関西フォーク、ニュー・ミュージック、はっぴいえんど、シュガーベイブ、荒井由実。。。
10	いわゆる 関西ロック の体内に宿る(?)お笑いのDNA	1980年代初期の漫オブーム、誰かがバヤねんロックンロールショー、8.8. ROCK DAY、上方演芸
11	かつて葬り去られた内外の楽曲たち	エロティック、侮辱、差別、政治・企業批判
12	1980年代という時代特性 ~ ビジュアル	MTV、ビデオ・クリップ、「ラジオ・スターの悲劇」
13	1980年代という時代特性 ~ チャリティー・イベントで何を表現したか?	Band Aid、We Are The World、Live Aid
14	日本からはなぜ? 出ない国際的なポップ・ミュージシャン	(映画界)渡辺謙、役所広司、菊地凜子。。。(音楽界)スキヤキ、YMO、ピンク・レディー、ラウドネス、SEIKO、UTADA

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容への興味・関心 & 認識度

授業内容に沿って課題を出します。平易な言葉で皆さんが独自の視点をもって表現して下さい。  
課題については事前に(授業中に)ふれます。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ラジオは脳にきく	板倉徹 / 東洋経済新報社 / ISBN4-492-04267-9 /
亀淵昭信のオールナイトニッポン35年目のリクエスト	亀淵昭信 / 白泉社 / ISBN4-592-75012-8 /
放送禁止歌	森達也 / 光文社 / ISBN4-334-78225-6 /
季刊「上方芸能」162号(2006年12月発行)	化」 / 上方芸能 / ISSN 0910-5506 / 特集「団塊の世代と芸能文

授業への興味・関心を高める意味合いでの参考書籍 (& 雑誌) です。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### その他 / Others

- \* 言うまでもなく授業中は「携帯電話」使用禁止です！
- \* 言うまでもなく授業中に菓子類やパン類を口にすることは禁止です！（アメとドリンクはOK）
- \* 言うまでもなく授業中の 私語 は極力慎んで下さい！

私も「産社」の卒業生です。先輩 の言うことは聞くように！

担当者名 / Instructor 小澤 亘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性 = 豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 多文化性について理解する。
- 2) 自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
- 3) 多文化共生問題の本質を理解する。
- 4) 問題を乗り越えていく視点を獲得する。
- 5) 具体的に提案し活動していく力を身に付ける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがける。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション: 映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析 レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念 エスニシティとは何か?
第3回	ネイションとは何か?	TST分析について 「想像の共同体」 「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か?	リヴァイアサンの登場 フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か?	普遍主義のジレンマ 「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ 文化的ネットワークの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、東九条マダン
第11回	日本におけるエスニシティ問題	中国帰国者問題
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性
第13回	多文化共生に向けた社会形成	NPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か?	ディスカッション

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

期中に4回ほどレポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	授業理解および授業参加度を評価する。
日常点・その他	40 %	期中に、4回ほど課すレポートによって評価する。

ただし、受講生数によっては、定期試験をやめて、レポート4回と最終レポートによる総合評価へと変更する可能性もある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』(右記の作品紹介を参照されたい)を視聴する。単調な映画で、しんどいと思ひの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることが出来るか、いなか。それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。レポート提出を予定。履修を予定している者は、初日から必ず参加すること。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

## 参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2,3冊は授業を受講しながら読んで欲しい。

担当者名 / Instructor 奥川 櫻豊彦

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

人は自文化の枠組みに沿って物事の処理方法を自然に身につけ、無意識のうちに自文化のモードにしたがって時間や空間の概念を培っている。同時に、人は母語として身につけた言語固有のコミュニケーションスタイルや非言語コミュニケーションのスタイルが当然のモードであると暗黙のうちに取り込み、さりとて疑問に思わない。しかし、国内外を問わず、人は他文化と接する過程において、当然と思い込んでいるコミュニケーションの手段ややりとりがさまざまなたちでアレルギー反応を起こすのに気づく。そのようなとき、「キモイ！」と反応する人、「なんでだろう？」と理解に努める人、あるいは「外人さんさもう、え々」と聞き直る人、などさまざまである。

このような問題意識に立ち、映像文化やスポーツ文化などを扱ったいくつかのビデオ録画を通し、また、新聞・月刊誌・週刊誌からの記事を通して、エドワード・T・ホールが提唱する「文化のコンテクスト論」を軸に韓国、中国、台湾、ドイツ、アメリカなどとの比較文化の分析を試みる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

将来、国内外を問わず、受講生の多くが経験するであろう異なる文化のコンテクストについての疑問を今から理解できるように準備し、「文化のコンテクスト論」を第三者に説明し、納得してもらえる“多文化的感性”を養うことが目標。これは単なる机上の論ではなく、受講生が将来、世界のどこで生活しても“通用する人間”になるための第一歩を踏み出せる機会になるように研鑽する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目ガイダンス、担当教員の自己紹介、「受講生データ」の記入【以下、週によって変更の可能性あり】	「ガイアの夜明け」(テレビ東京制作)からの問題提起をどう受けとめるか?
2	モノクロニック・ポリクロニックの時間概念	「マージナル・マン」(社会学概念)と日本社会
3	モノクロニック・ポリクロニックの時間概念(つづき)	「ペーパー課題」(全体の成績評価の25%+25%)についてのガイダンス
4	連続体(二分法)としての「文化コンテクスト」の概念	異なるコンテクスト度の理解【ここまで「受講生データ」の記入を終えておくこと】
5	連続体としての「文化コンテクスト」の概念(つづき)	松井秀喜がNYヤンキースで体験した多文化コミュニケーション
6	連続体としての「文化コンテクスト」の概念(つづき)	吉田敏明(元全米女子バレーボール監督)が体験した多文化コミュニケーション
7	空間概念からみた多文化コミュニケーション	エレベーターの中、ドアの開閉からみた多文化コミュニケーション
8	中国・台湾・韓国からみた日本との多文化コミュニケーション	「ペーパー課題」の進捗状況報告(1)
9	中国・台湾・韓国からみた日本との多文化コミュニケーション(つづき)	「ペーパー課題」の進捗状況報告(2)
10	中間テスト(全体の成績評価の50%)	【理由がなんであれ、再試験は行わないので、予めこの日程を確認しておくこと】
11	「ペーパー課題」の提出 口頭発表の日取りと順番の決定	
12	ペーパー課題の口頭発表(1)「コメントシート」の記入	発表者へ中間テストの返却
13	ペーパー課題の口頭発表(2)「コメントシート」の記入	発表者へ中間テストの返却
14	ペーパー課題の口頭発表(3)「コメントシート」の記入	発表者へ中間テストの返却
15	まとめ「コメントシート」の返却	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	上記の中間テスト(第10週目)に実施予定)正式の日程は4月に知らせる
レポート試験	50 %	25%ペーパー課題、25%口頭発表

\*上記「レポート試験の50%」のうち25%はペーパー課題を締切日までに提出した者に限定される。残りの25%はその口頭発表に割り当てられる。ただし、ペーパー課題を締切日までに提出しなければ、口頭発表する権利を喪失するので注意。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「ペーパー課題」は、自らの多文化体験について文化のコンテクスト論を応用した内容に限定される。その理由は、毎年のように少なくとも数人が

インターネットから無断引用したからである。また、自らの体験を偽り、それを受講生の前で発表する人はいないだろうから。  
「ペーパー課題」の書式: A4版パソコンによる制作のみ提出可能。1行40字、1ページ25行、約4～10ページ。

#### 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
かくれた差異	エドワード・T. ホール / メディアハウス / / 1986年出版
文化を超えて	エドワード・T. ホール / TBSブリタニカ / / 1993年出版

上記の2冊は、関連する章を抜粋し、プリント配布の予定。

以下の論文・記事もプリント配布予定。

1. 奥川櫻豊彦「文化のコンテクスト」『立命館産業社会論集』1994年(30巻3号)。
2. 山脇啓造他「多民族国家日本の構想」『世界』2001年7月号。
3. 「2030年 移民大国ニッポン」『NEWSWEEK』(日本版)2003年8月3日号。
4. 「こんな国では働けない 外国人労働者『使い捨て』の果て」『日経ビジネス』2006年9月11日号。
5. 「島国ニッポンの危うい移民無策」『NEWSWEEK』(日本版)2006年9月13日号。

第10週目を実施予定の中間テストの範囲は、以上のテキスト、論文・記事のすべてが含まれる。

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### その他 / Others

地域活性化ボランティア G § 特殊講義(基礎)1 CD § 専門特殊講義 SR § 地域活性化ボランティア J § 地域活性化ボ  
 ティア P § 特殊講義(自由選択)I(地域活性化VT) T 14890

担当者名 / Instructor 桜井 政成、西田 心平

単位数 / Credit 2

#### 授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは複数の地域と連携し、ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、参加者にとって地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、専門知識の応用的な理解を促す機会となる「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。これは、お祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、子育て、災害援助活動など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組むものである。活動の期間は2日から1週間程度の集中的な活動から、半年近く活動するものまで様々である。

この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加し、なおかつ事前学習・事後学習に参加し、さらに所定の提出物を提出したものであることについて、単位を認定する。

#### 到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

#### 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「地域参加活動入門」(教養科目・前期2単位)

#### 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	事前学習1(2コマ)	ボランティア活動の基礎知識、活動目標の設定、リスクマネジメント学習
2	事前学習2(2コマ)	実際に活動する内容に応じて、活動先の状況、活動内容に必要な知識、リスクマネジメントなどを学習する
3	ボランティア活動(40時間以上)	ボランティアセンターが主催する「地域活性化ボランティアプログラム」への参加
4	中間振り返り(1コマ)	ボランティア活動を振り返り、目標の達成度を検証します。
5	事後学習(3コマ)	ボランティア活動終了後、自己および専攻学問とのかかわりについて学習を深め、ボランティア活動を単なる地域体験にとどめず、その後の学修計画につなげることを目的として行う
6	活動報告会(2コマ)	活動プログラムごとに地域活性化と学びについての成果発表。

#### (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

#### 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	事前学習、活動、中間振り返り、事後学習、活動報告会のすべてに参加し、かつ必要な提出物および評価対象物(レポートなど)をすべて提出すること。

評価対象物は、活動計画書、活動記録、活動日誌、レポートを予定している。それらの評価基準としては、受講生自身にとって学びが何であったかが明確であることが重要となる。

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講方法、評価方法については、詳しくは受講ガイダンスで伝える。4月以降、数回実施予定なので、ボランティアセンターホームページや、学部事務室の掲示などをよく見ておくこと。

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

#### その他 / Others

## 地域社会論 S

15285

担当者名 / Instructor 中川 勝雄

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

授業の概要は、地域社会の歴史的展開を概観したうえで、社会と人間生活との相互関係を解明しようとする事象に焦点をあて、全体社会や人間にとっての地域社会の位置と意義について考察しようとするものである。授業内容の基本的な柱は、地域社会論の成り立ち、前近代・近代・現代の地域社会、日本の地域社会の歴史的展開、現代の地域社会の重層構造、新しい地域社会形成、などである。

## 到達目標 / Attainment Objectives

全体社会や諸個人にとって地域社会の位置と意義が的確に理解でき、地域社会の矛盾あるいは課題を解決しようする素養を習得すること

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習 〃、コア科目(現代と社会、現代とメディア、人間と文化、現代と福祉)

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	地域社会論(学)とは何か	農村社会学、都市社会学、全般的都市化
	地域社会学とは何か	地域社会概念、地域社会の重層化
	地域社会論(学)とは何か	地域社会分析の基本視点、資本、住民、地域集団、地方自治体
4～5	地域社会の歴史的展開	共同体としての前近代、産業都市としての近代
	地域社会の歴史的展開	現代の地域社会
6～8	日本における地域社会の歴史的発展の特質	村落共同体、特殊な近代的な地域社会の成立
	日本における地域社会の歴史的発展の特質	現代的な地域社会の成立
	日本における地域社会の歴史的発展の特質	地域開発政策、企業誘致、地域社会変動、地方行政の広域化
9～12	現代社会における地域社会の構成	地域社会の重層構造
	現代社会における地域社会の構成	生活の諸側面、生活様式
	現代社会における地域社会の構成	農村的生活様式、都市的生活様式、共同社会的生活様式
	現代社会における地域社会の構成	地域社会分析の意味の変化、地域社会分析の有効性、地域社会研究の課題と構成
13～15	新しい地域社会形成の取り組み	ネットワーク型存立形態を有する沖縄村落
	新しい地域社会形成の取り組み	村落共同体の現代的再編
	新しい地域社会形成の取り組み	コーポラティブハウスでのコミュニティづくり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

是非読んでほしい参考文献です。

青井和夫監修/運見音彦編集『地域社会学』サイエンス社、1991年

佐々木嬉代三・中川勝雄編『転換期の社会と人間』法律文化社、1996年

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	地域社会についてのリアルな理解ができているかどうかで評価する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

居住地での地域生活についての実態に関心を向けること、授業中の私語は厳禁

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会・生活構造と地域社会	北川隆吉 / 時潮社 / / 地域社会学を理解するのに有益である
地域の政治と経済	島恭彦 / 自治体研究社 / / 地域社会の基本的視点を示している

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 津止 正敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして2000年6月に成立した社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉の固有の構造と領域、方法について理解する。  
原則として、変更されることはありません。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション - 地域福祉論スケッチ -	地域福祉 ボランティア 地域 家族
2	地域福祉とコミュニティ - 論文「地域福祉とネットワーク」 -	コミュニティ 少子高齢化 ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム - 論文「福祉とコミュニティ」 -	コミュニティ 少子高齢化 ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2 - ネオ町内会 -	町内会・自治会 ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援 - 子育て支援 -	子育て支援 子育てサークル 当事者
6	地域福祉と当事者支援 - 子育て支援 -	子育て支援 子育てサークル 当事者
7	地域福祉と当事者支援 - 障害児と地域福祉 -	障害児 放課後保障 ボランティア
8	地域福祉と当事者支援 - 障害児と地域福祉 -	障害児 放課後保障 ボランティア
9	地域福祉と当事者支援 - 男性介護者支援 -	男女共同参画 ジェンダー 介護 社会資源
10	地域福祉と当事者支援 - 男性介護者支援 -	男女共同参画 ジェンダー 介護 社会資源
11	地域福祉の方法 - コミュニティワーク -	ソーシャルワーク コミュニティワーク 間接援助技術
12	地域福祉の方法 - 地域福祉の機関と担い手 -	社会福祉協議会 民生委員 ボランティア
13	地域福祉の方法 - 地域福祉の機関と担い手 -	社会福祉施設 施設の社会化 脱施設化
14	まとめ - 地域福祉とは何か -	地域福祉 分野別福祉 住民主体 関係性 当事者性 社会運動

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくことを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想/意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2~3回の中間試験又はレポートを課す
最終講義日試験	0 %	実施しない
日常点・その他	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にするとと思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく予定なので、出来れば各分野別福祉論を受講し終えた3回生以上に受講を勧めたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 地域保健論 S

13002

担当者名 / Instructor 松田 亮三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

健康は誰もが関心のあることであり、人生の重要な資源である。この講義では、地域社会で暮らす人々 子どもも大人も、若者も高齢者も、男性も女性もすべて含んだすべての人々を視野にいれて、その人びとの健康を保持・増進するための総合的予防戦略を形成する理論を、受講者それぞれがある特定の地域の健康問題を検討することを通して獲得する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

の科目を終了した学生は、次のことができるよう期待されている。

1. 健康概念と地域の健康アセスメント、疾病のリスクモデル、予防戦略の理論、地域資源の活用法などをふまえて、住民の健康問題に関して検討し、総合的な予防戦略を立案できる思考の枠組みを獲得すること。
2. 総合的な予防戦略形成に関わる主要概念を、具体的な例をあげながら説明できること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、地域社会論、地域福祉論、現代人とヘルスケア、などとあわせて受講することで理解が深まるであろう。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	はじめに 地域保健へのいざない	地域、人口、健康、公衆衛生、地域保健、健康づくり
2-4回	地域における健康問題の具体的検討(子どもの健康、喫煙、精神保健などを予定)	保健統計、保健行動、疾病負担、死亡率
5回	理論編1 地域の健康把握に向けて 健康とは	健康の定義、積極的健康観、動的な健康観、健康の次元
6回	地域保健の戦略形成論	地域保健戦略、健康課題と要因分析、予防戦略、健康資源の動員
7回(5/31)	地域保健の実践報告:京都府亀岡市におけるセーフティ・コミュニティの取り組み(ゲスト・スピーカー 京都府企画環境部企画参事付 八田 直哉さん)	セーフ・コミュニティ、地域づくり、健康情報、リーダーシップ
8回	理論編2 地域の健康把握に向けて 地域の健康を評価する	疫学、死亡率、罹患率、有病率、主観的健康感、地域保健アセスメント、
9-10回	理論編3 健康のリスクと疾病モデル	疾病モデル、健康リスク、要因分析、リスク評価、保健行動、健康の社会要因、自然環境要因
11回	理論編4 予防戦略形成論1	予防の3段階(1次予防、2次予防、3次予防)、人口全体(ポピュレーション)戦略、高リスク戦略
12回	理論編4 予防戦略形成論2	オタワ宣言、ヘルス・プロモーション、健康公共政策、健康支援環境、個人技能、コミュニティ活動
13回	理論編6 地域健康資源論	地域の健康資源、保健組織、医療制度、
14回	総括	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

5回目の授業からは、受講生は、それぞれに、念頭におく人口と健康問題を想定して、具体的に検討しながら学習をすすめていくこととなるので、受講生は、5回目の授業までに、新聞や雑誌、ウェブ等を調べつつ、自らの興味を持って、ある特定の人口における健康問題を考えておく必要がある。その健康問題を授業で述べる理論枠組をもとに検討していき、レポートして最終的に提出してもらう。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	到達目標に照らして評価
日常点・その他	40 %	備考を参照

## &lt;日常点の評価法&gt;

・最終授業日に提出するレポート(各人が想定した人口と健康問題についての4000字程度の予防戦略計画書)をもとに、到達目標に照らして評価します。詳しくは授業(およびwebCT)で周知します(35%)。5月31日のゲスト・スピーカーの講義の際に、講義を聞いた後、課題作文を書いてもらいます(出席できない人の課題はコースツールにて別途指示します)(5%)。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- 1)理論編に入るまでは、具体的な場合を総合的に述べて、イメージがわくようにします。理論編になってからは、1回1回の授業に出てしっかり内容を把握し、その理論にもとづいて自ら取り組む人口と健康問題について考えて、日常点評価用のレポートを作成していくことが求められます。これまでの経験では、あまり出席できていない人は、何らかの方法でしっかりとカバーしないと不合格になっているようです。
- 2)評価は、回生等とはまったく無関係に、試験とレポートにより、厳密に行います。

## 教科書 / Textbooks

必要な資料等は授業中で紹介する。いくつかの健康問題については、入手しやすい情報源を紹介する。しかし、レポートでそれらを使う際には、引用のルールをまもること。

第2回の授業で配布した「学習ガイド」「日常学習課題シート」「同シートの作成ガイド」を早めにじっくりと参照すること。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂 / / 何かを調べる際に
健康づくりと社会環境	松田亮三他 / 法律文化社 / / 主に健康づくりについて

・授業の説明は、パワーポイントを用いて行うのを基本とする。ただし、他の配布物もある。  
 ・パワーポイントについては、著作権の問題のない範囲で、コースツールにその印刷原稿を掲載するので、欠席した人はウェブCTから入手すること。  
 ・レポート課題等重要な連絡を授業で連絡するとともに、コースツールなどでフォームを配布するので、コースツールが利用できることが望ましい。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

行政)

厚生労働省(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

健康日本21 <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>

(研究機関)

国立健康・栄養研究所(<http://www.nih.go.jp/eiken/index.html>)

国立保健医療科学院(<http://www.niph.go.jp/>)

電子図書館からは、『保健医療科学』(かつての『公衆衛生研究』)が読める

<http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm>

厚生労働科学研究のデータベースもある

<http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm>

(ポータルサイト)

健康ネット <http://www.health-net.or.jp/> (健康に関連したNGO)

その他、多数あり。授業中に紹介する。

#### その他 / Others

## 伝統芸能論 S

15246

担当者名 / Instructor 森西 真弓

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

日本には、国の重要無形文化財の指定を受けている能、狂言、文楽、歌舞伎などの伝統芸能があります。中世生まれの能、狂言はその特性を伝統として現在に継承してきました。また、近世生まれの文楽、歌舞伎は先行芸能である能、狂言の影響を受けながら、独自の作品や表現様式を確立させました。

本科目は、適宜、映像資料を用いながら、伝統芸能の多様性を講義します。

## 到達目標 / Attainment Objectives

各芸能ジャンルの成立過程、特色、代表的な作者、作品、演者などの基礎知識を見につけます。また、作品からは日本人の心性を読み取るとともに、時代や社会と人との関わりについて考察します。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス 伝統芸能の概念と国の文化財保護政策	
第2回目	能の歴史	
第3回目	能の特色	
第4回目	能の作品 三鬼女物	
第5回目	狂言の歴史と特色	
第6回目	狂言の作品	
第7回目	文楽の歴史と特色	
第8回目	近松門左衛門	
第9回目	三人遣いと三大名作	
第10回目	歌舞伎の歴史	
第11回目	歌舞伎の特色	
第12回目	歌舞伎の作品(1)松羽目物を中心に	
第13回目	歌舞伎の作品(2)生世話物を中心に	
第14回目	まとめと質疑応答	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	持ち込みなしの筆記試験を行います。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

伝統芸能の基礎知識だけでなく、一般の解説書にはない、現状や課題、京都の特色などについても触れます。当然のことながら、授業中の私語、飲食を禁止します。

## 教科書 / Textbooks

適宜、プリントを配布します。

## 参考書 / Reference Books

適宜、紹介します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

「都市論」

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	景観問題とコミュニティ - 崩れゆく歴史街 -	銚町のマンション問題、町並み保全、都市計画、規制と誘導
第2回	景観法と京都の町並み保全政策	観法、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第3回	歴史都市の再生	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第4回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第5回	都市の危機管理 阪神大震災の教訓	自然災害、人災、復興計画、マンション建て替え問題、コミュニティ
第6回	都市の危機管理 9・11同時多発テロ	ニューヨーク、消防隊、ナショナリズム
第7回	都市の危機管理 グラウンド・ゼロの復興をめぐる攻防	建築家、コンペ、政治、闘争、妥協
第8回	都市の危機管理 犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第9回	リサーチ・デイ	フィールドワーク
第10回	まちづくりとNPO	第二次ハーレムルネッサンス、タイムズスクエア、コモングラウンド、自治体行政
第11回	安心・安全まちづくりと魅力アップまちづくり(京都・木屋町まちづくり)	歓楽街、犯罪、治安回復、木屋町、都市再生モデル調査、市民自治の可能性
第12回	欠陥住宅と耐震強度偽装問題	建築基準法、建築設計、建築指導行政、性善説と性悪説、犯罪の多発
第13回	町衆企業とコミュニティ	京都銚町、東京神田、大阪船場、地域住民、企業市民
第14回	変貌する公共事業	市町村合併、地域経済、汚職、談合、政治家、官僚、天下りの功罪
第15回	リサーチ・デイ	フィールドワーク

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

教科書は特に指定しない。

**参考書 / Reference Books**

授業中に適宜紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

- \* 学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。
- \* 試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

## 都市論 S

12902

担当者名 / Instructor リム・ボン

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史の変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

## 到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の光と影	歴史都市、京都、ニューヨーク、ブラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第3回	京都の地下水脈と都市文化	水上都市、伝統産業、下賀茂神社、上賀茂神社、風水思想
第4回	竜安寺の石庭と京都文化	仏教、石庭、被差別部落、襖絵、ニューヨーク、中国
第5回	ニューヨーク・マンハッタン誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク・マンハッタン20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク・第二次ハーレムルネッサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	リサーチ・デイ	フィールドワーク
第10回	ベルリン・都市文化の紹介	ドイツ、東西冷戦、建築、都市構造、食文化、経済
第11回	ベルリン・都市構造	古地図、ヒトラー、近代都市計画、統一ドイツ、労働者
第12回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第13回	京の都市文化	首都機能、都市設計、四合院の建築、オリンピック、再開発
第14回	韓国の都市文化	ソウル、釜山、植民地経営、近代化遺産、日本町、保存と再生、清溪川の再生
第15回	リサーチ・デイ	フィールドワーク

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

## 参考書 / Reference Books

参考書等は授業中に適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

\* 学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

\* 試験の問題はすべて授業中に解説した内容をもとに作成します。

担当者名 / Instructor 宝月 誠

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

逸脱とコントロールに注目して、日常生活の秩序を構成し、再生産している社会的メカニズムについて考える。こうした問題を巡る社会学の主要な学説を紹介したうえで、現代社会の逸脱現象なから暴力やホワイトカラー犯罪を具体的なケースとして取り上げる。さらに、社会生活のフォーマル・インフォーマルなコントロールを中心にして制度のあり方を考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

1. テキストと講義に基づいて、逸脱・犯罪についての社会的な考え方を習得する。
2. 事件などをメディアの報道を批判的に読み解く能力をつける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定科目はないが、基本的な社会的視点を学んでおくことが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	逸脱をテーマにする意義	日常世界・制度・秩序
2	逸脱に対する考え方(1): デュルケムの理論	集合意識・犯罪・刑罰
3	逸脱に対する考え方(2): アメリカ社会学の場合	シカゴ学派・アノミー論・ラベリング論・合理的選択論
4	逸脱とは何か(1)	構造論・相互作用論・行為者論
5	逸脱とは何か(2)	定義の構築・適用過程
6	なぜ逸脱するのか(1)	社会解体論・アノミー論
7	なぜ逸脱するのか(2)	差別的接触論・ラベリング論
8	なぜ逸脱するのか(3)	社会的絆論・合理的選択論
9	なぜ逸脱するのか(4)	具体的な事例
10	コントロールの考え方	コントロールの存在根拠・機能
11	コントロールの目的	応報・抑止・治療・和解
12	インフォーマルなコントロール	社会的資本・世論
13	フォーマルなコントロール	統制機関・遂行過程・裁量
14	コントロールの事例	監視社会
15	総括	要点の整理と質疑

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

内外の推理小説を読む。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な概念や考え方についての理解度

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学	宝月 誠 / 有斐閣 / 4-641-12227-x /
大学生協書籍部で購入可能	

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの現在	宝月誠・進藤雄三 / 世界思想社 / 4-7907-1108-0 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 松葉 正文

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

**到達目標 / Attainment Objectives****履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	はじめに - 日本経済の概況	
2.	市民社会と企業社会	
3.	大企業体制の2類型	
4.	国家財政の動向	
5.	勤労者層の賃金構造	
6.	同上・労働諸条件	
7.	外国人労働者問題の現状	
8.	農民層の経済生活条件	
9.	中小企業経営の現状	
10.	国民の所得構成	
11.	同上・資産構成	
12.	社会保障の現状と問題点	
13.	住宅・土地問題	
14.	まとめ	
15.	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

**参考書 / Reference Books**

授業中に適時紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 清水 民子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ:乳幼児期の発達の見取り図

概要:胎生期、出生から就学まで(0～6歳)の発達について、主として発達心理学分野の知見、研究資料にもとづいて概説する。前半(7回)は、胎生期、乳児期、幼児期の各発達段階を追って、発達の特徴の概略を述べる。後半(7回)は、運動機能、認知機能と操作、言語、感情と社会性、人格発達と生活様式など、領域・機能ごとの発達の研究状況を紹介します。最後に研究方法の発展について考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1)乳幼児への関心を高め、その生活と発達をとらえる視点を明確化する。
- 2)乳幼児の観察記録や行動測定資料の読み取り、分析、考察に習熟する。
- 3)乳幼児の発達に影響する環境要因や保育・教育課程の意義を考察する理論状況を知る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	乳幼児の発達の概略、時期区分と生涯発達における位置	発達段階、時期区分、年齢、月齢、週齢、日齢
第2回	胎生期の発達	胎芽(胚子)、胎児、器官形成、先天異常
第3回	新生児の発達	新生児の生理機能、新生児の生活、原始反射、認知、初期育児
第4回	乳児期前期の発達	姿勢制御、視線制御、把握、微笑、生活リズム
第5回	乳児期後期の発達	運動機能、感覚運動的知能、対象の永続性、パブリング、愛着、分離不安
第6回	幼児期前期の発達	直立二足歩行、道具操作、言語、生活日課、生活習慣、自立のしつけ
第7回	幼児期後期の発達	体型変化、空間構成操作、描画、物語理解、表現、集団活動
第8回	運動機能の発達と動きの表現	運動発達規準、運動の随意性、運動表象、リズム調整、ゲーム、ルール
第9回	手操作の発達と空間認知・道具使用・造形活動	触覚、手操作、巧緻性、対象操作、手遊び、描画、造形
第10回	言語コミュニケーションと言語表現の発達	音声発達、語彙、概念、文型、独語、対話、思考、内言、外言
第11回	感情と社会性の発達	感情分化、対人感情、愛着、自我感情、自制・自律性、仲間入り
第12回	集団と遊びの発達	遊び分類論、集団観、相互作用、集団保育
第13回	人格発達と生活様式	依存、個体化、自己、初期環境要因、生活時間、生活空間、生活集団
第14回	乳幼児発達の研究方法	資料収集、観察、検査、実験、調査、生理指標、マイクログ分析、多変量解析
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

- 1)授業で配布した資料について自主的に検討分析する。
- 2)授業で触れた文献などについて自主的に探査する。
- 3)参考文献を独習する。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	95 %	試験問題で提示した資料について読み取り、分析し、考察する力を問う。
日常点・その他	5 %	講義中、講義後の質問、意見発表など、積極的アピールを評価。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

教育の段階

M.ドベス / 岩波書店 / 4-00-000383-6 / 青年期までを見通して

育ちあう乳幼児心理学

心理科学研究会 / 有斐閣 / 4-641-07634-0 / 保育のなかの乳幼児

乳幼児の心理

麻生武 / サイエンス社 / / 発達研究動向と理論

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡 士郎

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果ついつい、「他人とのコミュニケーションは苦手…」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

また一方で、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションについて自覚することは少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか、気にはなるけれども、明らかにされる機会はありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションにおいては「技術」と「内容」の二つの課題が存在します。当然のことですが、良好なコミュニケーションはコンテンツ(伝える内容)とプロセス(伝達的手段技術)の両者がうまく備わってこそです。この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。

毎年説明しているように、教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一步前進です。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1001	イントロダクション 授業の進め方 第一回の実習 ミニレポート(記述・提出)	
1008	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1015	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1022	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1029	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1105	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1112	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1119	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1126	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1203	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1208	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1210	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1217	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
1224	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック(記述・提出)	
0107	前回のレポート振り返り(レクチュア)・今日の課題実習・今日のフィードバック	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	

日常点・その他 50 % 毎週、ミニレポートの提出があります。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

三分の二以上(10回)出席できそうにない者は登録しないでください。基本的に毎週フィードバックシートの提出を課します。遅刻してミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない遅刻に関しては、自主的にフィードバックシートに事情を明記してください。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books****書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

家族の練習問題

団士郎 / ホンブロックKK / / マンガです。主に家族のコミュニケーションに焦点をあてたものです。

不登校の解法—家族のシステムとは何か—

団士郎 / 文春新書 / / 読みやすい新書です。家族システム論の視点から、親子のコミュニケーションをテーマに書いています。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

## 人間と文化 S

12876

担当者名 / Instructor 原尻 英樹、山下 高行、佐藤 春吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

文化現象といってもその内実は多様である。本講義では、人間、文化、自我 表象文化と私たち かかわりと社会 という三つの次元から現代文化について多面的に考察する。人間・文化・自我 では、人間の本質的活動と文化の関係、文化とは何かを考えます。また、そうした文化と自我あるいは私とはどのような関わりをもっているのかを考え、現代社会の中での自我のありかたについて見ていきます。さらに 表象文化と私たち では絵画、イベント、パフォーマンス、ファッションなどの表現活動や文化を通じて私たちがいかに社会に組み込まれ、また逆に文化を読み替え、私を表現していくのか、その複雑な関係について考察する。そして かかわりと社会 では、「世代論」「ボランティア文化」「新たな公共性」「グローバル化」などいくつかのトピックスを取り上げ、現代日本社会における人と人との「かかわり」の現在について考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「文化の学び」には多様なアプローチがありうる。受講生には、3つのセッションで展開されるさまざまな文化研究の方法や成果を吸収することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得することが期待されている。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「人間と文化」を学ぶーイントロダクション	
第2回	人間の本質と文化(1);人間の本質と文化について考える。	人間、労働、言語、遊び、社会、歴史、文化
第3回	人間の本質と文化(2)文化とシンボル	言語、記号、シンボル、意味、意味理解と文化
第4回	社会・文化と自我(私)のなりたちを考える	自我(私)、欲望、アイデンティティ
第5回	現代社会、現代文化と自我;現代人のアイデンティティ・クライシス	消費社会、ナルシズム、グローバリズム、「自己責任」、不安
第6回	表象文化の分析方法:カルチュラルスタディズ入門	記号論、カルチュラルスタディズ、意味の循環
第7回	表象文化と人間(1):絵を読む	絵画の解説、ドイツ退廃芸術展
第8回	表象文化と人間(2):イベントを読む	テキスト、スペクタクル、公的祭儀
第9回	ファッション、遊び、スタイル:自省的に自己を振り返る	テーマパーク、ファッション、スタイル
第10回	私 から 社会 へ - 新たな「かかわり」の創造に向けて(1)	世代と文化
第11回	私 から 社会 へ - 新たな「かかわり」の創造に向けて(2)	ボランティア文化、新たな公共性
第12回	私 から 社会 へ - 新たな「かかわり」の創造に向けて(3)	公共圏の形成、マルチメディア
第13回	私 から 社会 へ - 新たな「かかわり」の創造に向けて(4)	ナショナリズム グローバリゼーション
第14回	総括授業:提出レポートに対するコメントまとめ	
第15回		

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

教科書は事前に読んでおくことが望ましい。授業時に指示した文献(レジュメを含む)を読解させる場合もある。期中に、3回の課題レポートを課す。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	テキストおよび授業の理解度。マークシート方式にて実施
日常点・その他	45 %	各セッションごとに合計3回、レポートを提出してもらい、どれだけ、主体的に学習し、自ら考察しようとしたかを判断する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は上記3つの分野を担当する3人の講義責任者が、順に授業を進めていく。授業内容は一部変更される場合もある。各クラスの授業計画については、初回講義時に詳細をレジュメにて配布する。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
方法としての人間と文化	佐藤嘉一編著 / ミネルヴァ書房 / /

参考書 / Reference Books

授業時に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 人間発達論 S § 人格発達論 S

15197

担当者名 / Instructor 竹内 謙彰

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

児童期・青年期・成人期にわたる人間の社会化に関する諸理論を踏まえつつ、能力の発達と相対的に区別される自主的、多面的・民主主義的な人格の形成過程について発達論の視点から論じる。特に、人間の行動を目的・動機の側面からとらえ、人格形成を促す契機や相互作用のしくみについて、教育や労働、家族や社会集団の人間形成と関わらせながら考察を進める。

## 到達目標 / Attainment Objectives

人格の発達に関して、基本的な知識を得ること。  
上記 に関わる知識を、教育や福祉の観点と結びつけて理解を深めること  
人格発達に関わる資料の読み取りや分析に習熟すること。  
これら3点を基礎に、発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達とは何か	機能連関, 発達連関, 発達権
第2回	人間発達の基礎的条件	進化, 遺伝と環境, 人間性
第3回	人間発達の基礎的条件	初期環境, 虐待
第4回	現代社会における人格発達の課題	人格とは何か, 人格発達の今日的課題
第5回	現代社会における人格発達の課題	人格発達の危機
第6回	現代社会における自立	義務としての自立, 権利としての自立
第7回	現代社会における自立	依存的自立, 全人格的自立
第8回	現代社会における自立	青年と就労
第9回	人格と社会化の理論	人格理論
第10回	人格と社会化の理論	人格の構造
第11回	人格と社会化の理論	労働と人格
第12回	人格と社会化の理論	集団と人格
第13回	自己教育力とその形成	自己意識, 自己肯定感
第14回	自己教育力とその形成	展望, 連帯
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	学習内容に関する基本的な理解に基づく妥当な考察が行われていること。
日常点・その他	20 %	講義時間中に小テストを行い, 成績評価に加味する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者の自立と発達保障	加藤直樹 / 全障研出版部 / 4-88134-143-X / 講義の一部で言及する

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 人間論 S § 人間論 I S

12905

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

人間の社会との「かかわり」の歴史を「民話」や「小説」を題材にして社会的に論じます。伝統社会に生きる「あかずきんちゃん」、モダンソサエティの到来とロビンソン・クルーソー、変貌する大都会ペテルブルグに生きるアルカイジュー青年などの生き方にみる「人格形成と社会構造」の問題を論じます。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会学や経済学、精神分析や言語倫理などの学習をとおして「社会の動きと自己アイデンティティの形成」に関するものの見方の習得をめざします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生科目「基礎社会学」、同「人間と文化」、二回生科目「文化理論」の履修を薦めます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会とアイデンティティ問題を「物語」によって語るわけ	アウグスチヌス『告白』、ルソー『告白』、自己論、ポスト・モダンという時代!? わたくし語りの歴史
第2回	「わたくし」という現象 宮沢賢治の詩を読む:「自分をさがす」とはどのようなことを考えてみる	「わたくし」という現象、一人称単数で語る、現実は多元的である、現象学的社会学
第3回	「あかずきんちゃん」にみるアイデンティティと社会:民話の世界から「むら社会」(伝統的共同社会)に生き	あかずきんちゃん、共同体、口承、構造優位、むらともり、民話
第4回	「恩」の構造:日本のプレモダンの共同社会を生きる「伝統的パーソナリティ」の特徴を「恩を返すはなし」	「契約における非契約的要素の問題」、「読み直す」ということ
第5回	グリム童話「蛙の王様」と「鶴の恩返し」- 物語にみるヨーロッパの「プレモダン」と日本の「プレモダン」	グリム童話、日本昔話、内発・能動と外発・受動、象徴動物 蛙と鶴・亀
第6回	『ロビンソン・クルーソー』におけるアイデンティティと社会 社会学者や社会学者によるこの物語の読み方	一人称単数「わたし」の視点、構造の視点、理解社会学の行為の視点、経済的カテゴリー、理念型
第7回	夏目漱石の『ロビンソン・クルーソー』論-イギリス留学を体験した漱石の目から見た18世紀のイギリス社会	ロビンソン型人間類型と漱石型人間類型、内発・能動、外発・受動 漱石のイギリス体験
第8回	「わたくし語り」とドストエフスキー:小説『未成年』をよむドストエフスキーの物語世界を「わたくし」語	「盤根錯節」問題、ドストエフスキーの創作ノ、地下室の主人公、自然的態度の現象学
第9回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):「わたくし語り」のコンポジション:伝達・表現・叙述の3つ	直接世界、他者のあわれ、私の身体のアわれ、私の
第10回	「わたくし語り」とドストエフスキー(続き):今ここへ「内向する」語りと今ここを「超える」語り	意味連関のモザイク模様、類型化される意味世界、類型化される時間、類型化される空間、類型化される人格
第11回	「わたくし語り」とドストエフスキー(結び):「わたし語り」というテーマによって「物語」のなにがどのよう	われわれ関係、汝が関係した私、語る私、「内世界的間主観性」、ポストモダンの自己アイデンティティ問題
第12回	「からだ・こころ・他者」について 「社会とアイデンティティの問題」をめぐる若干の基本カテゴリーについて	肖像画を描く画家の目、文学者の目としての「異化」の方法、日常生活のリズムをとめる、サルトル
第13回	サルトルの「からだ・こころ・他者」を読み直す-「存在と無」からだの4つの位相論	状況の中からのからだ、役割演技、カフェイのボーイ、眼差しの地獄、サディズムとマゾヒズム
第14回	自己論への道程 ヤヌスの課題を背負って:物語論にみられる「社会とアイデンティティ」問題の三つの視座:	社会科学・社会学・文学の間、現場に居合わせる、社会構造と個人、ドロシー・エメット
第15回	まとめ 物語における社会とアイデンティティ論の射程	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業全体の理解度や基礎概念の学習度などを主に考査する
日常点・その他	20 %	授業で学んだ「社会とアイデンティティ」問題を各自が創造的に再構築する作業として位置づける

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポートを書くことは問題を整理し、理解を早めるばかりでなく、自分の新しい考え方に気づく自己発見の場となります。必ずレポートを書くようにしましょう。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title

物語のなかの社会とアイデンティティ

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

佐藤 嘉一 / 晃洋書房 / 4-7710-1525-2 /

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title

未成年

春と修羅

ロビンソン・クルーソー

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

ドストエフスキー / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

宮沢賢治 / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

ダニエル・デフォー / 岩波文庫 / / 授業の理解を深めるために

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

<http://webct.ritsumeai.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct>

**その他 / Others**

## ネットワーク論 S

15215

担当者名 / Instructor 堀 孝弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ITネットワークではなく、市民活動(特に環境活動)における人づくり、組織運営、ネットワーク構築について原則および実践事例などを紹介する。学園生活だけでなく社会に出てからも役立つスキルや考え方を、座学だけでなく「受講者参加ワーク」も用いて体験的に修得する講座である。また、理解を深めるうえで情報のもつ意味は大きく、市民セクターの成長やセクター間の協働について、講師自らの活動経験を含めて、おもに京都近郊の環境ネットワーク活動の最新事例を講義の後半で紹介し、受講者の視野を広げる。

なお、本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

将来にわたり活用できる人的ネットワーク構築、および団体運営の基本スキルを修得する。  
セクターを越えた協働社会の構築に向けた、市民セクターの活動成果と可能性を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論、環境保全論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス これからどのような講座が始まるのか	授業概要および講師紹介 【参加ワーク】人と人とのつながりを豊かに(非攻撃的自己主張の体験)
第2回	人と人のつながり 対人コミュニケーションの発想転換	ゲームの理論からWin-Winの関係へ 【参加ワーク】質問力を高めよう(閉じた問いかけを開いた問いかけに)
第3回	団体の運営 社会性のある活動を継続的に生み出すには	目的と目標、問題と課題、ミッションとビジョンの違いなど 【参加ワーク】リーダーに必要な要件、緊急性と重要性の整理
第4回	団体の運営 共感を得る活動企画の基礎理解(マーケティングとポテンシャル)	コーディネーターの重要性、ネットワークが必要になるとき 【参加ワーク】あなたの持っている30の顔
第5回	環境ネットワーク活動の活動事例 その1 「日本の環境首都コンテスト全国ネットワーク」の活動から	ここまで伝えた団体運営・ネットワーク構築に必要な手順・手法を実際の活動事例を通じて確認する
第6回	会議の効率的な進め方	会議での意見の引き出し方、ブレインストーミングの4つの約束など 【参加ワーク】会議の「次第」をつくる
第7回	合意形成の築き方 幾つかの手法紹介と手法活用の留意点	意見の整理の仕方(分類し関係と階層を考え、課題をつかむ) 【参加ワーク】意見の分類と整理をしてみよう
第8回	団体内での人づくり 肯定的指導、プロセス評価(コンピテンシー評価との違い)	団体内でのエンパワメント 次世代リーダー育成 【参加ワーク】プロセス評価を体験しよう
第9回	仲間づくりとネットワークの様々なかたち	市民セクターのネットワーク セクターを越えたネットワーク 【参加ワーク】教室内のネットワークを確認しよう
第10回	環境ネットワーク活動の活動事例 その2 グリーンコンシューマー全国ネットワーク	市民セクターネットワーク活動の紹介 「買物ガイド」を通じた流通小売事業者への働きかけ成果と限界
第11回	環境ネットワーク活動の活動事例 その3 京都省エネラベル協議会	異セクター間ネットワークの紹介(市民セクター+行政+流通事業者) ネットワーク成功の要因(ハブとなる団体の存在)
第12回	環境ネットワーク活動の活動事例 その4 京都リユース協議会	ネットワーク成功の要因(それぞれのポテンシャルの活用) 【参加ワーク】ネットワーク・スケジュールと仲間への作業配分
第13回	環境ネットワーク活動の活動事例 その5 グリーン購入ネットワーク	ネットワーク成功の要因(セクターを越えた人と人とのつながり)
第14回	思いをかたちにする 活動企画に必要な要件 PDCAサイクルでの活動の展開・深化	市民・事業者・行政の協働による地域計画策定の紹介 【参加ワーク】活動を企画してみよう
第15回	ビジョンを実現する力 バックキャストとフォアキャスト	ビジョン共有の大切さ「スウェーデンの緑の福祉国家構想から」 【参加ワーク】学生企画の発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	52 %	講師が各回提示・提供した情報等を、応用でき得るよう咀嚼・理解しているか
レポート試験	3 %	授業内で提示 市民活動の発展と可能性の理解(A4・1枚程度)

日常点・その他

45 % 出席を重視するが、単に「出ている」だけでなく、受講姿勢と授業理解について各回提出の「授業感想」により判断する

本講座講師は、学外において、行政や企業、教育機関、一般市民などを対象に、ひろく社会活動を実践している者であり、受講姿勢については特に重視する。

下記の行為は授業妨害とみなし、当該学生を「D」評価とすることがあり得る。

他の受講生の受講妨害(授業中の私語、大幅な遅刻や頻繁な途中入退室など)

授業中の携帯電話の使用(Eメールの送受信を含む)

参加ワークの不参加

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

大好き京都 環境市民の遊びかた・暮らしかた。 NPO法人 環境市民 / 環境市民 / ISBN4-9902874-0-1 /

授業の理解を深めるものとして紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

<http://www.kankyoshimin.org/>

講師堀が事務局長を務める「NPO法人環境市民」のWebサイトである。環境市民は、国内でも活動内容のユニークさや先進性で注目されている団体である(2004年度グリーン購入大賞環境大臣賞受賞、2005年度京都府環境トップランナー賞受賞、京都新聞2005年元旦社説での紹介等)。授業でとり上げる活動が紹介されているので、ホームページの閲覧をすすめる。

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 深井 純一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

受講生諸君の大部分は、京阪神大都市圏または他県の比較的大きな都市で生まれ育っている。その意味で農業農村に疎いと言えるが、近年これらの都会出身者も農業農村に関心を持ち始めている。食料・環境などの面で農業農村とのつながりを求め始めている。都市と農村の提携というテーマを多角的に検討する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

農業農村の問題を身近にとらえ、現地見学や農作業体験に気軽に出かけていける基礎知識を身につけてほしい。  
最近マスコミにも農業農村問題の番組・記事は増えている。それらを理解し、批判する力量をめざしてほしい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

他の環境論の諸科目。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	開講に当たって 教師と学生は対等、果たして正しいかと疑いながら受講を! 期末レポートの出題と作成上の注意事項、成績評価の基準と方法の提案、期末に協議して決定	批判的精神、教育は対等の関係で
第2回	ドキュメンタリービデオ上映『段々畑の歲月 太田部耕地の40年』、感想・質問のアンケート実施	秩父太田部耕地とは? 林業・畑作の衰退、若者の流出、山村住民の高齢化、過疎問題
第3回	先週のビデオ・アンケートの質問に答える	
第4回	序論・都市にとっての農村の役割は何か、過疎問題と過疎対策	単なる人口減少ではない、人口減に伴う地域社会の衰退・解体、原因は山村の産業問題
第5回	森林と木の文化	山紫水明・治山治水の意味、広葉樹林の貯水・砂防機能、不可欠だった里山の林産資源と多様な利用法 ヨーロッパの石造家屋と日本の木造家屋を比較する、なぜ針葉樹林と皆伐方式に変わったのか
第6回	ドキュメンタリー・ビデオ上映『杉山崩壊 いま日本の森林は』、感想・質問のアンケート実施	
第7回	ビデオ・アンケートに答える	
第8回	かつての農業 半自給的生活と個別複合経営、なぜそれは崩壊して現代的農業に取って代わられるに至ったか	成り立っていた資源の循環と節約、安い生活費、旬を大切に栽培、現在の遠隔地大量生産と大量流通・大量消費、農業の大量使用はなぜ必要になったのか、畜産公害と家畜の病気多発の原因は?
第9回	産直のあり方を考える	産直とは何の略称? 真の産直とは? 産直の3原則、生産者と消費者の結びつき、相互信頼まで進んでいるか、産直運営の困難とその打開策
第10回	食料農産物と肥料となる廃棄物の交換 都市と農村の根源的關係	高床式の床下に豚、「家」の字体の源、庭先の池に伸びた細い板は? いまも残る近郊農家の振り売り かつては都市のし尿と野菜を交換していた、西欧でもし尿の肥料化
第11回	コメ文化と水田の多面的機能	河川と結びついた農村集落の立地、稲作の宿命、水田による地下水貯留と浄化、棚田に典型的に示される砂防機能、広大な水田による環境調節、水田景観の役割。
第12回	ドキュメンタリー・ビデオ上映『えりも岬に春を呼べー砂漠を緑に』感想・質問のアンケート実施	
第13回	ビデオ・アンケートに答える	
第14回	閉講に当たって、成績評価の基準と方法に関して協議・決定、14回の講義内容と方法に関する感想・批判の総括アンケート	成績評価において期末レポートと中間の5回の提出物のウエイト、4年生以上の就職活動への配慮をどうするか、期末レポートにおいて参考文献の明記と引用・要約個所の明示、手書き、現地見学・図書館探検の過程を末尾にまとめる件などの是非を論議する。

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

期末レポートの作成に早くから取り組み、現地へ見学に出かけ、学内外の図書館を利用して文献を見つける。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート試験	70 %	3回生以下は70%、4回生以上は85% (ただし受講生と協議して最終決定)
日常点・その他	30 %	3回のビデオアンケート、特別講義の感想、全体の総括アンケート合わせて5回の中間提出物に、3回生以下は30%、4回生以上は15%を配点する。(ただしこの点も受講生と協議して最終決

#### 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出来るだけ詳しいレジュメ・参考資料を配布するので、ノートすることに追われず、内容を疑いながら聞くこと。

講義内容も参考文献の内容も仮説に過ぎない。挙手発言してほしいが、せめてアンケート類に率直な自分の意見・反論を書いてほしい。謙虚にお答えするつもり。批判の自由を全面的に保障する

#### 教科書 / Textbooks

ハンドブック・さんしゃ』に収録された私の「図書館探検法」を参考にして自分で探すこと。苦労して見つけた宝物は読んでみようかという気になるものだ。

#### 参考書 / Reference Books

図書館探検法をガイドランスして自分のレポートテーマに合った文献を自力で探してもらおう。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

私は書物派。大変便利だが、インターネットは予習の手がかりに過ぎない。本を探して読む習慣を手放すな。

#### その他 / Others

毎年私の全ての担当科目でほぼ恒例としている特別講義として学外講師を招くことを考えているが、前期は農繁期のため農業生産者に期待することが難しく、農産物の流通関係や産直・村おこしに取り組むNPOの活動家ならば可能かもしれない。特別講義が実現する場合には第10～14講が一部圧縮や特別講義との入れ替えが生じうることを了承してほしい。

## 発達障害論 S § 身体発達論 I S

12998

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期(例えば、「階層-段階」理論など)との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

発達障害の基礎的概念や用語を知る。発達障害の発生・成立のメカニズムを知る。人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1 - 1. 発達障害とは(1) - 基礎的用語と定義の説明 -	発達、障害、発達障害、学習障害、言語障害、情緒障害、行動障害、自閉症、アスペルガー障害
第2回	1 - 2. 発達障害とは(2) - 歴史・現状 -	障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義
第3回	2 - 1. 人間発達と発達障害(1) - 系統発生と障害(その1):ヒトの誕生まで -	人間進化、動物福祉学
第4回	2 - 2. 人間発達と発達障害(2) - 系統発生と障害(その2):ヒトの誕生以降 -	ヒトの誕生、ネアンデルタール人、共同社会、社会の進歩と障害者
第5回	3 - 1. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(1) - 胎生期(その1) -	卵体期、胎芽期、遺伝病、染色体異常
第6回	3 - 2. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(2) - 胎生期(その2) -	胎児期、脳の発達、先天異常
第7回	3 - 3. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(3) - 周生期 -	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数
第8回	3 - 4. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(4) - 乳児期前半 -	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得
第9回	3 - 5. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(5) - 乳児期後半 -	移動、コミュニケーション、注意共有機構(SAM) 喃語の獲得、模倣と学習
第10回	3 - 6. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(6) - 幼児期 -	歩行、道具の操作、言語の獲得、遊びと学習
第11回	3 - 7. 発達の「階層 - 段階」と発達障害(7) - 学童期・青年期 -	社会的自己、集団、学習障害、障害の自己認識、特別支援教育
第12回	4 - 1. 4. 広汎性発達障害をめぐって(1) - 自閉症スペクトラム(その1) -	自閉症、早期発見、早期療育
第13回	4 - 2. 広汎性発達障害をめぐって(2) - 自閉症スペクトラム(その2) -	思春期・青年期、二次障害、社会参加、障害の自己認識
第14回	4 - 3. 広汎性発達障害をめぐって(3) - 自閉症スペクトラム(その3) -	こだわりと個性、いじめ、不登校、非行
第15回	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

授業テーマと関連する視聴覚教材を利用して知識をひろげる努力をしてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。日本語としての文章や表記が正確でない場合は原点となる。
レポート試験	50 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。資料や文献の読み込みがしっかりできているか。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。

日頃、耳にする用語や概念を正確に理解してほしい。  
発達障害への基礎知識の習得をすすめる努力をしてほしい。

#### 教科書 / Textbooks

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害の基礎	熊谷公明・栗田広・有馬正高(編集) / 日本文化科学社 / /
発達障害の臨床	熊谷公明・栗田広・有馬正高(編集) / 日本文化科学社 / /
自閉症スペクトラム児・者の理解と支援 医療・ 教育・福祉・心理・アセスメントの基礎知識	日本自閉症スペクトラム学会(編集) / 教育出版 / /
発達障害の豊かな世界	杉山登志郎 / 日本評論社 / /
自閉症スペクトラム生き方ガイド	スティーブン M.ショア 森 由美子(訳) 荒木穂積(監訳) / クリエイトかもがわ / /

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会: <http://www.autism.or.jp/>  
 日本ダウン症ネットワーク: <http://jdsn.gr.jp/>  
 日本知的障害者福祉連盟: <http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/>  
 日本発達障害者ネットワーク: <http://jddnet.jp/>  
 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>  
 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>  
 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

#### その他 / Others

## 発達保障論 S

15190

担当者名 / Instructor 荒木 穂積

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わり、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとらえて、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、特に子ども、障害者(児)、教育の視点から発達保障の諸課題を取り上げる。人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

発達保障の成り立ってきた歴史的背景、現代社会における人間発達の阻害状況、およびそれを発達の契機として築きあげてこられた人間の発達を保障するための諸理論と実践についての理解を深める。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	第1章 発達保障とは何か(1)	歴史的な性格、構成要素、3つの系
第2回	発達保障とは何か(2)	この子らを世の光に、階層段階 - 理論、糸賀一雄、田中昌人
第3回	第2章 子どもと発達保障(1) - 「子どもの世紀」 -	生物進化、人間の発達、子ども学の誕生、エレン・ケイ
第4回	子どもと発達保障(2) - 保護から権利へ -	子どもの権利宣言(ジュネーブ宣言)、ヤヌシュ・コルチャック、ホロコースト
第5回	子どもと発達保障(3) - 「子どもの権利宣言」から「子どもの権利条約」へ	子どもの権利条約、発達主体、意見表明、学習の権利
第6回	第3章 障害者と発達保障(1) - アヴェロンの野生児と知的障害児の教育 -	ピネル、イタル、セガン、石井十次、脇田良吉
第7回	障害者と発達保障(2) - 手話の誕生と聾学校の設立 -	ド・レベ、パリ聾啞学校、古川太四郎、日本盲啞院
第8回	障害者と発達保障(3) - 点字の発明と盲学校の設立 -	ルイ・ブライユ、古川太四郎、石川倉次、ヘレン・ケラー
第9回	障害者と発達保障(4) - 重症心身障害者の権利 -	慈悲から権利へ、パラダイム転換、医療的ケア
第10回	障害者と発達保障(5) - 病気とたたかう子ども -	病弱教育、病気の管理と日常生活、生活の質の向上、生きがい
第11回	第5章 現代社会と発達保障(1) - ノーマライゼーション -	バンク・ミッケルセン、ノーマライゼーション、平等の権利、障害者の権利宣言
第12回	現代社会と発達保障(2) - 障害者の権利宣言と国際障害者年 -	国連、障害発生最大の原因、アジア太平洋障害者の10年、障害者の権利条約
第13回	現代社会と発達保障(3) - 現代社会と子どもの権利 -	発達障害、学力、体力、非行、ひきこもり、児童虐待、格差社会、子どもの権利条約
第14回	現代社会と発達保障(5) - 人間の安全保障と発達保障 -	地球市民、人間の安全保障、平和・環境・健康・発達、第3世代の人権
第15回	定期試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業の途中でレポートの提出をもとめる。

授業テーマと関連する資料を配付するので自主学習をすすめてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。日本語としての文章や表記が正確でない場合は原点となる。
レポート試験	50 %	課題にそって論旨が展開されているか。論理的な記述になっているか。資料や文献の読み込みがしっかりできているか。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人権や教育の歴史にふれるが、人物史が中心になるので詳しくは伝記など関連文献で深めてほしい。

現代の発達保障の動向については、視聴覚教材や新聞、テレビの記事を利用することがある。

適宜、ゲストスピーカーを招聘することもある。

シラバスの変更もあるのでWebCTなどでチェックすること。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達保障の探求	田中昌人・清水寛(編著) / / 全国障害者問題研究会出版部 /
障害のある人びとと創る人間教育	田中昌人 / / 大月書店 /
復刻この子らを世の光に 近江学園二十年の 願い -	糸賀一雄 / / NHK出版 /
世界子供白書(各年版)	ユニセフ / / 財団法人日本ユニセフ協会 /
人間開発報告書	UNDP / / 国際協力出版会 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

UNDP: <http://www.undp.org/>  
 UNICEF: <http://www.unicef.org/>  
 国連広報センター: <http://www.unic.or.jp/>  
 日本ユニセフ協会: <http://www.unicef.or.jp/>  
 全国障害者問題研究会: <http://www.nginet.or.jp/>  
 外務省: <http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>  
 文部科学省: <http://www.mext.go.jp/>  
 厚生労働省: <http://www.mhlw.go.jp/>

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

デジタル化の到来によって、多メディア・多チャンネル化は現実となり、インターネットなどによる市民の発信機会は増えている。アメリカでは一般市民が1000以上のテレビチャンネルをもっているし、ヨーロッパやアジアでも市民がメディアに参加することは常識である。しかし日本ではマス・メディアへのアクセス権は保障されていない。市民社会での相互理解、自己決定、合意形成などの基本的システムとして、どのようにメディアへのアクセス権、言論の公共圏を形成してゆけるのか、アクセス権の生成、世界の現状から日本での今後の課題を考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・言論・表現の自由と公共圏の構造転換が理解できること
- ・現代的市民社会の成立の過程でのメディア・アクセスの実践的な歴史を知ること
- ・アメリカ型/ヨーロッパ型/アジア型のパブリック・アクセスの比較
- ・日本の市民メディアの現況と課題

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズムの歴史や現代的な課題  
世界の近代史  
市民社会論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	なぜパブリック・アクセスか	市民社会、マスメディアの機能と役割、3極構造
2	パブリック・フォーラムの成立と変質	プレス自由、古典的自由論、公共圏の変質、社会的責任論
3	誤報・不公平への反論・名誉回復	松元サリン事件、記者クラブ、反論権
4	人権侵害と名誉回復	メディア操作、捏造、メディアスクラム
5	メディア規制のルールと現状	メディア関連法、苦情処理、第三者機関、BPO
6	アクセス権の拡大	反論権、アクセス権、パロン、フェアネスドクトリン
7	アメリカ/カナダのパブリック・アクセス制度	パブリック・アクセス・チャンネル、アクセスセンター、
8	北米のパブリック・アクセス 背景と課題	ケーブルテレビ、コミュニティ、変革への挑戦、多文化主義
9	ヨーロッパのオープン・チャンネル1	グローバル化、ドイツ多元主義、オープンチャンネル
10	ヨーロッパのオープン・チャンネル2	オランダNOS、海賊放送、市民放送、自由テレビ
11	韓国のパブリック・アクセス	民主化運動、KBS改革、デジタル化
12	パブリック・アクセスの現場から	
13	日本のさまざまなパブリック・アクセス番組	中海テレビ、NPO放送局、市民メディア協議会
14	パブリック・アクセスの課題と政策	放送制度、編集権、技術移転、中間組織

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
日常点・その他	30 %	

\* 適宜実施する小テストおよび期末テストによる。受講生自身のメディアへの積極的なアクセス実践や、具体的な事例の研究・調査の発表やレポートなども高く評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この講義は主にメディアへのアクセスの理論、自ら表現する思想や実践を学ぶものであることから、日頃から「市民とメディアの関係」に積極的に関心をもち、メディアに働きかける習慣を持つようになると、実践的な理解が深まる。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 パブリック・アクセスを学ぶ人のために	津田正夫・平塚千尋編 / 世界思想社 / / 生協扱い

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア・アクセスとNPO	津田正夫 / リベルタ出版 / /

アクセス権とは何か	堀部政男 / 岩波新書 / /
市民メディア論	松野良一 / ナカニシヤ出版 / /
新版・地域メディア	竹内郁郎・田村紀雄編 / 日本評論社 / /
新版・ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄編 / 世界思想社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.media-access.org/>  
<http://www.medekiku.jp/gwtv/kanagawa.shtml>  
<http://www.tcc117.org/fmyy/>  
<http://www.janjan.jp/link/sogo/media/alternative.php#kyoto>

その他 / Others

## バリアフリー論 S § 生体機構論I S

12952

担当者名 / Instructor 斎藤 正一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。バリアフリーがもっと一般化してユニバーサルデザインと各種商品にも記載され登場しています。しかし本当のバリアとは一体何でしょう。私は、日々職業柄考えさせられることがあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・心・環境・施設・人といったように様々なバリアが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。現場で感じてきた各種の問題を学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1: 各種のバリアフリーをいろいろな角度から知る
- 2: バリアが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
- 3: 障害の実際を知る

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら  
医学・建築・社会福祉制度  
ただし上記に卓越されている方は、当講義受講は不要かと存じます。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入 バリアフリー論について 講義の概要	バリアフリー リハビリテーション 障害受容 PT OT ST
第2～5講義	第一章 身体のバリアフリー 基礎医学 各疾患	骨格系 神経 筋 脳血管障害 脊髄損傷 リウマチ パーキンソン病 高齢者に多い骨折 廃用症候群
第6～7講義	第二章 精神のバリアフリー	認知症 高次脳機能 人の心理
第8講義	第三章 体験	本当の車椅子体験 障害者の気持ち
第9～11講義	第四章 住環境のバリアフリー	住環境 福祉用具
第12～13講義	第五章 人・制度・環境のバリアフリー	地域社会 ボランティア 社会福祉制度 行政機関 民間活力 都市環境
第14講義	最終章 障害者の限界 バリアフリーって何だろう	パラリンピック 障害者スポーツ 人間の限界

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	10 %	課題レポートを指示します
日常点・その他	20 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

\* 定期試験として実施

講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。

基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。

ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話する事を学生自身でテキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。

## 教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
目で見るとリハビリテーションの実際	上田 敏 / 東京大学出版 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

- <http://yagi.doshisha.ac.jp/bf/guide/guide-top.htm> <車椅子で回れる京都観光ガイド>  
<http://www.jaic.or.jp/hyk/index.htm> <ひとにやさしい建築・住宅推進協議会>  
<http://www.kansai-fukushi.net/> <関西福祉ネット>

<http://ruazealand.com/html/index.html> <ルアジーランド流山>  
<http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm> <福祉制度:障害者制度集>  
<http://www.hcr.or.jp/> <国際福祉機器展>  
<http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html> <国際生活機能分類>  
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jpta/menu.htm> <日本理学療法士協会>  
<http://www.jaot.or.jp/> <日本作業療法士協会>  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm) <学校施設バリアフリー化推進指針>  
[http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen\\_top.htm](http://www.jsad.or.jp/2004athen/athen_top.htm) <日本障害者スポーツ協会>  
<http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm> <身体障害者障害程度等級表>  
<http://akatan.cool.ne.jp/index.html> <赤の他人のホントのわたし>  
<http://www.bfa.gr.jp/> <バリアフリー協会>  
<http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html> <バリアフリー住宅>  
[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji\\_html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_html) <交通バリアフリー>  
[http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree\\_html](http://www.mlit.go.jp/barrierfree/barrierfree_html) <国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン>  
<http://www.universal-design.gr.jp/> <ユニバーサルデザインフォーラム>

その他 / Others

## 比較ジェンダー論 S

15185

担当者名 / Instructor 中川 順子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

男女の「社会的文化的につくられた性差」- ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。先進国間では、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。さらに、東アジアなど周辺化された地域や、女性移民などを射程に入れて、グローバルなジェンダー秩序の編成を考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

まずは、身の回りの様々な場面をジェンダー状況という視点で見直すことの出来る力量を身につけること。同時に、世界各地についてもその視点を生かした理解の仕方を身につけること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家論などに関連する科目。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況と男女共同参画社会 その1 男女共同参画社会の成立の意思と背景・問題点	出生率低下・労働力不足・女性労働・育児支援・働きかたの見直し
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法と分析 その1 福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給のありかたとジェンダー
5	比較ジェンダー論の方法と分析 その2 ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
6	比較ジェンダー論の方法と分析 その3	フェミニスト、ジェンダー視角からの福祉国家モデルの提起
7	欧米諸国のジェンダー秩序 その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
8	欧米諸国のジェンダー秩序 その2	大陸ヨーロッパ・オランダ
9	欧米諸国のジェンダー秩序その3	自由主義レジーム・アメリカ
10	後発国家とジェンダー その1	マリア・ミース・グローバリゼーション・主婦化
11	後発国家とジェンダー その2	福祉国家モデルとしての東アジア
12	後発国家とジェンダー その3	開発とジェンダー、キャロライン・モーザー
13	グローバリゼーションと女性移民	女性輸出国
14	まとめ	国際関係とジェンダー

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述試験。講義内容の理解度を総合的に判断。
レポート試験	30 %	小レポートを数回行い、出席状況と理解度を把握し、評価に反映する。

小レポートは、コミュニケーション・ペーパーとして活用する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の進捗状況によって、講義日程と内容に若干の変更を加えることがある。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

参考文献・資料等は、講義において適宜紹介する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義において適宜紹介する。

## その他 / Others

私語・飲食は慎んでほしい。

## 比較宗教論 S § 比較宗教論 I S

15170

担当者名 / Instructor 高木 正朗

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

主題は「生(ethos)、愛(friendship)、死(thanatos)の比較宗教学」。  
概要は下記「授業スケジュール」を参照してください。

## 到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適です。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきていますから、われわれはそれを古典として容易に入手できます。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材として、個として「現在を生きる力」を手に入れていただくことを、手助けすることが目標です。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回 4/10	講義の解題: 宗教とは何か? それは役にたつのか?	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性(合理・論理・倫理性)、葬制
第2回 4/17	中国・東アジア文化圏の宗教(1): 氏族と「個」の葛藤(1)	「論語」の世界: 孔子「仁=博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
第3回 4/24	中国・東アジア文化圏の宗教(2): 氏族と「個」の葛藤(2)	「孟子」の世界: 4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
第4回 5/01	中国・東アジア文化圏の宗教(3) アジア的知識人と隠遁	「老子」「莊子」の世界: 玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
第5回 5/08	中国・東アジア文化圏の宗教(4): 血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	VTR『土楼の生活』+ [communication paper + 小レポート実施]
第6回 5/15	インド・ヒンドゥー文化圏(1): 民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界: アーリア人(「リグ・ヴェーダ賛歌」)、アートマンとブラフマン、バラモン
第7回 5/22	インド・ヒンドゥー文化圏(2): 民族移動と言葉の誕生(印欧語族とノストラ祖語)	VTR『言語の起源』(印欧語族を中心に)
第8回 5/29	インド・ヒンドゥー文化圏(3): ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界: 人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
第9回 6/05	インド・ヒンドゥー文化圏(4): 出家とニルバーナ(1)	ブディズムの世界: 釈迦「苦」の発見、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
第10回 6/12	インド・ヒンドゥー文化圏(5): 出家とニルバーナ(2)	VTR『ブッダの生涯』(バラモン、ヒンドゥー教との相違) + [communication paper + 小レポート実施]
第11回 6/19	ユダヤ・キリスト教文化圏(1): 部族宗教の論理	「旧約聖書」(映画「ユダ・ベンハー」)の世界: モーセ、十戒、「罪」の発見( )
第12回 6/26	ユダヤ・キリスト教文化圏(2): 「世界宗教」の論理(1)	「新約聖書」(映画「パッション」)の世界: ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪」の発見( )
第13回 7/03	ユダヤ・キリスト教文化圏(3): 「世界宗教」の論理(2)	「新約聖書」(映画「オリバー・ツイスト」)の世界: キリスト教の隘路、ユダヤ問題(ディアスポラ)
第14回 7/10	ユダヤ・キリスト教文化圏(4): 「世界宗教」の論理(3)	VTR『イエスの生涯』(キリスト教の起源) + 講義のまとめ + [小レポート実施]
第15回 7/17	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
最終講義日試験	70 %	詳細は備考を参照してください。
日常点・その他	30 %	詳細は備考を参照してください。

最終講義日試験: 70% 筆記、論述による回答を以下の3点で評価。論旨の明確性、自分のことば、丁寧な文字。  
日常点・その他: 30% 講義スケジュールの節目ごとに、小レポートを3回提出・それを評価。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エッセー、古典、1つでもみておくことを勧めます。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

思想をどうとらえるか 比較思想の道標

中村元 / 東京書籍 / / 1993

-----  
その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エッセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 比較スポーツ論 S § 比較スポーツ論I S

15186

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』  
 様々な国で様々な展開されるスポーツは、それぞれかつてに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的基礎とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展は履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会 / 文化の比較法 / 比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化 / 商業化 / アマチュアリズム / プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス(その1)	市民革命とブルジョアジー / 資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス(その2)	近代スポーツの階級性 / スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス(その3)	大衆化と高度化の矛盾 / 近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス(まとめ)	
第7回	スポーツの王国アメリカ(その1)	植民地時代 / プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ(その2)	南北戦争 / 過剰労働力 / 能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ(その3)	アメリカ的スポーツ / ローカリズムとナショナリズム / アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ(まとめ)	
第11回	日本的スポーツ(その1)	英米スポーツの日本的受容 / 学校教育とスポーツ /
第12回	日本的スポーツ(その2)	農耕祭祀 / 封建権力 / 武術と武道
第13回	日本的スポーツ(その3)	スポーツにおける日本的なもの / 日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ(まとめ)	
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなどと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自の考察視点の有無を重視する。

クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容をプラスアルファとして評価に反映させる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

## 参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 國廣 敏文

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

人類はこれまで様々な政治制度や体制を経験してきた。だがこれまでに試みられてきたどの政治制度も、飢餓や貧困、紛争や差別、エネルギー・食料問題など、人々の生活を十全な形で、平和で公平で安定したものとするには成功していない。本講義は、こうした状況を踏まえ、主要先進国の政治システムの構造・機能・動態を相互に比較・考察することによって各国政治の特質と問題点を抽出し、21世紀に相応しい政治の在り方 = "新しい政治"の在り方を模索することを目的とする。その際、何よりも事実に基づく分析によって、各国政治に関する正確で具体的な知識の取得とそれらを昇華させた形で日本政治改革への視点を得ることも視野に入れたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・比較政治の方法と意義を理解する。
- ・それらを踏まえ、各国政治の歴史と特質を知る。
- ・自分の国ならびに社会の諸問題を考える視点と材料を発見する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

グローバルな視点から国家と社会を見るために、「現代政治論」をあわせて履修することが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較政治学の方法	歴史 アリストテレス、モンテスキュー、アロン 比較政治学
第2回	比較政治学の現代的アプローチ 歴史と構造	現代の比較政治学の方法と課題
第3回	比較の指標	比較政治の指標
第4回	各国政治の制度的特質と現状 憲法、中央・地方自治、改革の現状	アメリカ合衆国建国の歴史と憲法の特質 連邦主義と立憲主義
第5回	アメリカ合衆国の政治 大統領制	現代アメリカ合衆国の政治
第6回	カナダ政治の歴史と特質	カナダ政治
第7回	イギリスの建国と歴史	イギリス政治
第8回	イギリスの政治 議院内閣制	議院内閣制
第9回	フランス建国の歴史	フランス政治
第10回	フランスの政治 半大統領制	半大統領制
第11回	ドイツ建国の歴史	ドイツ
第12回	ドイツ政治の歴史と特質	ドイツ政治
第13回	イタリア政治の歴史と特質	イタリア政治
第14回	ヨーロッパ小国の政治	スイス、ベルギー、オランダ
第15回	まとめ	新しい政治の在り方を求めて 日本の課題 日本政治の課題

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

普段から新聞やニュース、各国のHPに目配りしておくこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義の内容への理解度と学習の到達度を確認する
レポート試験	20 %	講義内容に関わるレポート、あるいは特定のテーマでのレポート課題を課す
日常点・その他	10 %	出席点を加味する

\* 定期試験として実施 成績評価 = 単位認定は、Semester終了時の論述試験を中心としつつ、レポートと出席点も加味して総合的に判定する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

内容が盛りだくさんなので、授業のスピードは速い。したがって、テキストを事前に読んでおくこと、授業終了後には、得た知識や視点を振り返って、更なる学習をすることが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版 比較政治制度論』	田口富久治・中谷義和編 / 法律文化社 / /

授業に際してレジユメを配布するとともに、参考文献等を適宜紹介するので、事前・事後の学習に役立てて欲しい。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の際に紹介する。

その他 / Others

「私語」は、自の学習権の放棄であると同時に、他人のそのの侵害であるので、厳禁する。

## 比較文化論 S

15162

担当者名 / Instructor 橋 健一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「恥の民族論?日本文化とネパール少数民族の文化?」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがあり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

文化を比較することの問題と可能性を理解する。

日本文化論やネパール社会論の基本を理解する。

個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。

文化と倫理との関わりを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学一般、現代社会全般についての議論は「文化人類学S / 人間文化特論ISA」で行っている。必須ではないが、できれば参考にして欲しい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	日本文化論1	恥の文化と罪の文化、文化とパーソナリティ
3	日本文化論2	タテ関係とヨコ関係、甘え
4	日本文化論3	個人、中間集団、武士道
5	日本文化論4	遊牧と農耕、山羊と豚、砂漠と森林
6	日本文化論5	民俗、例外
7	ネパール民族論1	チェパン、生業、交換
8	ネパール民族論2	親族、政治組織
9	ネパール民族論3	シャーマニズム、宗教儀礼
10	ネパール民族論4	カースト制度、開発、近代化
11	比較文化論1	可能性、潜在性、境界
12	比較文化論2	照葉樹林文化論、文明論
13	恥の問題系	精神分析、現代思想
14	恥を考える	民族文化論

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	論述式の筆記試験を予定。
日常点・その他	45 %	毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への参加度を評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文化人類学Sの応用編にあたる講義だが、受講の前提として文化人類学についての知識は問わない。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ルース・ベネディクト / 講談社 / /
「日本文化論」の変容	青木保 / 中公文庫 / /
その都度必要に応じて指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

「恥の民族論?日本文化とネパール少数民族の文化?」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が新聞等で目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがあり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討を行いながら「恥の民族論」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も幅広く取り上げながら、「恥」の現代性や民族文化論にとっての「恥」について考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

文化を比較することの問題と可能性を理解する。

日本文化論やネパール社会論の基本を理解する。

個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。

文化と倫理との関わりを理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

文化人類学一般、現代社会全般についての議論は「文化人類学S / 人間文化特論ISA」で行っている。必須ではないが、できれば参考にして欲しい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥、現代社会、日本、ネパール
2	日本文化論1	恥の文化と罪の文化、文化とパーソナリティ
3	日本文化論2	タテ関係とヨコ関係、甘え
4	日本文化論3	個人、中間集団、武士道
5	日本文化論4	遊牧と農耕、山羊と豚、砂漠と森林
6	日本文化論5	民俗、例外
7	ネパール民族論1	チェパン、生業、交換
8	ネパール民族論2	親族、政治組織
9	ネパール民族論3	シャーマニズム、宗教儀礼
10	ネパール民族論4	カースト制度、開発、近代化
11	比較文化論1	可能性、潜在性、境界
12	比較文化論2	照葉樹林文化論、文明論
13	恥の問題系	精神分析、現代思想
14	恥を考える	民族文化論

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	論述式の筆記試験を予定。
日常点・その他	45 %	毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への参加度を評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文化人類学Sの応用編にあたる講義だが、受講の前提として文化人類学についての知識は問わない。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ルース・ベネディクト / 講談社 / /
「日本文化論」の変容	青木保 / 中公文庫 / /
その都度必要に応じて指示する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

ヒューマンサービス実習 S

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## ヒューマンリサーチ SA

12950

担当者名 / Instructor 鉄川 重利

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

複雑・多様化する福祉問題のニーズに対する支援を目指すための、対人援助実践の基本的な視点と援助者として自らを問い高めるための基礎的な学習と体験に取り組む。

児童福祉現場での実践体験をベースにケース事例検討や心理テスト体験・応答構成トレーニングなど、将来、福祉現場での対人援助に不可欠な自己覚知と豊かな感性を身につけるようにする。同時に学生自らの人間(自己)形成にもつながる授業体験も合わせ持っている。この授業は対人援助に関する知識や技術を生かすための援助者としての基盤づくりに連動することを目ざしている。

## 到達目標 / Attainment Objectives

対人援助の基礎的な知識と基本技術を身につけるとともに、それらを実践で生かす援助者としての資質・感性について問い直す機会とする。

今後の本格的な専門ゼミや福祉施設実習等に連動生かすようにする。

ここのテーマは複雑かつ微妙な問題を内在するが、自分自身を知り問い直す機会につながることを期待したい。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉の専門家をめざし、社会福祉士資格受験などに必要な科目を履修中の者が望ましいが、そうでなくても、自己形成に役立つ授業内容でもあり、主体的に授業に参加すれば事前の修得科目については特定しない。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめのセッション-授業計画とその動機づけ	出会い・自己紹介・自己開示
第2回	子どもの問題行動の理解と援助・指導技術	インテークと児童ケースワーク
第3回	子どもの問題行動の理解と援助・指導技術	面接・観察・心理テストとその効用と限界
第4回	ケース検討 (グループ討議)	不登校・家族システム・頭痛・痛みの深層
第5回	ケース検討 (グループ討議)	虐待・善意と真意・共感と受容
第6回	体験学習 -ブラインドウォーク	見えない力・信頼と恐怖・気づきと発見
第7回	わたしの心理テスト体験	Y-G・バウム・P-Fスタディ・SCT
第8回	わたしの生育・生活歴シートづくり	育ちの軌跡・プラス&マイナス体験
第9回	体験学習 -応答構成トレーニング	イマジネーションの富化・言語化・感受性
第10回	体験学習 -応答構成トレーニング	イマジネーションの富化・言語化・感受性
第11回	体験学習 -応答構成トレーニング	イマジネーションの富化・言語化・感受性
第12回	ビデオ学習-ドキュメンタリー『親子むすび』	親と子の絆・親になる・子どもになる
第13回	体験学習 -癒しのコラージュ作品づくり	写真・雑誌・新聞・ハサミのり・イメージとわたし
第14回	おわりのセッション-授業の総振り返り	出会い触れ合い・わたしの思い・わたしはわたし

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

第4～5回のケース検討については事例を事前配布する。(自宅で見学)

授業では取り上げないケース事例も配布し自宅学習の資料に資する。(授業回数の制約で取り上げることができなかったケース)

そのほかにも授業で取り上げる時間がなかったものは、参考資料として配布して自宅学習で生かしてもらおうようにする。

なお、課外授業として希望者があれば自由参加の施設見学も計画したい。(昨年は乳児院・児童養護施設・特別養護老人ホーム・認知症と養護児童のグループホーム・精神障害者デイケア施設などの見学を実施した)

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	・自らをきちんと問い直し気づきと感性を身につける(目標)・建て前より本音・理屈より感性・正直な自分との出会いなどを目指す。

7割以上の出席が基準で特に体験学習は継続参加が望ましい。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特別の事情がない限り出席を期待するが、特に体験学習の授業にはできるだけ継続的な参加を望みたい。また、自己形成につながるように主体的な学習姿勢を期待する。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、担当者が作成したレジュメを事前(前週)・当日配布する。

## 参考書 / Reference Books

必要に応じ授業の中で紹介することもある。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

**授業の概要 / Course Outline**

人間福祉分野に関するものとして、この授業は労働福祉、つまり雇用環境や残業問題などを扱う。日本は企業社会と称され、企業本位の人事労務管理や企業に甘い労働基準法などが問題とされてきた。とりわけ90年代から現在にかけて、グローバル化における企業競争力の強化が叫ばれ、経営者団体を中心にして人件費圧縮のための賃下げや非正規雇用の増加、それに伴う格差の拡大を公然と正当化する意見も増えた。現在進行形で展開される労働条件の低下や格差拡大は、労働者の権利を根幹から揺るがせている現象といえる。

授業ではこのテーマを 理論研究、事例研究、新聞記事を読み解く作業、調査方法の研究、討論を交えながら学習する。

**到達目標 / Attainment Objectives**

現代の日本企業社会における労働環境や雇用問題が格差社会にどのような影響を与えているか、それが労働者としての個人の権利にどのような問題をもたらしているかを理解する。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特になし。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要全体的なスケジュールの説明	
第2回	社会学理論から説明する労働者としての個人の権利	社会民主主義、産業民主主義
第3回	企業社会の問題点とは何か 組織論理が優先される社会	企業社会、市民社会
第4回	調査方法の研究	実地調査、資料の分析、面接調査、アンケートの集計など
第5回	グローバル化にさらされる日本企業と国際競争力	ネオ企業社会といわれる労働強化の激化
第6回	海外における経済格差の拡大	南北問題、世界的な富の偏在
第7回	日本におけるグローバル化拡大に関する討論	外資の持ち株比率、株式配当の増加と労働分配率の低下
第8回	非正規雇用の増加の課題と現状	アルバイトの労働条件もサービス残業や未払い賃金が拡大していること
第9回	グローバル化の拡大と格差に関する討論	外資の参入の増加、格差拡大の是非について
第10回	日本の労働時間問題についてのレビュー 各種資料を参考に(1)	超長時間労働、未払い賃金
第11回	日本の労働時間問題についてのレビュー 各種資料を参考に(2)	裁量労働制、労働基準法
第12回	新聞記事を読み解く学習(NIE: Newspaper In Education)	ホワイトカラーエグゼンプション(自律的労働法案)
第13回	裁判で不当解雇に勝訴して元の職場に戻れない法案の課題	解雇紛争と金銭解決
第14回	雇用を守るための比較的新しい取り組み	管理職ユニオン、サイバーユニオン
第15回	全体的なまとめと討論	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

社会人としての労働環境に直結する雇用問題、賃金問題などについてできるだけ新しいニュースや記事をチェックすること

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	日本企業社会の問題点や、それらに関する時事問題を理解できているか
日常点・その他	50 %	出席状況、発表内容、小テストなどで評価する

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
変容期の企業と社会	木田、守屋他編 / 八千代出版 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 授業の概要 / Course Outline

## \* 国民健康保険証の取り上げによる受診抑制実態調査

国は、国民健康保険料滞納が発生して1年以上経過した場合、市町村に国民健康保険資格証明書(窓口では、原則10自己負担)を交付することを2000年度から義務(1997年法改正)つけた。これが契機として、2005年度の資格証明書の交付世帯数は10年前の6倍の約32万世帯に急増している。昨年春に全日本民主医療機関連合会傘下の700の医療機関が実施した調査では、国民健康保険資格証明書が交付されたことで、受診抑制により死亡した患者が21名いることが報道されている(「朝日新聞」2006年7月4日付)。京都市内の国民健康保険資格証明書交付世帯の健康状態や受信抑制の実態調査を行い、国民健康保険資格証明書の交付が、権利としての社会保障から逸脱することを検証したい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

比較的平等な社会だと言われているわが国が、医療に限っても格差が生まれている現実を、社会調査を通して学びたい。また、この調査を行うことで、社会調査やケース研究の基礎を身につけることを目指す。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

福祉政策論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	国民健康保険の基礎を学ぶ	社会保障、社会保険、保険者・被保険者
第2回目	国民健康保険の基礎を学ぶ	班構成を行い分担を決める。
第3回目	京都市における国民健康保険証の交付件数、ならびに保険資格証明書、短期保険証交付実態調査(2000年以降)	京都市役所で、資料を収集する。
第4回目	保険資格証明書、短期保険証交付理由の調査	資料の分析。
第5回目	国保資格証明書交付者を捜す	京都民主医療機関連合会の協力を得て対象者を紹介して頂く。
第6回目	国保資格証明書交付者の受診抑制や、健康状態の聞き取りを行う	対象者への聞き取り調査。
第7回目	国保資格証明書交付者の受診抑制や、健康状態の聞き取りを行う	対象者への聞き取り調査。
第8回目	国保資格証明書交付者の受診抑制や、健康状態の聞き取りを行う	対象者への聞き取り調査。
第9回目	国保資格証明書交付者の受診抑制や、健康状態の聞き取りを行う	対象者への聞き取り調査。
第10回目	国保資格証明書交付に関わる調査のまとめ	テープ起こし。集計、分析。
第11回目	国保資格証明書交付に関わる調査のまとめ	テープ起こし。集計、分析。
第12回目	国保資格証明書交付に関わる調査のまとめ	報告書作成。
第13回目	調査結果のプレゼンテーション	各班による発表。
第14回目	調査結果に対する議論	国保資格証明書交付によって受診抑制は起こったのか。病状の悪化はあったのか。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	調査への参加、報告書作成プレゼンテーションを以てレポートに代える。
日常点・その他	50 %	欠席1回につき3点をマイナスする。

出席を重視し、尚かつ社会調査もあるので、参加に自信のない者は本講義を受講しないこと。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会調査を行うことで、社会に起きている生活問題を肌で感じて頂き、専門ゼミへの足がかりとして欲しい。

## 教科書 / Textbooks

教科書は使わない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都民主医療機関連合会 : <http://www.kyoto-min-iren.org/i>

その他 / Others

## ヒューマンリサーチ SD

12896

担当者名 / Instructor 峰島 厚

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会福祉の現場から学ぶ入門科目である。社会福祉を学ぶ意欲・課題意識形成の源泉になるものは、当事者や家族、現場職員などが、現実と格闘している姿やそこに込められている思いへの共感にある。社会福祉施設で働く職員の姿や思いを、観察し聞き取り、現場から学ぶ手法を体験的に学習する。これらをととして専門学習への出発点となる課題意識形成をはかる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・現場学習のための常識も身につける。
- ・小人数の集団学習も身につける。
- ・参加実習はしない。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現場の実態に関する学習。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
(1) 導入講義	授業形態の説明	
(2) グループ編成	観察・聞き取り対象別の編成	
(3) 現場の観察方法	ビデオを予定	
(4) 対象の事前学習?1	文献による	
(5) 対象の事前学習-2	対象の選定など	
(6) 対象の事前学習-3	依頼状の作成など	
(7) 観察・聴取-1 回目	現場を訪問、2回の授業間で実施	
(8) 観察・聴取?1 回目		
(9) 報告と再依頼	観察結果の報告と再観察の課題設定	
(10) 観察・聴取-2 回目	再度同じ現場を訪問、2回の授業間に実施	
(11) 観察・聴取-2 回目		
(12) 報告書の作成-1	報告および報告書作成	
(13) 報告書の作成	グループで報告書作成	
(14) 報告会	グループで発表・提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

相手の都合があり、進度は柔軟に考える。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	観察・聴取レポート
日常点・その他	20 %	グループ学習の状況
特になし		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

小人数のグループ学習なので欠席はグループで管理してもらう。形態は柔軟にする。

## 教科書 / Textbooks

特になし。

## 参考書 / Reference Books

特になし。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

その他 / Others

## ヒューマンリサーチ SE

12891

担当者名 / Instructor 森重 拓三

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代社会では他者や他文化に対する差別や暴力が絶えないが、そこには自分自身の世界観(視点)を優先し、他者の世界観(視点)を無視する傾向が潜むように思われる。他者をどのように理解するか?これは医療、看護、介護、教育など他者との継続的な関係が求められる現場だけでなく、日常生活の場面においても常に問われている。ここでは他者の心的状況を理解するための、感情的ではなく論理的な方法を考えたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

他者の置かれている社会的状況を把握し、そこにおける他者の心的状況を理解する態度の取得をめざす。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	
第2回	他者と私(体験と経験)	
第3回	講義:中学生の進路をめぐる社会的状況(他者の社会的状況の把握)	
第4回	講義:中学生の進路をめぐる心的状況(他者の心的状況の理解)	
第5回	講義:高校生の進路をめぐる社会的状況(他者の社会的状況の把握)	
第6回	講義:高校生の進路をめぐる心的状況(他者の心的状況の理解)	
第7回	報告:関心と文献	
第8回	報告:関心と文献	
第9回	報告:対象(他者)の社会的状況について	
第10回	報告:対象(他者)の社会的状況について	
第11回	報告:対象(他者)の心的状況について	
第12回	報告:対象(他者)の心的状況について	
第13回	報告:対象(他者)の心的状況について	
第14回	まとめ	
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	総合的な他者理解の視点が獲得されたかどうか
日常点・その他	70 %	出席状況と報告内容

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人の心的領域をあらわす手記、日記、聞き取りなどの資料が、報告内容として必須となります。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的世界の意味構成	A.シュッツ(佐藤嘉一訳) / 木鐸社 / 4-8332-9018-9 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

ヒューマンリサーチ SF

本文無し

担当者名 / Instructor単位数 / Credit授業の概要 / Course Outline到達目標 / Attainment Objectives履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study授業スケジュール / Course Schedule(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods教科書 / Textbooks参考書 / Reference Books参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Referenceその他 / Others

## 表現の自由論 S § 言語表現論II S

15218

担当者名 / Instructor 白石 憲二

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「表現の自由」は近代社会を開き、発展させてきた基本的な理念の一つで、憲法でも保障されている。しかし、高度情報化社会の進展にともなって、「表現の自由」に派生するマスメディアが担う「報道の自由」に対する市民からのまなざしは厳しくなり、ネットでの「匿名情報」の氾濫など負の側面も強調されるようになってきている。表現の自由と、プライバシーなど他の人権とどう調和させていくか、新聞、電波、電子、マスメディアの世界で起きている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、広く市民社会の表現活動の状況を点検し、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「表現の自由」をめぐる対立、トラブルで問題の本質をとらえ、双方の利害対立を整理したうえで、一定の解決策を提案できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について総論	憲法21条
第2回	いま、世界の「表現の自由度」は	ランキング
第3回	「表現の自由」を求めて	弾圧
第4回	プレスコード「抑えられた原爆報道」	検閲
第5回	言論テロとの闘い「横浜事件」	自白
第6回	言論テロとの闘い「朝日新聞阪神支局襲撃事件」	時効
第7回	取材の自由とその制約 ～取材源の秘匿	逮捕
第8回	取材の自由とその制約 ～取材資料の目的外使用	押収
第9回	取材の自由とその制約 ～公務員の守秘義務とのかかわり	密約
第10回	表現の自由への規制	ビラ配り
第11回	メディア規制～個人除法保護法	匿名
第12回	メディア規制～有事法制	指定機関
第13回	ネット情報の氾濫と規制	炎上
第14回	名誉毀損訴訟の変遷	高額化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
日常点・その他	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回のミニレポートで、理解度をはかる。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメ・資料を用意する。ビデオを使用することもある

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
言論の不自由	朝日新聞社会部編 / 径(こみち)書房 / /
新聞社襲撃	116号事件取材班 / 岩波書店 / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## フィランソロピ論 S

15298

担当者名 / Instructor 松田 弘

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

フィランソロピーとは以前は「企業等の慈善活動」や「ボランティア活動」のことでしたが、現在では「企業等の社会的責任」すなわち「CSR論」で語られます。この講義は会社人間OBが語る「現場の企業等の社会的責任論」。現役「淡海フィランソロピーネット」設立発起人が担当します。実学の「フィランソロピー論」ですから直近の企業等の実例を駆使して学生諸君と意見を交換します。これから企業等を社会学的に研究しようとする諸君と就活で企業調査したい諸君にも役に立つかもしれません。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- フィランソロピーの概念を実学として説明できる。
- 昨今のフィランソロピーを歴史的な背景や経緯から論述する。
- フィランソロピーからCSRについて言及ができる。
- 資本市場におけるフィランソロピーやCSRを社会学的な立場から意見を述べるができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO論とかボランティア論など

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義入門編	講義オリエンテーション。シラバスの確認。自己紹介カードの提出
第2回	講義入門編	フィランソロピーの単純実例を学ぶ
第3回	講義入門編	さまざまなフィランソロピーの事例を探索して。第1回目の宿題予告
第4回	基礎編	フィランソロピーやメセナの歴史
第5回	基礎編	宿題のオーディション。事例の検証
第6回	基礎編	フィランソロピー等の実態統計調査から課題を考察
第7回	中級編	フィランソロピー論とCSR論への展開
第8回	中級編	NPOと企業等の協働とは
第9回	中級編	企業等のCSR報告書を研究(ミニレポート即日実施)
第10回	応用編	CSR報告書等のオーディションと相互討議
第11回	応用編	大学や諸団体をCSR論から考察。宿題発表(3回目)
第12回	専門編	CSR論からSRIを研究。
第13回	専門編	宿題オーディション。CSR報告書などの総括
第14回	専門編	資本市場からCSR(フィランソロピー)の現実を考察
第15回	総括	企業評価諸説と講義総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

第3回以降の講義から参考書の予習又は復習が必要になります。参考書は極力購入のこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	日常講義の理解度。
日常点・その他	50 %	宿題の期限内提出とその内容及び、講義中の意見発表実績。講義運営に協力した実績

講義登録数が100名未満の場合は、定期試験に替えてレポート試験とする。講義の回数の3分の2以上出席を講義認定の最低要件とし、講義中は特にこちらから質問をして講義秩序の維持及び、出席確認をすることがある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

実学を基調としますから、就職活動で講義欠席が多い学生は講義辞退を。

## 教科書 / Textbooks

毎回講義で資料を配布する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
CSR入門	岡本亮二 / 日経文庫 / 4-532-11040-8 /
社会責任投資の基礎知識	秋山をね・菱山隆二 / 岩波アクティブ新書 / 4-00-700108-1 /

講義の第3回目ぐらいから多用するから極力購入のこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

宿題や、出席カードの代筆があれば、単位認定で処分する。

## 福祉行財政論 S

15204

担当者名 / Instructor 山本 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

福祉行財政について、ローカルガバナンスという視点から講述する。ガバナンスとは政府機構、市場経済、市民社会のあり方を問い返し、それらの役割を再規定し、各セクターの協働により、社会経済における自律的な問題解決領域を増やそうとする考えである。今、ローカルガバナンスの動きとして、分権的な福祉の取り組みが各地で展開されている。本講では地域の視点から、福祉国家、自治体の政策、民間福祉の役割等を学習していく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

福祉財政の実務と理論をともに理解する。社会福祉政策と財政との関係を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉政策論、社会保障論、社会福祉原論、地域福祉論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	グローバル化と福祉国家の変容	経済のグローバル化、福祉国家、社会保障、福祉の市場化
2	ローカルガバナンスとは何か	統治、自治、ガバナンス、多層型ガバナンス、ローカルガバナンス
1	日本におけるローカルガバナンスの状況	三位一体、法定受託事務、自治事務
1	イギリスにおけるローカルガバナンスの状況	ニューパブリックマネジメント、準市場、ジョイニングアップ、パートナーシップ
2	スウェーデンにおけるローカルガバナンスの状況	分権と自治、コミュニティ、共同性
1	アメリカにおけるローカルガバナンスの状況	連邦国家、ディロンのルール、成長志向
2	日本の介護保険制度	改正介護保険、保険者の機能、サービスと保険料の市町村格差
1	イギリスの介護保障の検証 準市場の検証	コミッションング、購入、契約
1	地域福祉、地域福祉計画、福祉コミュニティ	コミュニティワーク、社会福祉協議会、自治会、民生委員
1	イギリスの地域再生とソーシャルインクルージョン	社会的排除、社会的排除ユニット、地域戦略パートナーシップ
1	福祉とシティズンシップ	福祉権、シティズンシップ、エンパワメント
1	公共性基準を求めて	地方政体の分化、新しい政府間主義、ソーシャルコーリティ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	
レポート試験	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

厚生労働白書を読んで、受講してください。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ローカルガバナンス 社会福祉政策と協治の戦略	山本隆 / ミネルヴァ書房 / /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
厚生労働白書	/ / /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 福祉経営論 S

12281

担当者名 / Instructor 廣末 利弥

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会保障構造改革のもとで福祉事業が市場化され民間営利企業の参入が著しい。その中において、真に国民の期待に応え、憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。その為に、社会福祉とは何か、社会福祉事業とは何か、福祉施設、事業は誰のため何のために存在するか、について福祉事業の運営と経営の実際から学びながら、21世紀の社会福祉の運営と経営のあるべき姿や方向性を見出すことを目的とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉、社会福祉事業の役割と使命を理解する。その上で、公的責任のもとでの福祉事業と市場化された事業運営と経営の実態を学びながら、権利としての福祉事業とそれを担う非営利である社会福祉法人としての運営、経営のあり方と役割使命について理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前学習としては社会保障論や各種の福祉制度及び社会福祉法を学習しておくこと。また、経営ということについては学生時代には現実的イメージが困難と思われるので、講義を聴いて考える力を養うことを重視している。したがって、欠席のないように努めること。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
2	福祉経営を学ぶ視点	福祉とは、経営とはなにか。
3	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
4	老人福祉法と権利	老人福祉法の理念と各種施策の実際及び課題を理解
5	社会福祉法	社会福祉の概要と社会福祉事業
6	社会福祉法人	社会福祉法人の概要、設立、定款
7	社会福祉法人の設立と運営	資産、役員、事前規制、監査など
8	福祉事業における財源	措置制度と措置費の仕組み
9	措置制度における福祉事業運営	基本的な要項及び加算等財源構成
10	保険制度のもとでの経営	介護保険制度の概要と仕組み
11	市場化のもとでの福祉経営	収入の仕組みと経営維持のために
12	民間営利企業の参入と福祉現場	規制緩和、福祉と営利をどうみるか、経営の実態
13	経営と福祉労働	福祉労働とはなにか、経営管理との狭間で
14	福祉労働の専門性	福祉とは、働くものの誇りと情熱そして身分保障
15	社会福祉法人のアイデンティティ	社会福祉法人の役割使命とこれからの姿を求めて

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

できれば、福祉にかかわる事業所(福祉施設等)を見学しておくことが望ましい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	指定したテーマにもとづくレポート。論点と記載内容の意味がわかるように
日常点・その他	70 %	出席40%、コミュニケーションペーパーによる意見、問題意識の明確化30%

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所 / かがわ出版 / 4-87699-731-4 /
転換期の社会福祉事業と経営	石倉康次 / かがわ出版 / 4-87699-651-2 /

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉辞典	同編集委員会 / 大月書店 / 4-272-36040-x /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 岡田 まり

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義は、ソーシャルワーク論の続編である。ミクロレベルでの実践(個人、家族、グループへの支援)の意義と方法を踏まえたうえで、プログラムを開発したり、地域社会によりよい変化をもたらすマクロレベルでの実践において重要となる計画に焦点をあてる。行政や民間団体の実際の計画を例として取り上げながら、計画の意義と目的について理解できるようにするとともに、モデルや理論に基づいて計画策定を行うための基礎的な知識と技術を習得することをめざす。そして、生活問題の解決・発生予防のためには、さまざまなレベルでの取り組みが必要であることを認識し、状況に応じて適切な援助技術を選んで活用する力をつけたい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・計画の意義と重要性について自分の言葉で説明できる。
- ・計画策定・実施・評価のプロセスと方法およびその留意点について説明できる。
- ・行政や民間団体が策定した計画およびその実施について、短所と長所を指摘することができる。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

ソーシャルワーク論を事前に履修しておくことが望ましい。また、社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修しておくことが、本科目での理解を深めるのに役立つ。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークのマクロレベルでの実践とは	プログラム開発、地域介入
第2回	計画とは	意義と目的、プロセス
第3回	計画とは	ゴールドプラン、エンゼルプラン、障害者プラン、高齢者保健福祉計画、地域福祉計画
第4回	計画のモデル	PRECEDE-PROCEED モデル、MIDORI モデル
第5回	アセスメント	生活の質、生活課題
第6回	アセスメント	行動、環境
第7回	アセスメント	準備因子、強化因子、実現因子
第8回	アセスメント	組織、プログラム、政策
第9回	計画策定	実施主体、対象、目標と課題、内容、予算
第10回	計画実施	計画実施の留意点、モニタリング
第11回	評価	経過評価、影響評価、結果評価
第12回	計画策定の実際	住民参画
第13回	計画策定の実際	行政
第14回	自分の町の計画	社会資源、市町村
第15回	予備日	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

授業前に指定の文献・HPを必ず読んでくること。授業は、受講生がそれらを読んだことを前提として行う。

課題レポートは、受講生が生活する地域について、地域の概要、関心のある福祉領域に関する社会資源、地方自治体が行っている計画についての批評、の3点をまとめたものであり、その作成のためには役所や図書館などを訪問する必要がある。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	各回で取り上げた内容について理解し、自分の言葉で説明することができるか、また、それらの内容を実際に活用できるかを評価する。
日常点・その他	40 %	課題レポートおよびコミュニケーション・ペーパーをとおして、理解が深まっているか確認する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

授業では、講義だけでなくグループ演習も行うので、主体的な参加が重要。

**教科書 / Textbooks**

PRECEDE-PROCEED モデルについては、Green,L.W & Kreuter,M.W(2005). Health program planning: An educational and ecological approach(4th ed.). McGraw Hill.に詳述されている。授業時にレジメを配布する予定。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ソーシャルワーク実践とシステム	黒木保博・小林良二・坂田周一・森本佳樹編 / 有斐閣 / 4-641-05527-0 / 2章および

3章を参考文献として使う予定。

---

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

日本社会福祉士会 <http://www.jacsw.or.jp/>  
国際ソーシャルワーカー連盟 <http://www1.ifsw.org/>  
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>

**その他 / Others**

## 福祉産業論 S

12900

担当者名 / Instructor 今井 久人

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

## 到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上になら、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。

(若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する)

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か(講義の概要)	生活関連産業と暮らし
3-4	医療産業の市場 日本の医療(医療機関)の現状と課題	厚生動向 医療保険制度 高齢者医療制度 診療報酬
5-6	医療産業の市場 日本の医療(医療周辺産業)の現状と課題	医療機器 医薬品 医療廃棄物
7-8	健康産業市場 日本の健康産業の現状と課題	健康日本21 ヘルスプロモーション
9	健康産業の市場 日本の健康増進ビジネス	フィットネスクラブ サプリメント市場 健康グッズ
10-11	福祉産業の市場 介護保険制度 障害者自立支援法	介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ 介護機器 高齢者住宅
12-13	福祉産業の市場	介護事業事例(訪問介護、通所介護、施設介護)
14	少子化と保育ビジネス	出生率 育児支援制度 ベビーシッター 保育サービス
15	総括(まとめ)	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
日常点・その他	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容のコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらおう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合いを測るため期末レポートの提出を求める。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄 / 東洋経済新報社 / /
シルバーサービス論	シルバーサービス論 / ミネルヴァ書房 / /
日経ヘルスケア21	/ 日経BP社 / /

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。  
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## 福祉住環境論 S § 居住福祉論 S

12912

担当者名 / Instructor 蔵田 力

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論 「住まい」とは	
第3回	住宅総論 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論 バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論 -1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論 -2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論 -3 事例研究	
第9回	住宅各論 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論 ホームレス問題	
第12回	地域論 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論 -1 高齢者・障害者が住み続けられる「まちづくり」	
第14回	地域論 -2 生活圏構想	
第15回	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
最終講義日試験	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- (1) 配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
- (2) コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男 / 岩波新書 / / 大学生協等で各自購入

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩 / 日本住宅会議 / / 日本住宅会議が注文販売

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



## 福祉情報論 S

12903

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁(バリア)に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT(情報通信技術)を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術(Assistive Technology)の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
- ・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第2回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第3回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第4回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第5回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変わる
第6回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第7回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第8回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第9回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか?
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	理解の程度を評価します。
日常点・その他	30 %	毎回出席をとります。

講義の要点は『社会福祉情報論へのアプローチ』(生田正幸著・ミネルヴァ書房)に記載されているので必要に応じて購入すること。(ISBN4-623-03054-7)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

WAM NET (<http://www.wam.go.jp/>)、厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp/>) など。その他、必要に応じて授業中に紹介する。

## その他 / Others

## 福祉政策論 S § 福祉政策論 SG

12872

担当者名 / Instructor 芝田 英昭

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

2007年度参議院選挙に向けた各政党マニフェストの社会保障部分を中心に、その分析を通してあるべき日本の社会保障の姿を提案する。具体的には、自民党、公明党、日本共産党、社民党など、4政党別にグループ分けし小集団学習を中心に授業を行う。従って、授業に参加できることを前提にするものとする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会保障や福祉政策について、その分析能力、立案能力の涵養を目的とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉概論、国際福祉政策論。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	福祉政策の概要	社会福祉、マニフェスト、政党
第2回目	自民党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	憲法改正、企業減税
第3回目	公明党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	少子化対策、社会保障と世代間格差
第4回目	民主党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	年金の一元化、高等学校の無償化、
第5回目	日本共産党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	介護保険の見直し、最低保障年金制度の実現
第6回目	社会民主党2007年度参議院選挙公約(マニフェスト)における社会保障・福祉政策の紹介	格差社会の是正、公正な税制改正
第7回目	各政党別班編成、各班による制度・政策分析(各班での討議)	学生の希望を配慮して班編成を行う
第8回目	各班による制度・政策分析(各班での討議)	討議・分析
第9回目	各班による制度・政策分析(各班での討議)	討議・分析
第10回目	各班による政党別制度・政策分析プレゼンテーション	各政党の社会保障・福祉政策の違いの確認
第11回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の策定(討議)	社会保障・福祉政策の現状分析、政策立案
第12回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の策定(討議)	社会保障・福祉政策の現状分析、政策立案
第13回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の発表	実行可能性ある社会保障・福祉政策
第14回目	各班による現代社会に適した社会保障・福祉政策の発表	実行可能性ある社会保障・福祉政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

空き時間を利用し、各班での調査、討議を行うこと。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	定期試験は50点とする。
日常点・その他	50 %	プレゼンテーション8点、出席1回を3点として配分し、合計で50点とする。
欠席1回毎に、50点より3点を引くものとする。		

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

班別で学習を進めていくので、班員に迷惑がかからないよう極力講義に参加できる学生の受講を希望する。

## 教科書 / Textbooks

テキストは使わない。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭 / 文理閣 / ISBN4-89259-521-7 /
参考文献は、適宜紹介する。	

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

首相官邸ホームページ: <http://www.kantei.go.jp/>  
自由民主党ホームページ: <http://www.jimin.jp/>  
公明党ホームページ: <http://www.komei.or.jp/>  
民主党ホームページ: <http://www.dpj.or.jp/>  
日本共産党ホームページ: <http://www.jcp.or.jp/>  
社民党ホームページ: <http://www5.sdp.or.jp/>

その他 / Others

## 福祉調査・統計論 S

15357

担当者名 / Instructor 中根 成寿

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

本講義は、ソーシャルワーク、対人援助領域などの福祉領域を対象とした、調査・統計の実際を学ぶ。量的データの読み取り、ならびに質的データの分析方法や処理の方法についても具体的データをもとに論じる。量的調査は、方法論の充実や数字による説得力など社会調査の花形として、発展してきた一方で、質的調査は方法論や分析方法が「職人芸」としてブラックボックス化されてきた。本講義では質的調査の方法論や認識論を展開することで、量的調査が無条件に客観的ではないこと、質的調査の科学性について論じる。ソーシャルワークや対人援助領域でも、経験や職人技ではなく、エビデンス(Evidence)をもとに実践できる人材が求められている。方法を真摯に学ぶことのできる受講態度を望む。

## 到達目標 / Attainment Objectives

上記の通り

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	オリエンテーション 本講義の位置づけ、内容紹介、評価方法について	
	ソーシャルワークと科学的方法 / 調査研究用語の理解	
	量的データの説得力と魅力、陥穽について	
	量的調査の手法について	多変量解析 / 重回帰分析 / 主成分分析 クロス集計
	質的データ分析について	グラウンデッド・セオリーアプローチ、テキストマイニング
	フィールドワークすることについてのお話	フィールドワーカーの寿命、調査者と被調査者の摩擦

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	必要に応じてレポートなどを課す。
日常点・その他	80 %	講義の規模に応じて、隔週～3週に1度、口頭報告を課す。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』	平山尚・武田丈・呉裁喜・藤井美和・李政元(共著) / ミネルヴァ書房 / 4-623-03831-9 / 用語などの確認
『社会学的フィールドワーク』	好井裕明・三浦耕吉郎編 / 世界思想社 / 4-7907-1043-2 / フィールドワークする自分を見る視点について
『グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践-質的研究への誘い』	木下康仁 / 弘文堂 / 4-335-55089-8 / グラウンデッドセオリーの基本の教科書
『体験と経験のフィールドワーク』	宮内洋 / 北大路書房 / 4-7628-2476-3 / フィールドワーカーとしての生き方の視点について

上記は、特に購入する必要なし。必要に応じてスライドで対応する。

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## 福祉臨床論 S

12883

担当者名 / Instructor 山本 耕平

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践(方法ならびに運動)、政策につき考える。

## 到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。  
今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面 人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念 パターナリズムからフレンドシップへ、侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ -	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題 - 障害の受容に関わる課題 -	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題 - 子どもの虐待と再養育 -	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題 - 一人親家庭の生活課題	母子と父子、
第6回	思春期・青年期の課題 - 不登校・ひきこもりと当事者支援	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題 - 軽度発達障害と思春期危機	ADHD、行為障害、就労支援、家族
第8回	成人期の課題 - 中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ -	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題 - 過労自死と家族 -	過労自死
第10回	成人期の課題 - ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題 - ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	円熟期の課題 - 円熟期と孤立 -	高齢者 心理
第13回	円熟期の課題 - 円熟期と障害 -	認知症、老々介護
第14回	福祉実践と協同 - 地域福祉要求の組織化と地域づくり -	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	出席点を定期試験に加え評価する

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。  
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

## 教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03508-5 /

---

貧困と闘う人びと	寺久保光良 / あけび書房 / 487154057X /
激増する過労自殺	ストレス疾患労災研究会 / 皓星社 / 4-7744-0292-3 /
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一 / 中央法規 / 4-8058-2452-2 /

---

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.ccap.or.jp/>  
<http://www.jstss.org/>

その他 / Others

## 福祉労働論 S

12897

担当者名 / Instructor 石倉 康次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

社会福祉領域の仕事には多様な分野がある。社会福祉施設、福祉事務所、児童相談所、医療機関、社会福祉協議会などの場所で、保育や養護を必要とする児童、障害をもった人、介護を要する高齢者、経済生活で困窮状態にある人、地域社会の一般住民などを対象に、相談・面談をし、生活や日課の活動の支援する一方、地域ネットワークづくりも行う。また事業の運営と経営に関わる業務もある。講義では、福祉労働の外見的なレベルから出発し共通の特徴や原則を探し当てる試みを行う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

福祉労働における合理性についての理解を深め、福祉労働発展の条件について客観的に捉える眼を獲得する。また、福祉労働者の労働条件、福祉施設の経営条件、社会福祉の諸制度が福祉労働の質を制約する仕方についても理解をする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学、経済学関連の科目を軽視しないでほしい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入	
2	社会のなかでの福祉的営みの意義を考える	社会、共同
3	「福祉労働」とは何だろう	生命の維持再生産、労働の合理性
4	対象者のかかえる問題と発達の課題をとらえる科学的合理性	人間と社会、技術
5	福祉労働の規範的合理性	生存権、発達権
6	規範と現実的諸条件の乖離とどう向き合うか	乖離の社会的根拠
7	福祉労働における対象者とのコミュニケーション	相互コミュニケーション
8	福祉労働における対象者の「理解」	「理解」の方法
9	社会学における社会的行為論と「合理性」論から	マックス ヴェーバーの理解社会学
10, 11	社会的行為の諸類型から人間の行為をとらえる	社会的行為の三類型
12	認知症による障害を持つ人と家族へのケアから学ぶ	本人支援、家族支援
13	支援困難者をどう理解しどう関わるか	社会問題の重層化、対象の対象化、自由主義イデオロギー
14	社会福祉事業の経営と福祉労働者	事業経営、福祉労働者の労働条件、措置制度、介護報酬
15	試験	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

NHKテレビで放映される福祉番組に注目してほしい。福祉施設での現場の苦勞を伝えるメディアを探してほしい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義内容の理解度合い
レポート試験	10 %	問題・課題の考察
日常点・その他	10 %	講義への出席

講義でビデオをたくさん観るが、内容はきっと印象に残るはず。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし	///

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉のひろば』	／ 総合社会福祉研究所 / / 現場の声が多く紹介された月刊雑誌
『形成期の痴呆老人ケア』	石倉康次他 / 北大路書房 / / 認知症ケアの基本を学ぶ
『転換期の社会福祉事業と経営』	石倉康次他 / かもがわ出版 / / 社会福祉施設の経営問題を掘り下げ

テキストは使用せず、適宜配布する資料、ビデオ等をもとに講義を行う。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

厚生労働省 : <http://www.mhlw.go.jp/index.html> 認知症の人と家族の会 : <http://www2f.biglobe.ne.jp/~boke/boke2.htm> 日本障害者センター : <http://shogaisha.jp/> 総合社会福祉研究所 : <http://www.jfast1.net/~sosyaken/> 保育研究所 : <http://www.hoiku-zenhoren.org/kenkai/index.html> 全国老人福祉問題研究会 : <http://members3.jcom.home.ne.jp/0376228901/romonken/> 全国障害者問題研究会 : <http://www.nginet.or.jp/> 全国児童養護問題研究会 : <http://www.ne.jp/asahi/yomon/ken/>

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 金武 創

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

## 文化経済学の基礎的理解

これまで相反するものと思われがちであった、「文化」と「経済」の関係を価値規範やライフスタイルの変化の視点から捉えなおし、これからの企業やNPO、中央政府・地方自治体のあり方を考える。授業では、理論 / 実証研究の解説と関連話題(VTRや新聞)の提供という組み合わせで進めていきたい。以下のテーマを順番にすべてやるわけではないが、教科書の内容に即して、できるだけふれていきたいと思う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

文化経済学の基本問題や概念を幅広く理解できる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	芸術作品とオークション	オークション
第2回	芸術文化と市場	価格、需要と供給
第3回	文化的価値と経済的価値	支払い意思
第4回	芸術文化の消費	1980年代の消費文化
第5回	芸術文化の生産	高層建築とデザイン
第6回	芸術文化と情報	出版とブログ
第7回	文化資本の考え方	伝統文化と大衆文化、世界遺産登録運動
第8回	文化支援と文化政策	まちづくり、地域文化
第9回	慈善活動のためのギャンブル	サッカーくじ
第10回	競争と協働のネットワーク	温泉観光、情報の非対称問題
第11回	埋蔵文化財の文化経済学	文化遺産、町並み保存、世界遺産
第12回	ブレイクするJ-POP	音楽CD、ミリオンセラー
第13回	スポーツNPOの経済的利点	規模の経済と範囲の経済、障害者スポーツ
第14回	公共財としてのパブリックアート	Young British Artist
第15回	まとめ	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
日常点・その他	10 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・教科書を手し、毎回の授業で持参してくることを前提に授業を進めます。
- ・受講人数によっては、成績評価の方法を変えるかもしれません。人数確定後、授業内で伝えます。
- ・時事問題等を優先して扱うので、授業の順番は入れ替わる可能性があります。期間内に教科書全てにふれるつもりです。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『文化経済論』	金武創・阪本崇 / ミネルヴァ書房 / 2005年

## 参考書 / Reference Books

特になし

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 橋 健一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

グローバリゼーションが展開し、自由が広がる今日の社会では、既存の秩序が様々なかたちで崩壊している。9.11の同時多発テロの背景には、そうした自由に対する危機感から原理主義などの「伝統」へ戻ろうとする力が大きく働いていた、と言われる。「伝統」に戻るべきか、それとも「自由」を推し進めるべきか、私たちの身の回りでもその選択が迫られるが、「自由」とは何か、「伝統」とは何か、問われることはほとんどない。本講義では、「自由」と「伝統」の成り立ちについて、文化人類学の立場から検討する。すなわち、1. 近代的な「自由の文化」の仕組みとその問題点、2. 「伝統文化」の価値や意味づけの仕組みとその問題点、3. 両者が対立せずに接続される可能性、について考察することを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・文化とは何か、関係論的な立場からの理解を深める。
- ・伝統文化、特に神話、儀礼、身体変工、贈与の構造とその社会的意味を理解する。
- ・近代における資本主義、民主主義、国民国家、マスメディアが抱える構造的問題を理解する。
- ・民族という枠組みの多様性や歴史性を理解する。
- ・文化進化論、機能主義、文化相対主義、構造主義などの文化人類学的手法を理解する。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	自由の広がりりと伝統への回帰	自由、伝統
2	文化人類学的手法	文化進化論、機能主義、構造主義
3	意味秩序の構造	表現、内容
4	伝統文化論1	神話
5	伝統文化論2	儀礼
6	伝統文化論3	身体加工
7	伝統文化論4	贈与
8	自由の文化論1	市場、貨幣
9	自由の文化論2	資本主義、ファッション
10	自由の文化論3	市民社会、近代科学
11	自由の文化論4	国民国家
12	自由の文化論5	産業社会、フォーディズム
13	自由の文化論6	複製文化
14	自由と伝統	文化相対主義

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	55 %	論述式の筆記試験による。
日常点・その他	45 %	毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への参加度を評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料の提示を重視するので、各自参考文献を読み込んで理解を深めて欲しい。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎 / 講談社現代新書 / /
文化人類学15の理論	綾部恒雄編 / 中公新書 / /
その他、必要に応じて指示する。	

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 佐藤 嘉一

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から、代表的とおもわれる「文化理論」を紹介し整理して「生きること」と文化との関わりを「社会的」に明らかにします。

## 到達目標 / Attainment Objectives

どのような関心に誘われて「文化」の問題に出会うのか。「生の形成」としての「文化」にまつわる興味深い問題を1.文学、2.文化人類学者、3.精神分析、4.文化社会学などの様々な切り口から「生活のなかの文化」を明らかにする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化の定義:文化についての見方・語り方 想像力としての文化 インタビューとしての文化 生活を見直す。	大江健三郎、ルース・ベネデクト、ジャン・ポール・サルトル、想像力の問題
第2回	文化の採集:民話はどこにいきている:民話の採集の1事例バリ島の「闘鶏王のはなし」	採集、地方(じかた)の知、日本の昔話、関敬吾、クリフォード・ギアーツ
第3回	文化の解釈(1)文化を語る複数の視座、異文化・自文化のクロスロード	文化の観察・解釈、文化を観察する(研究者)、文化を生活する(生活者=行為者)、複眼の目、文化研究の4
第4回	文化の解釈(2) Saying something of something アリストテレス):闘鶏はバリ島人にとって1種の「詩学」	ソシユール、見えるもの/見えないもの 意味するもの/意味されるもの 社会の力学と社会の意味論 文化の解
第5回	文化の機能(1)プロニスロー・マリノフスキー著『西太平洋の遠洋航海者たち』を読む	孤立した事実、有機的全体という仮説、機能主義的人类学、クラ、クラの呪術、装置としての文化
第6回	文化の機能(2):マリノフスキーの文化理論が「機能主義」と呼ばれるわけ	民族学的事実としてのクラ、ムワリ(白い貝の腕輪)とソウラヴァ(赤い貝の首飾り)、ヴァイグワ交換の制度
第7回	文化の構造(1)レヴィ=ストロース『悲しき熱帯』を読む:顔面塗飾について「人間であるためには	カデュボ族の女の絵画芸術、顔面・身体塗飾、ポロロ族のケジャラ村の平面図、ポロロ族の神話、構造主義
第8回	文化の構造(2)土井健郎『「甘え」の構造』を読む:文化人類学的「関心」から 異文化の「解釈」「機能」	自明性の喪失、カルチャーショック、ベネデクトがよくわかる、「甘え」の発見、「ことば」の解釈を矢面に、
第9回	文化の構造(3):土井健郎『「甘え」の構造』を読む(つづき) 日本文化にどのようにむきあうのか、文化	甘えの社会関係、間柄の「同心円」的パースペクティヴ、義理と人情、他人と遠慮、うちとそと、同一化と摂取
第10回	文化の構造(4):九鬼周造『「いき」の構造』を読む「構造」とはなにか、土井と九鬼の「構造」論の類似	「いき」の構造、「いき」の意味的構造(内包と外延)、媚態・意気地・諦め、言語と民族、事象の世界と意味
第11回	文化の構造(5):翻訳という文化問題 大江健三郎の実験「ここに魂というものがあって	「取りかえっ子 チェンジリング」、外国語と日本語の比較対照
第12回	文化の構造(6)土井健郎『漱石の心的世界』を読む 精神分析医が読解する漱石の「こころ」の構造を例に	「恩に着る」「つまり世の中が悪いのだ」「なぜ嫉妬なさるんです」「世の仲にかたづけなくて殆どありゃしな
第13回	文化理論の基礎付け(1)文化と言語:文化の問題を「生の形式」としての言語から考える	文化としての言語、生活、意識哲学、言語哲学、文化装置としての言語、非言語的行為、言語的行為、言語ゲーム、「文法規則」
第14回	文化理論の基礎付け(2)これまで論じてきた文化の「定義」、「採集」、「観察」、「解釈」、「機能」、「構造」等の基礎概念や理論のおさらい	ヴィトゲンシュタイン、シュツツ、言語、行為、意味、生の形式、生の内容、各私的体験、間主観的経験

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

「文化」理解には、映画や絵画や音楽などに親しむことも大事ですし、とりわけ文学作品に親しむことも大事です。本講義ではたとえば大江健三郎や夏目漱石、ドストエフスキーなどを読むことを薦めます。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	文化研究の理論と方法、基礎概念などの学習到達度をテストします
日常点・その他	20 %	講義で学んだテーマを具体的事例にどのように応用し、また学問的な方法によって適切に言い表すことができるかをテストします

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で指示します

## 教科書 / Textbooks

用いない

参考書 / Reference Books

以下の文献を読むことを薦めます。土居健郎『甘え』の構造、ルース・ベネデクト『菊と刀』マリノフスキー『西太平洋の遠洋航海者』レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』現象学に関する入門書、ソシュールに関する入門書

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

- ・テレビ・ラジオ放送の仕組みや関連する法制度を通して社会的な位置づけを理解する。
- ・映像の製作技術、特にニュースやドキュメンタリーの手法やソフトの進化や問題点を理解する。
- ・インターネットの発達によるメディア地図の変化を考察する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション:放送の「ことば」と映像	
第2回	放送の仕組み(1) 番組が企画からあなたのもとに届くまで	企画・取材・演出・編集
第3回	放送の仕組み(2) ビジネス的側面から	視聴率・コマーシャル・受信料
第4回	映像の「約束事」と現実	ドキュメンタリー・演出・やらせ
第5回	ニュースとは何か?	ニュースキャスター・ワイドショー
第6回	放送におけるジャーナリズムの危機	取材・インタビュー・ニュースバリュー・ビデオジャーナリズム
第7回	テレポリティクスとメディアコントロールの実際	政治家とテレビ・戦争報道・選挙報道
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・プール取材
第9回	「公共放送」は必要なのか	NHK・BBC・FCC・災害報道
第10回	テレビは夢や希望を与えられるのか	バラエティ・ドラマ・エンターテインメント
第11回	(ゲストスピーカー予定)	
第12回	デジタルの基礎知識とその功罪	地上波デジタル・IP放送
第13回	ブロードバンドと新たに生じた問題	ウェブ2.0・オンデマンド放送・コンテンツビジネス
第14回	まとめの議論・補足の質疑	
第15回	テストにかわる記述問題実施	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	テーマや形式は追って指示する。
最終講義日試験	40 %	事実関係を踏まえて見解をきちんとまとめられているかを見る。
日常点・その他	30 %	テーマ発表の内容とそのレポート、授業中のディスカッション。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・テレビは授業ではほとんど観ません。自分でたくさん観て、たくさん評論してもらいます。
- ・たくさん読んで、たくさん意見を言って、たくさん文字を書いてもらいます。

## 教科書 / Textbooks

- ・追って指示します・

## 参考書 / Reference Books

- ・追って指示します・

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## ボランティア入門 S

15302

担当者名 / Instructor 桂 良太郎

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかにこれからの国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介しながら、学としての「ボランティア論」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果をまじえながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなボランティア活動にまつわる主要コンセプトを理解することが本講座の主要な目標であるが、机の勉強だけでなく、じっさいにさまざまなボランティア活動に関わることによって、経験したなかから、ボランティアとは何かを考えることが大切である。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

できるだけ、社会的なものの方や考え方をしっかりおさえておくこと。それによって講義が非常にわかりやすくなる。また普段から新聞記事をおお読みこなし、ボランティア活動に関する情報収集も行っておくことによって、幅広いボランティア論が展開できる。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーションー講義のすすめかた、目標等についてー	ボランティア
2	ボランティアとはそもそも何ぞや!	ボランティア、市民、市民活動、市民社会、NPO、NGO
3	ボランティア・市民活動の歴史	社会福祉、環境、国際、人権、青少年
4	ボランティア活動・市民活動の鍵概念	共生、自治・分権・参加、持続可能性(サステナビリティ)、協働、多元主義と補完性の原則、ボランティアリ
5	市民活動の法制度	公益法人制度、NPO支援税制
6	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その1)	エンバワメント、市民参加・参画、ボランティアグループの運営
7	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その2)	NPOの組織経営、ボランティアマネジメント、コミュニティ・ディベロップメント
8	ボランティア・NPOの支援システム(その1)	インターメディアリー、ボランティアコーディネーター、助成財団
9	ボランティア・NPOの支援システム(その2)	市民活動の評価、企業の社会的貢献活動、行政の市民活動振興政策、情報支援
10	ボランティア・NPOの担い手	児童・生徒、青年・学生、高齢者、女性、勤労者、セルフヘルプ
11	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その1)	社会福祉、医療・保健、環境
12	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その2)	国際、人権、まちづくり
13	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その3)	教育、文化、スポーツ・レクリエーション、災害
14	諸外国の状況について	諸外国の状況
15	まとめとA+希望学生のプレゼンテーション	総括

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動にかかわり、積極的にリサーチしたことがらなどをレポートにしてほしい。実際に体をうごかしながら、ボランティア活動とはなにかを学ぶ姿勢をのぞみたい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
日常点・その他	40 %	講義中に指示する。

A+希望者は事前に最後の講義時にプレゼンテーションを行うことを申し出ておくこと(受講生の5%)。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回しっかりノートをとること、できるだけ新聞等にも目を通すこと。そしてボランティアセンターにできるだけ足をはこんで、情報を手に入れ、自分にそくしたボランティア活動をしてほしいし、また講師がすすめる講座等にも積極的に参加し報告(レポート)した学生は、評価の際の加点対象としたい。

## 教科書 / Textbooks

テキストは講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考文献は講義のなかで紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## メディア技術史 S § 情報技術論 S

15211

担当者名 / Instructor 宮下 晋吉

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

ケータイ 携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ヨビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

- 第一に、メディア技術史全体の流れの理解
- 第二に、歴史に登場した各メディア技術の社会的意味を検討、考察すること
- 第三に、写真、映画、テレビ等の映像メディア技術をはじめ歴史的に最も重要なメディア技術の原理の基礎の理解

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
	グーテンベルクの銀河系(その1)	「42行聖書」、M.マクルーハン、マクルーハンのメディア論
	グーテンベルクの銀河系(その2)	J.グーテンベルク、紙とインク、ブックの誕生、活版印刷術の発明
	電子メディアの誕生	テレコミュニケーション技術としての電信と電話
	電子とは、電波とは?	エーテルのさざ波?
	写真と映画の発明	映像メディアテクノロジーの誕生
	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
	テレビの発明	「最後の国民化メディア」はどこへ?
	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ノイマン型コンピュータ
	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスタからIC、マイクロプロセッサへ
	インターネットヒストリー	パソコンの発明とインターネット
	ヨビキタスとヨビキタス社会	コンピュータとメディアの未来を考える
	マクルーハン再論	メディア技術史の時代区分、メディアのライフサイクル?

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
日常点・その他	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテキストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけいねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論 人間の拡張の諸相	M.マクルーハン / みすず書房 / ISBN4-622-01897-7 /
グーテンベルクの銀河系 活字人間の形成	M.マクルーハン / みすず書房 / ISBN-4-622-01896-9 /
複製技術時代の芸術	W.ベンヤミン / 晶文社 / ISBN4-7949-1266-8 /
20世紀のメディア エレクトリックメディアの近代	水越伸篤 / ジャストシステム / ISBN4-88309-081-7 /

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
------------	--

新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭 / オーム社 / ISBN4-274-12914-4 /
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ / ジャストシステム / ISBN4-88309-096-5 /
ゲーテンベルク聖書の行方	富田修二 / 図書出版社 / ISBN4-8099-0504-7-C0090 /
起業家エジソン 知的財産・システム・市場開発	名和小太郎 / 朝日新聞社 / ISBN4-02-259771-2 /
電子立国日本の自叙伝	相田洋 / NHK出版 / ISBN4-14-084007-2他 /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画(キネマトグラフ)や蓄音機(フォノグラフ)の発明者エジソンについて:  
<http://edison.rutgers.edu/papers.htm>

その他 / Others

担当者名 / Instructor 筒井 淳也

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

「情報化」とはそもそも何なのでしょう？ この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」、いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・洞察力(基礎理論を応用する力)を身につけること。
- ・社会の中にメディアを位置づけて理解する力を養うこと。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

「現代とメディア」をとっていれば理解が早いかもしれないが、必須というわけではない。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論:「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か?	コミュニケーション メディア コード
2	メディアと社会理論(1):社会の仕組み	社会分化 市場 制度
3	メディアと社会理論(2):メディアの仕組み	メディアの分類 インターネット
4	市場とメディア	市場メカニズム 効率化 金融市場 労働市場
5	階層とメディア	格差社会 デジタルデバイド
6	福祉とメディア	社会保障 メンタル・サポート
7	組織とメディア	取引費用 アウトソーシング
8	政治とメディア	モニタリング アジェンダ設定
9	犯罪とメディア	偏向報道
10	教育とメディア	シグナリング理論
11	人間関係とメディア	結婚 配偶者選択
12	遊びとメディア	遊びの分類 ゲーム
13	マスメディアとメディア	ニュース解説 取材力格差
14	総括	
15	定期試験	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

参考文献を読んでおくとう理解が深まる。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	穴埋めと論述を併用する。
日常点・その他	20 %	コミュニケーション・ペーパーを二、三回利用する。

出席は評価としてカウントしない。期末の試験を重視する。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

積極的に参加する態度を維持してほしい。私語は注意し、全体的に改善しないようなら私語をする個々の受講生の学生証の提出を求め、単位を認定しない。

**教科書 / Textbooks**

プリントを用いるため、特に使用しない。しかしウェブサイトの講義概要(講義中に指示する)や参考書をしっかりと読むことが大事。

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
高校生のための経済学入門	小塩隆士 / ちくま書房 / 978-4480059369 / まずは基本から。

制度と再帰性の社会学

筒井淳也 / ハーベスト社 / 978-4938551889 / 社会理論の平易な導入。

-----  
非対称情報の経済学

藪下史郎 / 光文社 / 978-4334031497 / 授業でよく触れる情報の非対称性について。  
-----

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜指示を行う。

その他 / Others

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この百年は映像の創出と発展の世紀であった。なかでもニュース報道における映像ジャーナリズムの発展と、事象内部を掘り起こし制作者の視点で真実を再構成するドキュメンタリー、現場からの同時中継などの表現形式は、社会に大きな影響を与えてきた。この授業は、写真にはじまり記録映画、映像ジャーナリズムにいたる発達と作品を検討し、さらに現代において映像の制作から露出にいたる実際の企画・制作・露出過程の諸相をワークショップ形式を中心に考え、＜ノンフィクション映像表現の形式＞の構造と課題にせまる。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・映像ジャーナリズム、ドキュメンタリーの成立の構造を理解する
- ・ノンフィクション映像という表現形式の構造や課題を理解する
- ・制作主体、取材対象、オーディエンスの関係性をダイナミックにつかむ

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

近代史  
ジャーナリズム関係  
映画関係

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	いま、なぜ、誰に何を伝えるか ~イラク戦争ニュースから~	映像ジャーナリズムの諸相、活字/web/メディア制作、ドキュメンタリー
2	写真と映像の時代がやってきた	写実、カメラ、ジャンセン、リュミエール、見世物
3	レポートテーマの提案と編成	
4	モンタージュ、ドキュメンタリーのはじまり	リュミエール、グリフィス、
5	社会的映像とフォトジャーナリズム	キャバ、ルポルタージュ・フォト、写真雑誌
6	社会的映像とフォトジャーナリズム	エド・マロー、『シー・イット・ナウ』
7	危機の時代とドキュメンタリー論争	映画運動、フラハティ、グリアスン
8	プロパガンダ	国家利益、イラク戦争報道、ナチス
9	スポーツ報道と権利ビジネス	オリンピック報道、放送権
10	競争とメディア・スクラム	ダイアナ報道、松元サリン事件、報道協定、記者クラブ
11	ドキュメンタリーと演出(1)	『はげわしと少女』
12	ドキュメンタリーと演出(2)	『ドキュメンタリーは嘘をつく』、森達也、是枝裕和
13	制作構造とモラル	納豆事件、プロダクション
14	私的ドキュメンタリーの可能性	河瀬直美、原一男

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

後半は受講者自身が設定した実際の映像課題についてレポートし、ワークショップ形式による討論によって、課題を明確にしていきます。積極的な参加が必要です。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリー映画の原点	谷川義雄 / 風涛社 / /
ドキュメンタリー映画の地平	佐藤真 / 凱風社 / /
テレビジャーナリズムの現在	津田正夫編 / 現代書館 / /
ニュースキャスター エド・マロー	田草川弘 / 中公新書 / /
映像学原論	植糸則夫編 / ミネルヴァ書房 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

## メディア制作I SB

12985

担当者名 / Instructor 奥村 信幸

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

- ・映像撮影の基礎を理解し、実践してみる。
- ・ニュース制作の企画、取材、構成、編集の一連の作業を通じて実践的ジャーナリズムを体感する。
- ・制作過程を通じて現在メディアで流通している映像に関し批評し改善のための提案ができる能力を養う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラス案内・導入のはなし	
第2回	ビデオカメラによる撮影(1) 立位置やアングルを決める	
第3回	ビデオカメラによる撮影(2) サイズにより画面の意味はどうかかわるか	
第4回	ビデオカメラによる撮影(3) 画面に必要な情報をどのように強調するか	
第5回	インタビュー(1) 戦略と文脈	
第6回	インタビュー(2) 「聞きたい」コメント引き出す	
第7回	企画書を書く(1) ストーリーの主題を決める	
第8回	企画書を書く(2) 観ている人に理解させるための注意点	
第9回	取材と構成(1) フェアな取材とは	
第10回	取材と構成(2) 映像とことばの補完関係	
第11回	取材と構成(3) ナレーション	
第12回	編集と演出(1) ストーリーを編む工夫	
第13回	編集と演出(2) わかりやすさと正確さの両立	
第14回	編集と演出(3) 映像レポートの情報量とチェックポイント	
第15回	上映会と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	各週に課す課題、最終成果物の出来で判断。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

- ・クラス外で行う各自の課題が中心です。要領のいい人でもクラスの10倍以上の時間を費やすことを覚悟してください。
- ・ビデオカメラは貸し出すが、自前のハンディカムを持っていることが望ましい。

## 教科書 / Textbooks

- ・クラス内で指示する。

## 参考書 / Reference Books

- ・クラス内で指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## メディア制作II SA § メディア制作研究II SA

15300

担当者名 / Instructor 津田 正夫

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

メディア制作 では、映像ジャーナリズムやドキュメンタリー、中継などの<ノンフィクション映像表現の形式>の発展・成立の歴史や課題を考えた。制作 では、メディアの公共性を軸に<映像表現の内実>を、学生自身が提案・調査・研究した具体的なケースから、社会環境全体の中での意味をワークショップを使って多角的に討論・評価するとともに課題を考える。メディアは既存のマスメディアに限らず、web、展覧会、パフォーマンスなど<さまざまな場>での映像表現もふくむものとする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・映像表現における公共性変質の構造とその原因を考える
- ・表現・報道事件の公共性を実践的に研究・理解する
- ・新たな公共性のものさし(規範)を創る

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要 シラバス紹介、自己紹介	
2	「納豆事件」とテレビの公共性 ワークショップ	
3	レポートテーマの提案と編成 メディア事件 or テーマ	
4	大震災報道とメディアの公共性 ワークショップ	
5	「公共放送・NHK問題」とは何か ワークショップ	
6	「イラク戦争報道」と映像表現の基準 ワークショップ	
7	メディアの倫理と法規制 ~ BPOからみるメディアの公共性	
8	課題レポートの検討・討論(1)	
9	課題レポートの検討・討論(2)	
10	課題レポートの検討・討論(3)	
11	課題レポートの検討・討論(4)	
12	課題レポートの検討・討論(5)	
13	課題レポートの検討・討論(6)	
14	映像表現の公共性・再考	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
日常点・その他	50 %	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この科目は、演習に準ずるものであり、実際の調査・実習を前提にするものなので、出席していれば単位が取得できるものではない。具体的な事例に即して、前半は主としてワークショップ形式により、後半は主として発表と討論によって、「映像表現」のさまざまな現代的な課題や公共性の再検討を行なうので、日常的に映像メディアのニュース報道やドキュメンタリーの作られ方を勉強しておくこと。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

## メディア制作II SB

15308

担当者名 / Instructor 柳澤 伸司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この授業では、新聞メディアの特徴を捉え、表現技法として新聞制作を実践的に行う。主に、新聞の表現手法を考察しながら、新聞記事の企画、取材、記事の書き方、写真撮影、記事割付、校正、制作方法など新聞を作成するプロセスを学ぶ。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・グループ学習によるコミュニケーション能力(責任感、調整力の醸成)を獲得する。
- ・取材の仕方や表現力(プレゼンテーションや新聞作成スキル)を獲得することができる。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア、活字メディア分析、ジャーナリズム論

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス / 授業の進め方・目的について	
第2回	新聞の役割、特徴 / テーマを選ぶ・公共性、客観性とは	
第3回	パソコン(ワード)で新聞を作成する方法 / グループ分け	
第4回～第7回	グループ学習	
	実習(1) テーマを選ぶ・リサーチをする	
	実習(2) 構成を固める・取材の準備	
	実習(3) 新聞作成 記事、図版のチェック	
	実習(4) 新聞作成 構成(表現)のチェック	
第8回	中間プレゼンテーション	
第9回	グループ内での読み返し; 構成・理解してもらう工夫	
第10回～第13回	グループ学習	
	実習(1) テーマを選ぶ・リサーチをする	
	実習(2) 構成を固める・取材の準備	
	実習(3) 新聞作成 記事、図版のチェック	
	実習(4) 新聞作成 構成(表現)のチェック	
第14回	プレゼンテーション(成果物・新聞の提出)	
第15回	プレゼンテーション(成果物・新聞の提出)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

グループおよび個人の課題が多く、授業外での作業時間のとりにくい学生には不向き。決められた課題に参加しなかったりグループ内での作業に協力しなかった場合は評価できないので注意すること。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(60点)、成果物(新聞)(40点)

参加型授業となるので、グループ活動での協力姿勢、個々人の課題の達成状況、新聞制作を合わせてこれらの学習をどこまで深めることができたかによって評価する。従って、出席と能動的参加は必須条件となる。無断欠席および遅刻は減点となる。明確な理由や連絡も無く、3回連続して無断欠席した場合は不合格とする。なお、新聞制作については、記事の出来具合、紙面の構成・表現力(読ませ方)、独創性を評価する。これらが、成果物の内容や表現から読み取れなければ評価点が下がることがある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回にこの授業の進め方、評価の仕方について説明するので、受講(登録)意志のある人は必ず出席すること。単なる出席ではなく、グループ活動による新聞制作を中心とするので、グループ活動への参加の度合を重視する。グループ分けまでの授業に出席しない人は受講意志なしとして判断するので注意してほしい。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を用意する。

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新聞を知る新聞で学ぶ	妹尾彰・福田徹 / 晩成書房 / 4893803271 / 新聞を活用した学習(NIE)についてその方法と基礎知識をふまえ、新聞の取材・制作現場の実情や効果的な読み方、新聞の

長所、短所、問題点など解説したもの。授業を進める上で基本的な知識を深めたいときの参考書である。

---

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

担当者名 / Instructor 坂田 謙司

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

本講義では、メディアに関連する調査について学習するが、メディア調査結果の読み方やそこに潜む政治性の発見、あるいは調査の方法論にも重点をおいてゆく。また、メディアが行っている調査を調査対象とすることで、調査する側とされる側の関係性や、メディアが調査した結果がメディアを通じて伝えられる意味を問い直してゆく。講義は大きく3つのパートに分かれている。パート1では、メディア調査の方法論を学ぶにあたって必要な理論の紹介、過去に行われたさまざまな調査事例を紹介する。パート2では、実際の調査に際しての技法として準備段階からメディア別の調査方法までをとりあげる。パート3では、世論調査や視聴率調査などメディアが行っている調査を分析し、読み解いてゆく。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・それぞれのメディアが持つ特性について理解し、調査方法との関連性を見出す
- ・クリティカルな視点でメディアによる調査を分析する
- ・実際に行われている調査の実態を把握し、理解を深める

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア調査を学ぶとは何か	
2	メディア調査の方法論1(理論を学ぶ)	理論とマス・メディア
3	メディア調査の方法論2(量的調査)	数量を調査・分析
4	メディア調査の方法論3(質的調査)	内容を調査・分析
5	メディア調査の方法論4(その他)	フィールド、インタビューなど
6	メディア調査の技法1(準備編)	調査の前に必要な事柄
7	メディア調査の技法2(放送編)	放送メディアを調査
8	メディア調査の技法3(通信編)	通信メディアを調査
9	メディア調査の技法4(活字編)	活字メディアを調査
10	メディアの調査を調査する1(世論調査)	世論調査を読む
11	メディアの調査を調査する2(視聴率調査)	視聴率調査を読む
12	メディアの調査を調査する3(新聞独自の調査)	新聞調査を読む
13	メディアの調査を調査する4(その他)	その他の調査を読む
14	まとめ メディアの調査から見えてくるもの	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	客観問題と論述問題を併用
日常点・その他	30 %	それぞれのパートの終了時(合計3回)に、理解度を知るためコメントの提出を求める。

講義開始から30分経過した時点でレジュメ等の配布を中止する。以後、一切配布しない。遅刻をしないように注意すること。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

講義中に適宜紹介する。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

この講義の主題はマス・メディアなのであるが、最低限必要な知識として、我々の祖先が集団を作り、マンモス狩りを始めた時から、IT社会と言われる現代までの、メディアの歴史を、手短にはあるが、物語風に話しておきたいと思う。そして主題であるマス・メディアについては、電波と映像メディアが引き起こしたいくつかの事件(火星人襲撃事件、ルドルフ・バルンチノ、春団次事件、ナチズム、千の丘ラジオ事件など)を紹介しながら、<シンクロナイゼーション>と<疑似イベント>という2つの概念を手がかりとして、論じて行きたいと思う。そして、この講義の落ちネタとしては、我が国の現在の繁栄の起点となった高度成長期、テレビという媒体が消費を先導することによって、豊かな消費社会が開花したのであるけれども、実は、この過剰な消費志向が、我が国の高齢化=少子化傾向を加速させてしまったのだという議論を用意したいと思う。

**到達目標 / Attainment Objectives**

現代社会とは、精密に統合され、あたかも一つの巨大なマシンであるかのごとくにして、全体が精密に連動して動くシステムであるとイメージすることが出来るのであるが、工場とか学校とかという場面ではなく、人々の生活の全体をシステムに連動させるという現代社会の特徴的な局面において、マス・メディアがどのような役割を果たして来たのかを、メディアの歴史を追いながら、理解する

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

歴史に関する科目、特に近代と現代の歴史、そして、前期開講の私が担当するもう一つの講義「メディア理論」

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	第1講 - 1.メディアの3類型 - その1 / 「ライブ」ということ	直接表現メディア / 代り表現メディア / 機械表現メディア
2	第1講 - 2.メディアの3類型 - その2 / 文字が引き起こした革命と活字が引き起こした革命	外部メモリー / 複製技術 / 印刷物という大量生産された文化or情報商品の可能性
3	第1講 - 3.メディアの3類型 - その3 / 「通信」ということ	情報のトランスポートとテレポーテーション
4	補論 システム統合と工場の原理	シンクロナイゼーション / 時計
5	第2講 - 1. マスメディアの出現 / 新聞	報道と言論の区別 / 議会制度と直接民主主義のメディア
6	第2講 - 2. 日本新聞小史 - 明治	新聞紙条例 / 自由民権運動
7	第2講 - 3. 日本新聞小史 - 大正	寺内内閣と白虹事件 / 普通選挙権と新聞 / 治安維持法
8	第3講 - 1. 現代資本主義と消費社会 / 労働者を「消費者」と位置づけなければならなかった2つの理由	生産と消費 / フォード改革 / 工場の完成 / ベルエポック / 消費の媒体としてのラジオ
9	第3講 - 2. 日本のラジオ放送	国家統制の媒体としてのラジオ / 昭和天皇の即位儀礼 実況放送 / シンクロナイゼーション
10	第4講 - 1. 戦争とメディア - ソルゲ事件	ジャーナリズムとは何か / 世界史というスクリーン
11	第4講 - 2. ゲッベルスのプロパガンダ理論	疑似イベント
12	第4講 - 3. ゲッベルスのプロパガンダ理論 - 続き	自由からの逃走 / 逃避の場所としての疑似イベント
13	第5講 - 1. 高度成長とテレビ: 日本のテレビ小史 - 幻の東京オリンピックから、東京オリンピックまで	高度経済成長と消費 / 国家イベントに隠されたテレビを買わせる陰謀
14	第5講 - 2. 高齢化 = 少子化社会の正体 / What have you done to the Children?	家族の五つの機能と消費による代替 / 消費社会が加速させる高齢化社会
15	まとめ、もしくは予備日	救済を約束する慈悲と愛

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

講義内容の理解のポイントとなるキーワードもしくは、キー概念を講義中にいくつか、提示するつもりであるが、それらがどの程度、理解出来ているかを重視する。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義内容の理解のポイントとなるキーワードもしくは、キー概念を講義中にいくつか、提示するつもりであるが、それらがどの程度、理解出来ているかを重視する。
テストの一発勝負。ただし、複数出題し、その中から一問を選択する方式で出題する。		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

テキストは使用せず、詳細な資料を配付する。ただし、これは「教科書」と位置づけするものではなく、また、この資料を棒読みするような講義をするつもりもない。また、教材として、可能な限り、映像資料を用意する予定である。また講義資料とは、例えて言えば、楽譜のようなものであって、ごく一部の専門家以外は、楽譜からメロディーを鑑賞することは出来ず、大抵は、メロディーを聴いたことがあるから、その楽譜が分るのが普通である。そういうわけで、資料とかノートのコピーを入手すれば何とかなるだろうという甘い希望的観測は、儂くも打ち砕かれることであ

ろう。

**教科書 / Textbooks**

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title

現代社会の理論

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

見田宗介 / 岩波書店 / 4-00-430465-2 / この講義を受講するに際して、この程度の現代史についての本を読んでおいてもいいかも知れないという程度の位置づけである。

資料は豊富に用意するので、そこから各自が関心を持った項目、用語で好き勝手に検索することが出来るインターネットである。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 浪田 陽子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、社会的文脈においてメディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- ・メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
- ・メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、および個人でつけるメディアログによって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

特になし。

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 (授業の進め方)、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション (representation)、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える(1) テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える(2) 消費社会	消費社会、ブランド化 (Branding)、産業としてのメディア
第7回目	広告を考える(3) 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティ(1) ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティ(2) 民族と文化	民族、エスニシティ、文化
第11回目	メディアにおける暴力	モラル・パニック
第12回目	子どもとメディア	子ども時代 (Childhood)、子どもの権利条約、自主規制、Vチップ
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み	メディア・エデュケーション
第14回目	グローバル時代のメディア	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア
第15回目	まとめ、グループ・プレゼンテーション	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

- ・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
- ・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	メディアログ(30%)、日常点(40%)、グループ・メディア制作(30%)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアログ(個人でつけるメディア日記)は第3回目と第8回目の授業で提出する(15%×2本)。</li> <li>各自が接したメディアの内容、文脈、時間、ならびにそのメディアに対する自分の考えや反応などを記録する。</li> <li>・日常点は毎回ただ授業に出席するだけでなく、メディア分析などのグループ活動への参加・貢献度合いが重視される。また、不定期に授業内でアンケートや小レポートなどの課題提出を求めることもある。</li> <li>・グループ・メディア制作は、4、5人のグループで5分程度のビデオを制作し、最終回の授業で発表・ディスカッションを行う。社会・環境問題や消費社会についてなど、興味に応じてテーマとメッセージの方向性を決め、その意図が伝わるようなものを作る。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解してそれに基づいて制されたものかどうかを基準とする。</li> <li>・受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。</li> </ul>		

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

- ・メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイデアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。
- ・ほぼ毎回行われるメディア・テキスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回

目から必ず出席すること。

・遅刻は他の受講者の迷惑になるだけでなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配る。

#### 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 Study Guide メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編 / リベルタ出版 / 4947637595 /
Study Guide メディア・リテラシー[ジェンダー編]	鈴木みどり編 / リベルタ出版 / 4947637803 /
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編 / 世界思想社 / 4790708969 /
Media Education: Literacy, Learning and Contemporary Culture	David Buckingham / Polity Press / 0475628303 /
その他、適宜授業中に紹介する。	

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

FCT メディア・リテラシー研究所 <http://www.mlpj.org/index.shtml>  
 Media Awareness Network <http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm>

#### その他 / Others

担当者名 / Instructor 鈴木 隆

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

この講義では、メディアを、人が集団もしくはシステムを形成する際の不可欠の媒体として考えていく...と言うと大げさなのだが、要するに、太古の時代、我々の祖先が肉声で情報を交換し、その肉声が届く範囲で一つの集団を作ったのに始まって、新たなコミュニケーションメディアが出現する毎に、人が形成する集団の規模も形態も、大きく変わって行ったのであって、まずは、その歴史を簡単にたどった上で、可能な限り、技術的な専門用語を敬遠した上で、現代社会という一つの巨大化したシステムと、その統合に不可欠となったメディアとの関係、そしてその狭間に浮遊する我々の存在について論じたいと思う。

## 到達目標 / Attainment Objectives

IT社会とか高度情報化社会と言うと、あたかも通信技術とコンピューターが引き起こしたものであるかのごとくにイメージしてしまうものなのだが、実はそうではなくて、「現代社会」という、この社会の統合のあり方が、情報化を引き起こしたのだという関係と、その経緯を理解すること。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報、メディア系の講義を他にも聴いているにこしたことはないが、IT技術関係についての予備知識を必要とするような講義にするつもりはない。1. 歴史、とりわけ、近代史、現代史に興味を持ち、2. マクルーハンが、「メディア論」でどんなことを言っているか(表現はユニークだが、内容は難解)を知っていると得をするかも知れない。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	クロマニヨン人が生き残りネアンデルタール人が絶滅した本当の理由 - その1 / 言語能力と社会形成	血縁集団と社会集団 / 意思疎通 = コミュニケーション / 類的存在
2	クロマニヨン人が生き残りネアンデルタール人が絶滅した本当の理由 - その2 / 外部メモリー	脳の外に記憶を保存する方法と手段 / 遺傳的進化と文化の進化
3	シンボルと表象 - その1 / 古代壁画の解釈についての最新の仮説	投影 = projection / あばたとえくぼ
4	シンボルと表象 - その2 / 宗教的指導者が最初の政治的支配者となったその理由	後光 = オーラ(aura)
5	文字と古代国家 / 文字の出現なしに、国家は発生しない...その理由	文字の存在しない社会で戸籍は可能であるか? / 日記 = 未来の私へのメッセージ
6	富の存在様式 / 現物形態と貨幣形態...尾崎紅葉「金色夜叉」について	ライブ = 現物形態としての富 / 数量としての富 / 媒体に対する欲望(物象化された欲望)としての「金銭欲」
7	システム統合の媒体としての「貨幣」 / デュルケームの「社会分業論」について	分業社会 = システム / 分業社会統合の無規範的統合の媒体としての貨幣 / 分業への動機付けとしての金銭欲
8	システム革命・交通革命・通信革命 - 1 / 長篠の合戦で「鉄砲の三段撃ち」は不可能	インテグレーションとシンクロナイゼーション / 工場の定義 / ラジオ体操
9	完成した工場としてのフォード・システム / チャップリン「モダン・タイムズ」とベルト・コンベア	巨大化する分業体制とシンクロナイゼーション - その統合の媒体としての「時計」 / ウェーバー「音楽の社会学」
10	通信技術の発達とシステム革命 / 第二次大戦は通信技術によるシステム統合を限界まで進めた	モルトケとプロイセン軍 / バッジ・システムと Battle of Britain / ミッドウェー海戦と情報によるシステム統合
11	コンピューター開発の経緯 - ドレスデン空襲とレーダー / 汎用コンピューター「システム360」	「情報処理」という言葉に惑わされるな / 通信技術と情報処理技術の区別 - 情報化社会の2つのステップ
12	コミュニケーションの三要素 / ハイテク戦争とバーチャルリアリティ	端末・メディア・ID / 遠距離恋愛とネカマ /
13	巨大な管理社会としての高度情報化社会	ネアンデルタール人の脳と巨大コンピューター社会
14	「ターミネーター」の最後のセリフ「人は何故泣くのか今わかった」について	「類」的進化の途上にある我々 / 人は何故、コミュニケーションするのか?、それは癒されたいからである。
15	まとめ、もしくは予備日	救済を約束する愛と慈悲 / 救いを求める子らよ、わが声の届く地に來たれ

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

とくになし

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	講義で提示するいくつかのキーワードが理解されているかどうかを問う

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、メディアとコミュニケーションを歴史物語風に辿るという構成にしたいと思っている。可能な限り、映像資料を用意したいと考えているのであるけれども、目で見ると歴史物語のようなものとして、リラックスして聞いてほしい。また、テキストは使用せず、講義資料の先行配布を心がけるつもりであるが、「配付資料の棒読み」のような講義をするつもりは全くない。というわけで、配布資料が豊富だからと言って、それさえ入手すれば何とかなるだろうという希望的観測は、必ず、打ち砕くつもりである。

#### 教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

#### 参考書 / Reference Books

##### 書名 / Title

現代社会の理論

##### 出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

見田宗介 / 岩波書店 / 4-00-430465-2 / 情報革命が情報化社会をもたらしたのではなく、現代社会が情報化を引き起こしたのだということを理解する上で、読んでおいてもいいかも知れないという程度。

-----  
 結構な分量の資料を用意するつもりであるけれども、それらは「教科書」ではない。それは例えて言えば、楽譜のようなものであって、音楽のアマチュアである我々は、楽譜を見て、メロディを觀賞する力を持たず、先に、その曲を聴いたことがあるからこそ、それが何の楽譜であるか分かる……講義資料とはあくまでもそういうもの……講義とは、ライブなのだと思えるべし。

#### 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

資料は豊富に用意する。そこから、各自が関心を持った項目、用語で好き勝手に検索することが出来るこそインターネットである。

#### その他 / Others

## 余暇・スポーツ史 S § スポーツ文化史 I S

15177

担当者名 / Instructor 有賀 郁敏

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

不幸にして「余暇」と訳されてしまった狭義の非労働時間は、この言葉から派生するやや消極的な意味とは裏腹に、われわれの生活に固有の意味を付与する非常に大きな価値をもっているよう思われる。なぜなら「余暇」を欠落させた生活を考えることは、現状ではもはやリアリティを欠いているからである。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が娯楽性のみならず、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。じつは、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理していくのかは国家をはじめとした諸権力にとって非常に重要な課題であったのである。本講義では広範囲にわたる「余暇」活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

## 到達目標 / Attainment Objectives

歴史から現代の諸問題のありようを捉える  
文化・スポーツと諸権力の関係を理解する

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツ文化論、スポーツ社会学

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション、講義の進め方、評価
第2回	近代イギリスの「合理的娯楽」運動	シャリバリ、民衆娯楽、賭け、アマムスポーツ
第3回	近代イギリスの「合理的娯楽」運動	カウンターアトラクション、福音主義
第4回	ビデオ鑑賞	映画「プラス」、労働者文化
第5回	「ハリウッド・ポッター」の世界:パブリックスクールと近代サッカー	パブリックスクール、アーノルド、「自由と規律」
第6回	ヨーロッパにおけるアソシエーション	公共性、公と個人、アソシエーション、協会組織運動
第7回	ヨーロッパにおけるアソシエーション	近代ドイツ、男性合唱協会、体操協会、自主消防団
第8回	ヨーロッパにおけるアソシエーション	社会参加、相互扶助、社会国家
第9回	国民社会主義の余暇・スポーツ	ワイマール共和国、ナチズム、体制・思想・運動
第10回	国民社会主義の余暇・スポーツ	大衆動員、歓喜力行団、戦後体制、分断国家
第11回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽	日本における「公私関係」、行政国家
第12回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽	運動会、森有礼、身体の規律化
第13回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽	村の遊び日、祭りと祭祀、民衆世界、自由運動会
第14回	近代日本における近代化政策と民衆娯楽	国民化と総力戦、国家の体力管理
第15回	まとめ	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと  
自学自習をしっかり行うこと

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	論述の根拠、批判・批評の論点
レポート試験	25 %	講義内でのミニレポートの提出回数と内容
日常点・その他	25 %	自学自習の成果:提出回数と内容

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと  
自学自習をしっかり行うこと

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
英国社会の民衆娯楽	R. マーカムソン / 平凡社 / /
近代ヨーロッパの探究8 スポーツ	有賀郁敏他 / ミネルヴァ書房 / /
近代日本スポーツ史の底流	高津勝 / 創文企画 / /

自由と規律

池田潔 / 岩波書店 / /

-----  
運動会と日本近代

吉見俊哉他 / 青弓社 / /  
-----

参考文献は毎回の講義の折により詳細に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その他 / Others

講義では事前に受講生といくつか確認(了解)をとっておく事柄がある。

## ライティングリテラシー SA

15101

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

**到達目標 / Attainment Objectives**

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

**(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

**その他 / Others**

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 中山 一樹

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

**到達目標 / Attainment Objectives**

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

**その他 / Others**

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

## ライティングリテラシー SD

15107

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	主題を分析して材料を集める
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

## ライティングリテラシー SE

15108

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

## 到達目標 / Attainment Objectives

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

## その他 / Others

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

担当者名 / Instructor 伊藤 隆司

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

小学校から高校までの作文教育では、社会で役立つ実践的な文章は書けない。社会で求められるのは、自分の日常生活や感情を表現する文章ではなく、事実を報告したり意見を述べたり他人を説得したりする文章だからである。そのような文章は、いずれも論理的な構造をもっていて、一定の手順のもとに作られるものである。

この授業では、大学での学習・研究に必要な不可欠なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を解説し、理論的な文章作成法を身に付けることを目指す。

**到達目標 / Attainment Objectives**

「内容把握力」、「文章構成力」、「文章表現力」、「文章作成力」、を総合的に高め、日本語文章能力検定2級程度の力を付けることを目標とする。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標	
第2回	文章の部分が持つ役割をとらえる	事実を客観的に述べる
第3回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	文の役割の意味
第4回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	段落の役割の意味
第5回	文章の部分の役割と全体の関係を認識する	要旨と文章展開の関係
第6回	わかりやすい文章を書く	執筆、推敲のための基礎知識
第7回	材料を集めるための技法を見に付ける	ブレイン・ストーミング
第8回	材料集めから主題を見つける	
第9回	主題を分析して材料を集める	
第10回	レポート・小論文の型を知る	
第11回	意見文・論説文の型を知る	
第12回	書簡文・通信文についての基本を身につける	
第13回	文章能力達成度評価テスト実施	
第14回	文章能力達成度テストの解説、授業全体のまとめ	

(学教科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点・その他	100 %	出席点(30%)、課題提出(30%)、文章能力達成度評価テスト(40%)

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods****教科書 / Textbooks**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
産業社会学部で学ぶ(産社ハンドブック)	///
文章表現ワークシート(受講生全員に配布)	///

**参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「日本語文章能力検定2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-053-X /
「日本語文章能力検定準2級徹底解明」	日本語文章能力検定協会 / / ISBN4-87116-054-8 /

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**

文章能力検定協会ホームページ <http://www.kentei.co.jp/bunken/index.html>

**その他 / Others**

前期定期試験期間中に「文章能力プレテスト」を実施予定。1回生は全員受験すること。

## ライフサイクル論 S

15253

担当者名 / Instructor 窪田 容子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- ・ライフサイクルの基本や概念を理解できる。
- ・人間発達についての理解を深める。
- ・個人の発達を支えるための社会的制度、福祉的援助について問題意識を持ち、解決の方向を探る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	ライフサイクルとは何か、人生周期
2	乳児期の発達特徴	人格発達の土台、基本的信頼感、アタッチメント、愛着障害、
3	幼児期の発達特徴	自我の芽生え、自制心の育ち、意欲、自発性
4	学童期の発達と心理的危機	勤勉性、劣等感、ギャングエイジ
5	思春期の課題と心理的危機	身体の成熟、アイデンティティの形成、問題行動、不登校
6	青年期の課題と心理的危機	自立、モラトリアム、アバシー、ひきこもり
7	成人期の課題と心理的危機1	職業選択、自己実現
8	成人期の発達と心理的危機2	親密性、恋愛、結婚、非婚、離婚、再婚
9	成人期の発達と心理的危機3	妊娠、不妊、子育て、育児不安、虐待
10	中年期の心理的特徴	心身の変化、人生の転換期、衰退と充実、アイデンティティの問い直し
11	ライフサイクルの中の老い	老いの受容、喪失、人格の統合、絶望、死
12	ライフサイクルとジェンダー	女らしさ、男らしさ、父親不在と母子密着の影響
13	ライフサイクルと突発的危機	天災、事故、犯罪被害、トラウマ
14	ライフサイクルとストレス	ストレッサー、ストレス反応、コーピング、ストレスマネジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	通常の試験を実施する
日常点・その他	20 %	コミュニケーションカードによる授業の感想や意見を評価に加える。講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子育て支援の現在	垣内国光・櫻谷眞理子共編 / ミネルヴァ書房 / 4-623-03643-xc3336 /
女性ライフサイクル研究第13号 - ライフサイクルにおけるストレス・危機とケア	女性ライフサイクル研究所編 / 女性ライフサイクル研究所 / 902025-09-4 /
女性ライフサイクル研究第15号 人生の選択に迷うとき・新しいライフサイクルをめぐる	女性ライフサイクル研究所編 / 三学出版 / 921134-93-6 /
女性のためのライフサイクル心理学	岡本祐子・松下美知子編 / 福村出版 / 571-20051-x /
ライフサイクルの臨床心理学	馬場禮子・永井徹共編 / 培風館 / 563-05610-3 /

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

フロイトは、大人が健康に生きていくために必要なのは、「働くことと愛すること」と言った。敷かれたレールを受動的に走るだけ、安易に状況に流されるだけでは満足できる豊かな人生を送ることはできない。納得のいく生活を創っていくためには、自分の人生を主体的に組み立てていくこと、すなわちライフデザインが必要である。かと言って、用意周到に綿密な人生計画を立てても、必ずしも思い通りにいくわけでもない。予想外に降りかかっている出来事を受け入れ、新しい可能性に心を啓く柔軟さも必要であろう。

本授業は、働くこと＝仕事 愛すること＝親密な関係や家族 に関する心理社会的理論を学びながら、それを自分の日常や将来設計につなげていくための体験的プロセスから構成される。毎回出席が前提であり、講義を聴くだけでなく、小グループでのディスカッションやグループワーク、レポート提出など能動的参加が求められる。

**到達目標 / Attainment Objectives**

- 1) ライフコースは社会とともに変化することを理解し、現代社会のライフコースの特徴をつかむと同時に、どんな社会にも共通してあるライフサイクル論について学ぶ
- 2) 親密な関係、および仕事についての心理・社会学的理論と研究を概観する
- 3) 知的に学習したことを、体験プロセスを介して自分のものとして消化し、現時点でのライフデザインを描けるようになる

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	ライフコース、ライフサイクル、ライフデザイン
第2回	さまざまなライフサイクル論	レヴィンソン、ユング、エリクソン
第3回	ライフサイクルとジェンダー	性別役割、性別役割分業、ジェンダー、
第4回	親密な関係の心理・社会学(1)	親密さ、暴力
第5回	親密な関係の心理・社会学(2)	好意、愛
第6回	親密な関係の心理・社会学(3)	セクシュアリティ、セックス
第7回	親密な関係についての心理・社会学(3)	結婚、離婚、再婚
第8回	親密な関係の心理・社会学(4)	まとめ
第9回	働くことの心理・社会学(1)	キャリア、仕事
第10回	働くことの心理・社会学(2)	雇用形態、経済、社会
第11回	働くことの心理・社会学(3)	ジェンダーと仕事
第12回	働くことの心理・社会学(4)	まとめ
第13回	ワーク・ファミリーバランス	仕事、家族
第14回	まとめ	
第15回	課題レポート	

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

(学部科目)ふだんからライフデザインについての関心を持って、新聞、小説、映画などに触れるよう心懸けること。友人や先輩、家族、その他の人々と語り合う習慣を身につけておくこと。その上で、自分自身の生き方を考えること。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	
日常点・その他	60 %	

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

参加型の授業になります。他の受講生とのディスカッションやグループワークに参加することが課されます。それを了解のうえ、登録してください。

**教科書 / Textbooks**

教科書はとくに指定しません。

**参考書 / Reference Books**

参考書は授業内で適宜、紹介していきます。

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference**



担当者名 / Instructor 宮崎 博子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理想的には「全人間の復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあつて、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

## 到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。  
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。  
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。  
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9月27日	リハビリテーション総論、廃用障害について	
10月4日	障害の概念の変遷	
10月11日	心理的障害、障害受容について	
10月18日	脳血管障害および脳外傷のリハビリテーション	
10月25日	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	
11月1日	神経・筋疾患のリハビリテーション	
11月8日	内部障害のリハビリテーション	
11月15日	地域リハビリテーション、社会的リハビリテーション、介護保険	
11月22日	切断、装具のリハビリテーション	
11月29日	摂食嚥下障害のリハビリテーション	
12月6日	排尿障害のリハビリテーション	
12月13日	運動器のリハビリテーション	
12月20日	精神科疾患のリハビリテーション	
1月10日	悪性疾患のリハビリテーション、加齢性疾患 / 認知症のリハビリテーション	
1月17日	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study  
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかを、評価する。
日常点・その他	20 %	学習意欲や態度を評価する。

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書はなし。授業に必要なプリントを作成配布する。

## 教科書 / Textbooks

## 参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	/ 医学書院 / /

目で見るとリハビリテーション医学 第2版 / 東京大学出版会 / /

脳卒中のリハビリテーション / 医歯薬出版株式会社 / /

狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション / 南江堂 / /

嚥下障害ポケットマニュアル / 医歯薬出版株式会社 / /

障害児の包括的評価法マニュアル 全国肢体不自由児施設運営協議会編 / メジカルビュー社 / /

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

<http://www.copd-info.net/> COPD情報ネット

その他 / Others

## 臨床社会学 S § 現代人権論 S

12964

担当者名 / Instructor 村本 邦子

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

現代社会は、虐待、DV、不登校、ひきこもり、非行と犯罪など多様な臨床的課題を抱え、さまざまな援助が試みられている。こうした課題が浮かび上がる人間関係と社会環境を見ていくと、社会それ自体の病理性を扱うこととなる。逆に、これらをあくまでも心理主義的に捉え解決しようとする社会の心理化、および心理学ブームを社会現象のひとつとして反省的に捉え直す必要もある。臨床的援助を必要とする「問題行動」を単に個人の「逸脱」や「不適応」という課題にのみ還元しない方法として臨床社会学を位置づけ、社会関係に係留しながら問題を把握し、そうした問題を生じさせる社会環境(コミュニティ、家族、学校、産業など)を「異化する実践」が求められる。本授業では、社会分析を可能にするマクロな社会科学的視野と援助実践の個別性を見失わない臨床心理的なミクロな視野とが会合する「メゾフィールド」として、臨床実践を位置づける。映像、新聞・雑誌記事などの教材を用い、学生同士のディスカッションなど含めながら、具体的トピックスを取り上げ、その社会的特質を解説し、解決の糸口を模索する。

## 到達目標 / Attainment Objectives

- 1) 心理的な要援助課題の背後にある社会臨床的な側面を把握するための基礎的知識、基本概念を把握する。
- 2) 社会の心理化という側面に配慮しつつ、多様な臨床的援助課題を社会問題という視点から再構成して理解する能力を養う。
- 3) 社会環境(コミュニティ、家族、学校、産業など)の改善に資することのできる社会臨床的なものの見方を養い、各々が実践できることを考える。

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	臨床社会学への導入～「羅生門的現実」と社会構築主義を理解する	羅生門的現実、社会構築主義
第2回	臨床社会学とは何か	臨床社会学、テーマ、歴史
第3回	心理化する社会	心理主義、心理学ブーム、社会の心理化
第4回	トラウマと社会	トラウマの弁証法、歴史
第5回	臨床社会学の視界(1)～虐待と子育て支援	虐待、子育て支援
第6回	臨床社会学の視界(2)～親密さと暴力	DV、デートDV
第7回	臨床社会学の視界(3)～学校の病理	不登校、いじめ、発達障害
第8回	臨床社会学の視界(4)～ひきこもりと脱青年期の課題	脱青年期の誕生、社会的ひきこもり
第9回	臨床社会学の視界(5)～女らしさの病	ジェンダー、摂食障害
第10回	臨床社会学の視界(6)～男らしさの病	ジェンダー、男性と加害者性
第11回	臨床社会学の視界(7)～修復的司法と少年非行	被害者の権利、少年非行、修復的司法
第12回	臨床社会学の視界(8)～生をめぐる臨床の課題	妊娠中絶、不妊治療、生と自己決定
第13回	臨床社会学の視界(9)～死をめぐる臨床の課題	尊厳死、臓器移植、死と自己決定
第14回	臨床社会学の可能性	心理化する社会の社会化、臨床実践の社会的性格
第15回	課題レポート	

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

授業外での学習を促すため、配布資料や主題に合わせた参考文献などを読み、レポートをまとめておくなどの宿題があります。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	課題レポート
日常点・その他	60 %	授業への主体的参加度や宿題などを評価にします。

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席は前提に授業を進めます。また、他の学生たちとのグループディスカッションなど、主体的参加が必須となります。

## 教科書 / Textbooks

とくに指定しません。

## 参考書 / Reference Books

授業で適宜、指示します。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference



担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

わが国の高齢者福祉制度、サービスに関する基礎知識とそこにおける問題点について講じる。また高齢者の介護問題を中心にして、在宅福祉の展開過程をたどりながら、わが国の高齢者福祉のあり方を福祉先進国といわれる諸外国の高齢者福祉事情と比較しながら検討する。とくに公的介護保険制度の導入にかかわる諸動向について述べ、そこにおける問題点や課題を明らかにする。

**到達目標 / Attainment Objectives**

わが国の高齢者福祉施策の史的展開について学び、かつ諸外国との比較の視点より高齢者福祉の現状をとらえる。さらにそれらを通して高齢者福祉の現代的課題が文化・社会・政治・経済などと連関する社会問題であることを理解する。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study****授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	高齢者福祉の考え方	福祉ニーズと資源
2	人口高齢化と高齢者問題の予見	高齢化の日本の特殊性
3	家族変化と高齢者問題の現出	「家」制度と核家族化
4	高齢者福祉制度の成立	高度経済成長と老人福祉法制定
5	高齢者福祉制度と福祉見直し論	経済停滞と日本型福祉社会論
6	高齢者福祉と在宅福祉の考え方	ノーマライゼーションの潮流
7	高齢者福祉と在宅福祉の展開	在宅福祉サービス
8	高齢者福祉と施設	施設福祉サービス
9	高齢者福祉と地域	自助化、多元化、分権化
10	高齢者保健福祉推進10ヶ年戦略	高齢者福祉施策と税財源
11	高齢者福祉と介護保険の成立	福祉理念と財源
12	高齢者福祉と介護保険の問題点	「介護の社会化」の課題
13	高齢者福祉と介護保険の課題・展望	政治・経済と高齢者福祉
14	高齢者福祉の未来	市民社会と高齢者福祉

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

新聞・雑誌等に掲載される高齢者福祉関連の記事に関心をもつこと。自分の住んでいる地域の高齢者福祉について調べたりすること。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容の正確な理解
レポート試験	15 %	講義内容の正確な理解
日常点・その他	15 %	講義後の質問票

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

「老い」というものを想像し、「自分の問題」としてほしい。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士養成講座(第2巻)「老人福祉論」	/ 中法法規出版 / / 標準的な構成と内容をもつテキスト
最新介護福祉全書(8巻)「老人の心理と援助」	/ メジカルフレンド社 / / 標準テキストだが、すこし個性的な内容をもつ
体験ルポ世界の高齢者福祉	山野井和則 / 岩波新書 / / わかりやすい高齢者福祉のレポート
高齢者医療と福祉	岡本祐三 / 岩波新書 / / 福祉と医療の視野をあわせもつ高齢者の本

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**

担当者名 / Instructor 辻 勝次

単位数 / Credit 2

## 授業の概要 / Course Outline

私たちの働く世界は目下大きな転換期を迎えている。これまで日本の経営と労働を根本的に規定していた年功制と長期雇用の枠組みは修正と変容を迫られ、成果主義と短期雇用に変わりつつある。この局面でニート、フリーター、非正規雇用などの社会問題が発生している。このような労働・勤労・職業世界の大転換期をどう乗り越えていくか、個人の職業能力とキャリアという概念を中心に考えていく。

## 到達目標 / Attainment Objectives

## 履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

## 授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の目的と到達目標	労働 職業 仕事
第2回	今何が起きているのか 1 新しい働き方	フリーター 派遣 請負 非正規雇用
第3回	今何が起きているのか 2 新しい賃金形態	成果主義 能力主義 自己啓発
第4回	これまでの働き方 1 年功制	年功賃金 OJT 年功昇進 会社任せのキャリア形成
第5回	これまでの働き方 2 長期(終身)雇用	企業社会の人生設計管理 人生の標準時間表
第6回	1990年代の変化 1 労働市場の流動化	企業内階層分化 正規社員と非正規社員
第7回	1990年代の変化 2 成果主義賃金の登場	成果主義の実施とその失敗 富士通の場合
第8回	個人と職業 1 キャリアとは何か	職業能力と職業経歴
第9回	個人と職業 2 キャリアパターン	安定したキャリアと不安定なキャリア
第10回	ホワイトカラーの職業生涯 事務員の場合	職業能力の一貫性 キャリア・アンカー
第11回	ホワイトカラーの職業生涯 技術者の場合	領域への固執と挑戦
第12回	ブルーカラーの職業生涯 自動車組み立て工の場合	努力と適応
第13回	女子事務員の職業生涯 結婚退職に逆らって	ジェンダーと職域分業
第14回	よい仕事を求めて	職業の3要素 主体的なキャリア形成
第15回	全体の総括	今何が起きているのか 何をすべきなのか

## (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study

## (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method

新聞は多種多様な雇用、労働、職業事情を報道している。それらの記事を切り抜いて、内容についての短い感想をまとめてみることを勧めたい。また父親や友人の仕事についての話をきかせてもらうのがよい。

## 成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	
定期試験	100 %	
レポート	なし	
日常点	出席はとらない	
その他	なし	

## 受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

就活は目前に迫っている。この講義を通じてよい仕事とは何か、どうしたら手にできるか考えることにしよう。

## 教科書 / Textbooks

使用しない。代わりに毎回レジメを配布する。

## 参考書 / Reference Books

- ・現代と社会の教科書 立命館大学現代社会研究会編『21世紀の日本を見つめる』晃洋書房 2004年
- ・飯田哲也編『基礎社会学講義』学文社 第3章「職業と職場関係」
- ・その他の参考書は教室で指示する。

## 参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

## その他 / Others

担当者名 / Instructor 高橋 正人

単位数 / Credit 2

**授業の概要 / Course Outline**

高齢化にともなう社会変化は多様である。高齢化社会の問題に対するアプローチも人口、雇用・就業、家族、医療保健、社会福祉、社会活動・生涯学習、生きがい等と多様である。本講義では高齢化社会の問題を諸データを通じて多角的にとらえつつも、そこに通底する意味を探る。その際、高齢期の問題が世代をこえた課題として実感される接点を提示する。また現代の「老い」の意味を探ることをめざし、社会学的幸福論を主テーマとしたい。

**到達目標 / Attainment Objectives**

社会学的視点にたち、高齢期に関する諸問題現象を科学的なデータを用いて考察し、その因果的連関を説明する。さらには現代社会における「老いて生きる」ことの意味を自分の問題として探求する。

**履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study**

老人福祉論

**授業スケジュール / Course Schedule**

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「老い」を想像する	言語性能力と動作性能力
2	高齢期のこころと身体	個人差、「老い」の多様性
3	高齢期の世代的特性	無限定性、世代性
4	高齢期の健康生活と認知症	アルツハイマー型、脳血管性
5	高齢期の経済生活と年金	階層格差、年金の社会的機能
6	高齢期の家族生活と老親扶養慣行	「家」規範と家族変化
7	高齢ねたきりと介護問題	人口高齢化と介護ニーズ
8	高齢期の無為と生きがい・社会活動	喪失のライフイベント
9	高齢期の孤独・孤立	社会的疎外
10	高齢期の自殺と虐待	自殺率と社会類型
11	エイジズム	「老い」の価値観、「老い」の神話
12	高齢期の社会的役割	活動性と離脱性、受容とあきらめ
13	高齢期の社会的寄与	「世代性」
14	「老い」の意味を考える	発達と回帰

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study method**

日常生活の中で、高齢者や高齢者にかかわる事柄に関心をむける。また新聞・雑誌等の高齢者に関する記事を読む際は、「高齢者がどのような生活をしているのか」「高齢者に何が起きているか」を探索しながら読む。

**成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義内容の正確な理解
レポート試験	15 %	講義内容の正確な理解
日常点・その他	15 %	講義後の質問票の内容

定期試験は講義でとりあげた範囲内から出題されるので、各回の講義における課題をよく把握すること。

**受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods**

「老い」というものを想像し、「老い」に関する問題を「自分の問題」としてとらえてほしい。

**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エイジングの社会学	／ 日本評論社 / 「老い」に関する社会学的な視点を確保するのに役立つ
図説高齢者白書	／ 全国社会福祉協議会 / 「老い」に関する諸現象の客観データをみることができる

**参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference****その他 / Others**